

平成20年度

春日市高齢者福祉計画・介護保険事業計画
策定に係るアンケート調査結果報告書

平成20年8月

春日市

目次

第1部 調査の概要	1
第2部 調査結果の分析	3
第1章 60歳以上の方の生活と健康に関する調査	3
. 調査対象者の基本属性等について	3
. 健康状態について	29
. 生活機能チェックについて	33
. 地域との交流について	36
. 生きがいづくりや社会参加の状況について	43
. 介護予防について	54
. 介護保険制度及び介護に関する希望について	61
第2章 居宅サービス利用者実態調査	65
. 調査対象者の基本属性等について	65
. 主な介護サービスの利用状況と満足度について	75
. 今後の介護希望について	96
. 介護保険制度について	100
. 地域との交流について	102
. 介護者について	106

第 1 部
調査の概要

調査の目的

市民の生活状況や健康状態、サービスの利用状況・利用意向、健康づくり、福祉・介護に関する考えなどを把握することによって、今後の高齢者施策の充実に活かすとともに、「高齢者福祉計画・介護保険事業計画」見直しの基礎資料とするため。

調査の対象

- (1) 60歳以上の方の生活と健康に関する調査
平成20年4月1日現在、春日市内に在住の、要介護認定を受けていない満60歳以上の方の中から無作為抽出した4,000人
- (2) 居宅サービス利用者実態調査
平成20年4月1日現在、春日市内に在住の、居宅サービスを利用している満65歳以上の方の中から無作為抽出した800人

調査の方法

郵送による配布、回収。

調査の期間

平成20年4月26日(土)から平成20年5月16日(金)まで。

回収結果

	配布数	有効回収数	有効回収率
60歳以上の方の生活と健康に関する調査	3,986件	2,390件	60.0%
居宅サービス利用者実態調査	792件	488件	61.6%

調査対象者数より配布数が少ないのは、調査対象者抽出時から調査票発送時まで亡くなられた方がいるため

報告書の見方

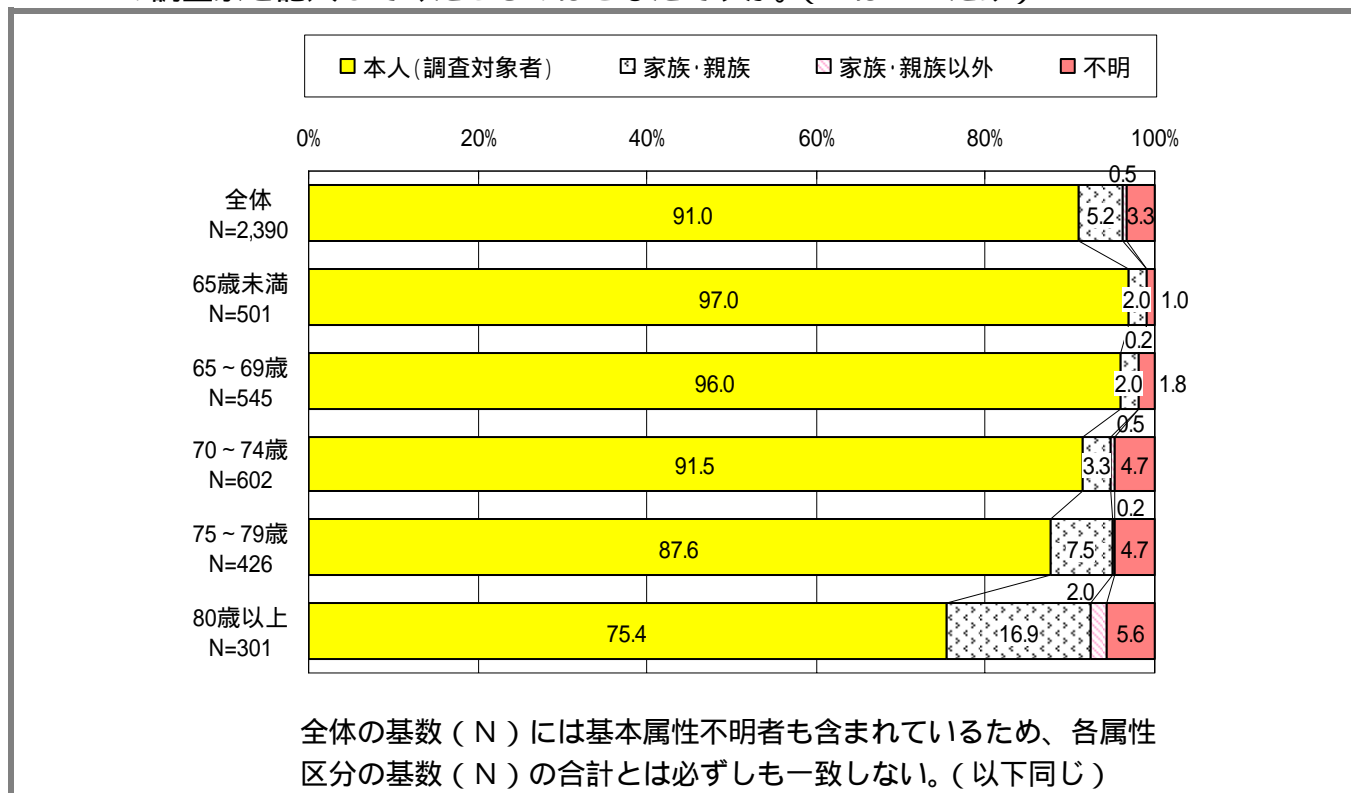
- (1) 回答割合は、各質問の回答者数(N)を基数とした百分率(%)で示している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 複数回答を可とした質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。
- (3) 回答があっても、小数点第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、表・グラフには「0.0」と表記している。
- (4) 表・グラフにおいて、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

第 2 部
調査結果の分析

第1章 60歳以上の方の生活と健康に関する調査

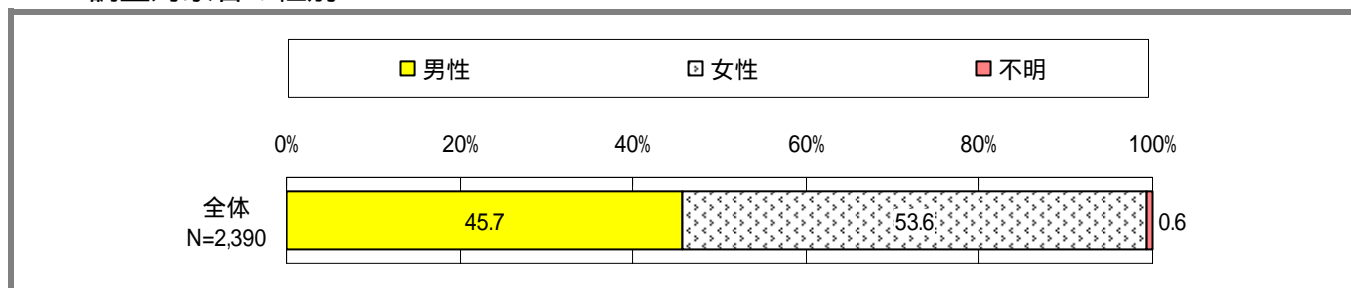
1. 調査対象者の基本属性等について

この調査票を記入して下さるのはどなたですか。（ は1つだけ）



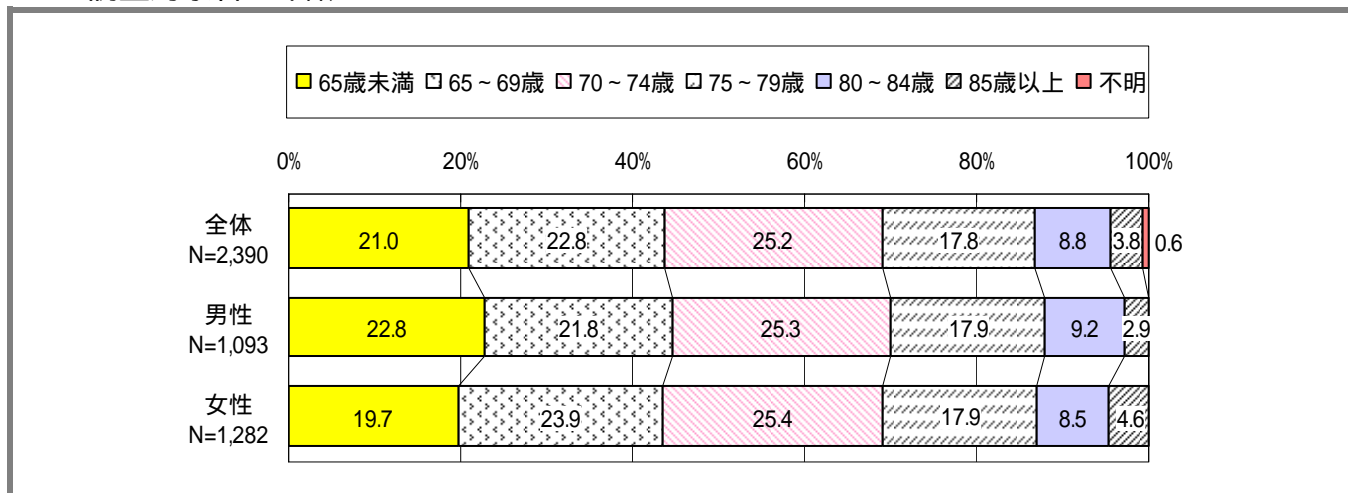
全体の91.0%は本人による記入であるが、年齢が高くなるにつれてその割合は低くなっており、80歳以上では75.4%となっている。

調査対象者の性別



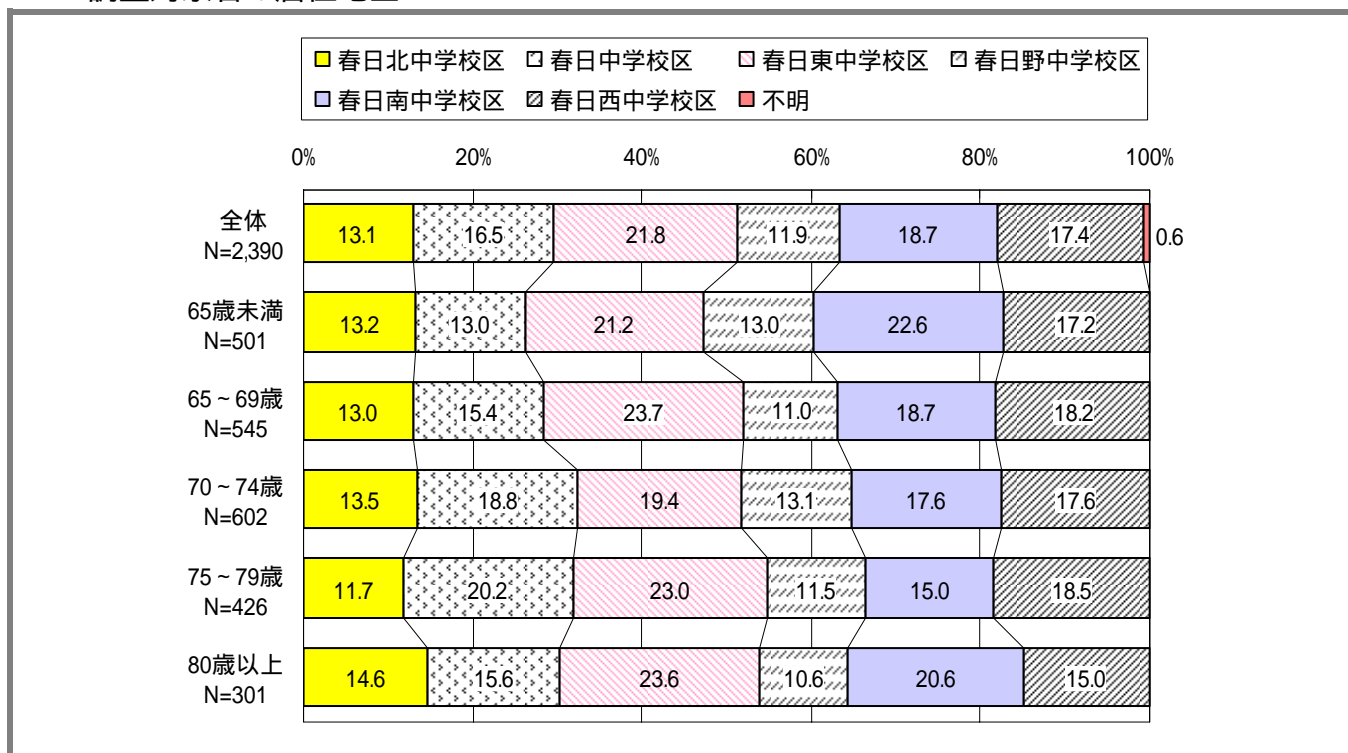
対象者の性別については、男性が45.7%、女性が53.6%となっており、ほぼ標本構成（男性：女性 = 46.0% : 54.0%）と同じ割合となっている。

調査対象者の年齢



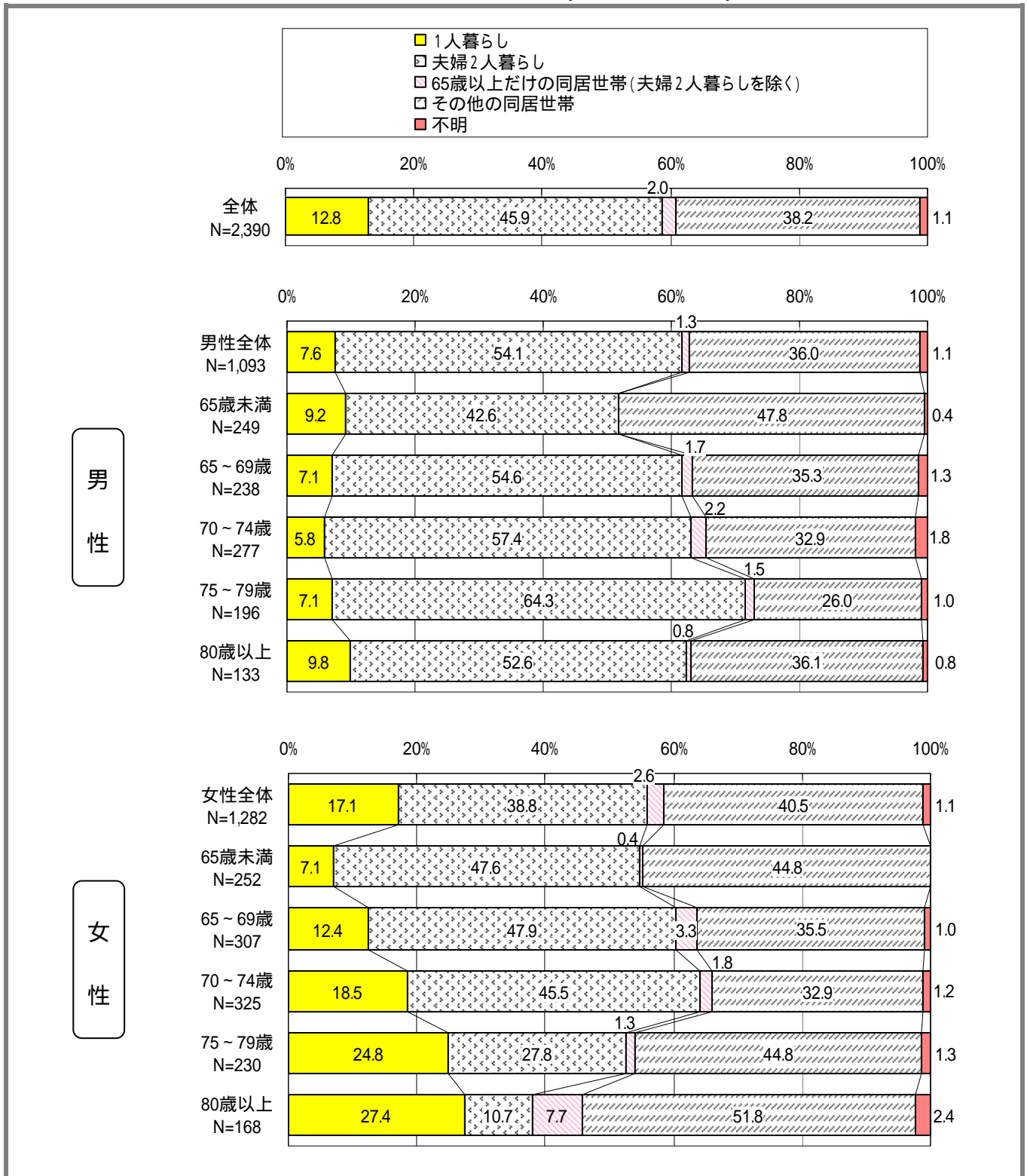
調査対象者の年齢構成は上のとおりで、男女ともに「70~74歳」の割合が最も高くなっている。

調査対象者の居住地区



調査対象者の居住地区は上のとおりで、「65歳未満」以外は「春日東中学校区」の割合が最も高くなっている。

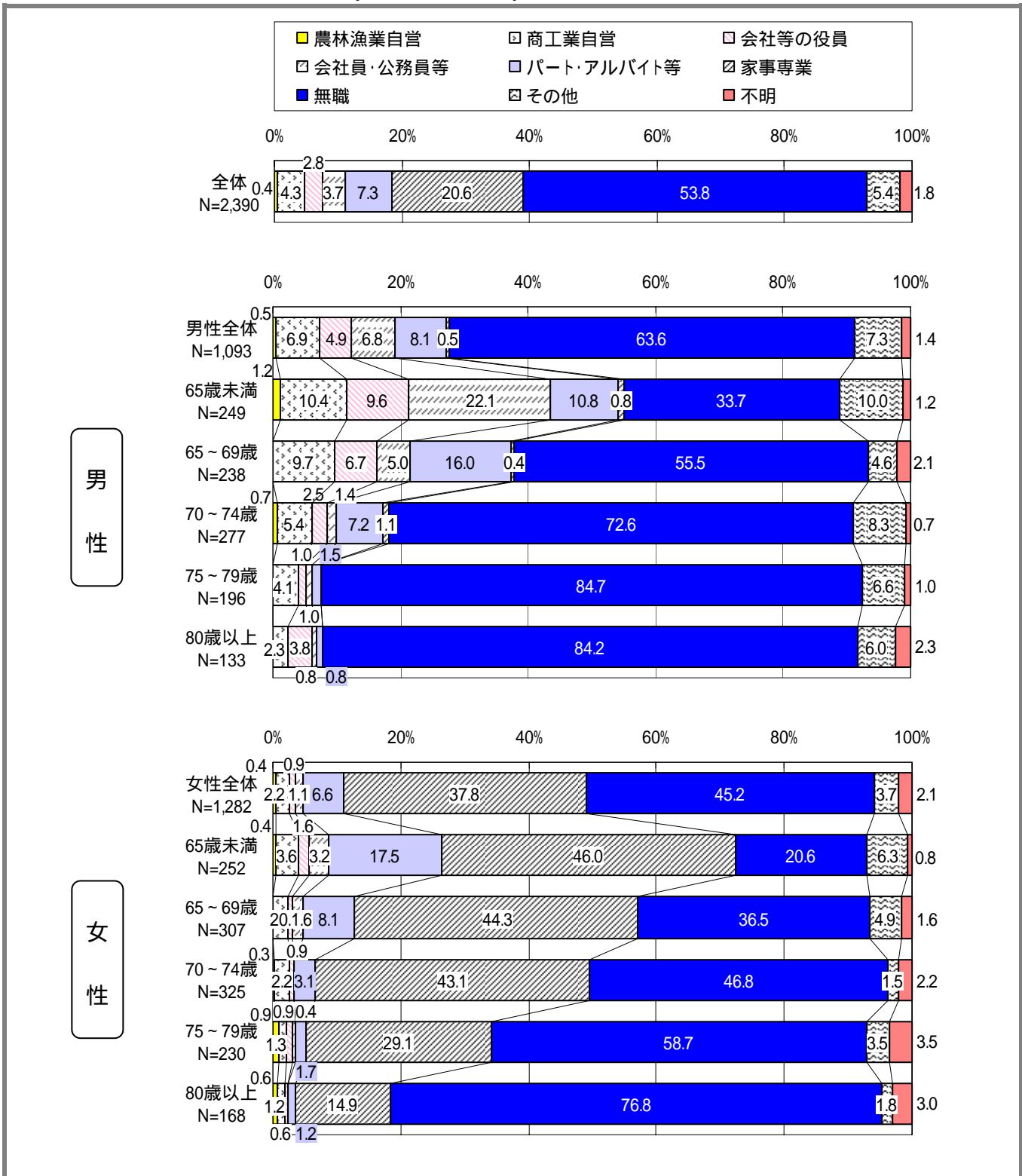
問1 世帯の状況は次のどれに当てはまりますか。（ は1つだけ）



「1人暮らし」の世帯は全体の12.8%であるが、男性は女性に比べ「1人暮らし」の割合が低く、年齢階層による世帯状況の大きな変化もあまり見られない。

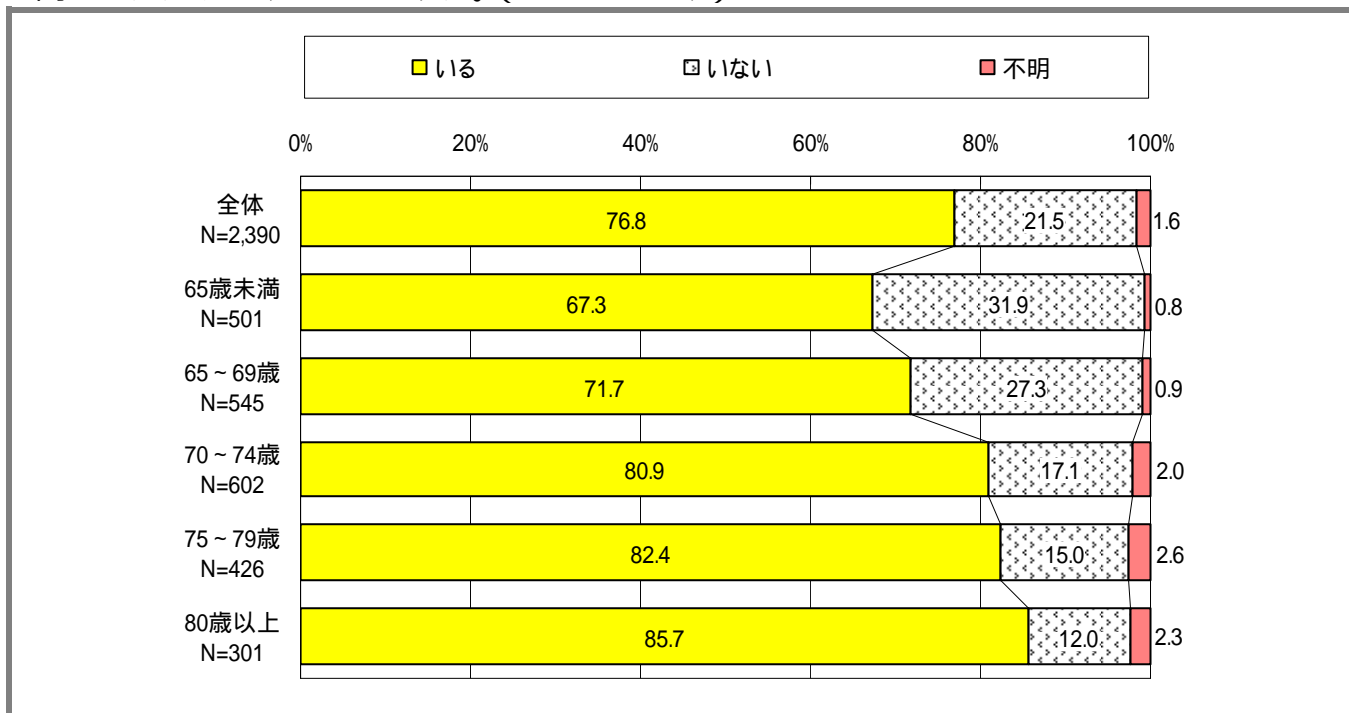
女性は年齢階層が高くなるにつれて「1人暮らし」の割合が高くなっており、75歳以上ではほぼ4人に1人が「1人暮らし」となっている。また、75歳以降、「夫婦2人暮らし」の世帯割合が減少し、子や孫の世代を含んだ「その他の同居世帯」の割合が高くなっている。

問2 現在の職業は何ですか。（は1つだけ）



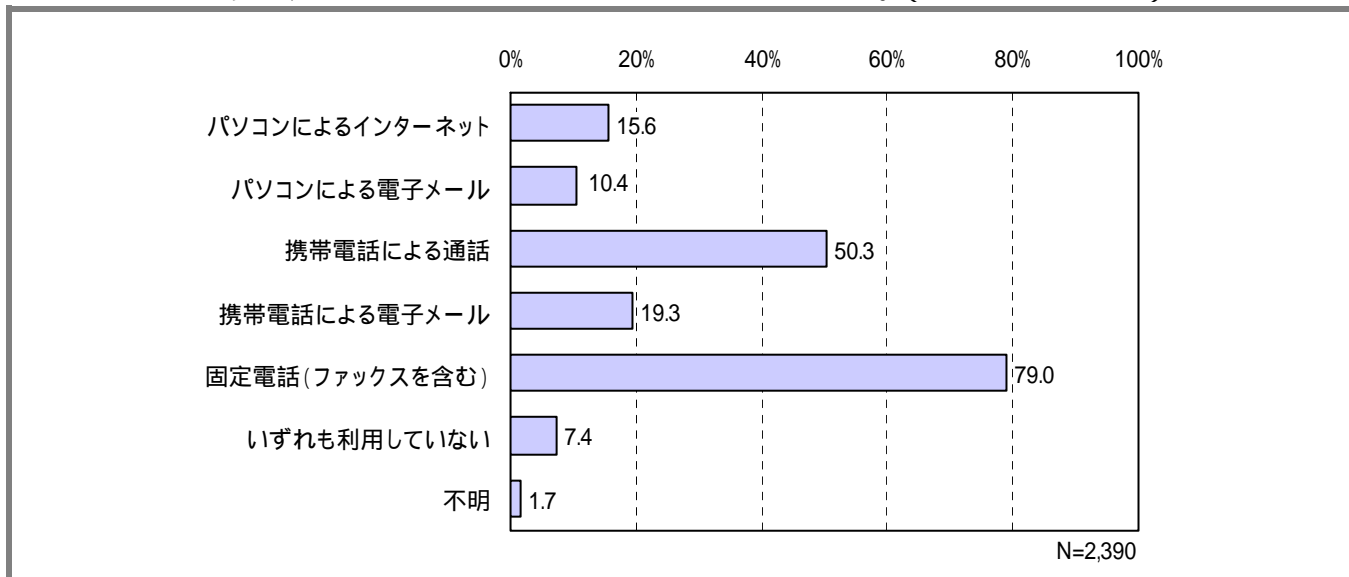
現在の職業は上のとおりで、年齢階層が高くなるにつれて無職の割合が高くなっている。

問3 かかりつけ医はいますか。（は1つだけ）



かかりつけ医が「いる」と回答した人は全体の76.8%で、年齢階層が高くなるにつれて、その割合が高くなっている。

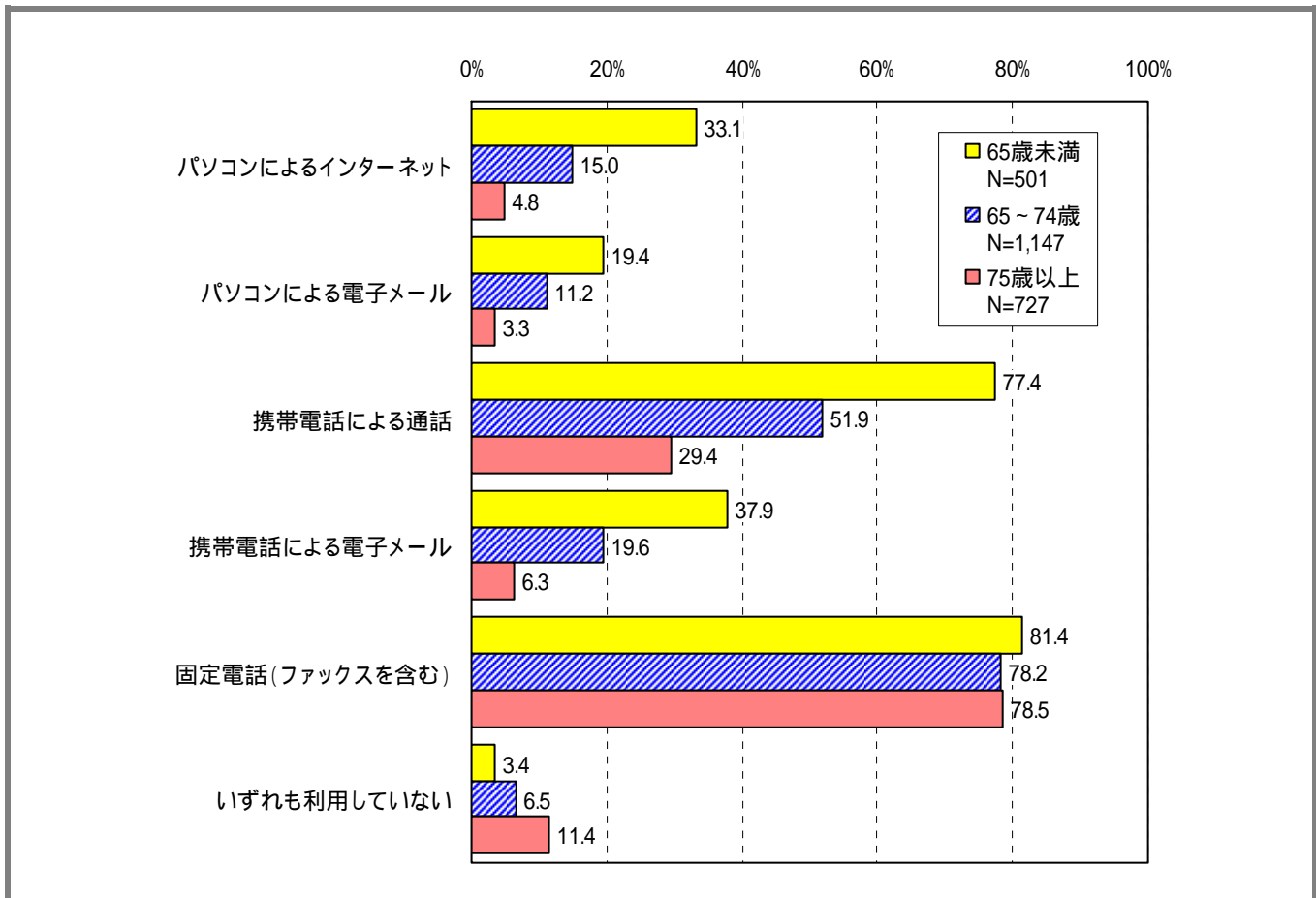
問4 以下のうち、現在利用しているものをお答えください。（はいくつでも）



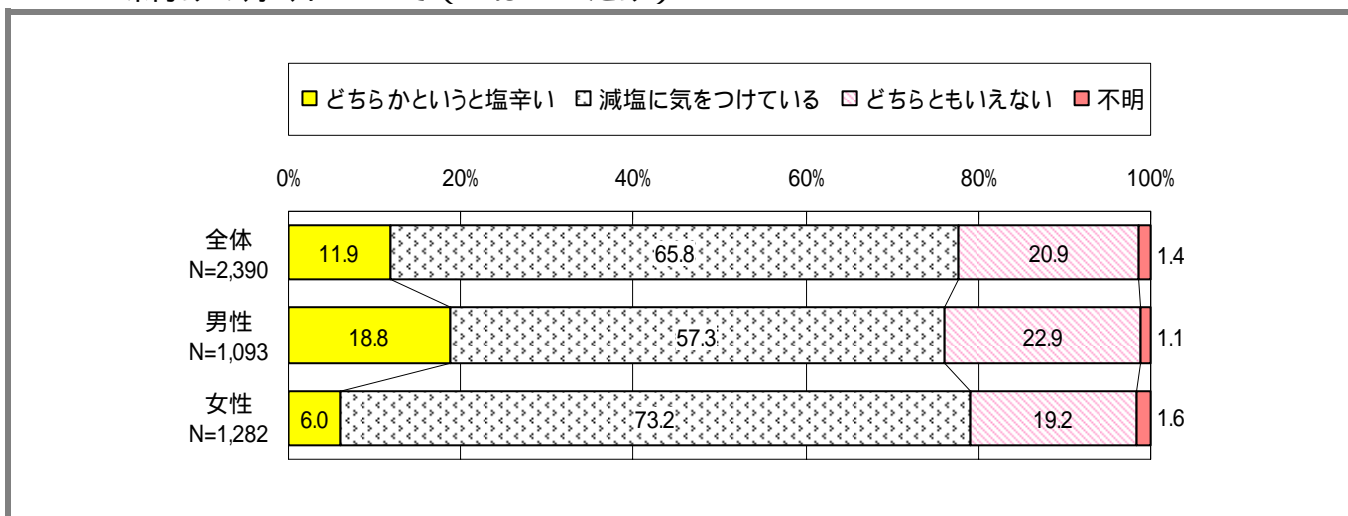
近年急速に普及が進んだ「携帯電話による通話」は、60歳以上の年齢階層においても50.3%に上り、特に「60歳以上65歳未満」の年齢階層では77.4%と、「固定電話」の81.4%に迫る割合となっている。また、「携帯電話による電子メール」も37.9%とかなり高い利用率となっている。

パソコンについても60歳以上65歳未満の年齢階層では、ほぼ3人に1人(33.1%)がインターネットを利用していることがわかる。

《年齢階層別クロス集計結果》

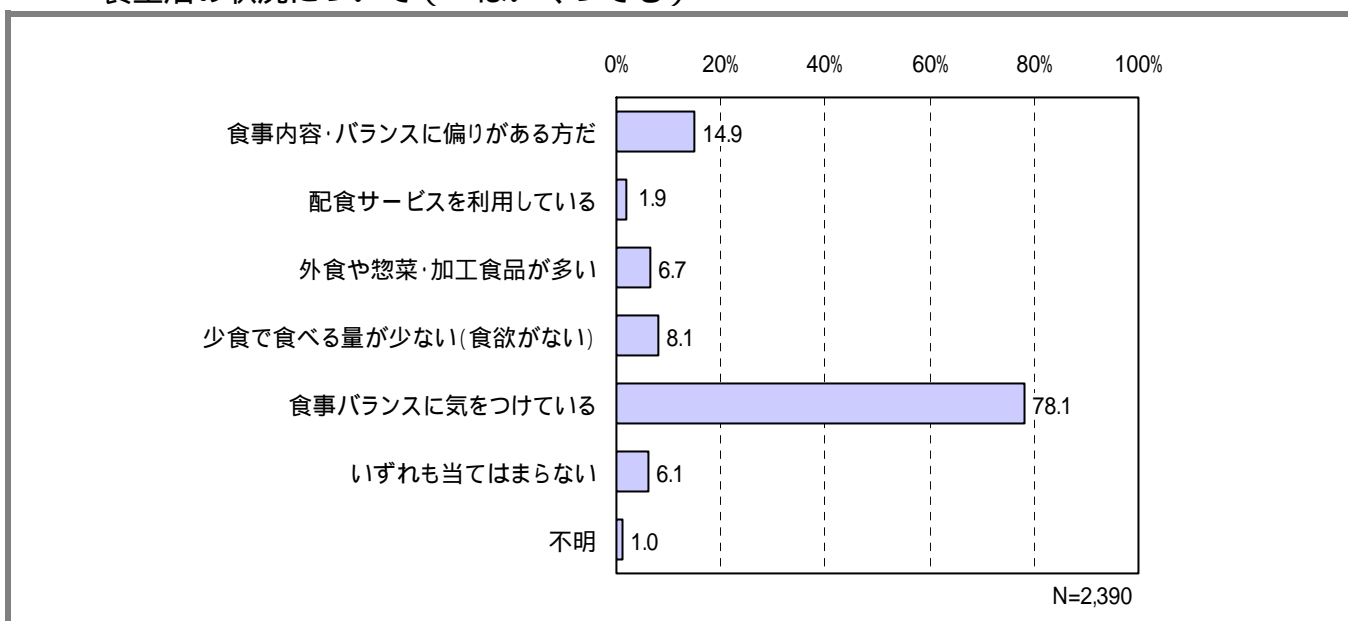


問5 生活習慣についておたずねします。
味付けの好みについて（ は1つだけ）



味付けについては、全体の65.8%が「減塩に気をつけている」と回答しており、「どちらかという塩辛い」と回答した人は11.9%となっている。また、「どちらかという塩辛い」と回答した人の割合は女性の6.0%に対し、男性では18.8%と、女性の3倍を超える割合となっている。

食生活の状況について（ はいいくつでも）

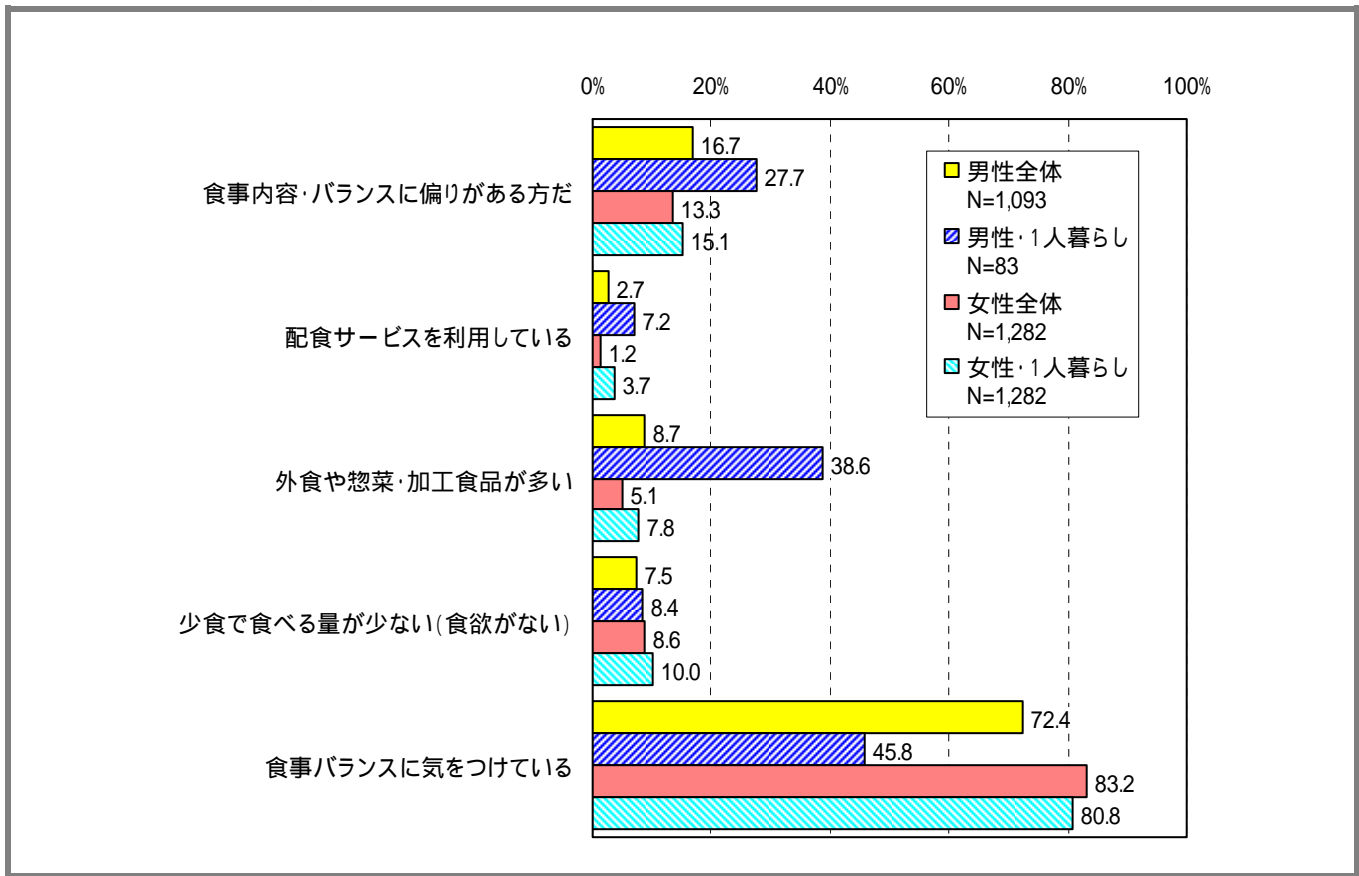


食生活の状況については、比較的元気な方を対象とした調査であるため、「食事バランスに気をつけている」と回答した人の割合が78.1%に上っているが、一方で、「少食で食べる量が少ない(食欲がない)」と回答した人が8.1%、「食事内容・バランスに偏りがある方だ」と回答した人が14.9%となっており、低栄養の問題が見られる。

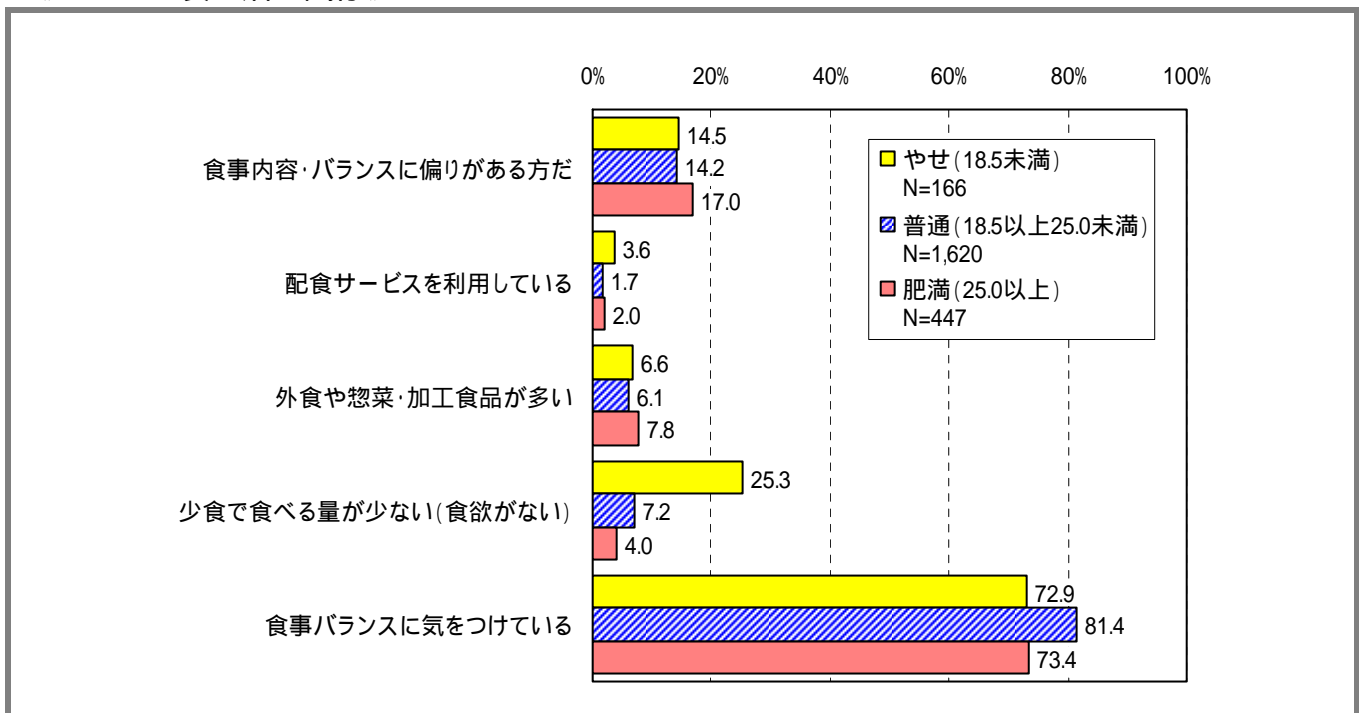
男性の1人暮らしの方については、特に「外食や惣菜・加工食品が多い」と回答した人の割合(38.6%)が高くなっており(次ページ参照)、食事の内容やバランスの偏りが懸念される。

BMIで「やせ(18.5未満)」と判定されたグループでは、その他のグループに比べ「少食で食べる量が少ない(食欲がない)」と回答した人の割合が高くなっている(次ページ参照)。

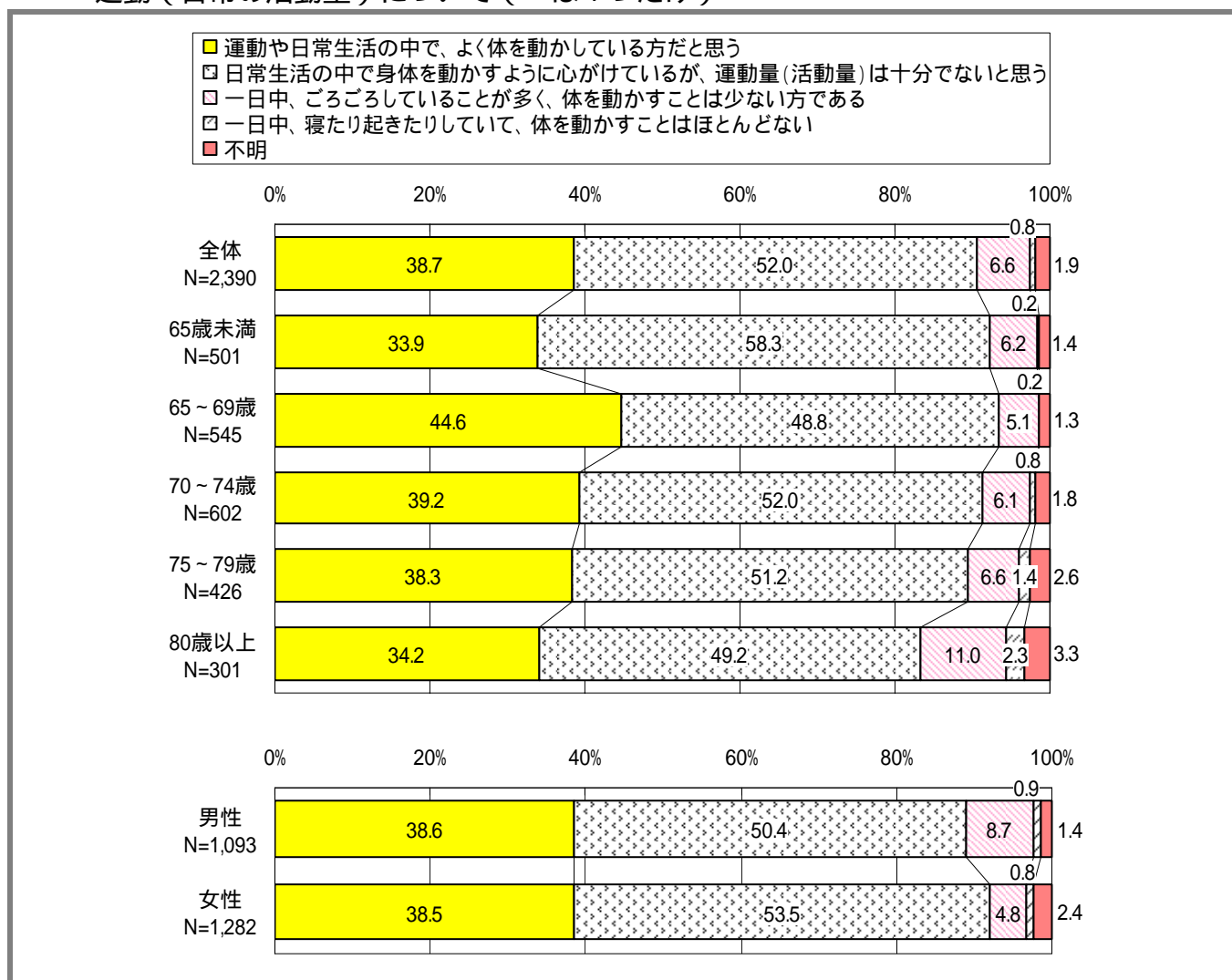
《1人暮らしの方の食生活の状況》



《BMIと食生活の関係》



運動（日常の活動量）について（は1つだけ）

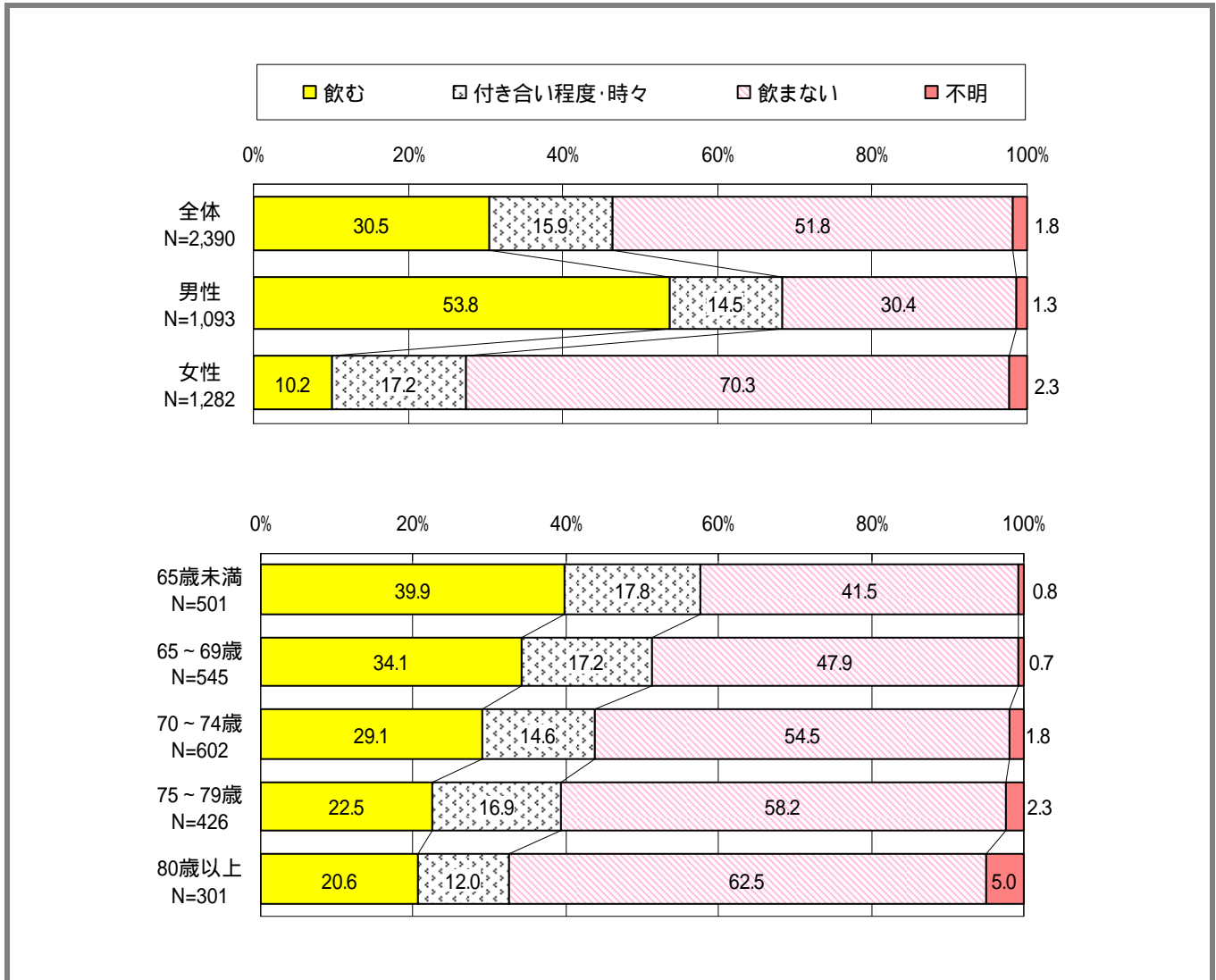


全体の 52.0%の人が「日常生活の中で体を動かすように心がけているが、運動量（活動量）は十分でないと思う」と回答しており、「運動や日常生活の中で、よく身体を動かしている方だと思う」と回答した人の割合（38.7%）を上回っている。

70歳以上になると、年齢階層が高くなるにつれて、少しずつではあるが、「一日中、ごろごろしていることが多く、体を動かすことは少ない方である」または「一日中、寝たり起きたりしていて、体を動かすことはほとんどない」と回答した人の割合が高くなっている。

また、男女別に見ると、男性の方が女性に比べ、「一日中、ごろごろしていることが多く、体を動かすことは少ない方である」と回答した人の割合が少し高くなっている。

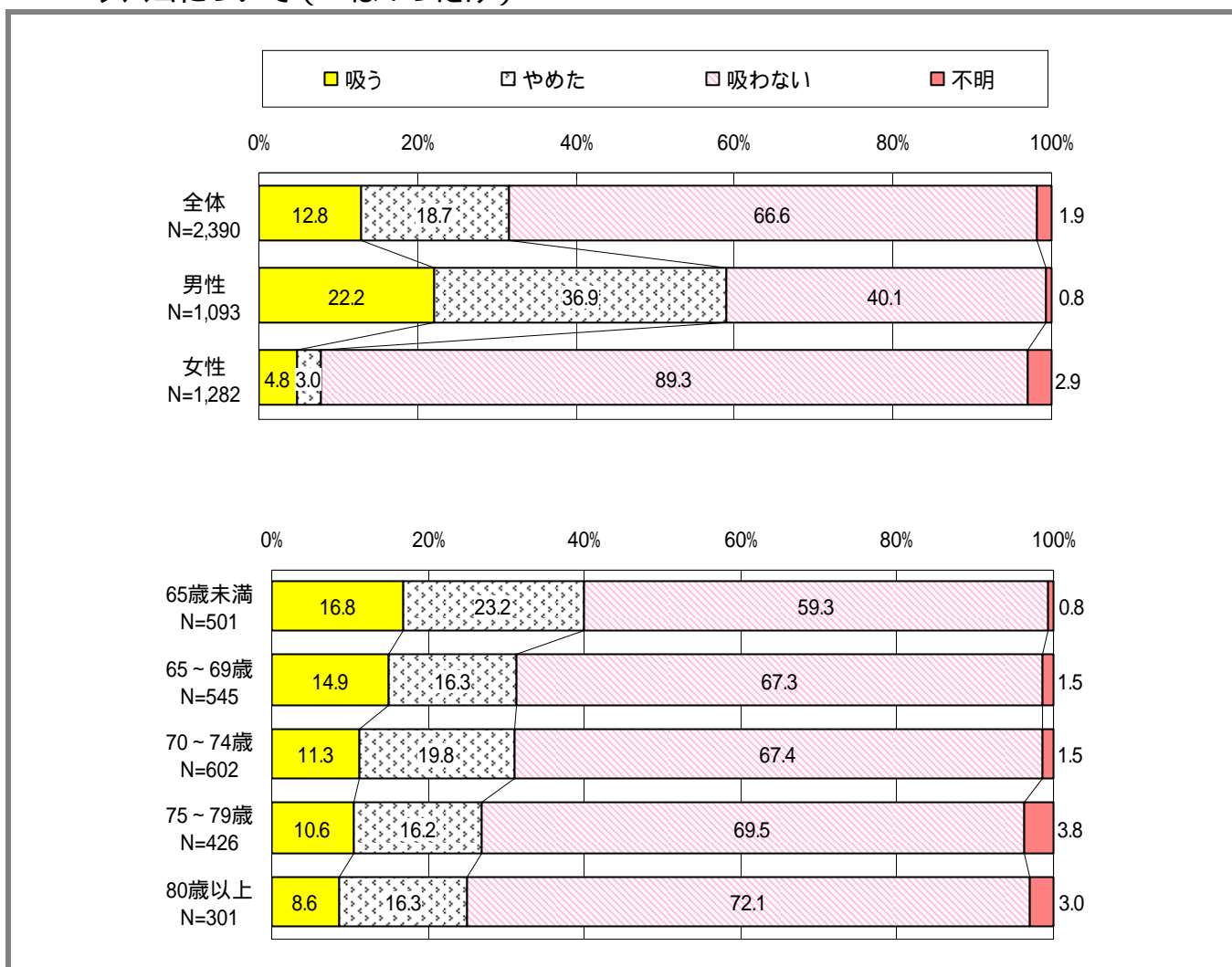
アルコールについて（ は1つだけ）



アルコールについて「飲む」と回答した人の割合は、男性で53.8%、女性で10.2%となっている。

また、「飲まない」と回答した人の割合は年齢階層が高くなるにつれて高くなっている。

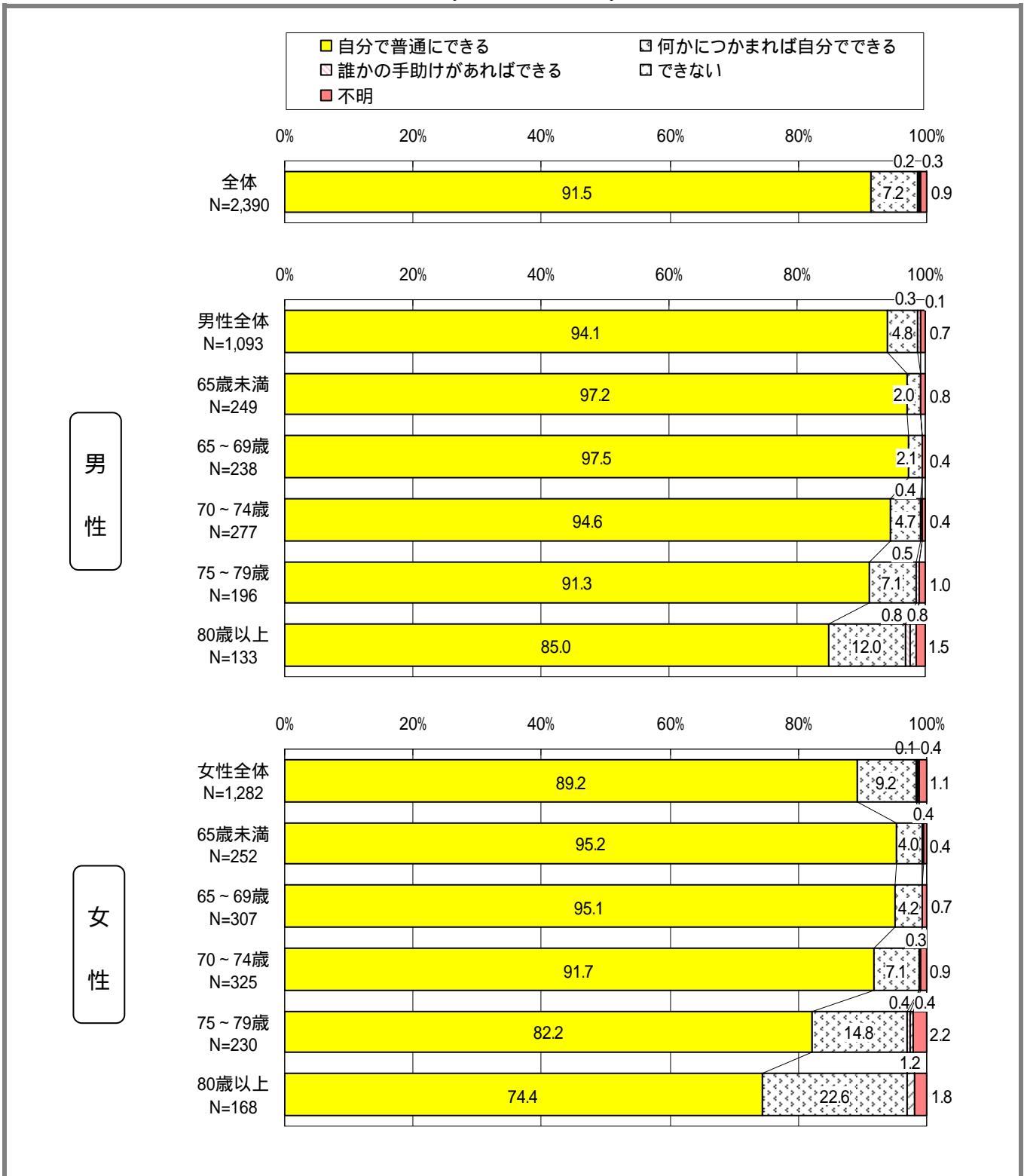
タバコについて（ は1つだけ）



タバコについて「吸う」と回答した人の割合は、男性で 22.2%、女性で 4.8%となっており、男性では「やめた」と回答した人の割合も 36.9%と、高くなっている。

また、「吸う」と回答した人の割合は、年齢階層が高くなるにつれて低くなっている。

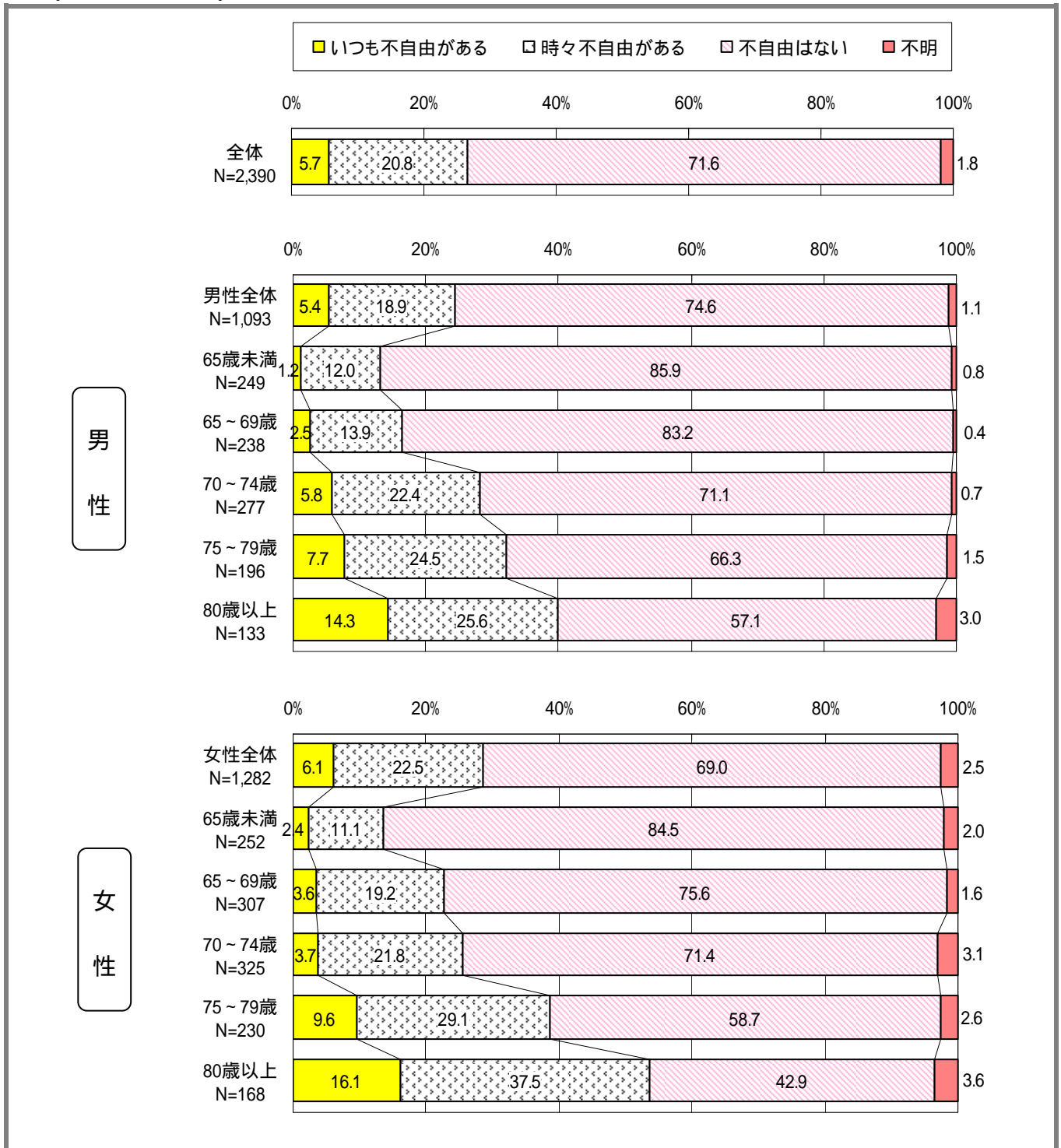
問6 あなたの運動機能の状態についておたずねします。
床からの立ち上がりはできますか。（は1つだけ）



床からの立ち上がりについては、全体の91.5%が「自分で普通にできる」と回答しているが、75歳以上になると、何かにつかまらなければならない人の割合が急に高くなっていることがわかる。

また、全年齢階層を通して、男性に比べ女性の方が何かにつかまらなければならない人の割合が高くなっている。

膝・腰・足の痛みなどのために、歩行や外出に不自由（負担）がありますか。
（は1つだけ）

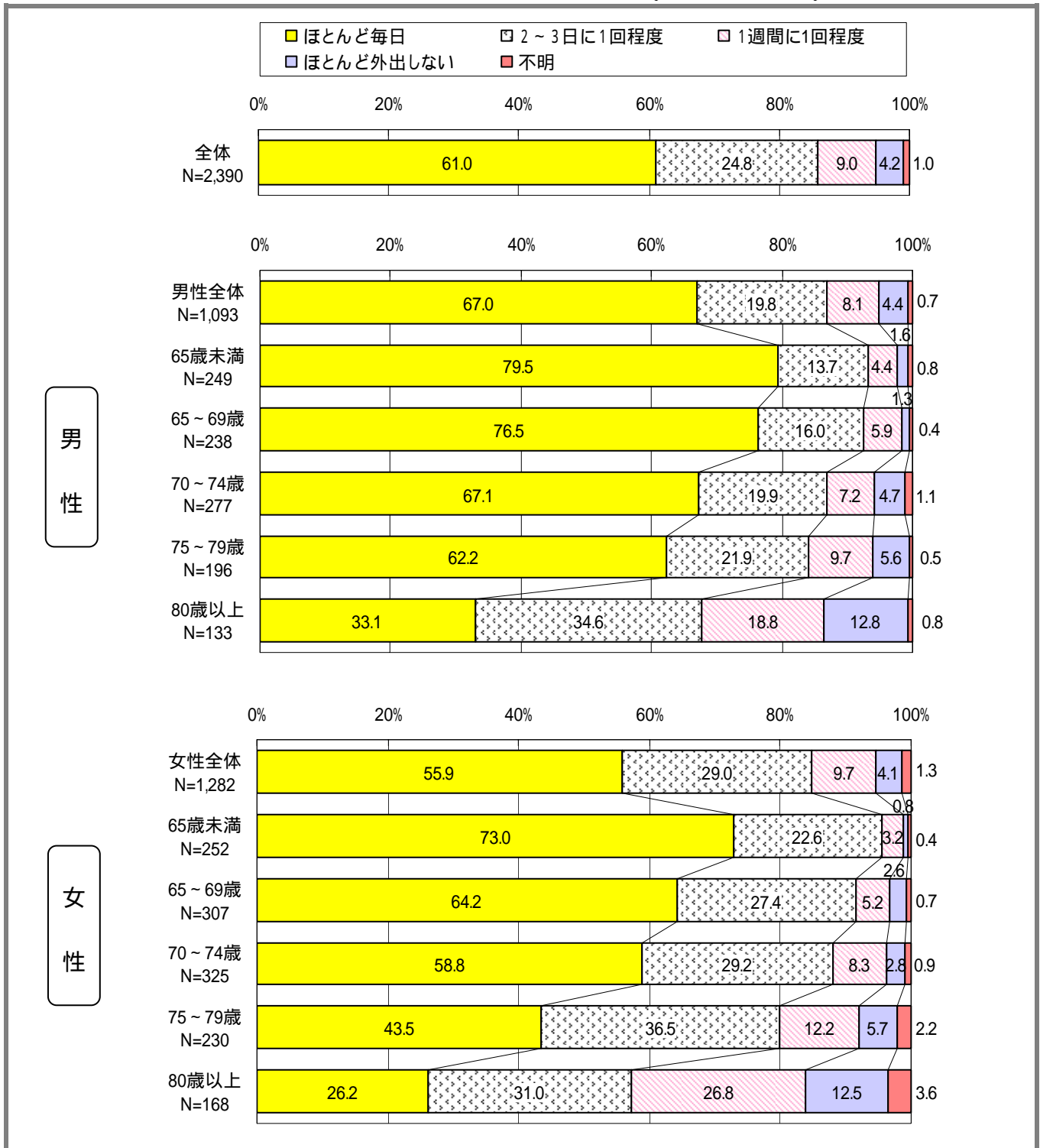


膝・腰・足の痛みなどのために、歩行や外出に「不自由がある」人は全体の26.5%に上り、年齢階層が高くなるにつれてその割合が高くなっていることがわかる。

また、特に75歳以上では、男性に比べ女性の方が、歩行や外出に「不自由がある」人の割合が高くなっている。

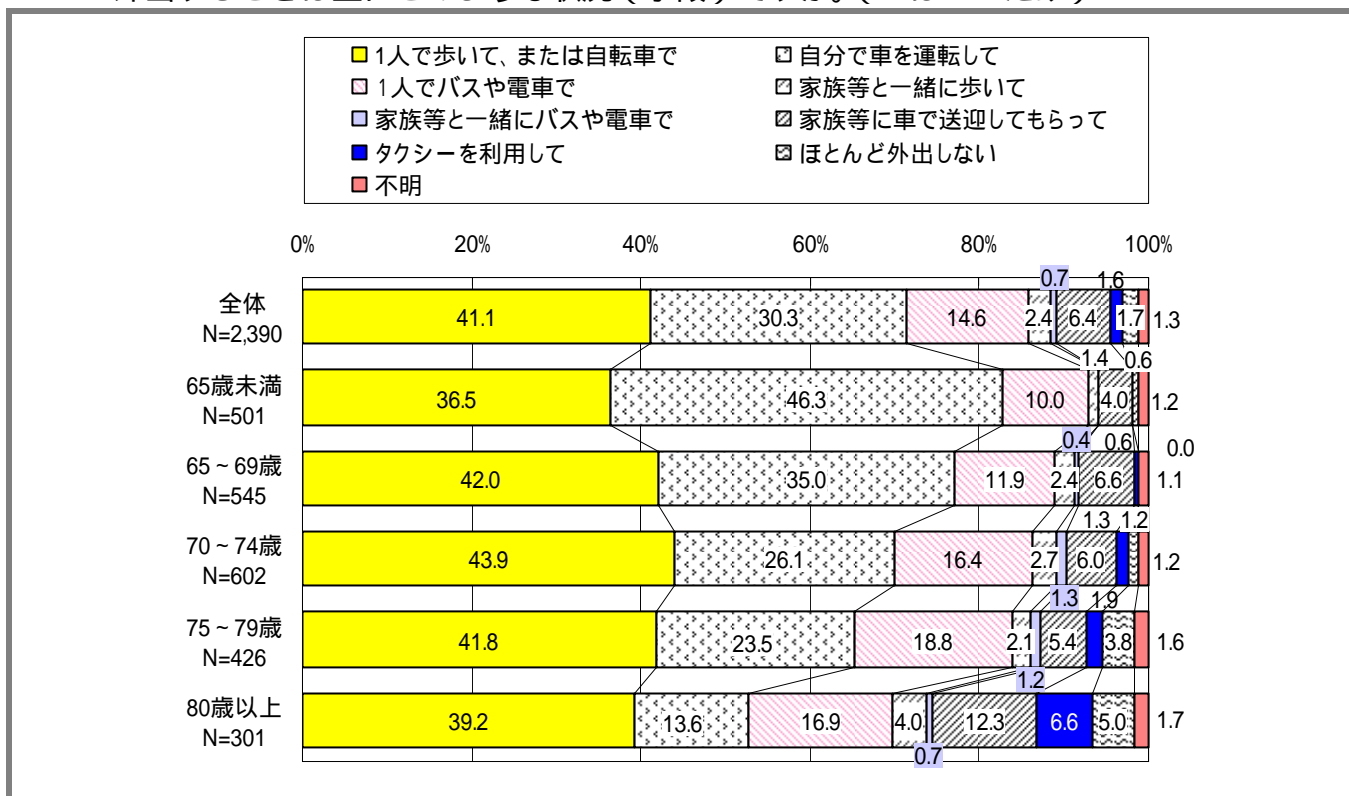
問7 あなたの外出状況についておたずねします。

30分以上の外出は1週間にどのくらいありますか。（は1つだけ）



30分以上の外出頻度は、年齢階層が高くなるにつれて低下しており、閉じこもりの目安を「1週間に1回以下の外出」と考えれば、閉じこもり傾向の見られる人は75歳以上から急に増加し、80歳以上では、男性では31.6%、女性では39.3%に上っている。

外出するときは主にどのような状況（手段）ですか。（は1つだけ）

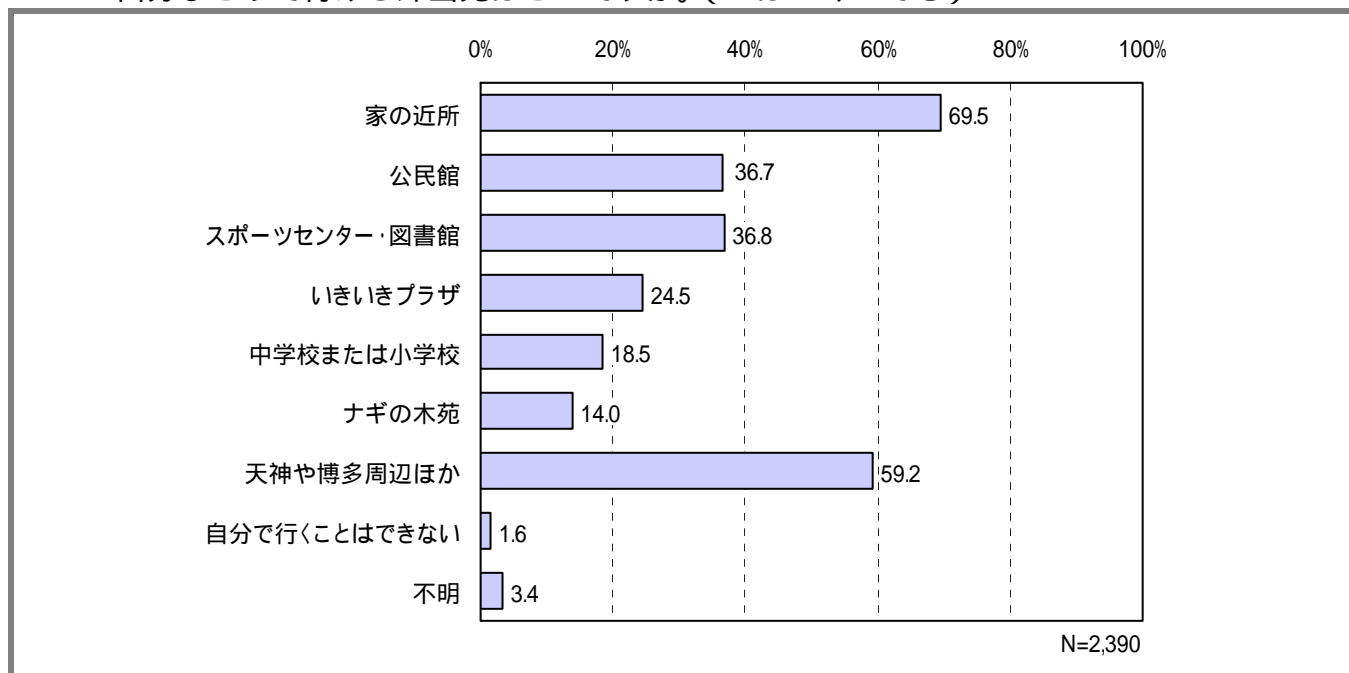


外出するときの手段については、年齢階層が高くなるにつれて「自分で車を運転して」と回答した人の割合が低くなっており、家族等の付き添いが必要な人の割合が高くなっていく様子が見えてくる。

80歳以上では、28.6%が自分1人では外出できず、家族等の手助けが必要な状況にあると考えられる。

また、「タクシーを利用して」と回答した人の割合は、全体では1.6%であるが、80歳以上では6.6%となっている。

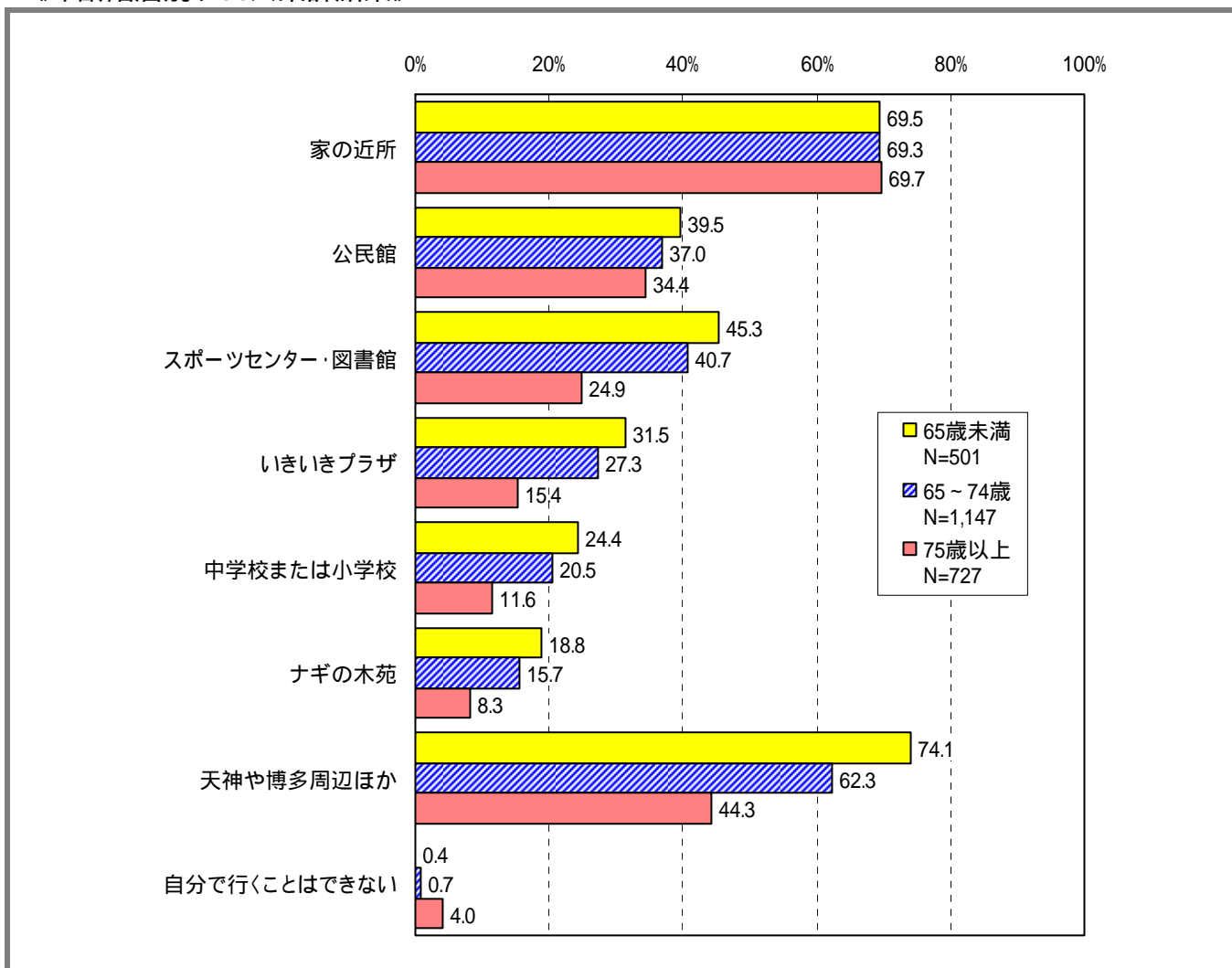
自分ひとりで行ける外出先はどこですか。（はいいくつでも）



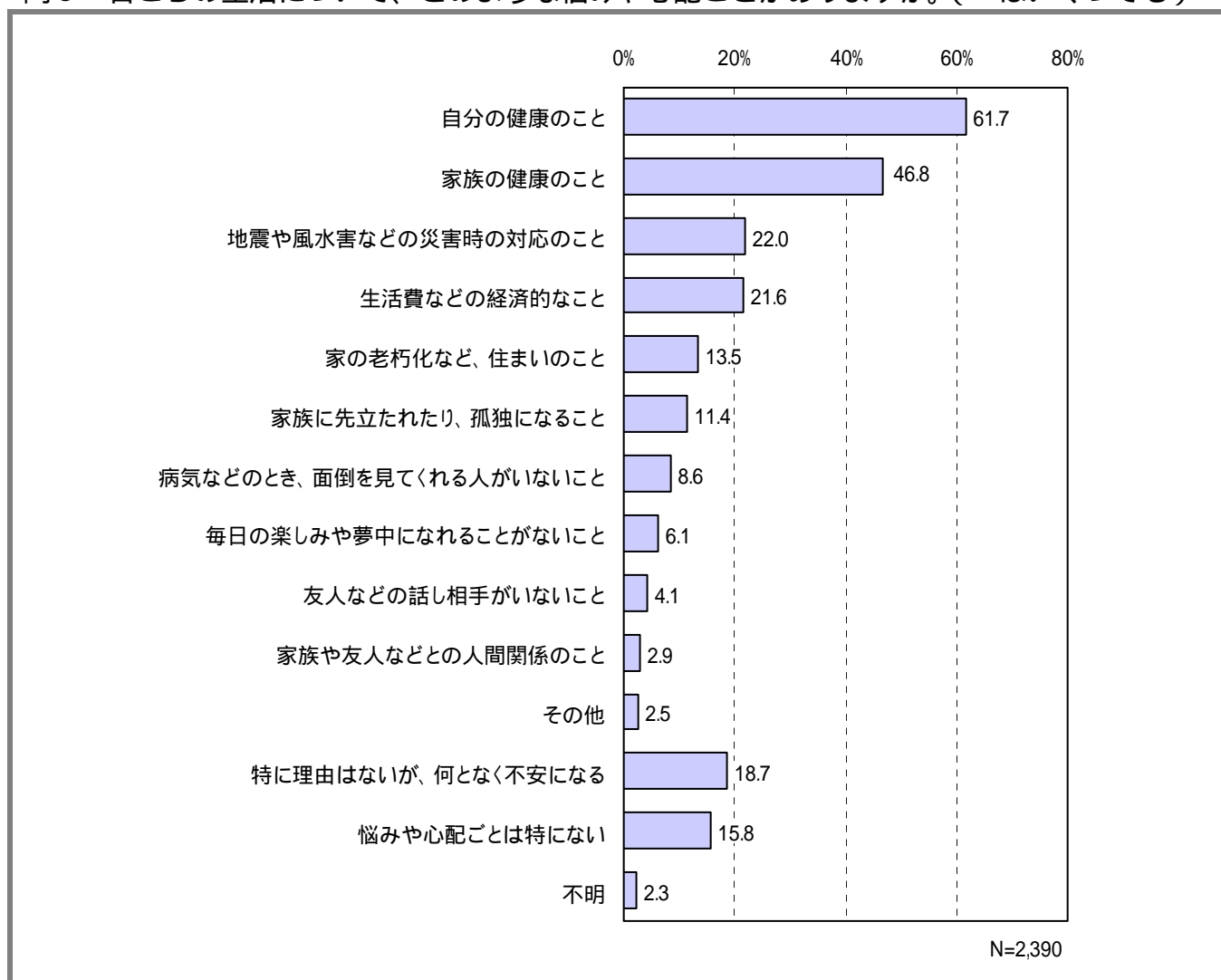
自分ひとりで行ける外出先をたずねたところ、「家の近所」を選択した人の割合が69.5%と最も高くなっているが、「天神や博多周辺ほか」と回答した人の割合も59.2%と高くなっており、距離的には多少遠くても、公共交通機関の整備状況によっては、ひとりで外出可能な範囲が拡大する様子が見える。

また、年齢階層別クロス集計結果（次ページ参照）を見ると、「家の近所」や「公民館」など比較的身近な場所については年齢階層による差が小さい反面、距離のある外出先については、年齢階層が高くなるにつれて、ひとりで外出しにくくなる傾向が見える。

《年齢階層別クロス集計結果》



問8 日ごろの生活について、どのような悩みや心配ごとがありますか。（はいくつでも）

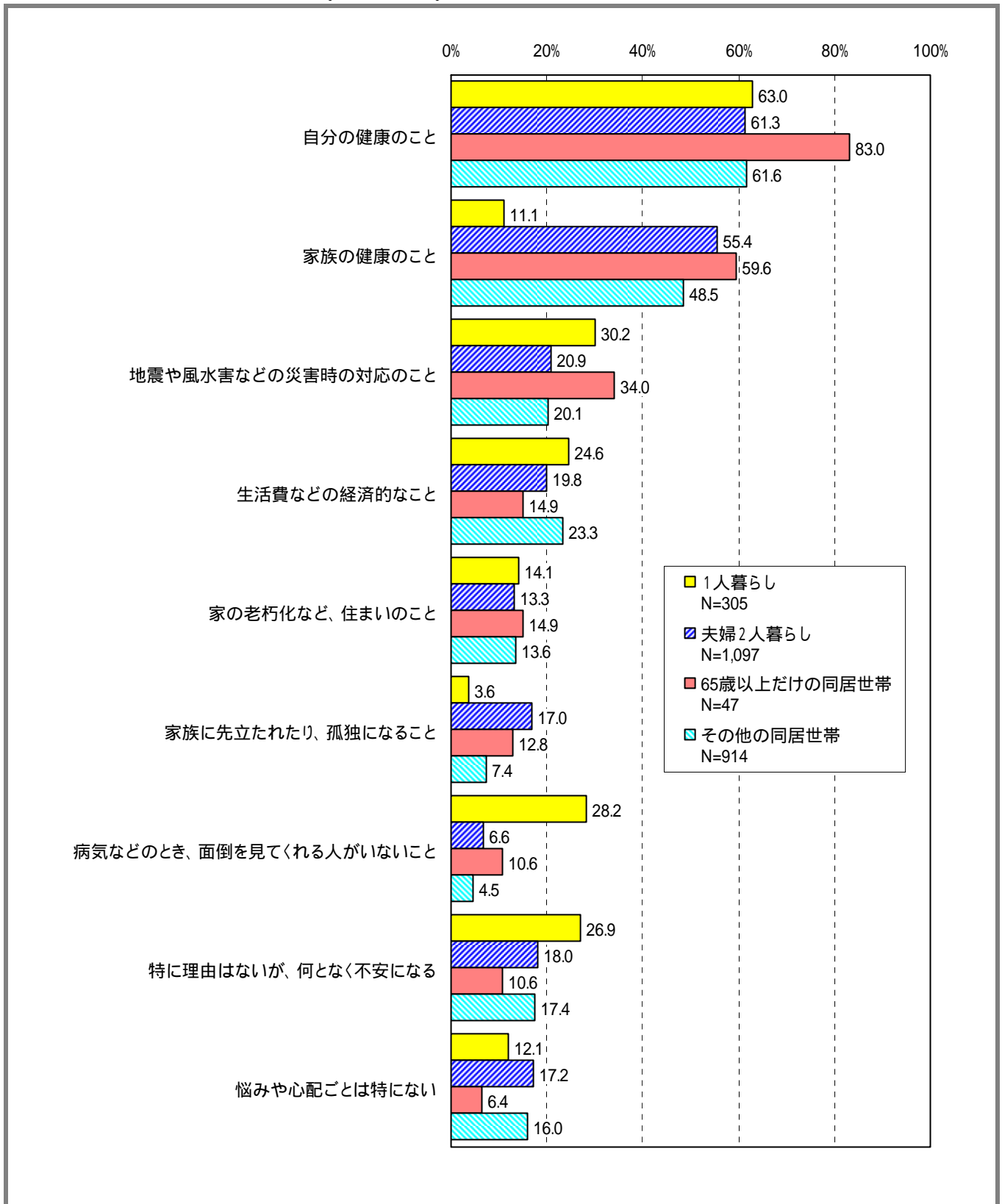


日ごろの生活について、悩みや心配ごとをたずねたところ、「自分の健康のこと」を選択した人の割合が61.7%と最も高く、「家族の健康のこと」が46.8%でそれに続いている。

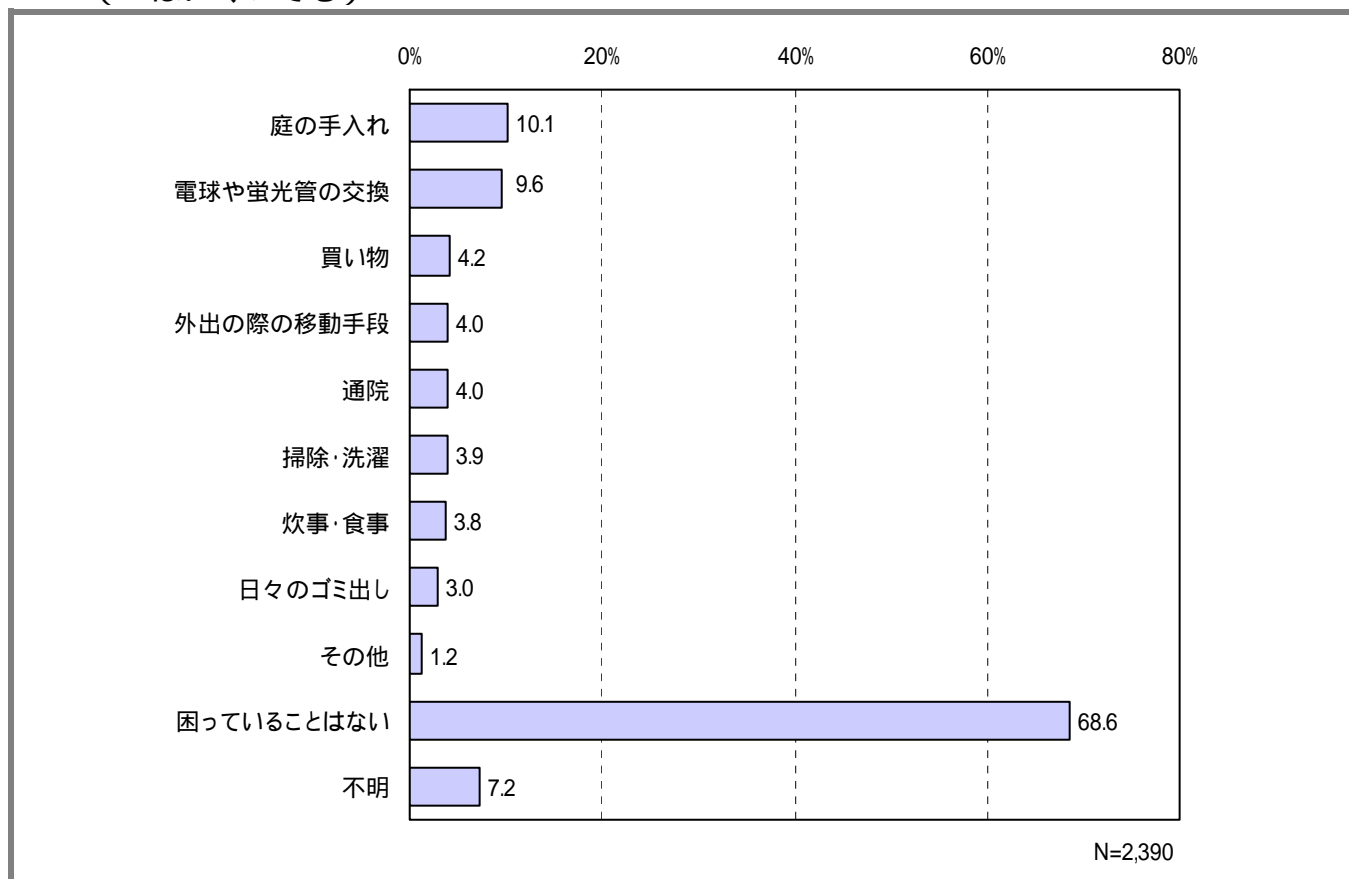
また、上位2項目とはかなり開きがあるが、「地震や風水害などの災害時の対応のこと」（22.0%）や「生活費などの経済的なこと」（21.6%）といった回答も上位に挙がっている。

世帯状況別クロス集計結果（次ページ参照）を見ると、「1人暮らし」では、「病気などのとき、面倒を見てくれる人がいないこと」や「特に理由はないが、何となく不安になる」といった回答割合が他の世帯と比べて高くなっていることがわかる。

《世帯状況別クロス集計結果（一部抜粋）》



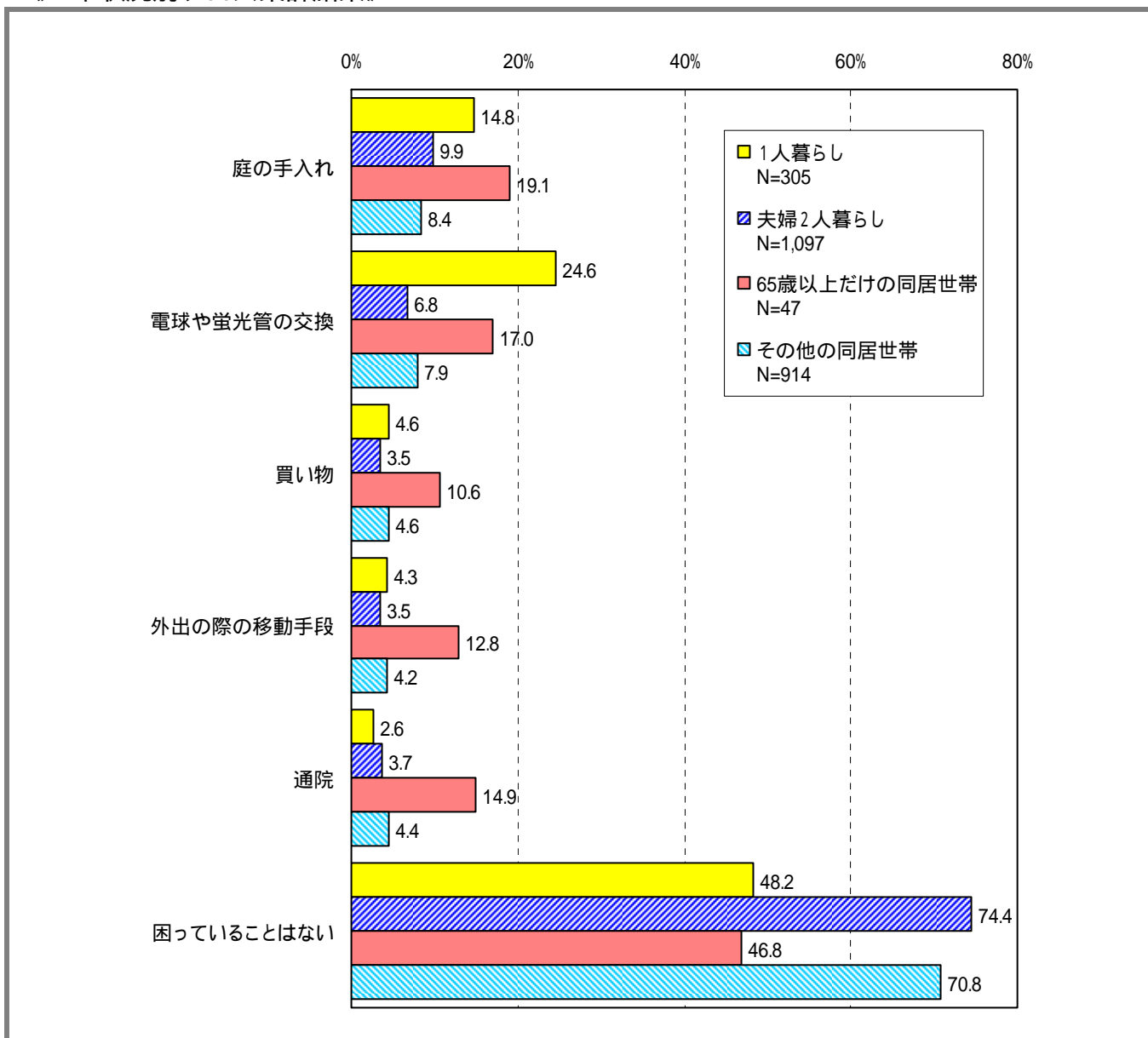
問9 日ごろの生活について、誰かの手助けが必要と感じるなど、困っていることはありますか。
（はいいくつでも）



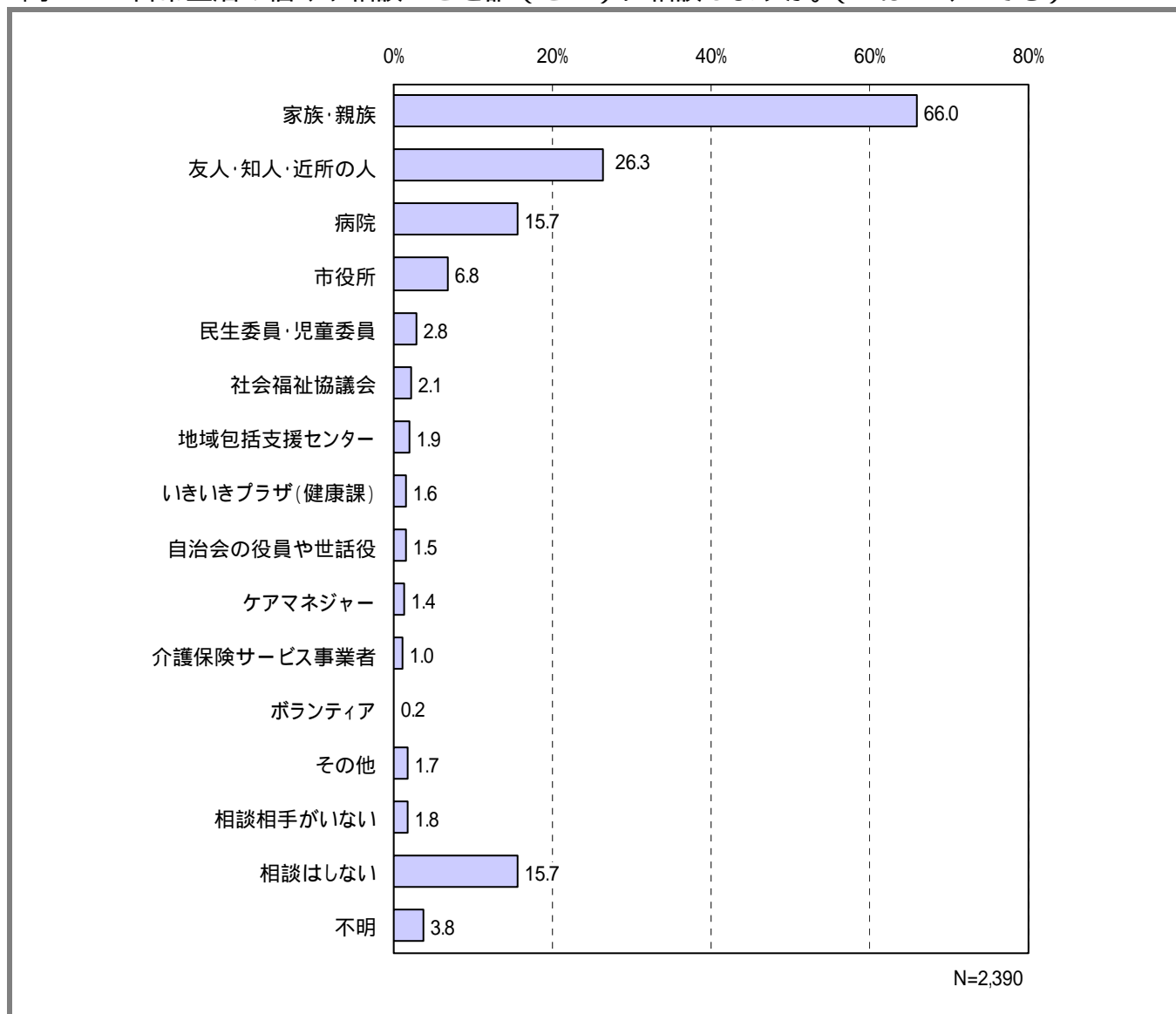
日ごろの生活については、「困っていることはない」と回答した人の割合が68.6%と圧倒的に高く、「庭の手入れ」(10.1%)や「電球や蛍光灯の交換」(9.6%)を除けば、いずれも3~4%程度にとどまっている。

また、世帯状況別クロス集計結果（次ページ参照）を見ると、「夫婦2人暮らし」や子、孫などと同居している「その他の同居世帯」では困りごとが少ない反面、「65歳以上だけの同居世帯」や「1人暮らし」では、やや困っている割合が高くなっている様子がうかがえる。

《世帯状況別クロス集計結果》



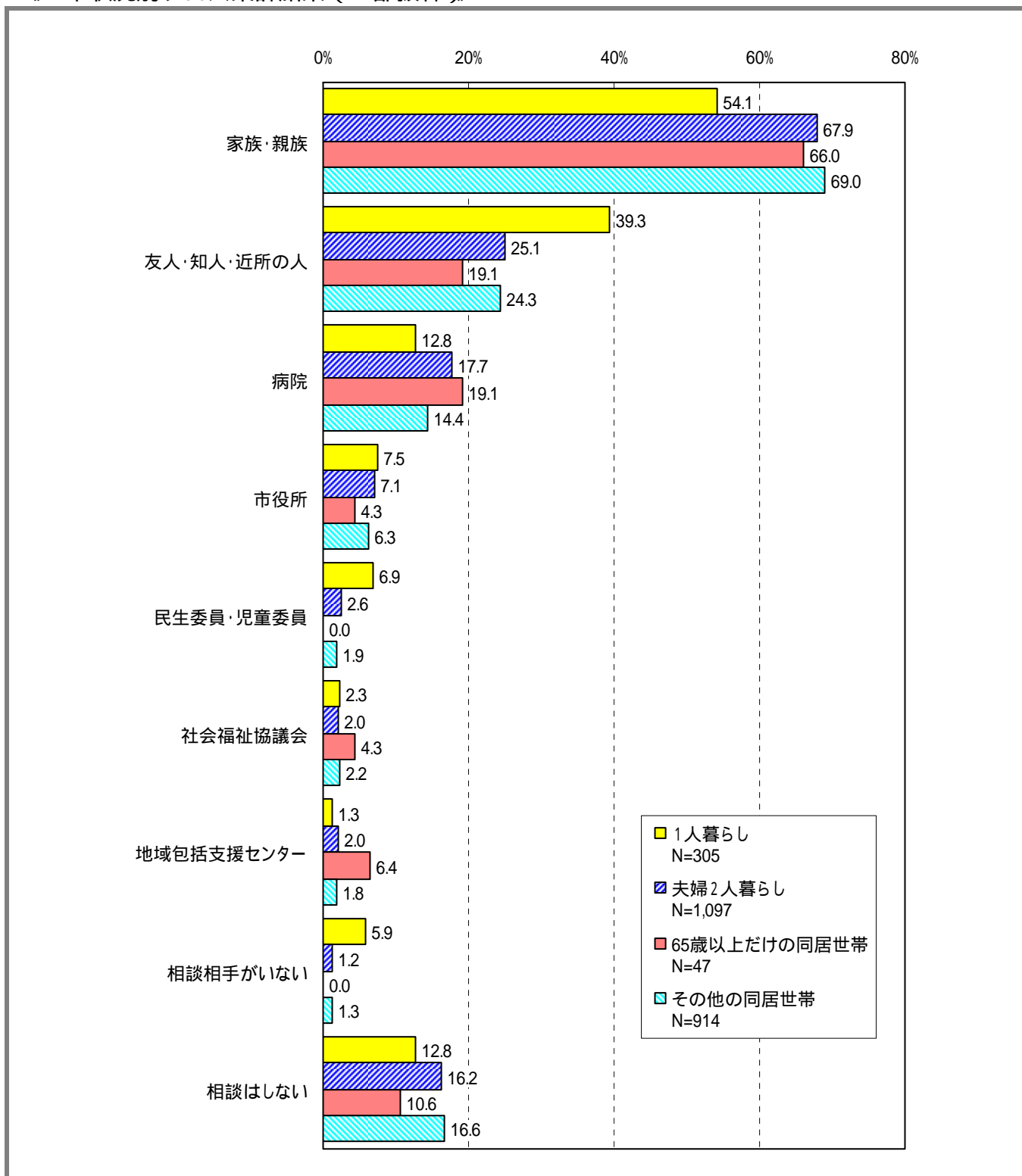
問10 日常生活の悩みや相談ごとを誰（どこ）に相談しますか。（はいくつでも）



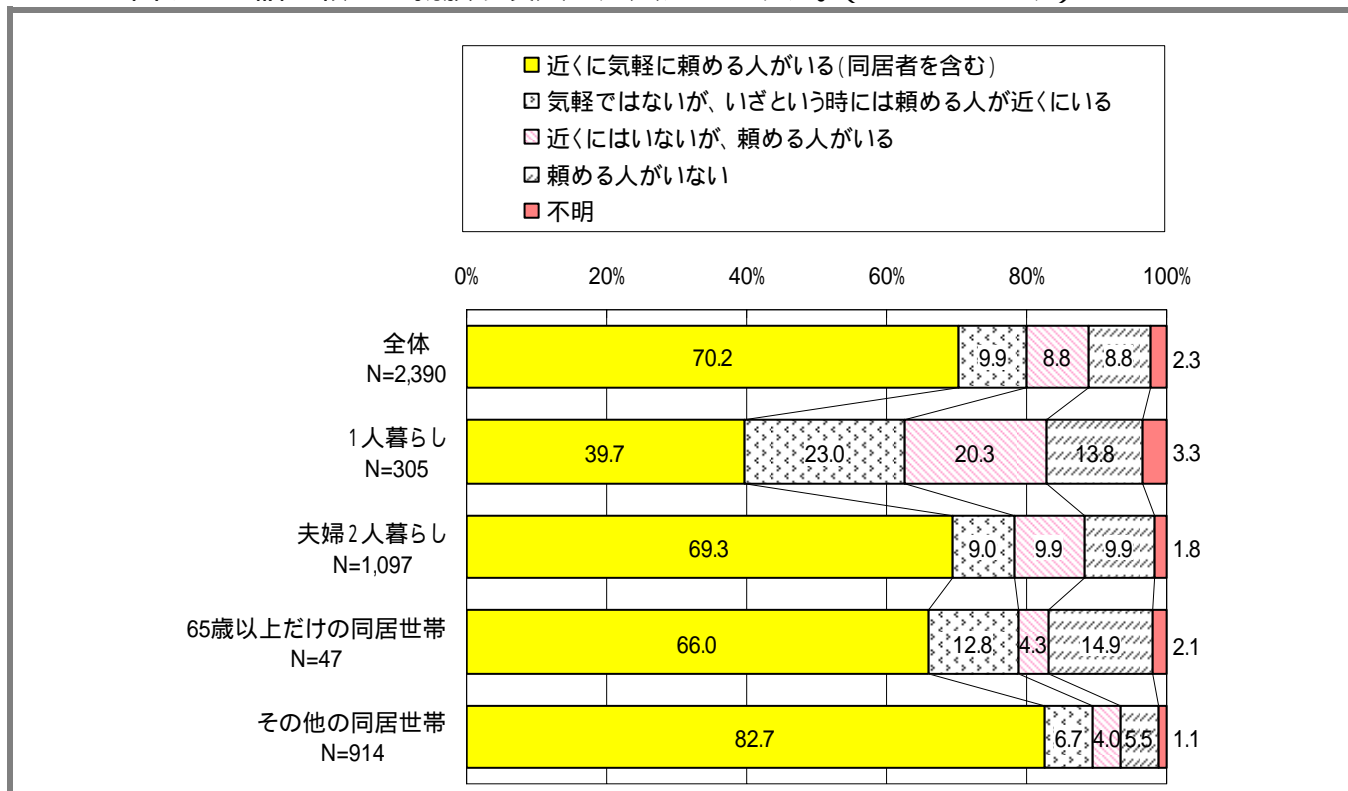
日常生活の悩みや相談ごとの相談先をたずねたところ、「家族・親族」と回答した人の割合が66.0%と圧倒的に高く、大きく離れて「友人・知人・近所の人」(26.3%)、「病院」(15.7%)、「市役所」(6.8%)と続いている。

世帯状況別のクロス集計結果（次ページ参照）を見ると、「1人暮らし」の世帯では、他の世帯に比べ、「友人・知人・近所の人」や「民生員・児童委員」の割合が高くなっており、「相談相手がない」と回答した人の割合も5.9%と最も高くなっている。

《世帯状況別クロス集計結果（一部抜粋）》



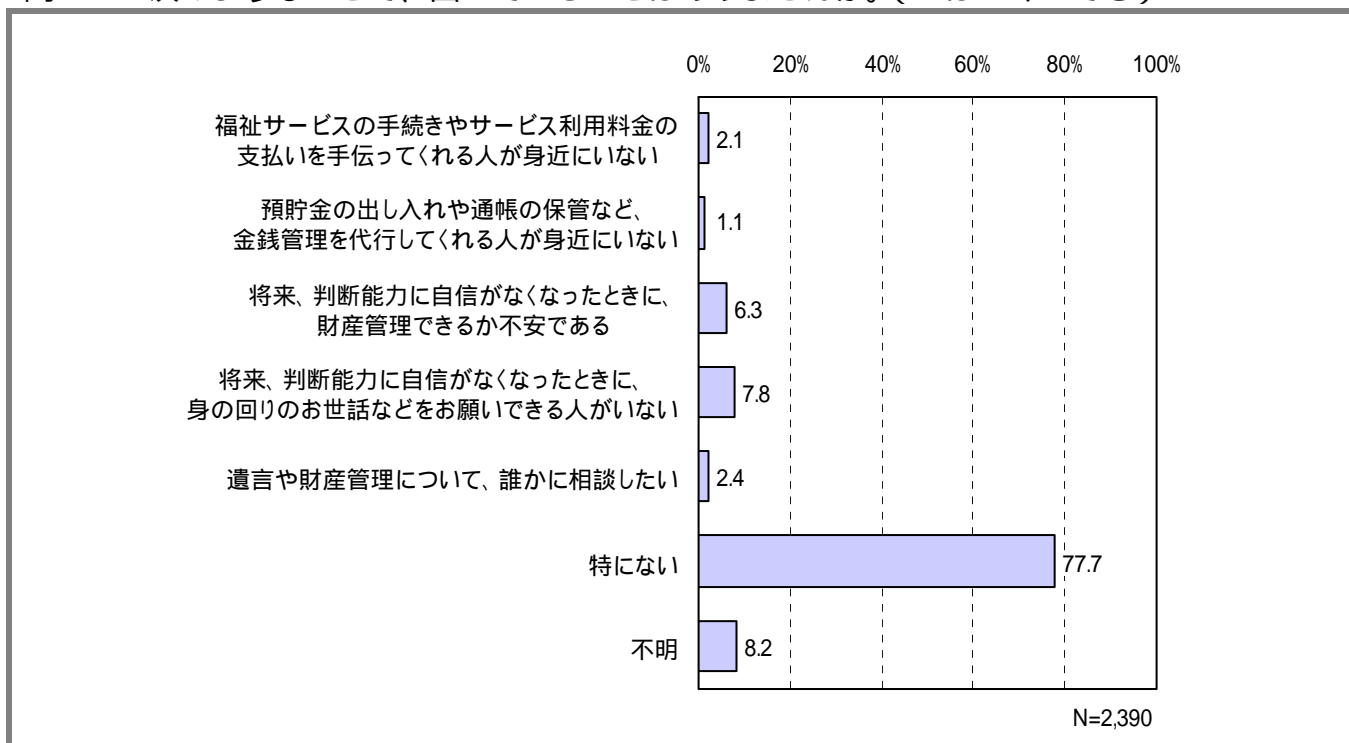
問11 お住まいの近くに（おおむね30分以内）あなたがもし病気で倒れたときに、身の回りの世話を頼める親族や友人・知人がいますか。（は1つだけ）



もし病気で倒れたときに、近くに（おおむね30分以内）身の回りの世話を頼める親族や友人・知人がいるかどうかたずねたところ、「近くにいる」と回答した人の割合は全体の80.1%で、「近くにはいない」と回答した人の割合は17.6%となっている。

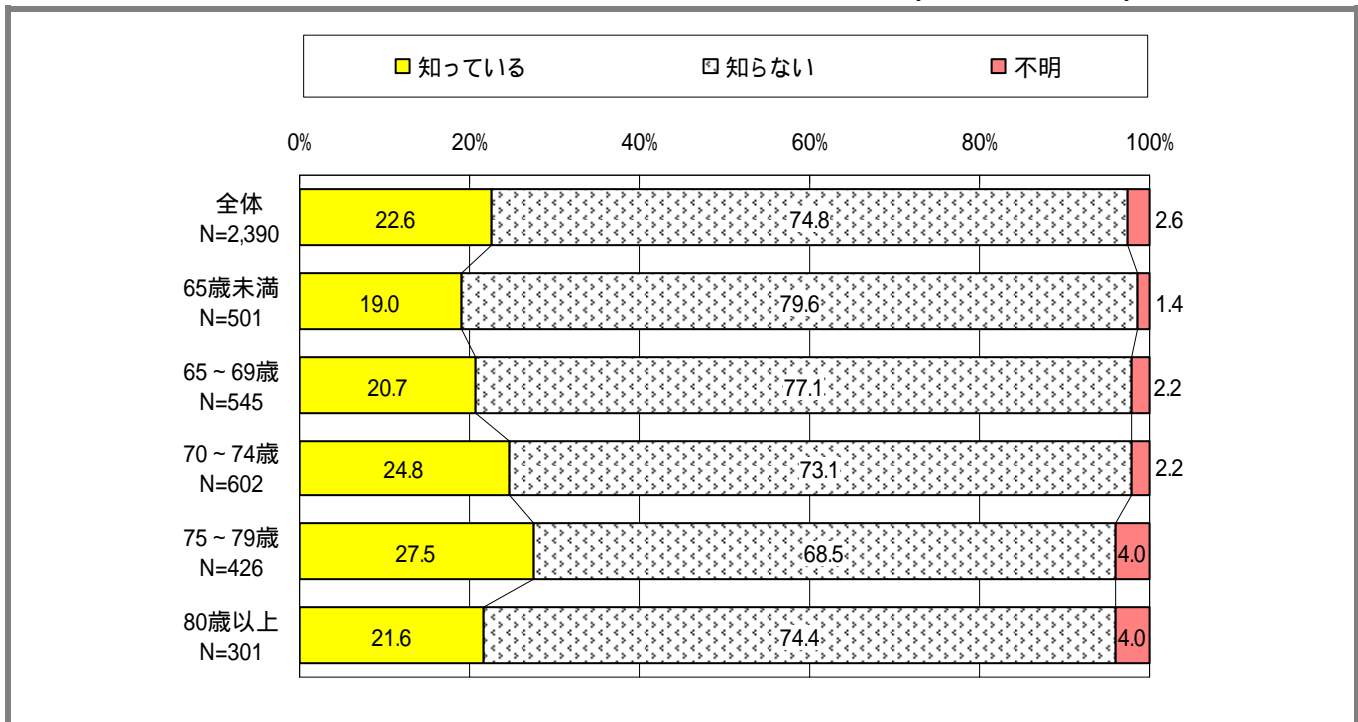
また、世帯状況別に「1人暮らし」だけで見ると、「近くにはいない」と回答した人の割合が34.1%と、全体の2倍近い割合となっている。

問12 次のようなことで、困っていることはありませんか。（はいいくつでも）



権利擁護に関連して、金銭や財産の管理などに関連して困ることがないかたずねたところ、「特にない」と回答した人が77.7%と大半を占め、若干の回答があった選択肢についても、今困っているというよりは、「将来、判断能力に自信がなくなったとき」の漠然とした不安があるというニュアンスが感じられる。

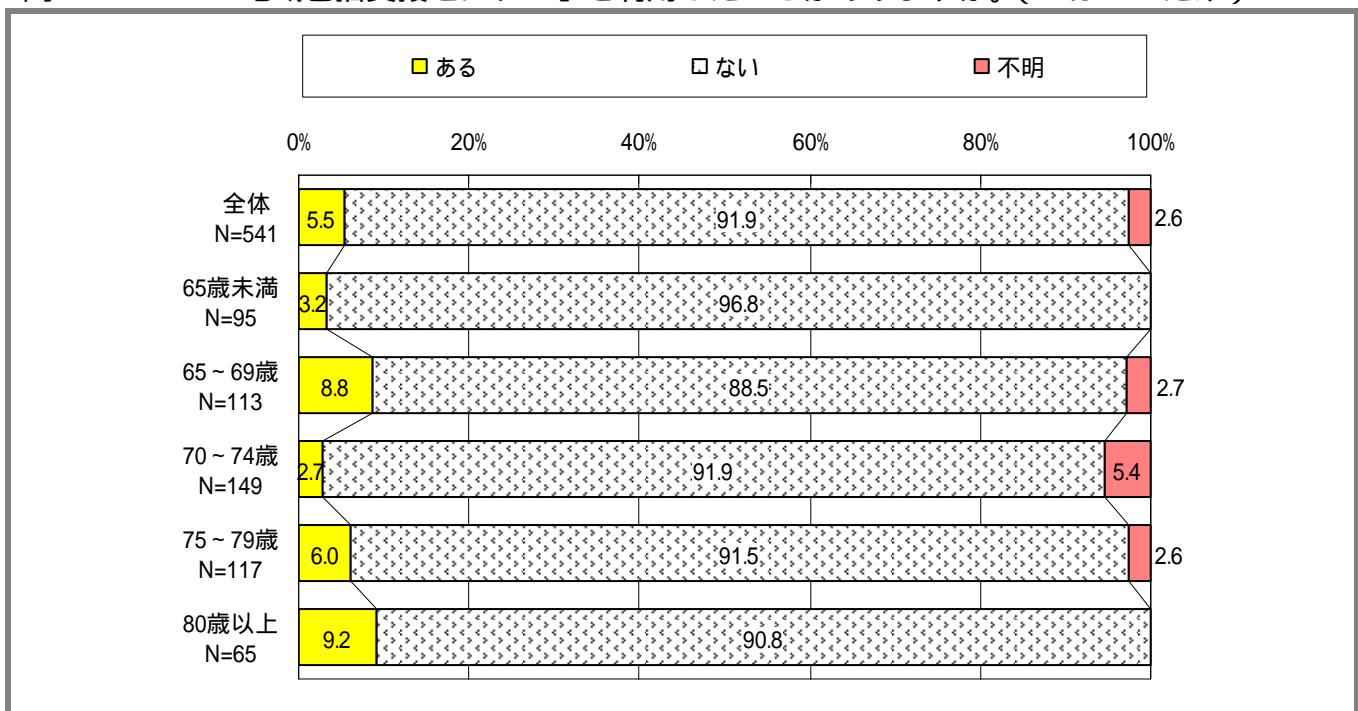
問13 健康づくりや福祉サービスの紹介、介護や医療に関する悩みや成年後見制度の利用など、生活の中で困ることに応じる窓口として、春日市には「地域包括支援センター」が2か所あります。「地域包括支援センター」を知っていますか。（は1つだけ）



地域包括支援センターを「知っている」と回答した人の割合は全体の22.6%にとどまっており、74.8%の人は「知らない」と回答している。

（問13で「1 知っている」と答えた方へ）

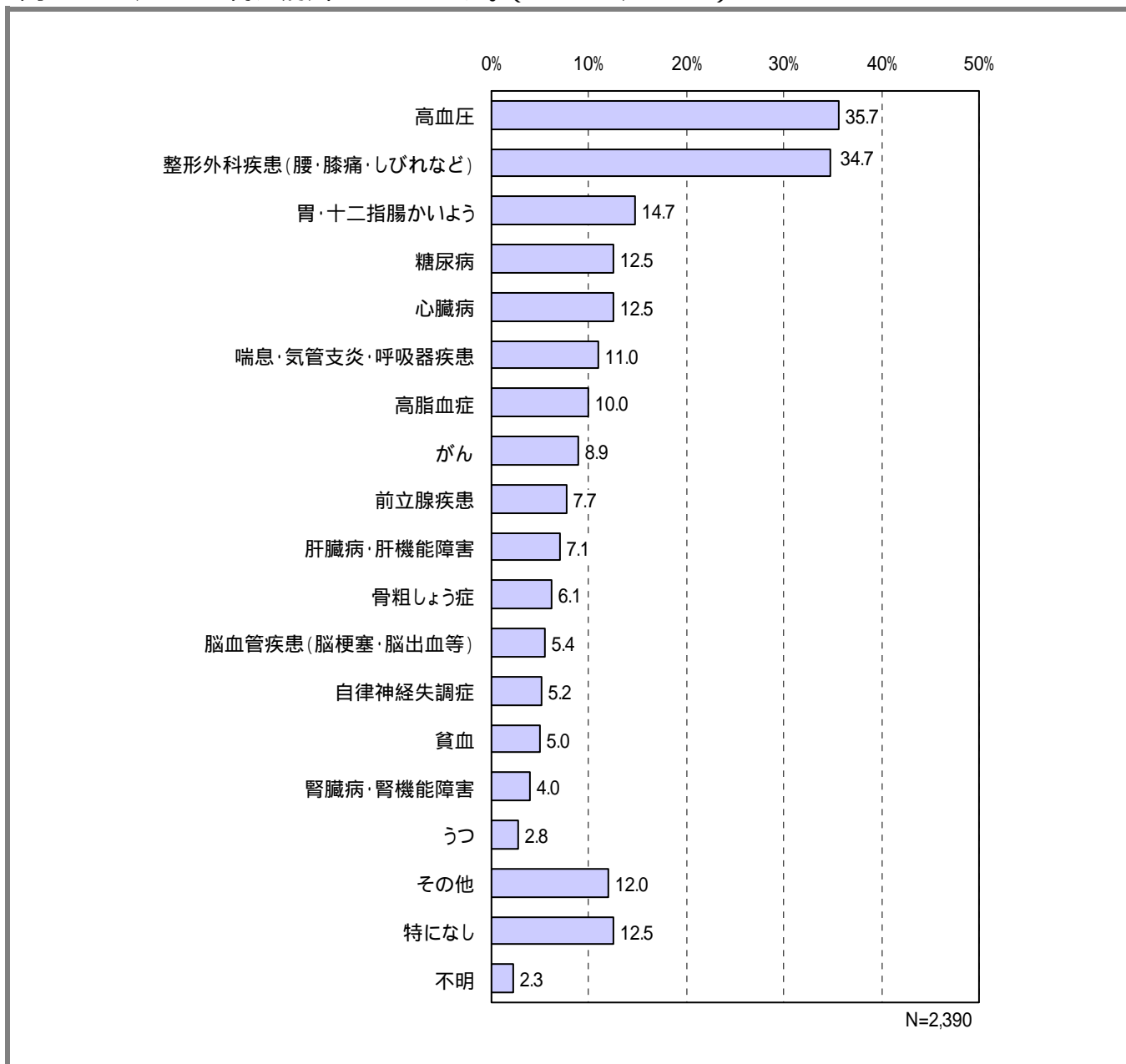
問13-1 「地域包括支援センター」を利用したことがありますか。（は1つだけ）



地域包括支援センターを利用したことが「ある」と回答した人の割合は、「知っている」と回答した人の5.5%で、全体に換算すると1.3%となる。

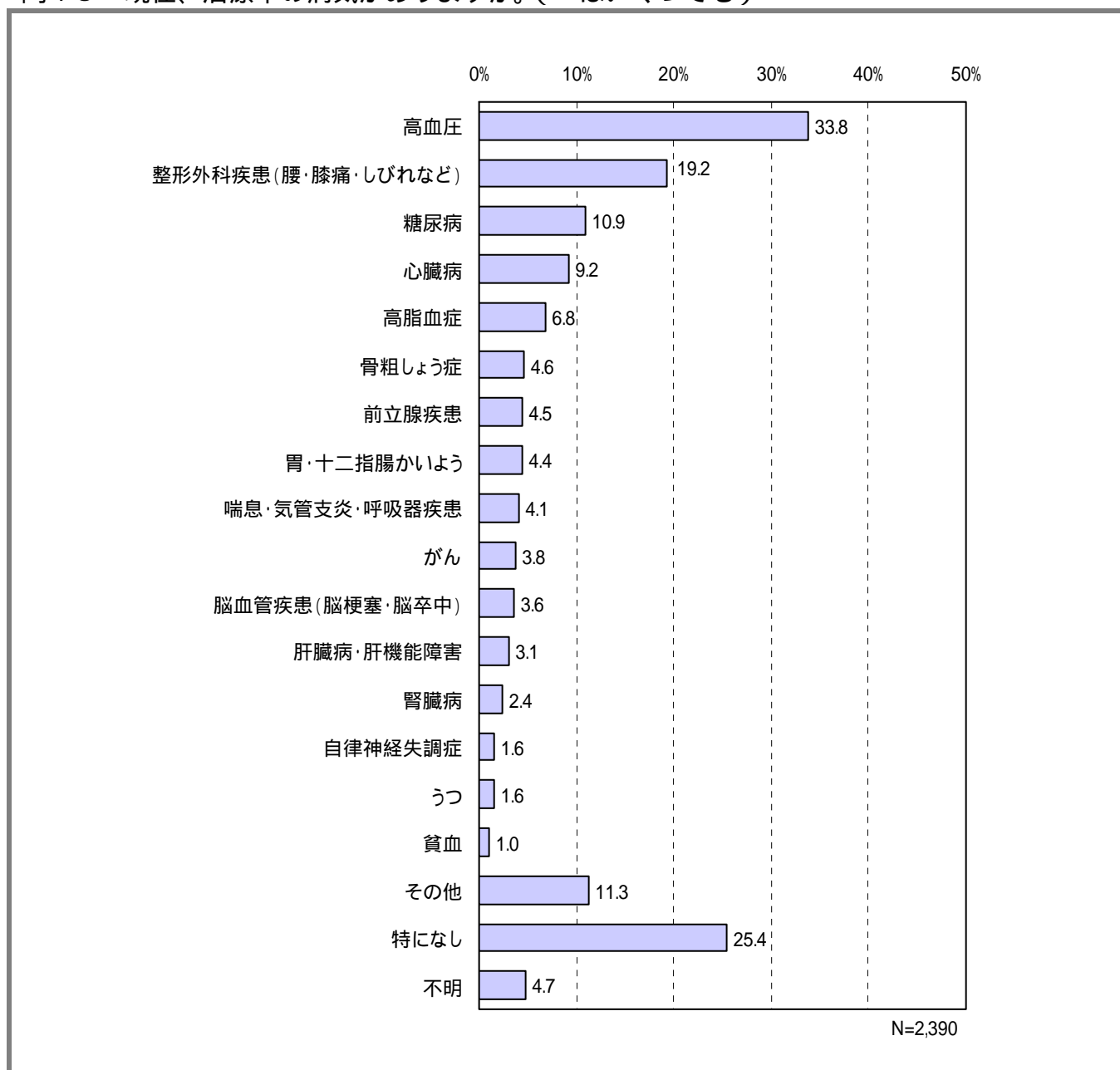
健康状態について

問14 今までに何か病気をしましたか。（はいいくつでも）



今までの病歴をたずねたところ、「高血圧」(35.7%)と「整形外科疾患(腰・膝痛・しびれなど)」(34.7%)の回答割合が高くなっている。

問15 現在、治療中の病気がありますか。（はいいくつでも）

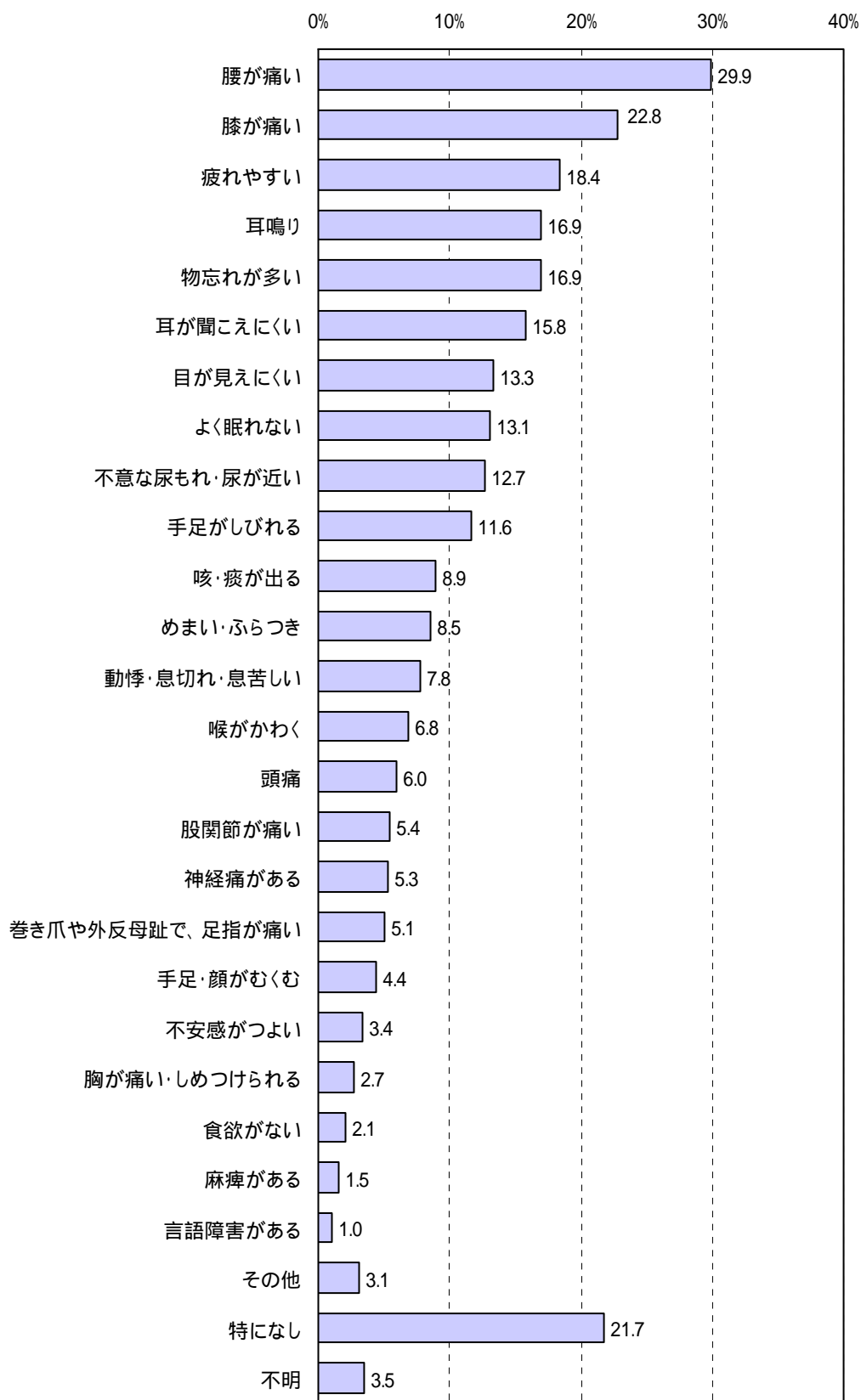


現在治療中の病気をたずねたところ、「高血圧」を選択した人の割合が33.8%と最も高く、以下、「整形外科疾患（腰・膝痛・しびれなど）」（19.2%）、「糖尿病」（10.9%）、「心臓病」（9.2%）、「高脂血症」（6.8%）と続いている。

また、現在、あてはまる症状をたずねたところ（次ページ、問16参照）「腰が痛い」を選択した人の割合が29.9%と最も高く、以下、「膝が痛い」（22.8%）、「疲れやすい」（18.4%）、「耳鳴り」（16.9%）、「物忘れが多い」（16.9%）、「耳が聞こえにくい」（15.8%）と続いている。

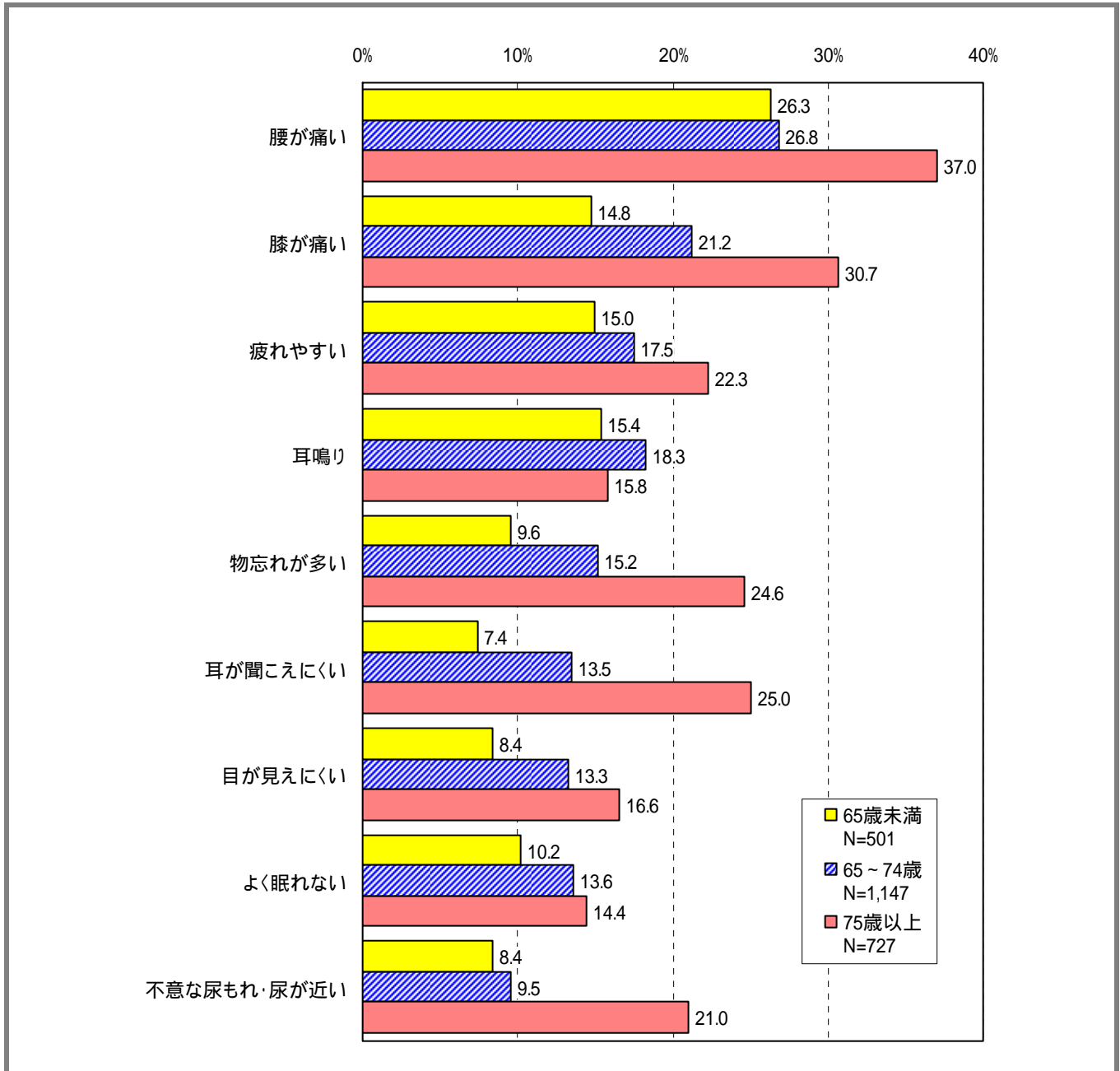
さらに、年齢階層別に見ると（次々ページ参照）概ねどの症状も年齢が高くなるにつれて回答割合が高くなっており、特に「腰が痛い」、「膝が痛い」、「物忘れが多い」、「耳が聞こえにくい」、「不意な尿もれ、尿が近い」といった症状については、75歳以上になると回答割合が急激に高くなる傾向が見られる。

問16 現在、あてはまる症状がありますか。（はいくつでも）



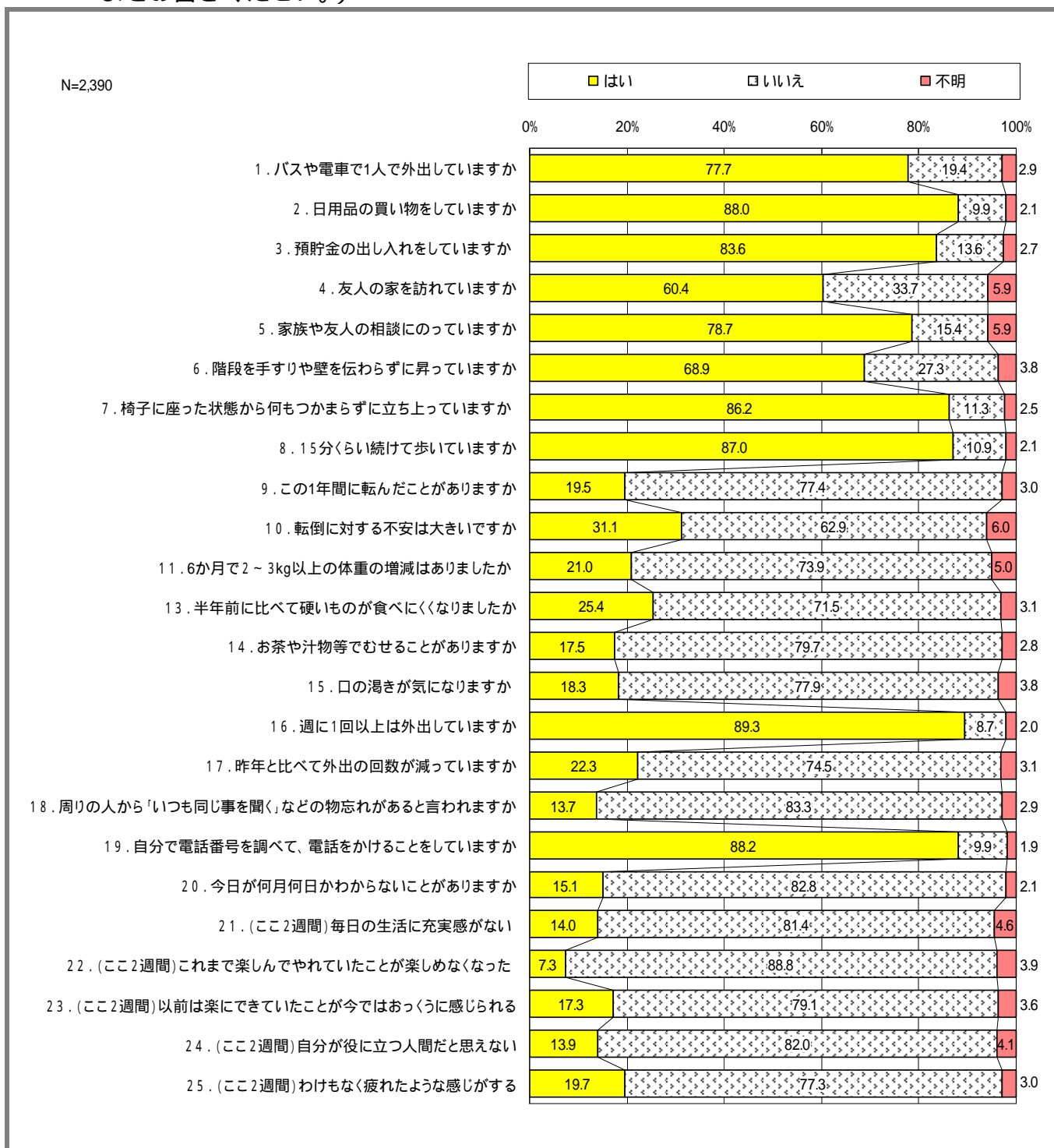
N=2,390

《年齢階層別クロス集計結果（上位9項目のみ）》



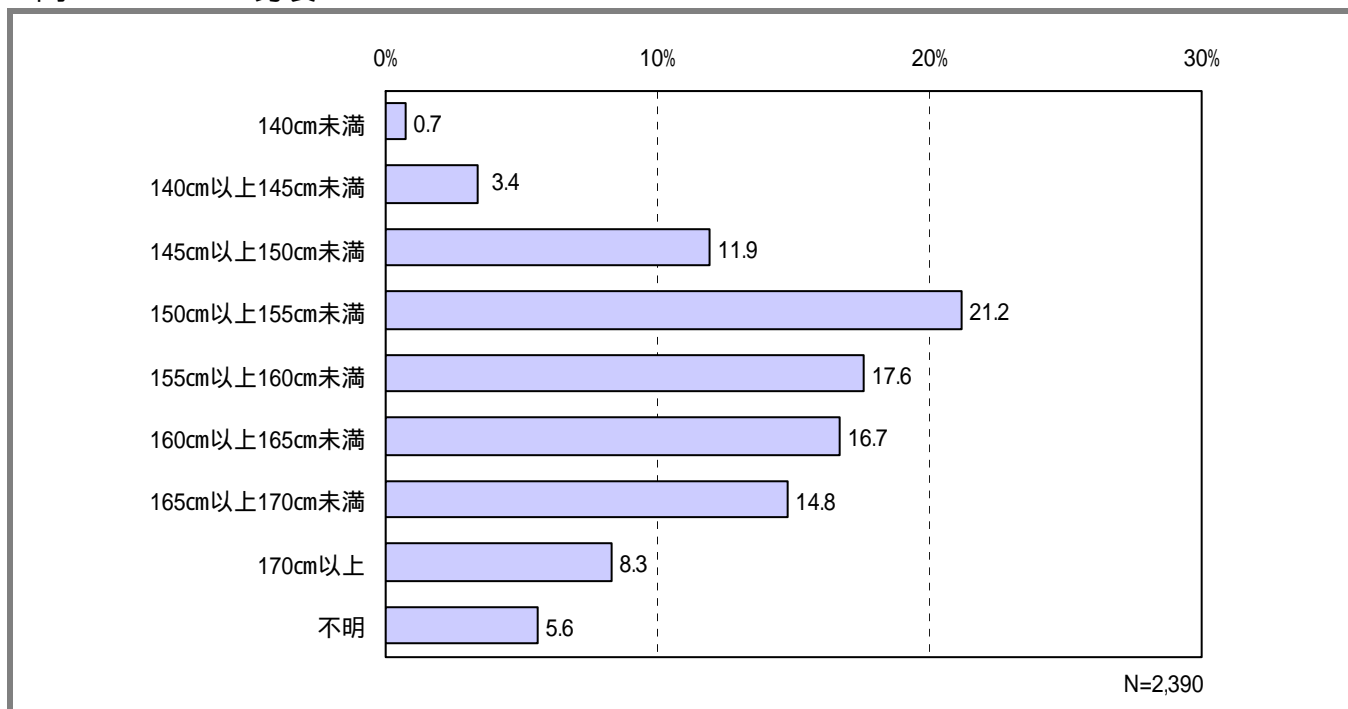
生活機能チェックについて

問17 日常生活に関する以下の質問について、それぞれ「はい」「いいえ」のいずれかの番号をつけてください。（記入は、最近概ね6か月間の心身状況について、ありのままをお書きください。）



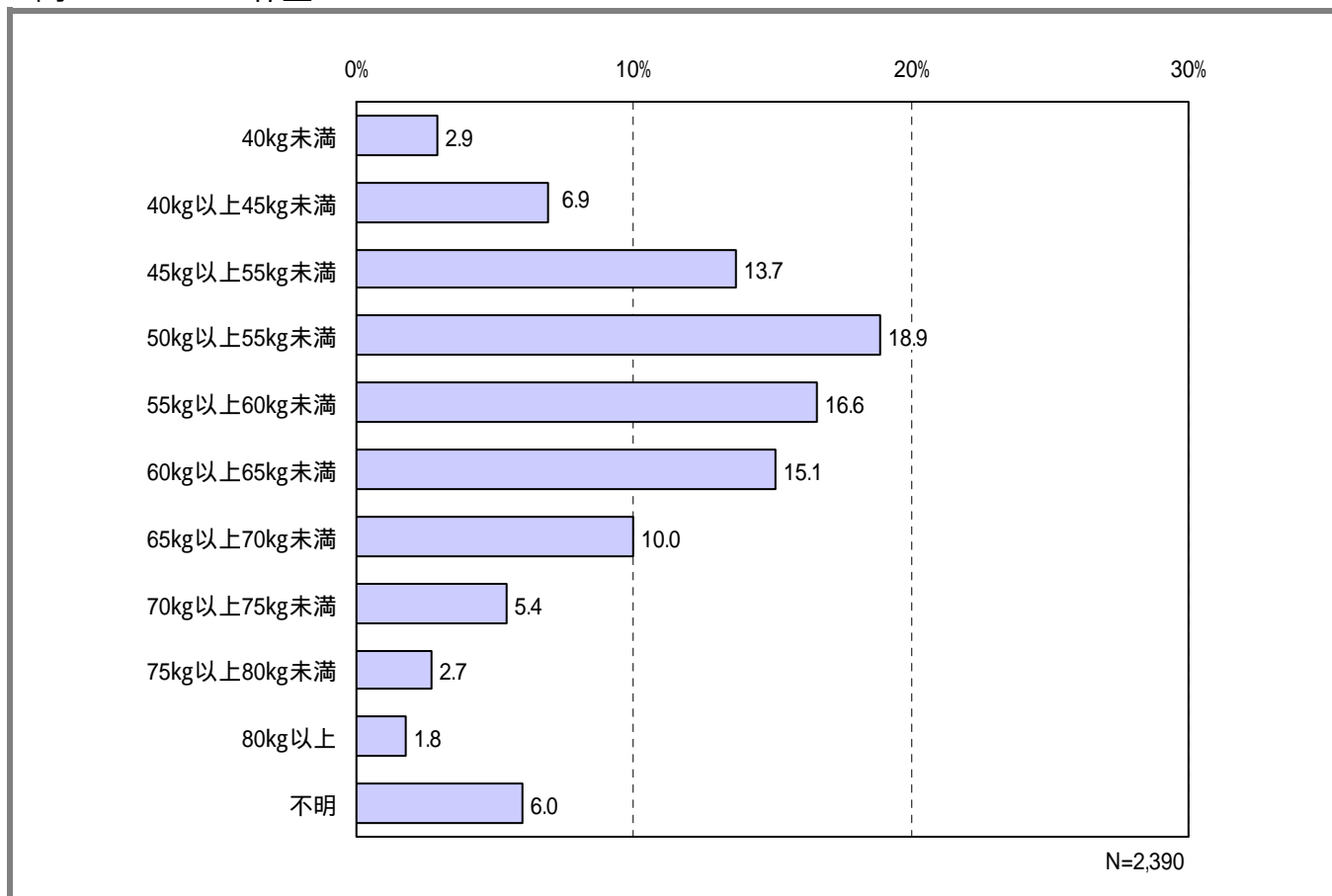
特定高齢者把握のための機能チェックリストの回答結果については、上のおりであった（特定高齢者の把握が目的のため、結果の掲載のみとする）。

問17 12.身長



調査対象者の身長の分布は上のおりであった。

問17 12.体重



調査対象者の体重の分布は上のおりであった。

問17 12. BMI

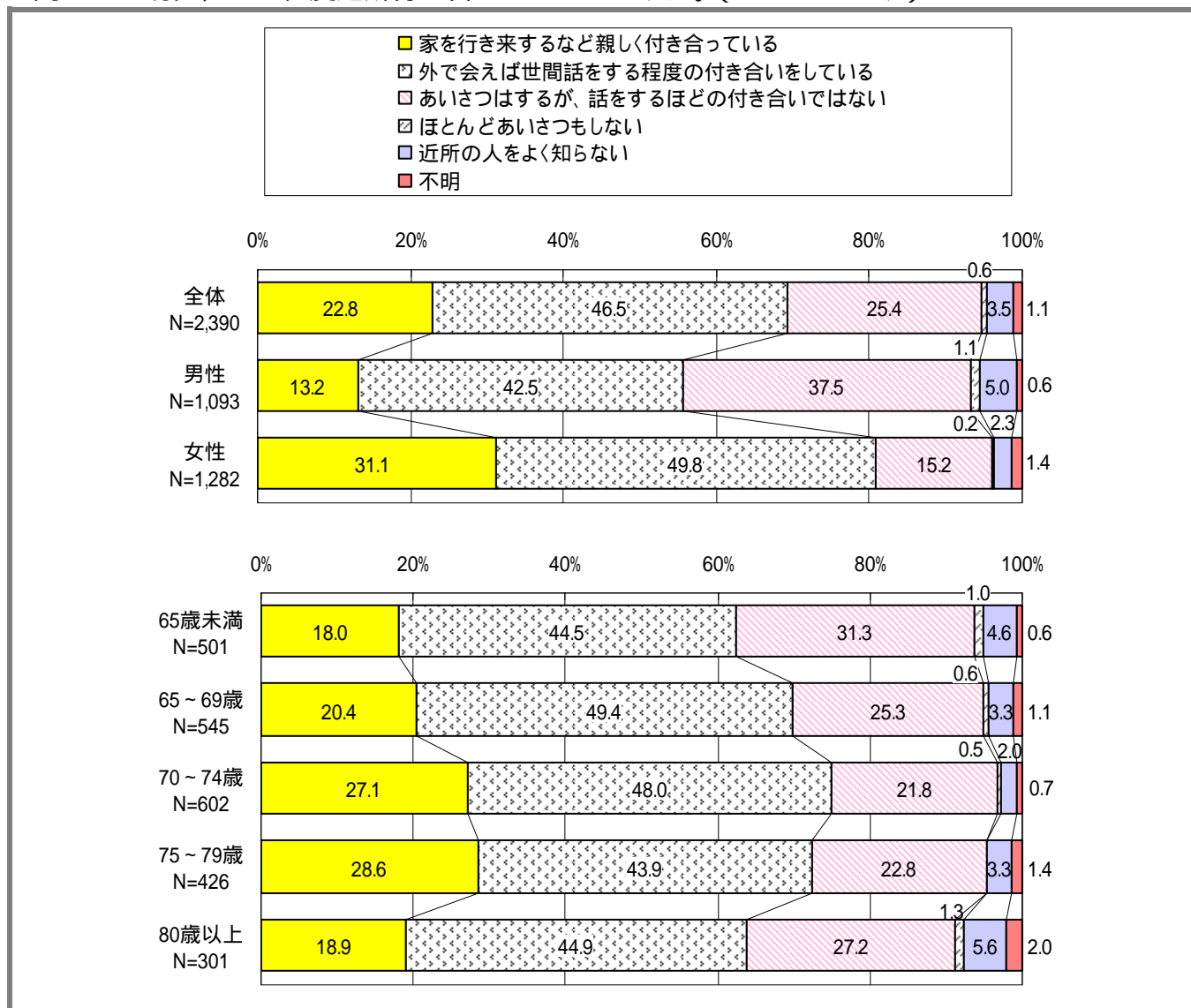


調査対象者の身長と体重からBMIを算出した結果は上のとおりで、「普通（18.5以上25.0未満）」は全体の67.8%、「肥満（25.0以上）」は18.7%、「やせ（18.5未満）」は6.9%となっている。

また、年齢階層別に見ると、肥満は「65歳未満」（23.4%）、やせは「80歳以上」（12.0%）で比較的高い割合となっている。

・地域との交流について

問18 現在、どの程度近所付き合いをしていますか。（ は1つだけ）



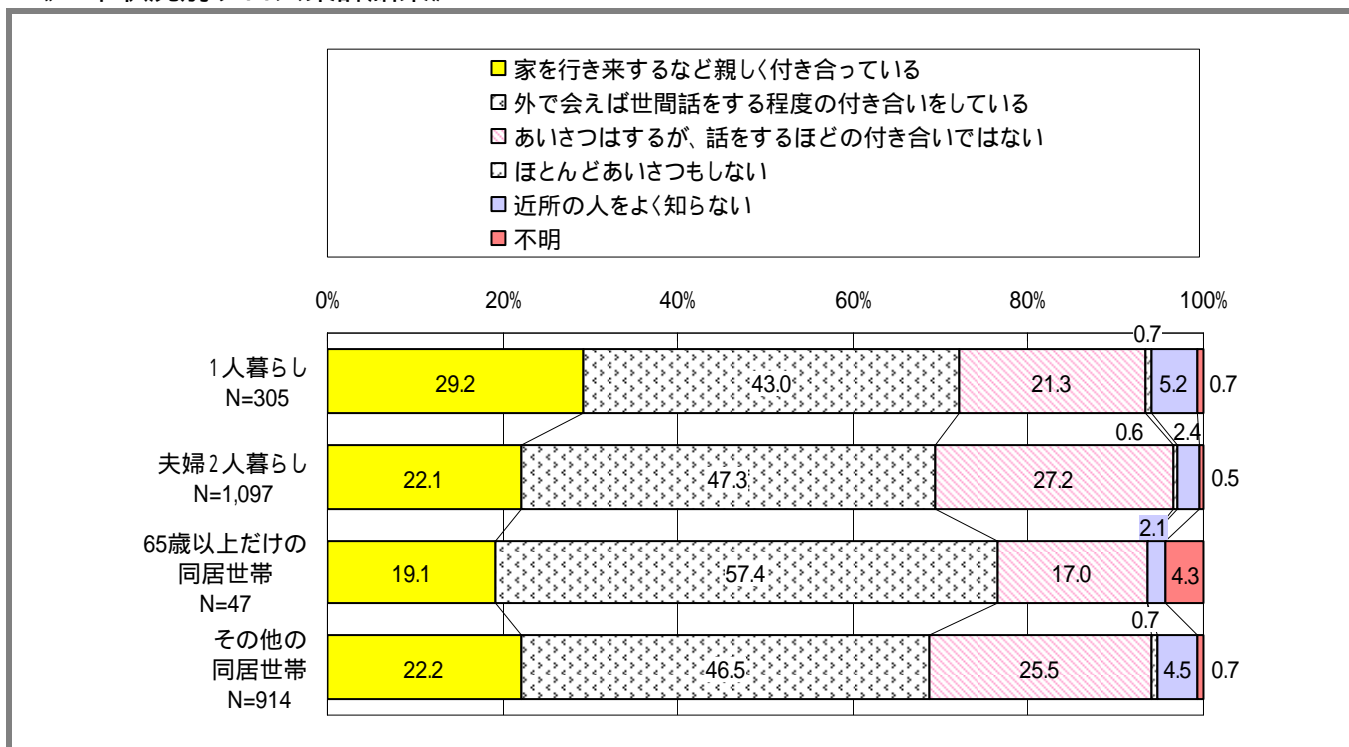
近所付き合いの程度については、「外で会えば世間話をする程度の付き合いをしている」と回答した人の割合が全体の46.5%と最も高く、「家を行き来するなど親しく付き合っている」と回答した人を合わせると、約7割の人はある程度近所付き合いの実態があると考えられる。

男女別で見ると、「家を行き来するなど親しく付き合っている」と回答した人の割合は、男性の13.2%に対し、女性は31.1%となっており、男性よりも女性の方が近所付き合いの親密度が高いことがわかる。

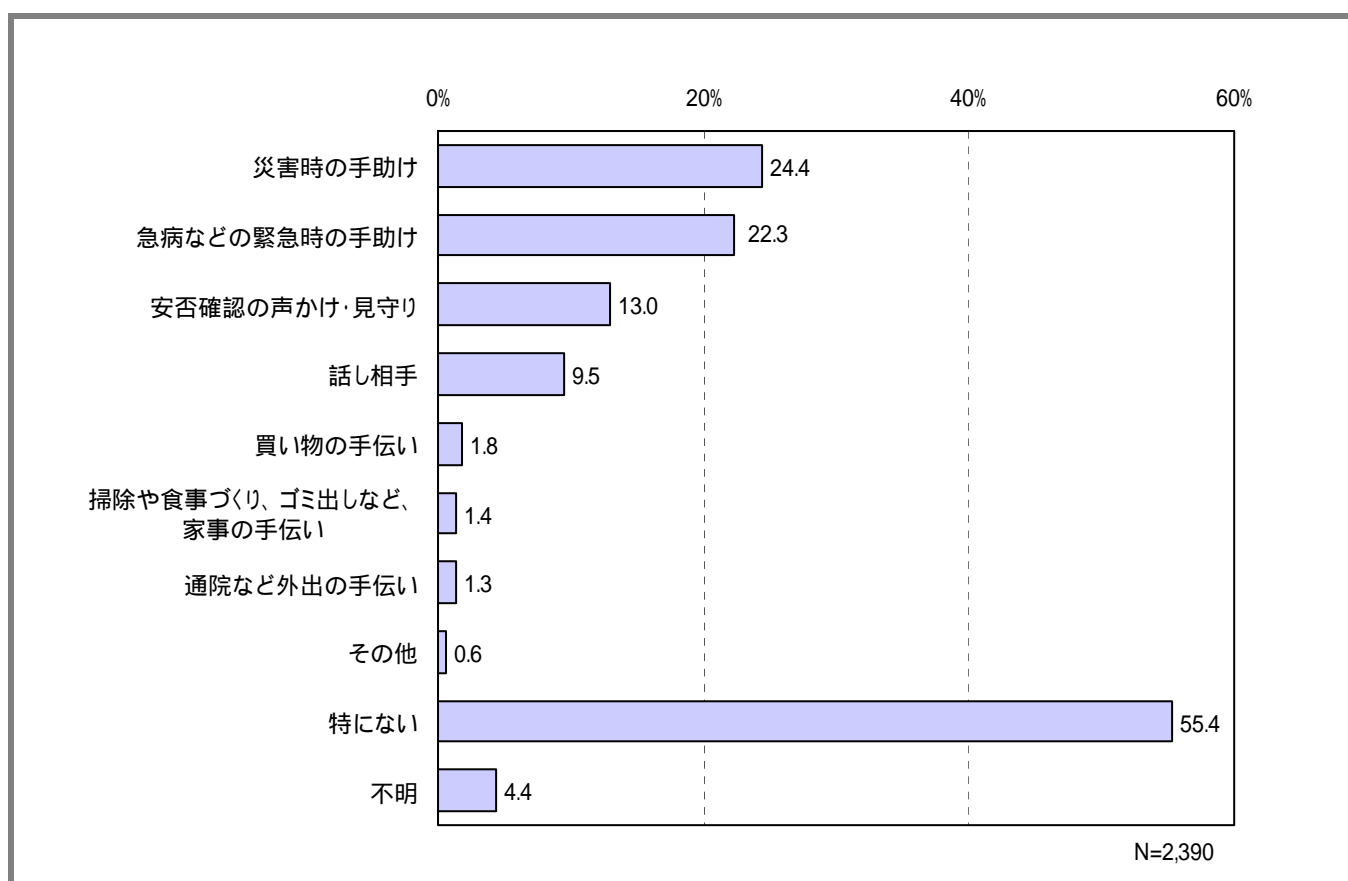
また、年齢階層別に見ると、80歳以上を除けば、年齢階層が低くなるにつれて、「家を行き来するなど親しく付き合っている」と回答した人の割合が低下している。

さらに、世帯状況別に見た場合（次ページ参照）、「家を行き来するなど親しく付き合っている」と回答した人の割合が最も高かったのは「1人暮らし」（29.2%）の世帯であった。

《世帯状況別クロス集計結果》



問19 ご近所の方に協力してもらえたら助かることはありますか。(はいいくつでも)



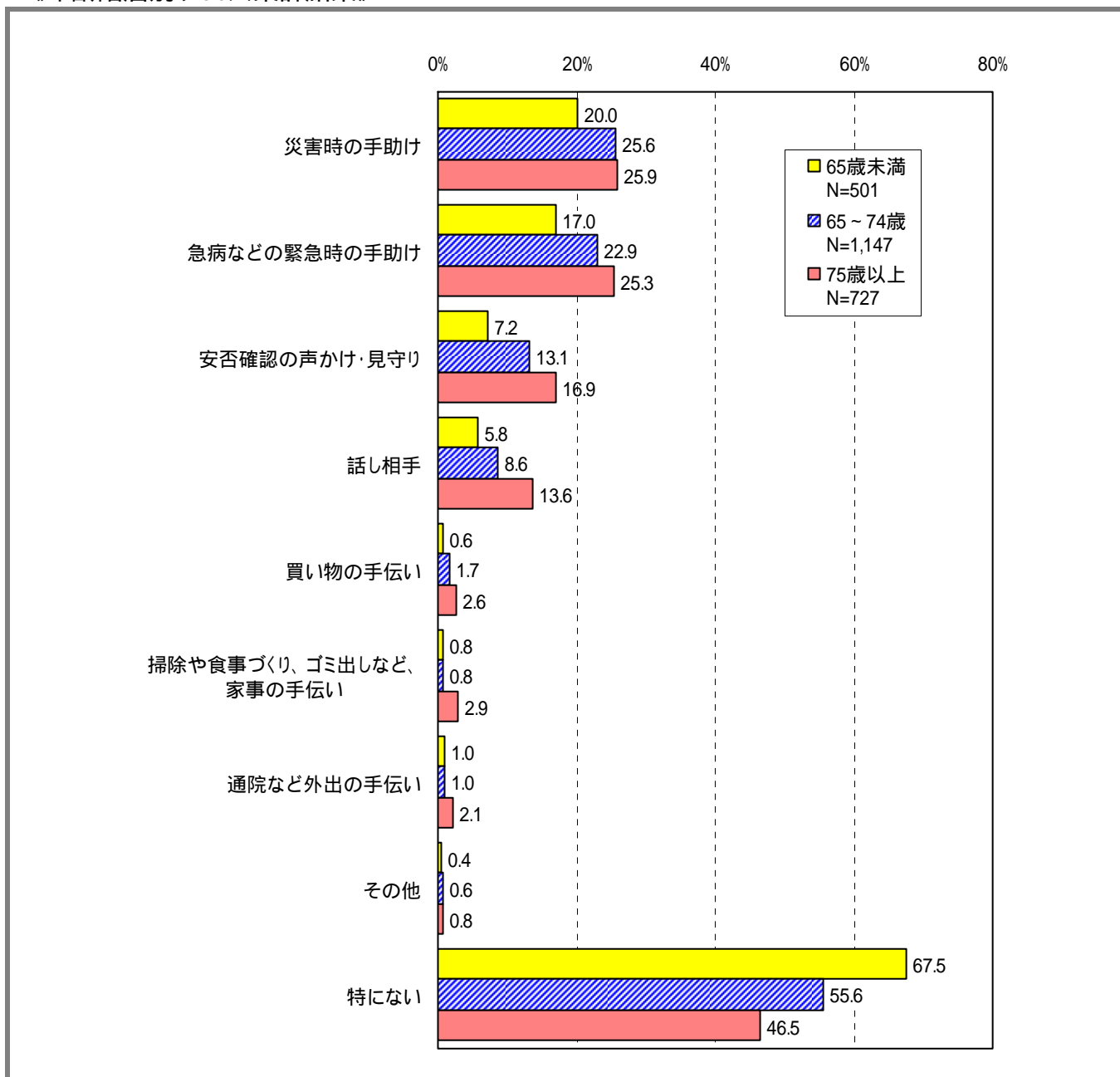
近所の方に協力してもらえたら助かるかどうかたずねたところ、全体の 55.4% の人は「特にない」と回答している。

選択された割合の高かった項目は、「災害時の手助け」(24.4%) や「急病など緊急時の手助け」(22.3%) で、平時のものとしては、「安否確認の声かけ・見守り」(13.0%) や「話し相手」(9.5%) が上位に挙がっている。

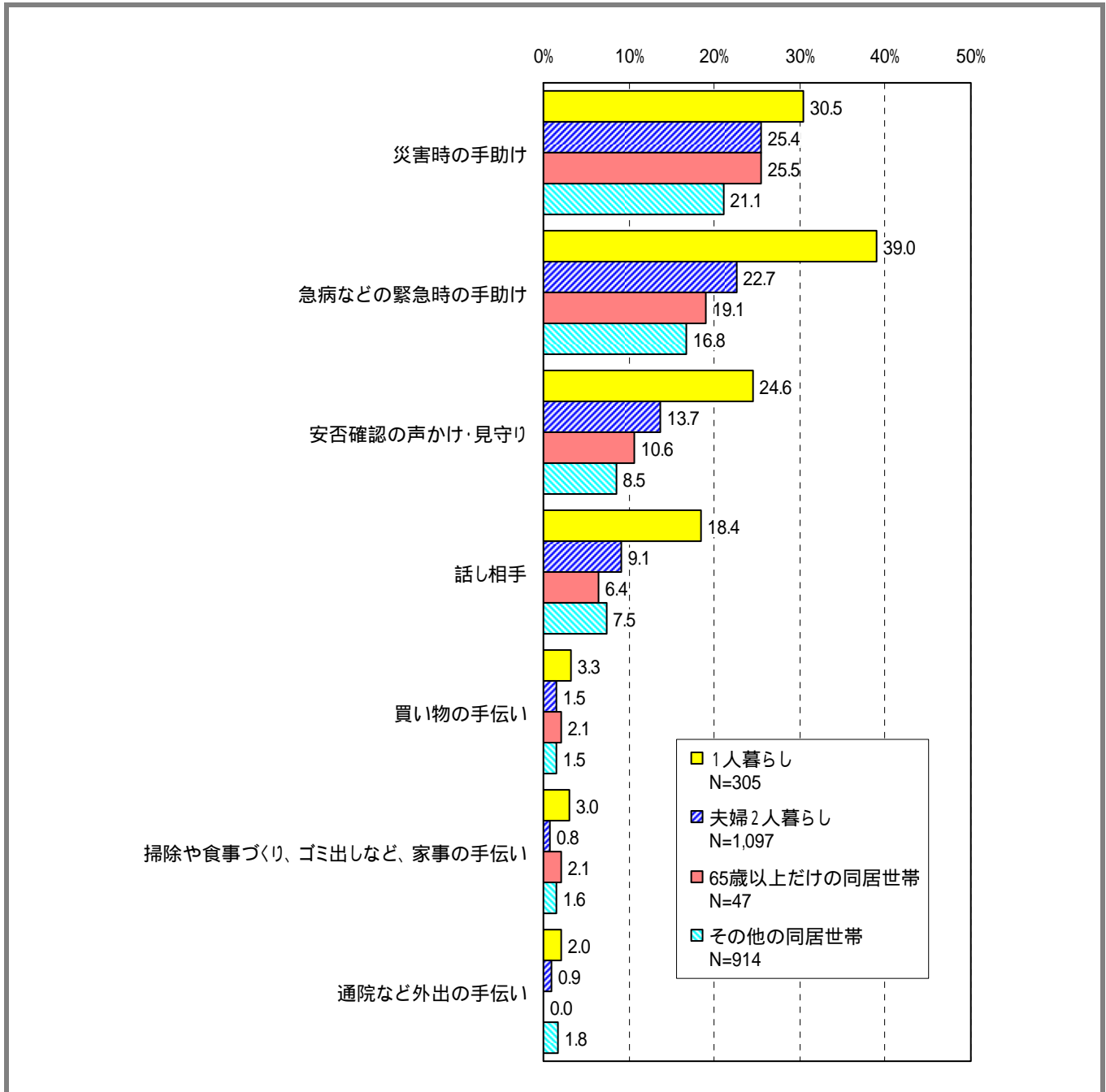
また、年齢階層別クロス集計結果（次ページ参照）を見ると、概ね年齢階層が高くなるにつれて、近所の協力を求める割合が高まる傾向にあることがわかる。

さらに、世帯状況別に見ると（次々ページ参照）「1人暮らし」の世帯では他の世帯に比べ、特に、「急病など緊急時の手助け」や「安否確認の声かけ・見守り」、「話し相手」といった項目で回答割合の高さが目立っている。

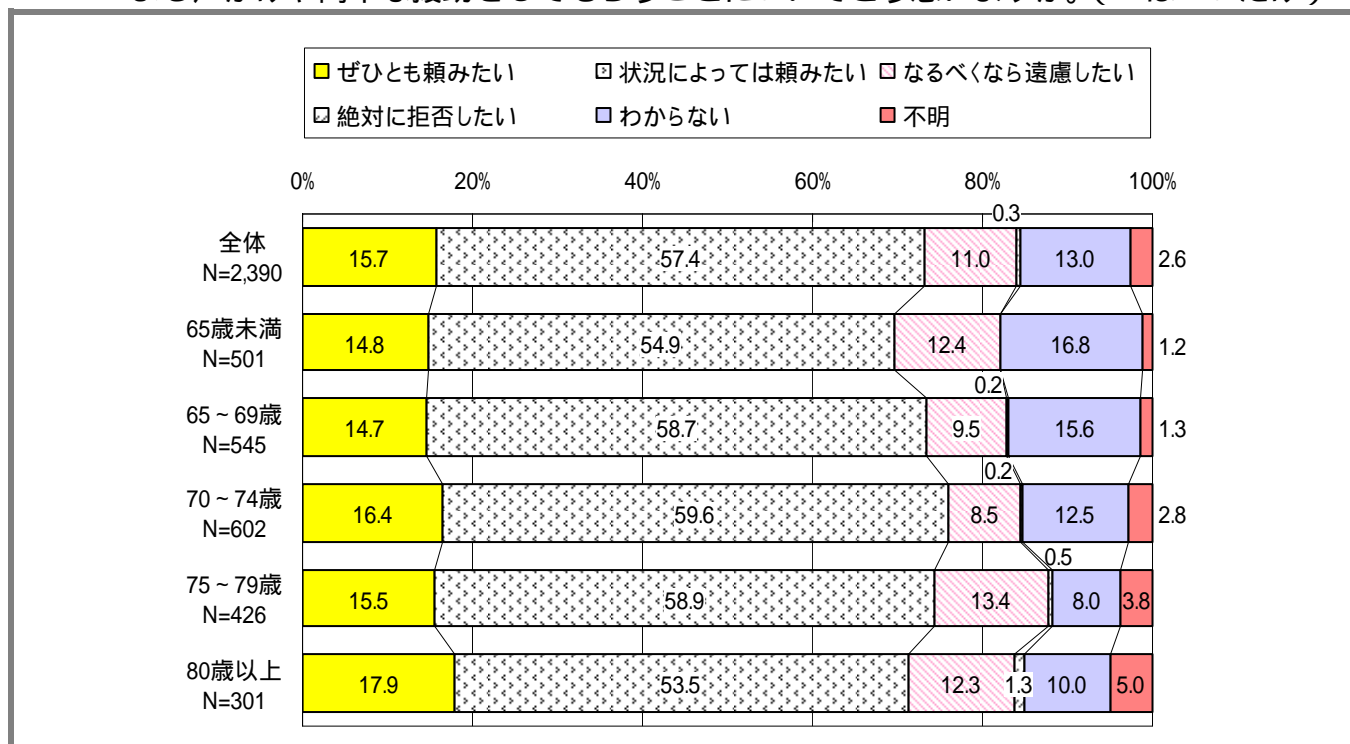
《年齢階層別クロス集計結果》



《世帯状況別クロス集計結果》



問20 急にお体の具合が悪くなったり、災害が起きたりしたときに、ご近所や自治会などによる声かけや簡単な援助をしてもらうことについてどう思いますか。（は1つだけ）



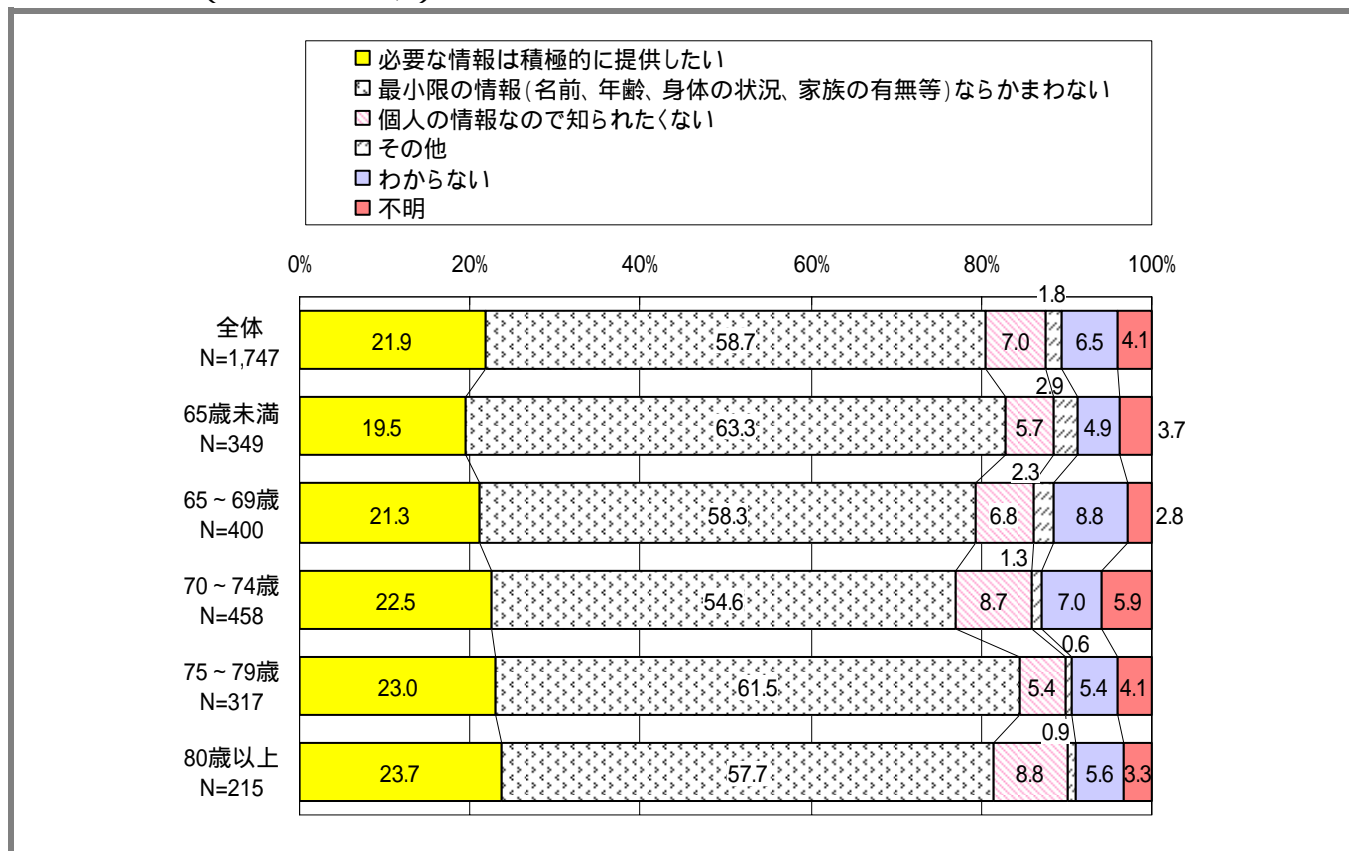
急に体の具合が悪くなったり、災害が起きたりしたときに、近所や自治会などによる声かけや簡単な援助をしてもらうことについてどう思うか、たずねたところ、「状況によっては頼みたい」と回答した人の割合が全体の57.4%と最も高く、「ぜひとも頼みたい」と回答した人の割合は15.7%にとどまっている。

また、「絶対に拒否したい」と回答した人は0.3%、「なるべくなら遠慮したい」と回答した人は11.0%となっている。

（問20で「1」または「2」と答えた方へ）

問20-1 その場合、あなたのお名前や住所等について事前に自治会などにお知らせしておく必要がありますが、それについてはどのようにお考えですか。

（は1つだけ）

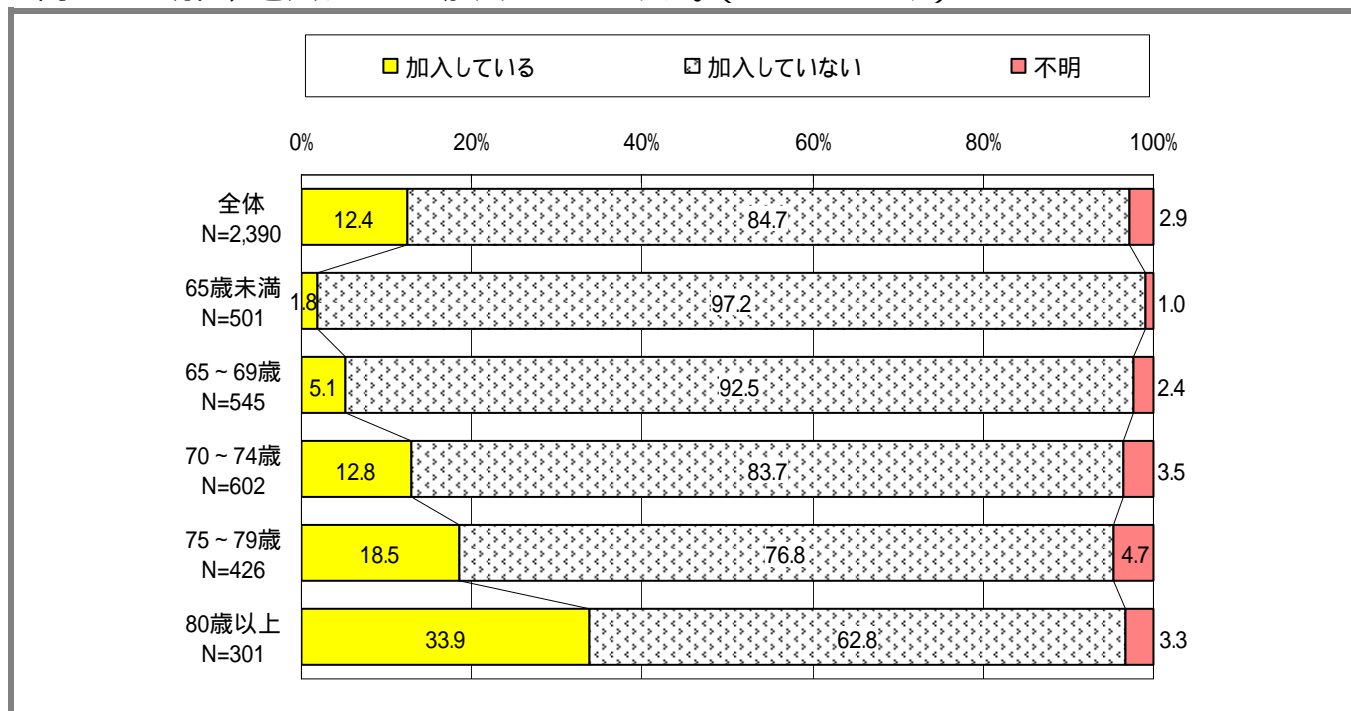


前問で「1」または「2」と回答した人に、個人の情報提供に関する考え方をたずねたところ、「最小限の情報（名前、年齢、身体の状態、家族の有無等）ならかまわない」と回答した人の割合が58.7%と最も高く、「必要な情報は積極的に提供したい」と回答した人の割合（21.9%）を大きく上回っている。

また、「個人の情報なので知られたくない」と回答した人の割合は7.0%であった。

．生きがいがづくりや社会参加の状況について

問2 1 現在、老人クラブに加入していますか。（ は1つだけ）

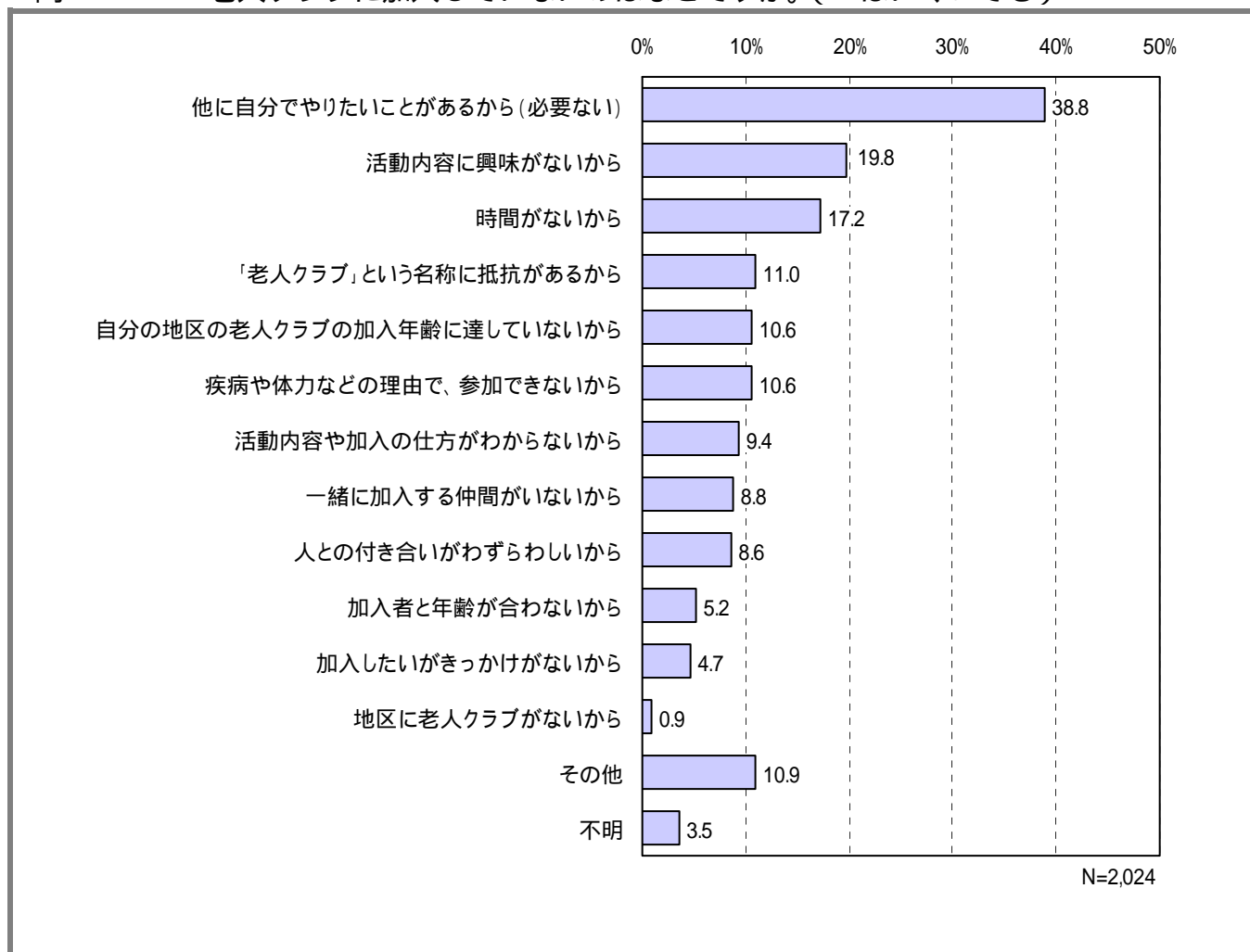


現在、老人クラブに「加入している」と回答した人の割合は全体の12.4%にとどまり、「加入していない」と回答した人の割合（84.7%）を大きく下回っている。

年齢階層別に見ると、年齢階層が低くなるにつれて「加入している」と回答した人の割合が低くなっている。

（問21で「2 加入していない」と答えた方へ）

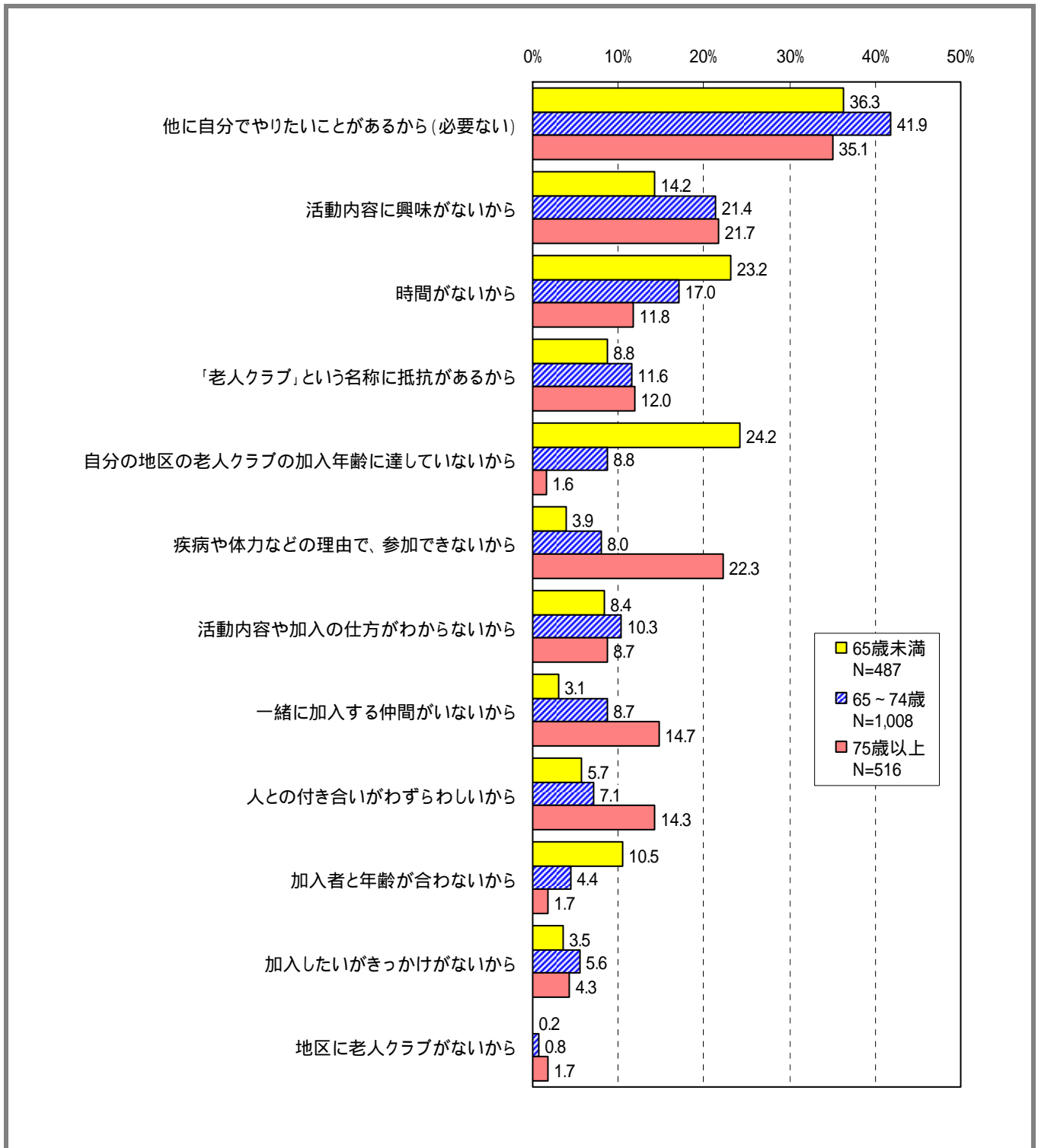
問21-1 老人クラブに加入していないのはなぜですか。（はいくつでも）



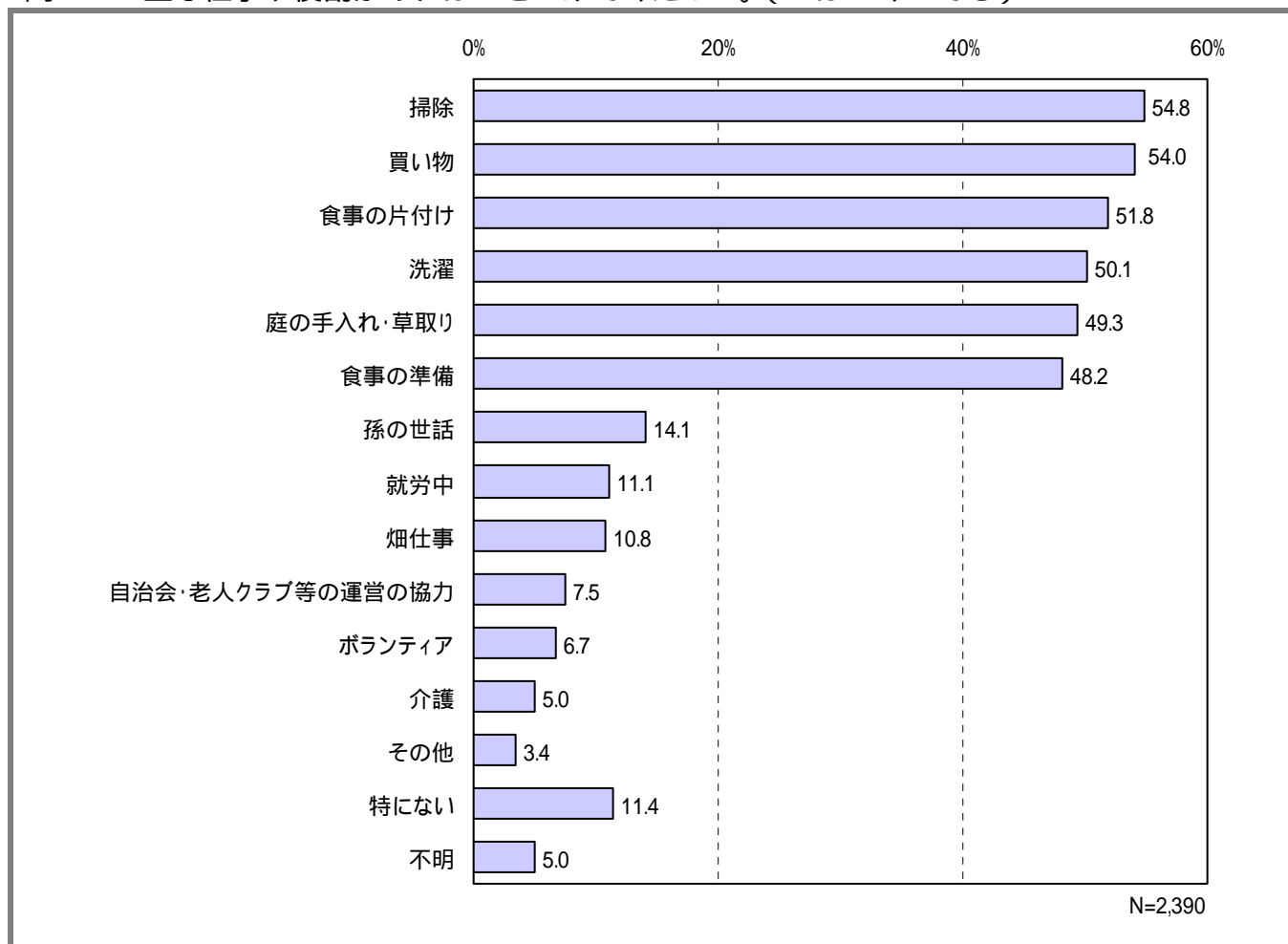
前問で老人クラブに「加入していない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「他に自分出やりたいことがある(必要ない)」という回答割合が38.8%と最も高く、以下、「活動内容に興味がないから」(19.8%)、「時間がないから」(17.2%)と続いている。

また、年齢階層別のクロス集計結果(次ページ参照)を見ると、65歳未満については「自分の地区の老人クラブの加入年齢に達していないから」という回答割合(24.2%)が高くなっている。

《年齢階層別クロス集計結果》



問2 2 主な仕事や役割があれば をつけてください。（はいいくつでも）



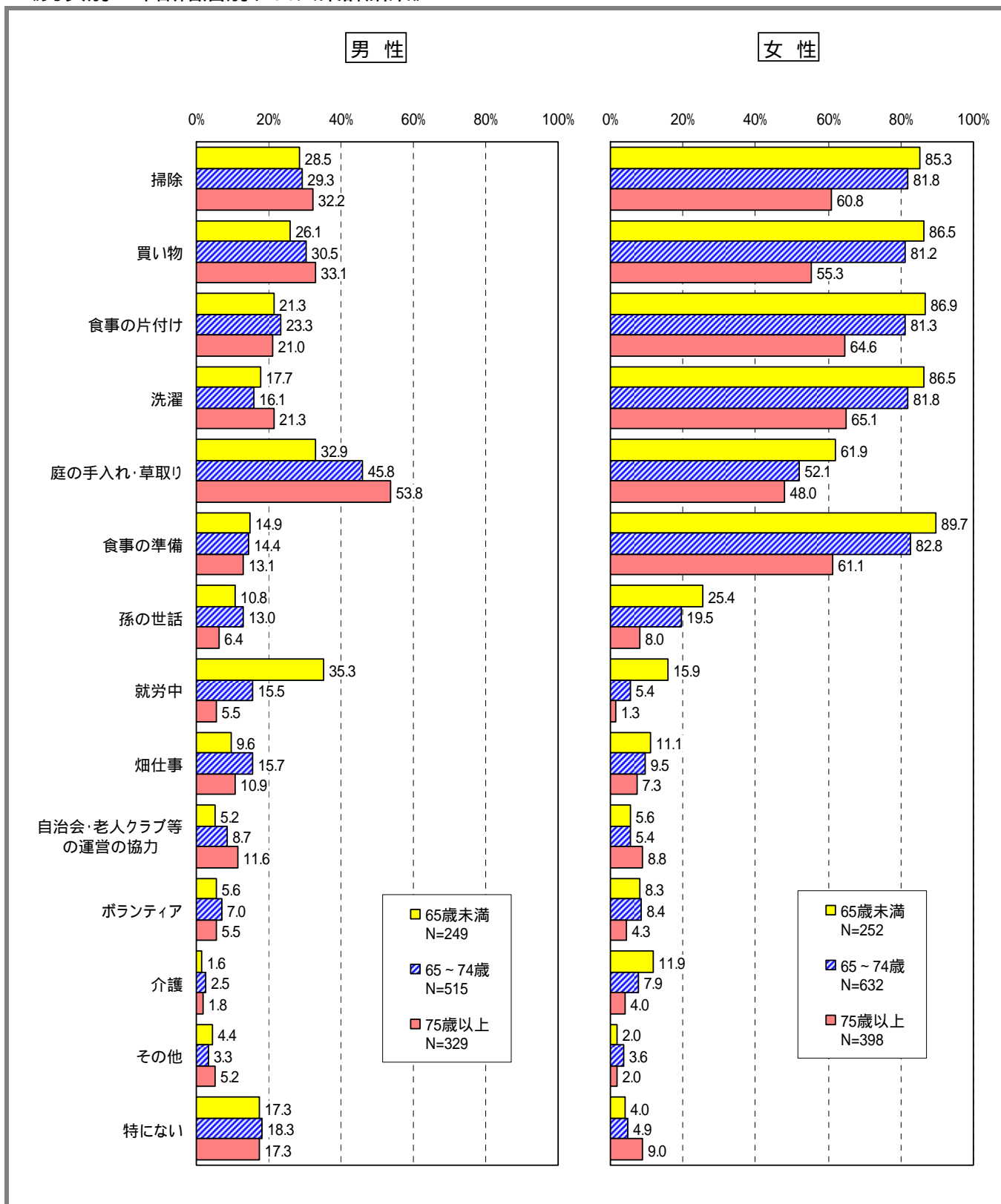
主な仕事や役割をたずねたところ、「掃除」(54.8%)、「買い物」(54.0%)、「食事の片づけ」(51.8%)、「洗濯」(50.1%)、「食事の準備」(48.2%)など家事や、「庭の手入れ・草取り」(49.3%)についてはほぼ半数の人が自分の役割と考えている様子がうかがえる。

男女別に見ると（次ページ参照）女性は「掃除」、「買い物」、「食事の片づけ」、「洗濯」、「食事の準備」など家事を役割としている人が多いこともあって、「就労中」を除くほとんどの項目で男性に比べ回答割合が高くなっている。

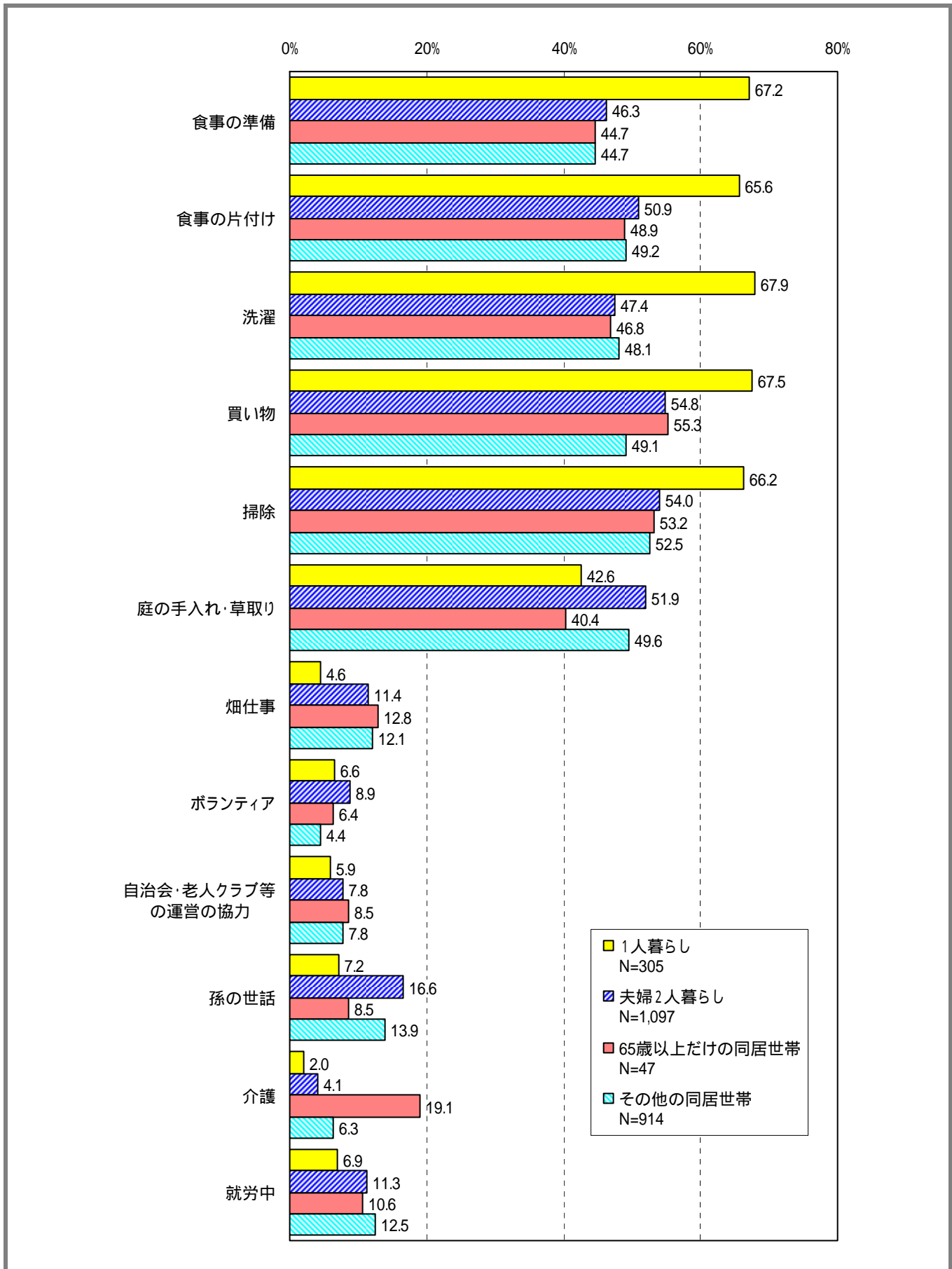
また、男性は「就労中」と「庭の手入れ・草取り」を除き年齢階層別の差異があまり見られないのに対し、女性では「75歳以上」になると、特に「掃除」、「買い物」等の家事についてそれまでの年齢階層に比べ、回答割合の低下が目立つ結果となっている。

なお、世帯状況別に見ると（次々ページ参照）当然のことながら、「1人暮らし」世帯では、他の世帯に比べ「掃除」、「買い物」等の家事の回答割合が高くなっている。

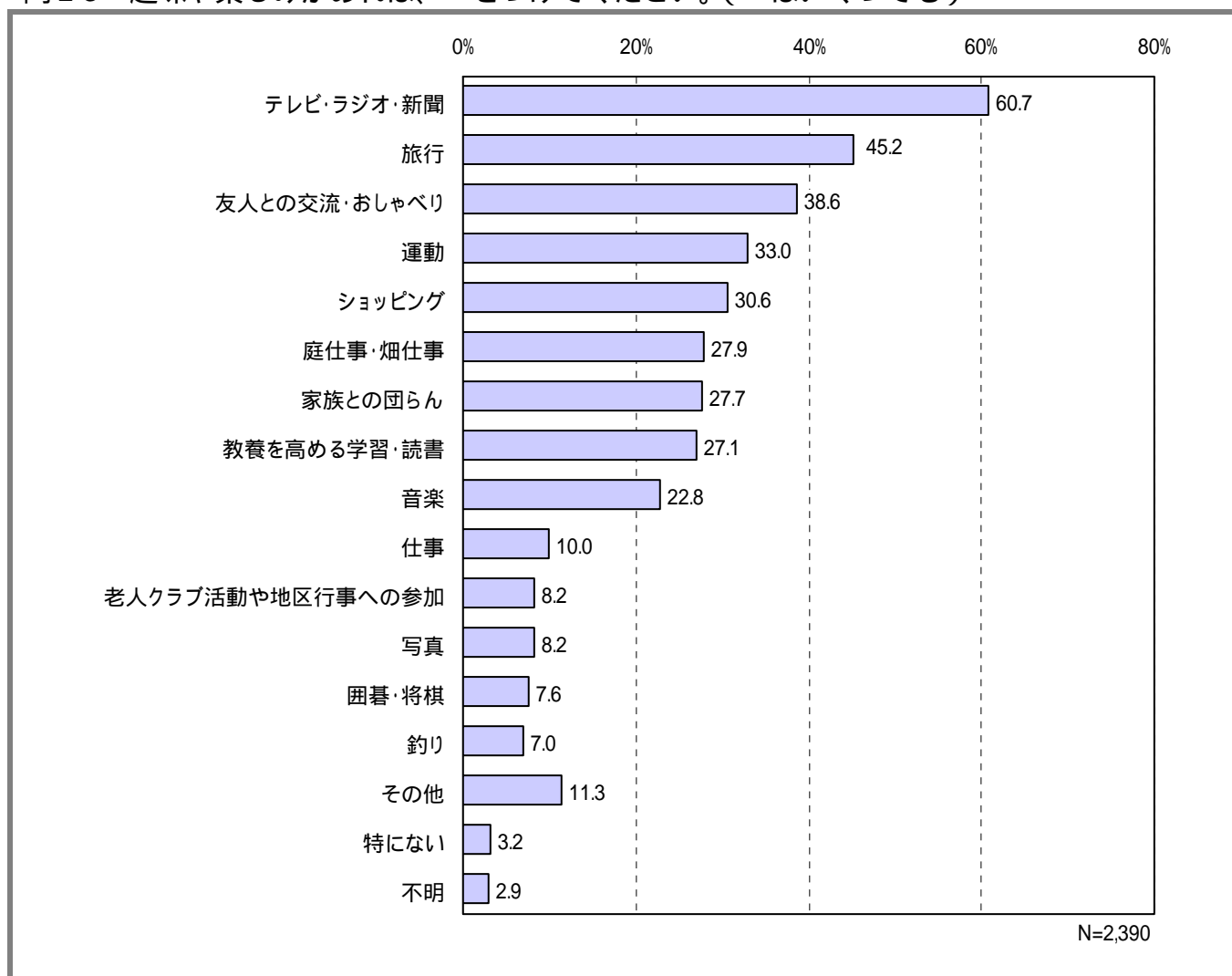
《男女別・年齢階層別クロス集計結果》



《世帯状況別クロス集計結果》



問23 趣味や楽しみがあれば、をつけてください。(はいくつでも)

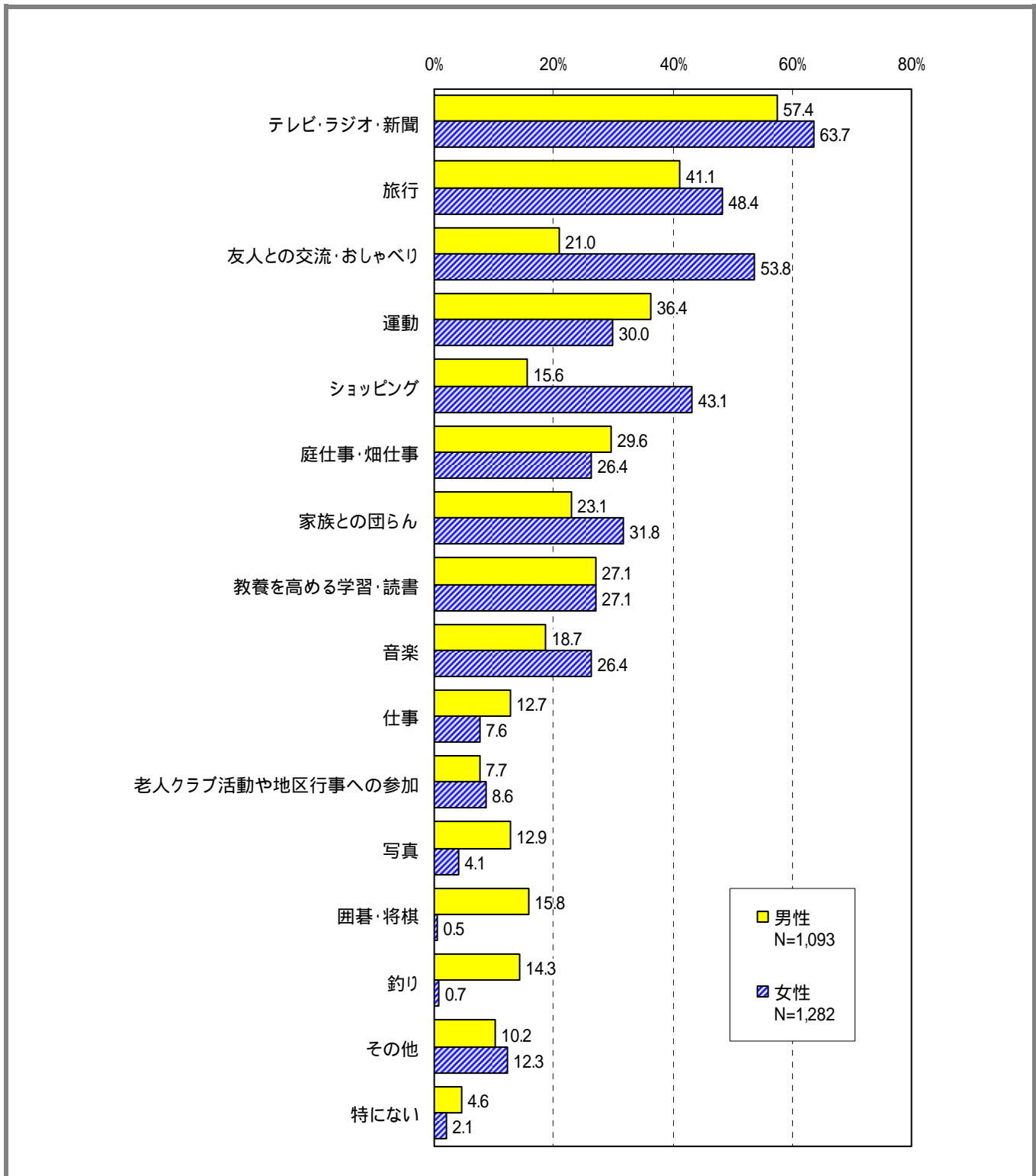


趣味や楽しみをたずねたところ、「テレビ・ラジオ・新聞」を選択した人の割合が60.7%と最も高く、以下、「旅行」(45.2%)、「友人との交流・おしゃべり」(38.6%)、「運動」(33.0%)、「ショッピング」(30.6%)、「庭仕事・畑仕事」(27.9%)、「家族との団らん」(27.7%)、「教養を高める学習・読書」(27.1%)、「音楽」(22.8%)と続いている。

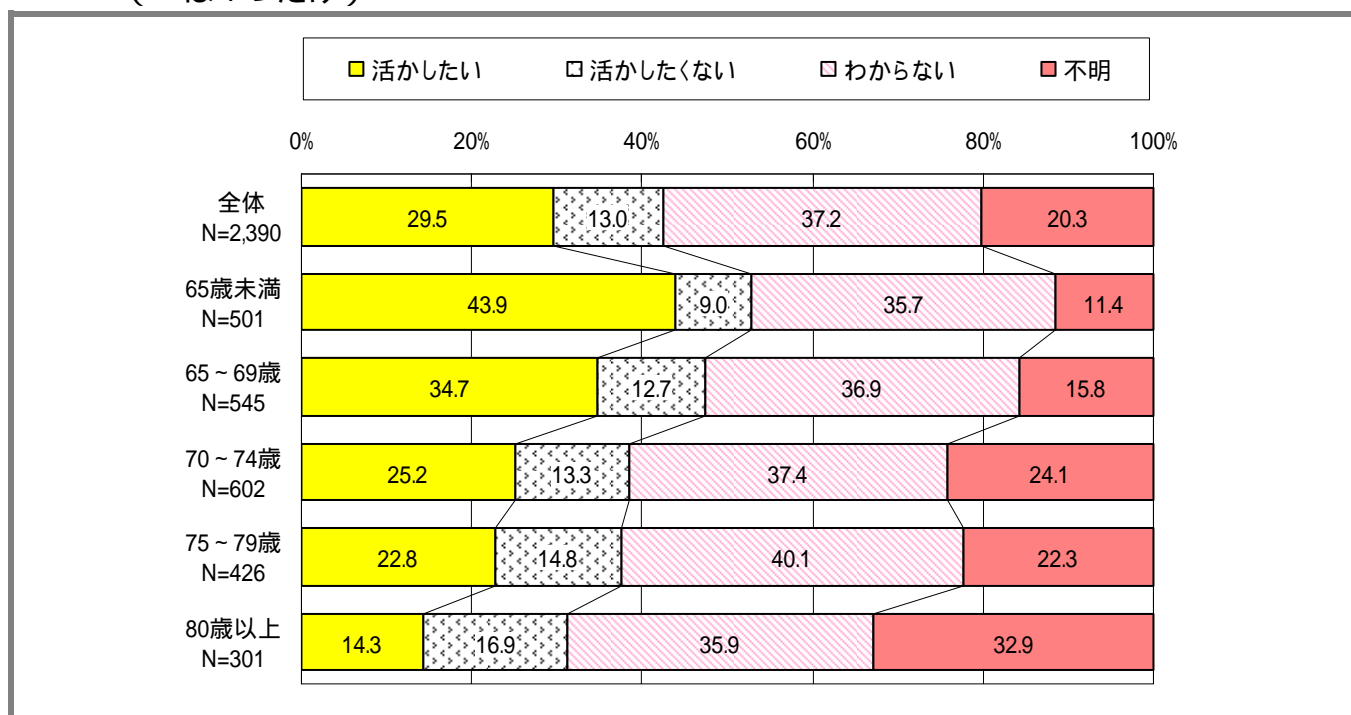
男女別に見ると(次ページ参照)男性に比べ女性の回答割合が特に高かったのは、「友人との交流・おしゃべり」と「ショッピング」で、逆に男性の回答割合が特に高かったのは、「写真」、「囲碁・将棋」、「釣り」といった項目であった。

「特にない」と回答した人は、男性では4.6%、女性では2.1%であった。

《男女別クロス集計結果》



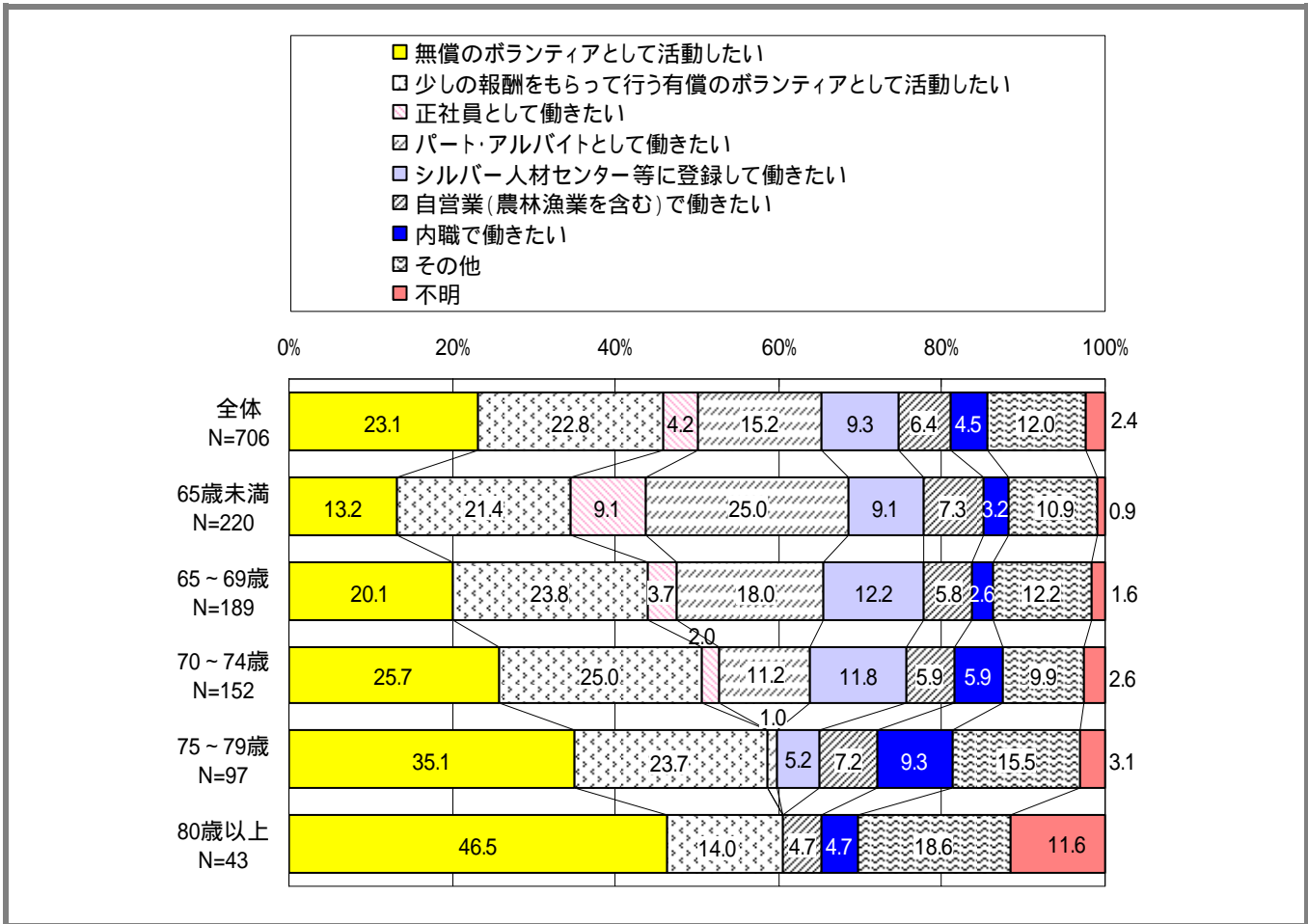
問24 あなたは、これまで培ってきた経験や技術を活かしたいと思いますか。
（ は1つだけ）



これまで培ってきた経験や技術を活かしたいと思うかどうかたずねたところ、「活かしたい」と回答した人の割合は全体の29.5%で、年齢階層が低くなるにつれて、その回答割合が高くなっている。

（問24で「1 活かしたい」と答えた方へ）

問24-1 どのようなかたちで活かしたいと思いますか。（ は1つだけ）

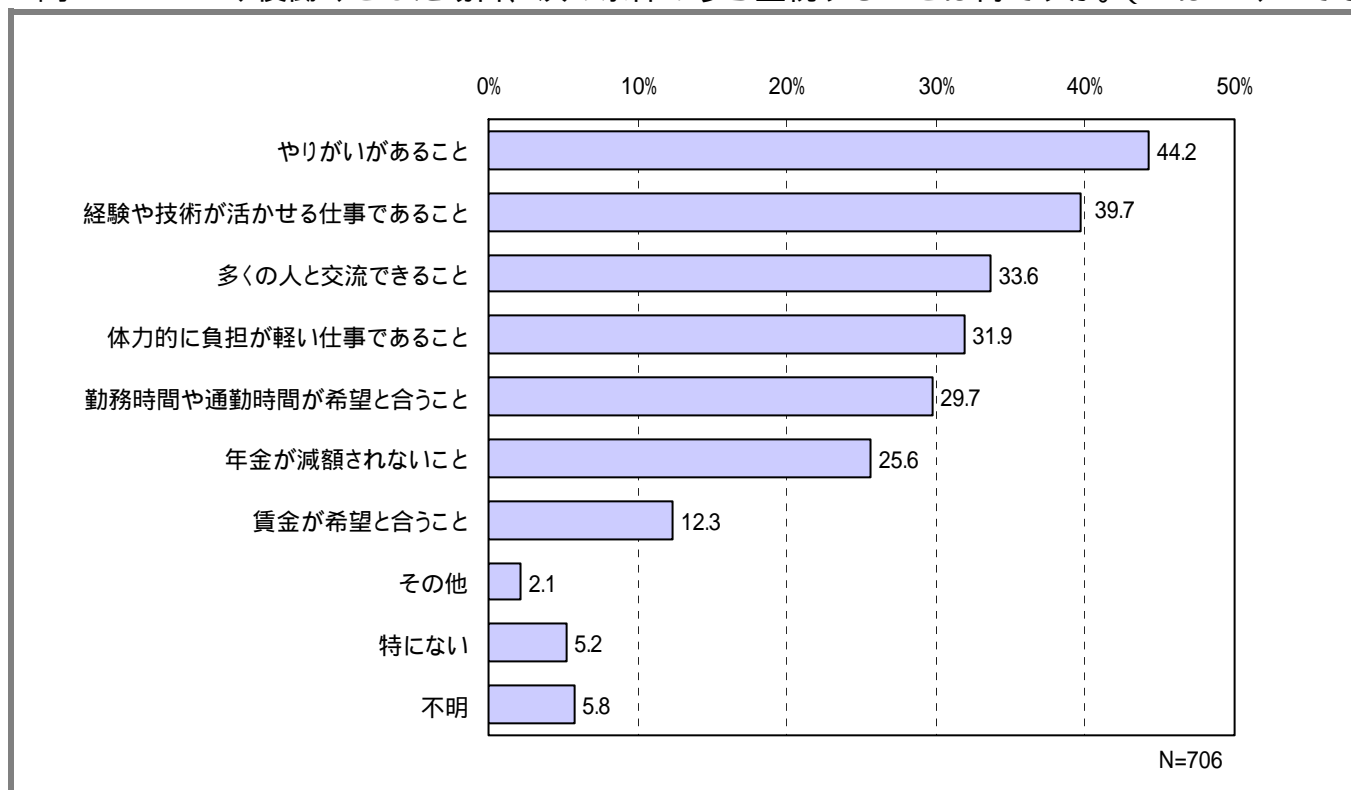


前問で「活かしたい」と回答した人にどのようなかたちで活かしたいと思うかたずねたところ、「無償のボランティアとして活動したい」と回答した人の割合が全体の23.1%と最も高く、わずかの差で「少しの報酬をもらって行う有償のボランティアとして活動したい」(22.8%)が続いている。

年齢階層別に見ると、「無償のボランティアとして活動したい」と回答した人の割合は、年齢階層が高くなるにつれて高くなっており、「65歳未満」では「無償のボランティアとして活動したい」と回答した人の割合(13.2%)よりも「パート・アルバイトとして働きたい」(25.0%)や「少しの報酬をもらって行う有償のボランティアとして活動したい」(21.4%)と回答した人の割合の方が高くなっている。

（問24で「1 活かしたい」と答えた方へ）

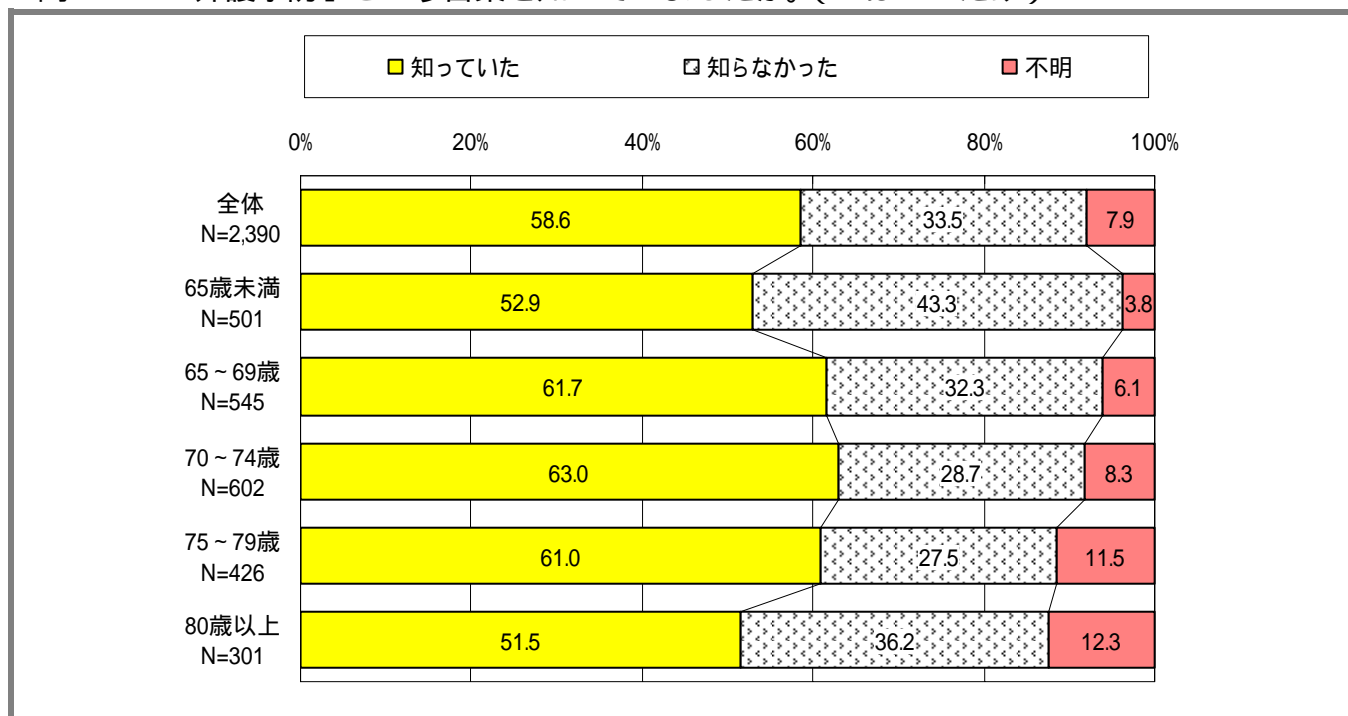
問24-2 今後働くとした場合、次の条件のうち重視することは何ですか。（はいいくつでも）



前々問で「活かしたい」と回答した人に、今後働くとした場合に重視する条件をたずねたところ、「やりがいがあること」と回答した人の割合が44.2%と最も高く、以下、「経験や技術が活かせる仕事であること」(39.7%)、「多くの人と交流できること」(33.6%)、「体力的に負担が軽い仕事であること」(31.9%)、「勤務時間や通勤時間が希望と合うこと」(29.7%)と続いている。

・介護予防について

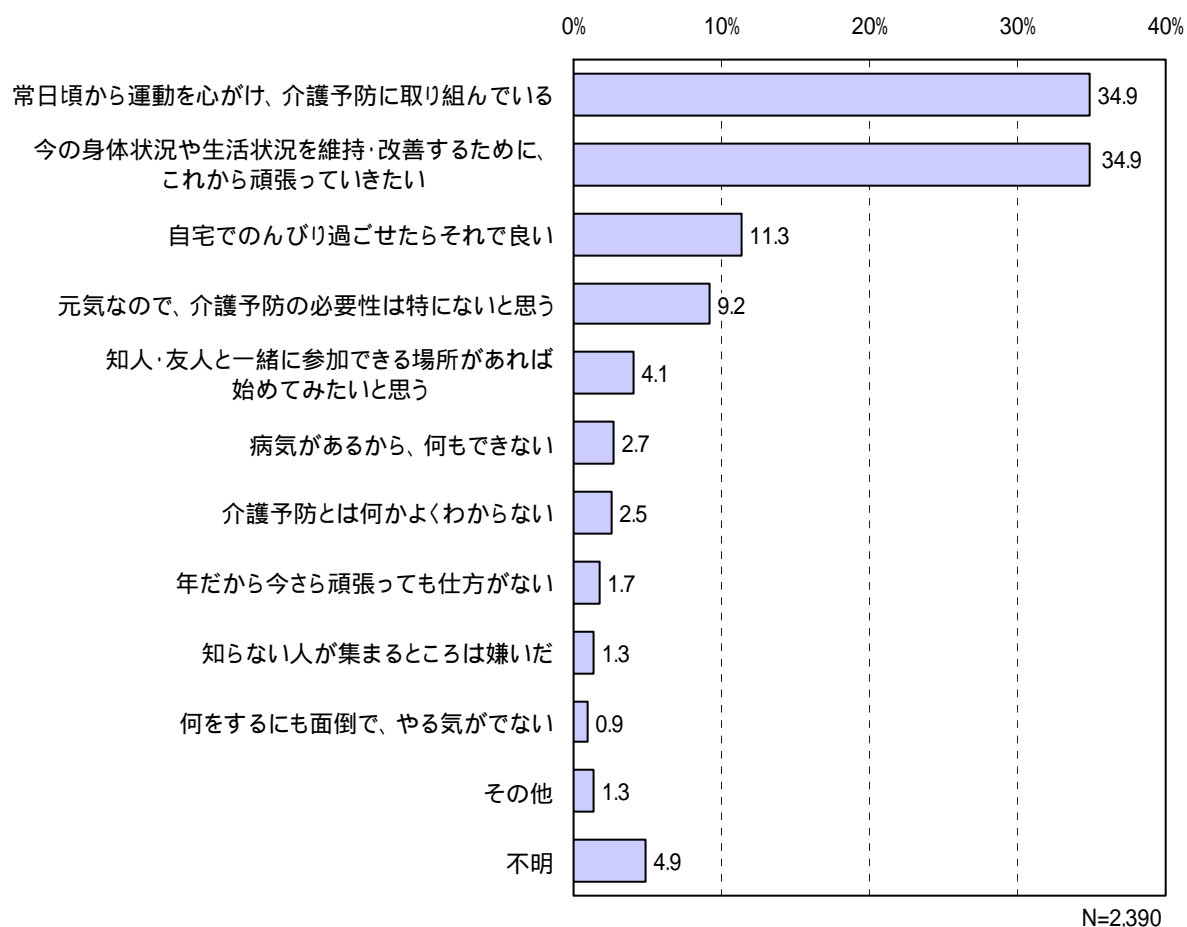
問25 「介護予防」という言葉を知っていましたか。（は1つだけ）



「介護予防」という言葉を「知っていた」と回答した人の割合は全体の58.6%で、「知らなかった」と回答した人の割合（33.5%）よりも25.1ポイント上回っている。

年齢階層別に見ると、「65歳未満」の認知度が、65歳以上に比べやや低くなっている。

問26 介護予防について、今のあなたに一番近い気持ちはどれですか。（は1つだけ）

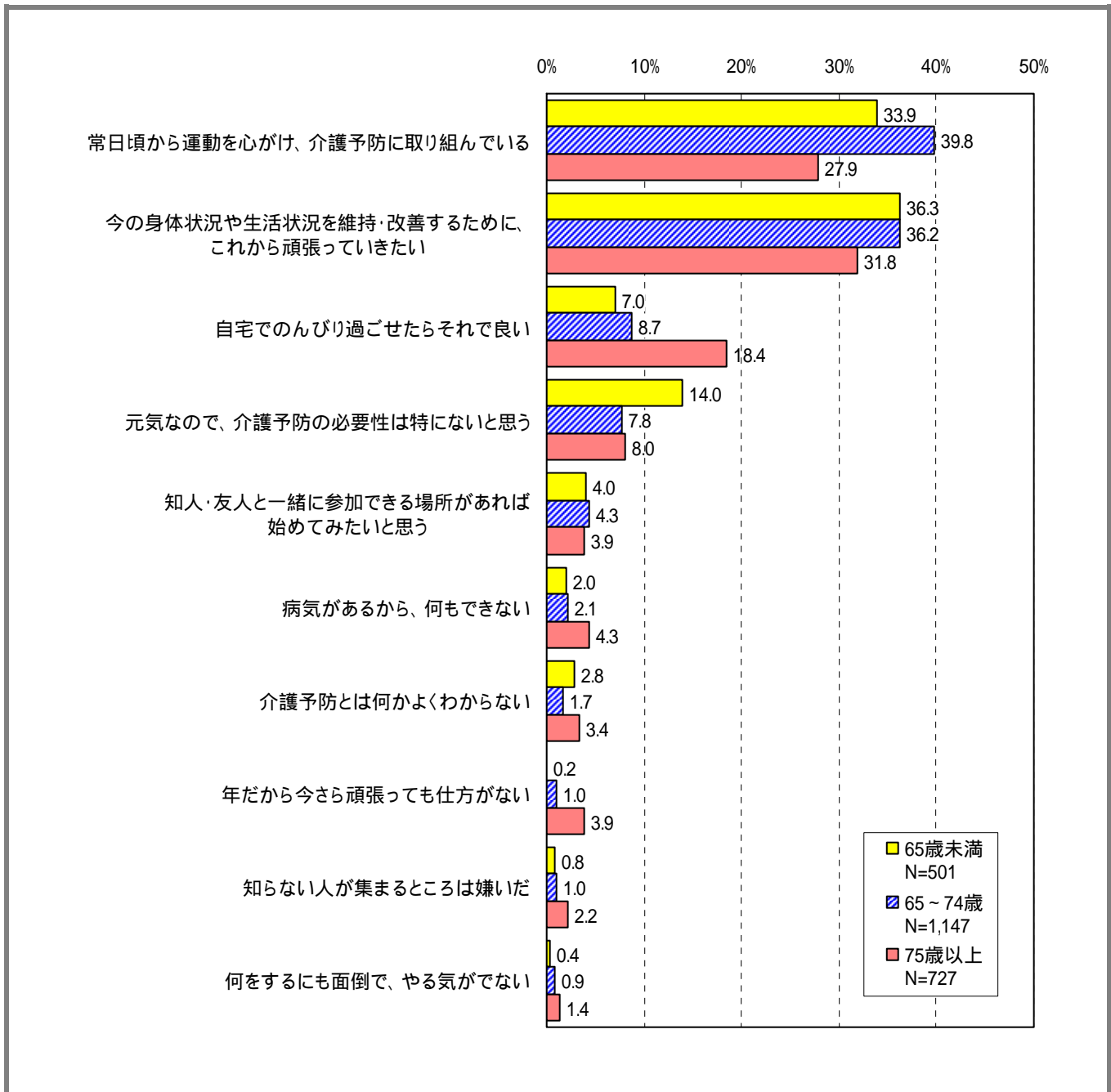


本設問は本来単数回答を想定していたが、実際には複数回答が数多く見られたため、集計処理に当たっては、複数回答扱いとする。

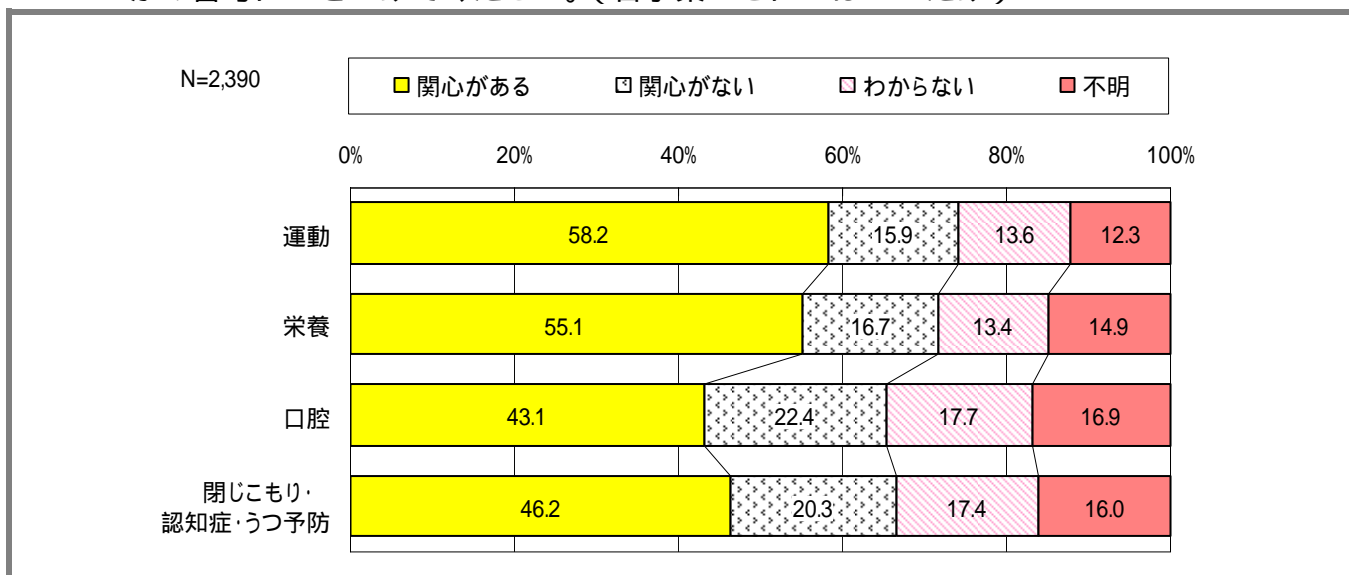
介護予防についての考えをたずねたところ、「常日頃から運動を心がけ、介護予防に取り組んでいる」と「今の身体状況や生活状況を維持・改善するために、これから頑張っていきたい」を選択した人がともに 34.9%と最も多く、介護予防に前向きな考えの方が上位を占めている。

一方で、「元気なので、介護予防の必要性は特にないと思う」と回答した人も全体の 9.2%を占め、特に 65 歳未満では 14.0%と比較的高い割合となっている（次ページ参照）ことから、元気なうちからの介護予防の必要性を啓発する必要がある。

《年齢階層別クロス集計結果》



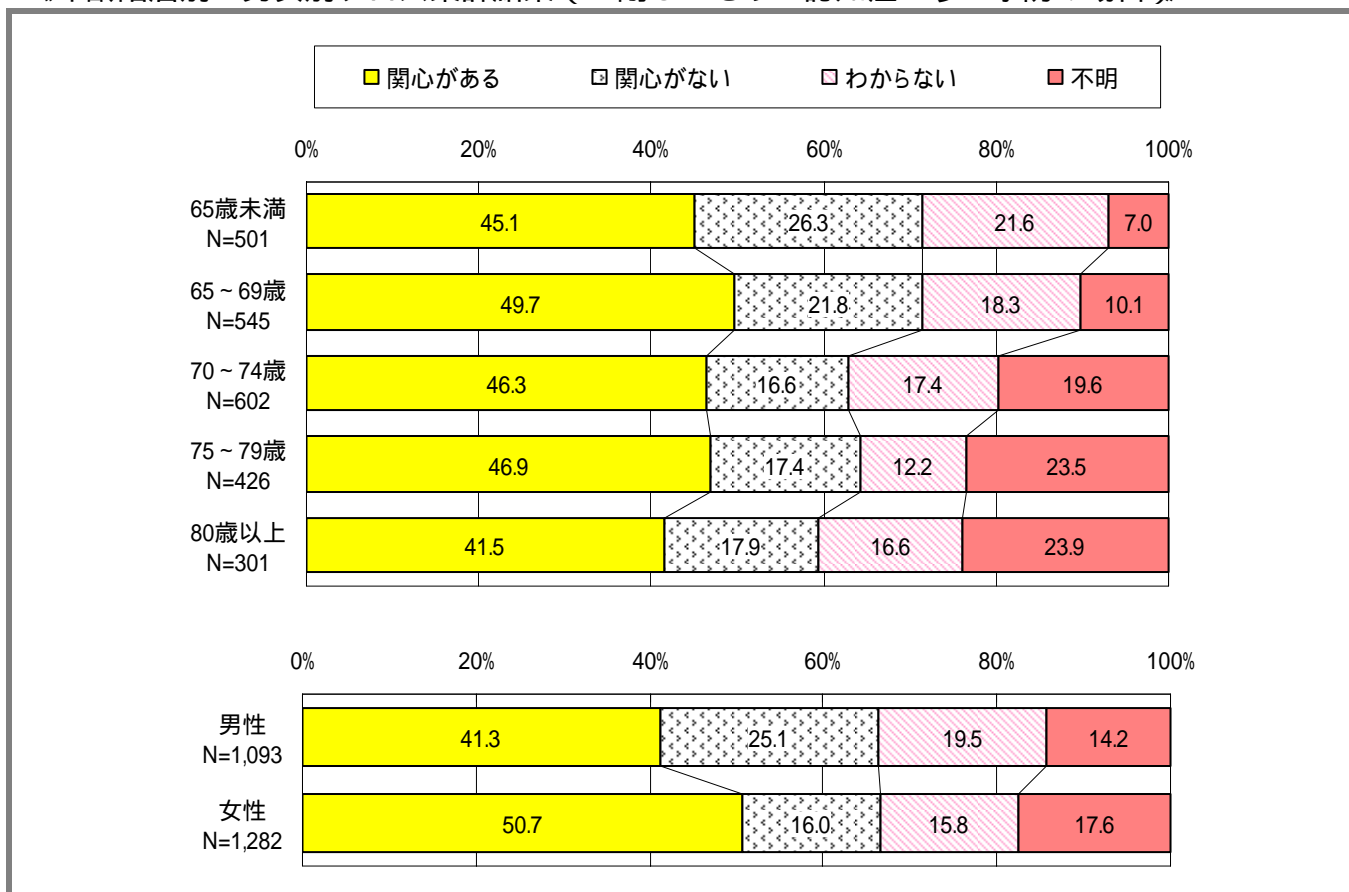
問27 介護予防事業への参加について関心がありますか。～の各事業について、いずれかの番号にをつけてください。（各事業ごとに は1つだけ）



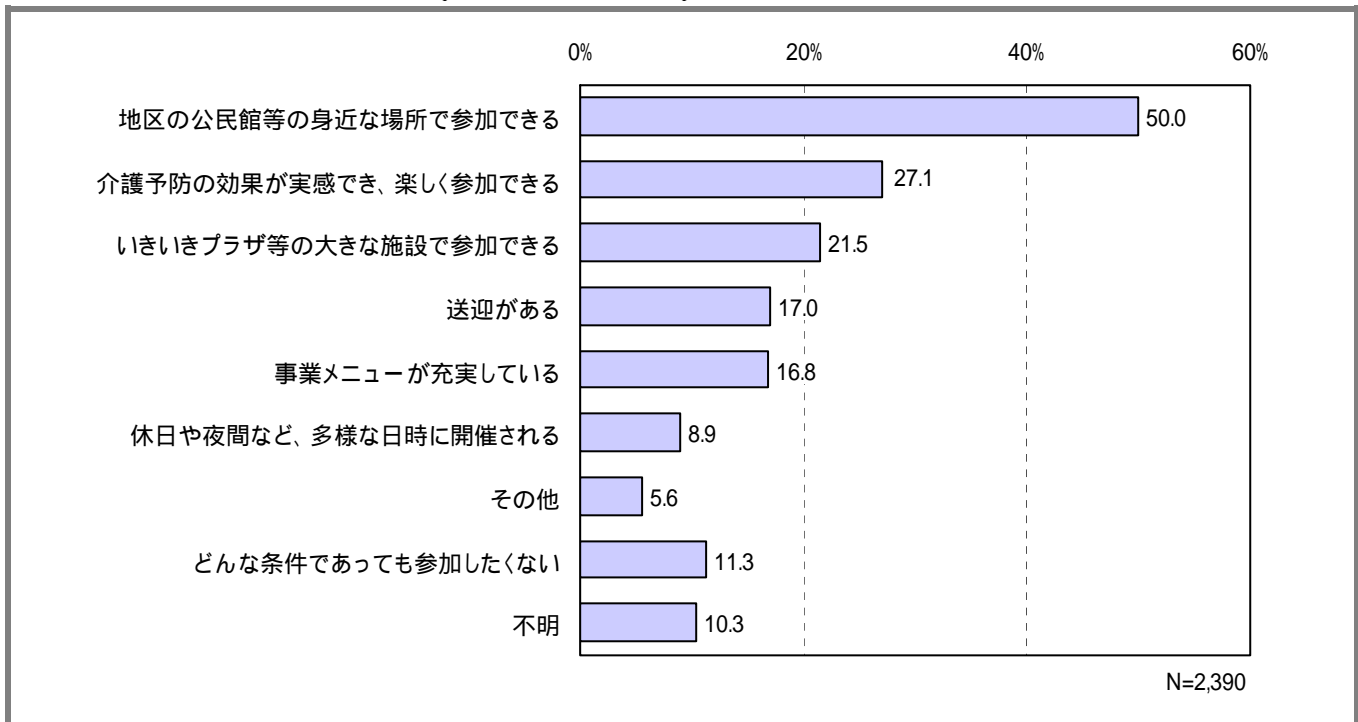
介護予防事業のうち、「関心がある」と回答した人の割合が高かったのは、「運動」(58.2%)と「栄養」(55.1%)で、逆に最も低かったのは「口腔」(43.1%)であった。

介護予防に「関心がある」と回答した割合が高いのは、年齢階層別では「65～69歳」、男女別では「女性」という結果になっている(4事業とも同じ傾向を示している)。

《年齢階層別・男女別クロス集計結果(閉じこもり・認知症・うつ予防の場合)》

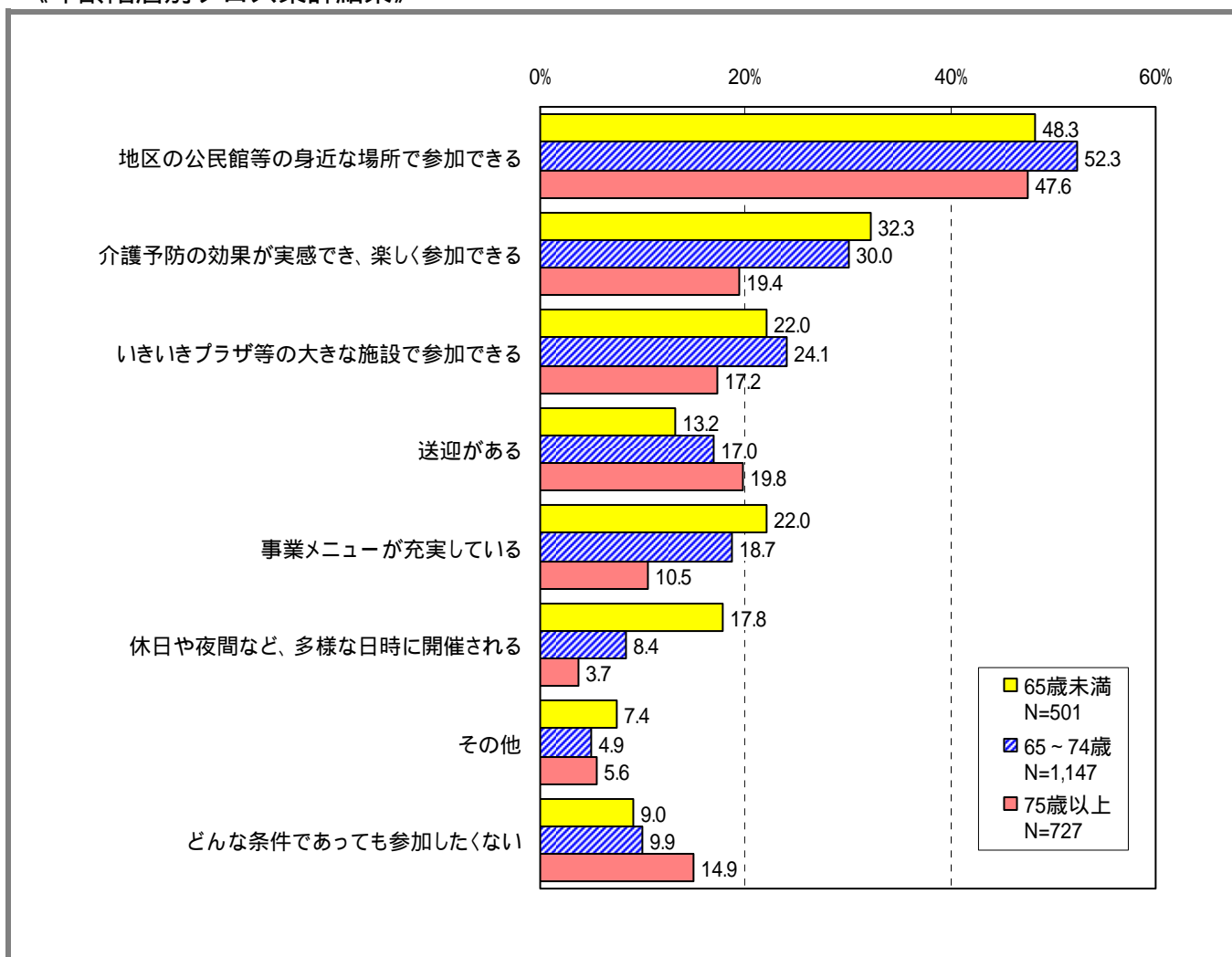


問28 市で健康づくりや介護予防のための教室を行う場合、どのような条件や環境があれば、参加しやすいですか。（はいいくつでも）

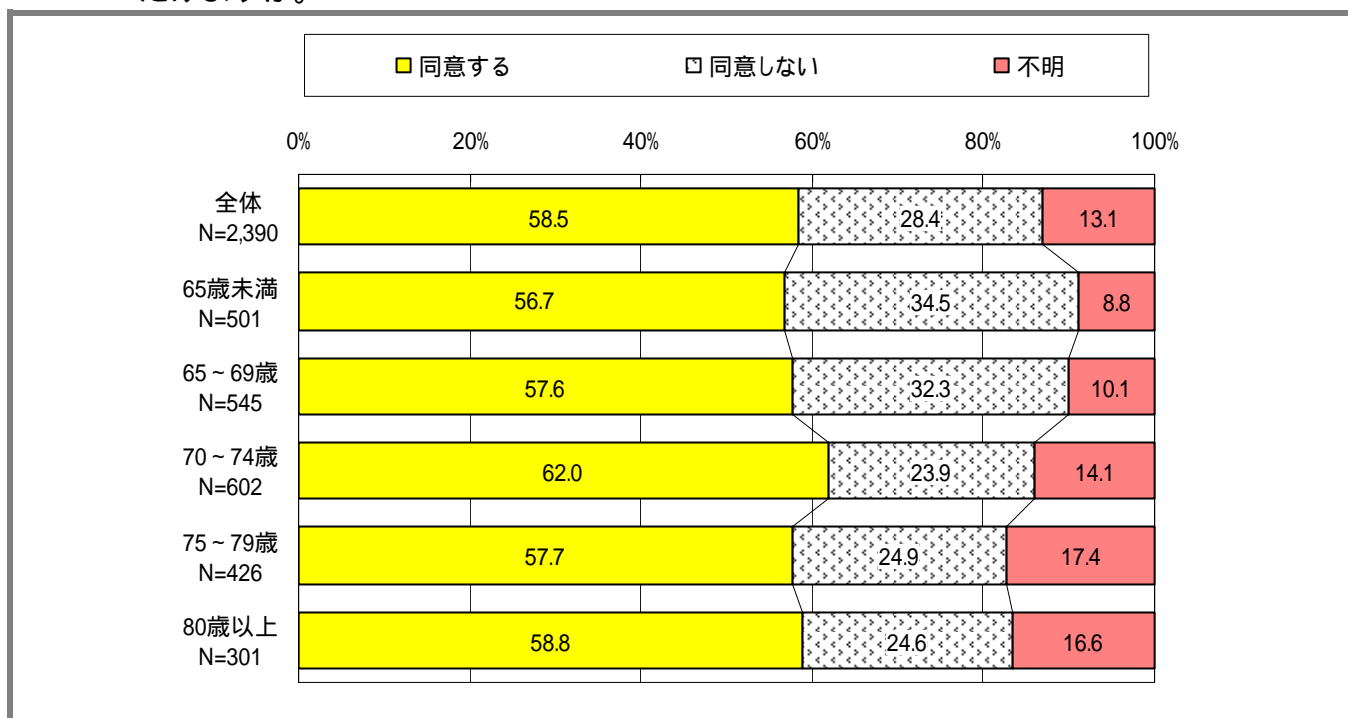


市で健康づくりや介護予防のための教室を行う場合、どのような条件や環境があれば、参加しやすいかをたずねたところ、「地区の公民館等の身近な場所で参加できる」と回答した人の割合が50.0%と最も高く、「介護予防の効果が実感でき、楽しく参加できる」が27.1%でそれに続いている。

《年齢階層別クロス集計結果》



問29 この調査票内容および介護予防健診結果について、市が委託している地域包括支援センター（高齢者の方々を介護・福祉・健康の様々な面から総合的に支援する介護予防の相談機関）へ情報提供をすることがありますが、このことについて同意していただけますか。



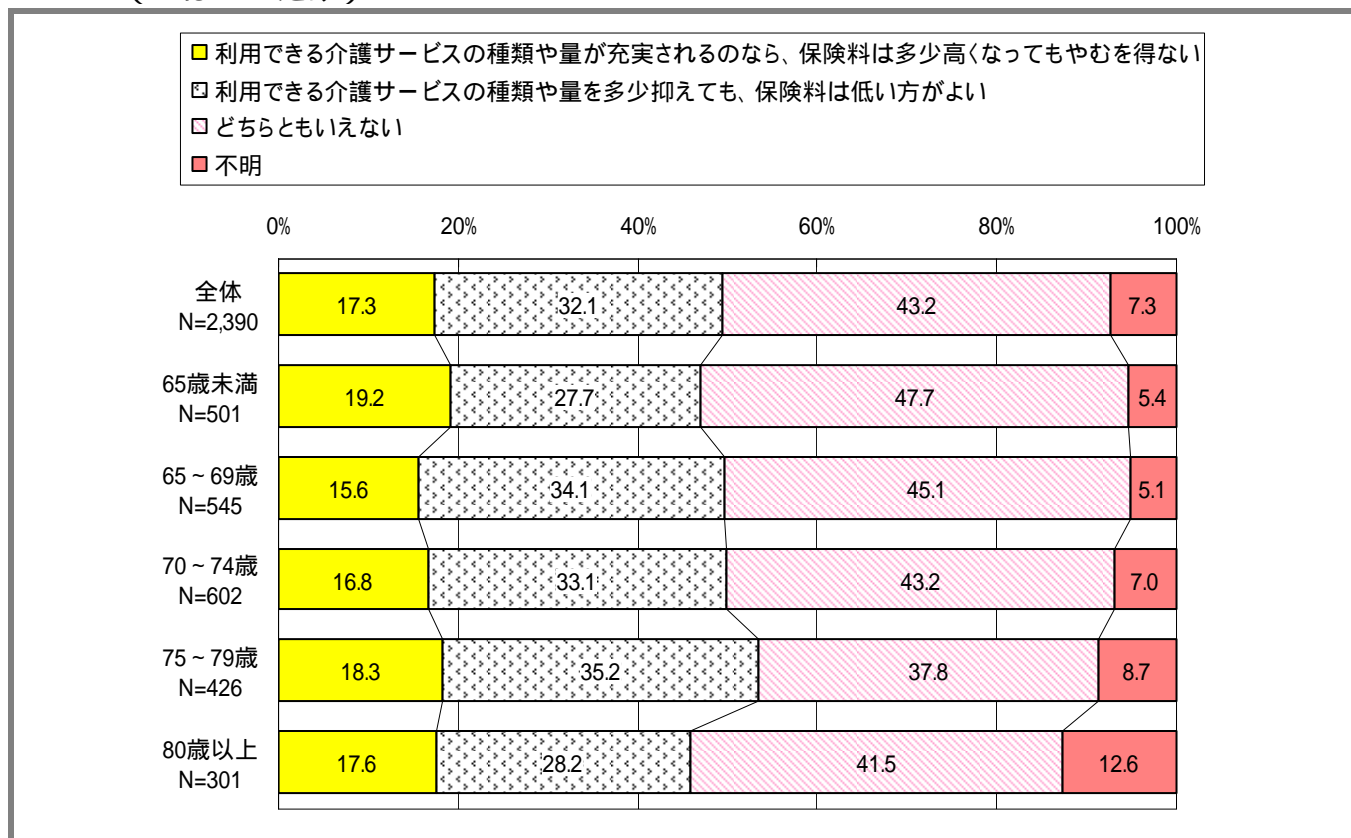
市が委託している地域包括支援センターへ、この調査票内容および介護予防健診結果の情報を提供することについて同意いただけるかどうかたずねたところ、「同意する」と回答した人の割合は全体の58.5%で、「同意しない」と回答した人の割合（28.4%）を30.1ポイント上回っている。

・介護保険制度及び介護に関する希望について

問30 介護保険制度では、介護サービスを利用する人が増えたり、利用できる介護サービスの種類や量が充実すれば、介護保険料が高くなることになります。

介護保険料と介護サービスのあり方について、どのようにお考えですか。

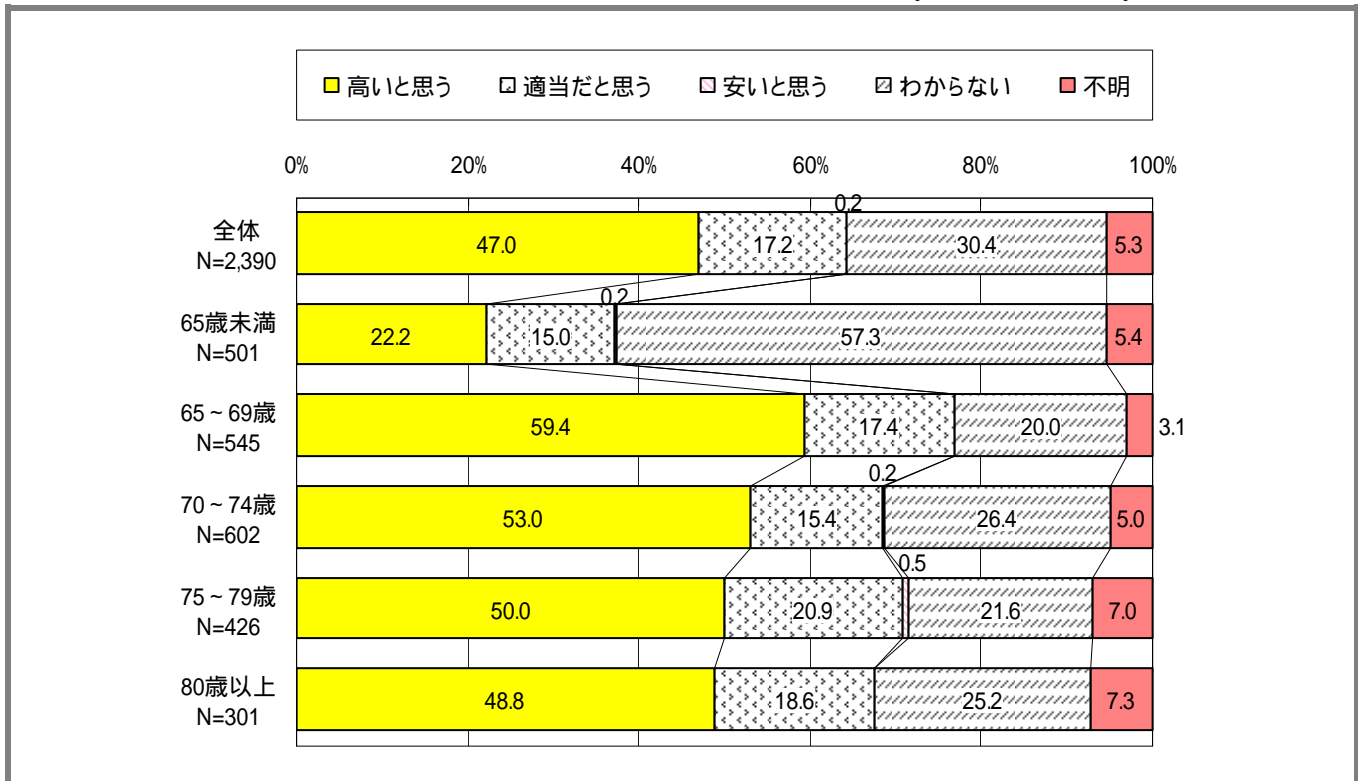
（ は1つだけ）



介護保険の給付と負担の関係について「利用できる介護サービスの種類や量が充実されるのなら、保険料は多少高くなってやむを得ない」と考えるか、「利用できる介護サービスの種類や量を多少抑えても、保険料は低い方がよい」と考えるかをたずねたところ、前者の回答割合17.3%に対し後者の回答割合は32.1%と、「保険料は低い方がよい」という考え方がかなり多くなっている。

ただし、「どちらともいえない」という回答が全体の43.2%と最も高い割合を占めており、それぞれの置かれた状況によって、結論が異なる可能性も大きいと思われる。

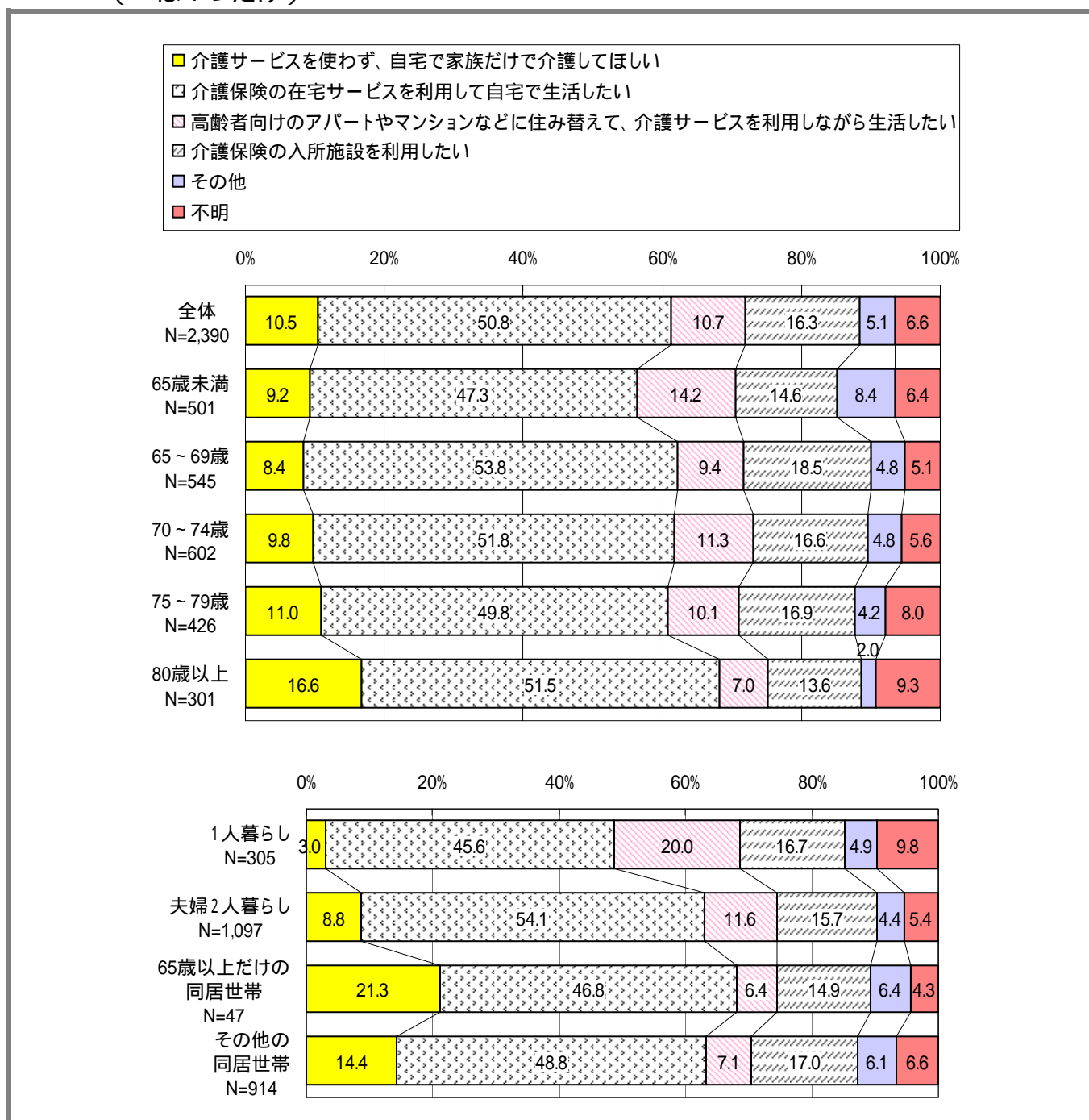
問3 1 ご自分の介護保険料について、どのように思いますか（ は1つだけ）



自分の介護保険料については、「高いと思う」と回答した人が全体の 47.0%を占め、「適当だと思う」という回答割合（17.2%）を大きく上回っている。

65歳未満については「わからない」と回答した人の割合が高くなっているが、これは第2号被保険者のため、自分の保険料額を知らない方が多いことも影響していると思われる。

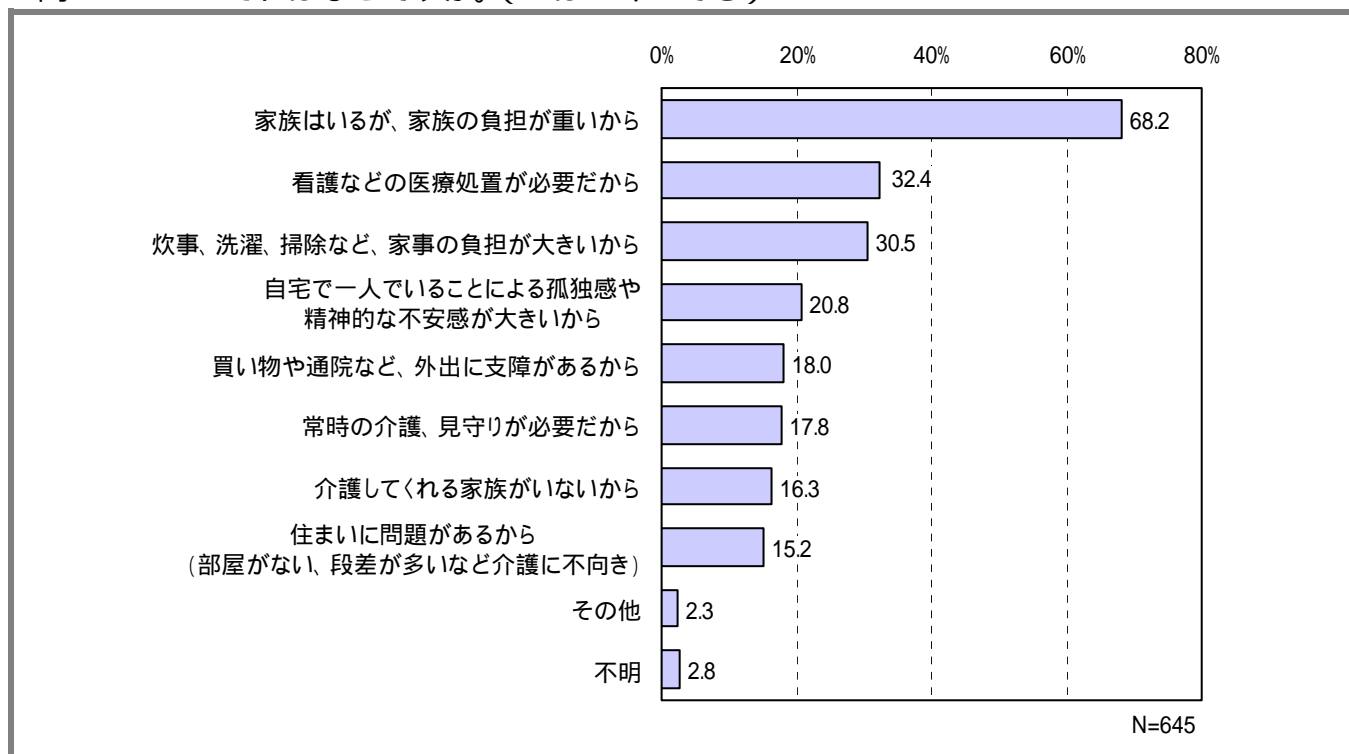
問3 2 将来、介護が必要になったら、どのように介護してほしいと思いますか。
（ は1つだけ）



将来、介護が必要になったら、どのように介護してほしいと思うかたずねたところ、「介護保険の在宅サービスを利用して自宅で生活したい」と回答した人が全体の50.8%と最も多くなっている。

「高齢者向けのアパートやマンションなどに住み替えて、介護サービスを利用しながら生活したい」という比較的新しい介護スタイルについては、年齢階層別に見ると「65歳未満」、世帯状況別に見ると「1人暮らし」で、やや回答割合が高くなっている。

（問32で「3」または「4」を答えた方へ）
 問32-1 それはなぜですか。（はいくつでも）

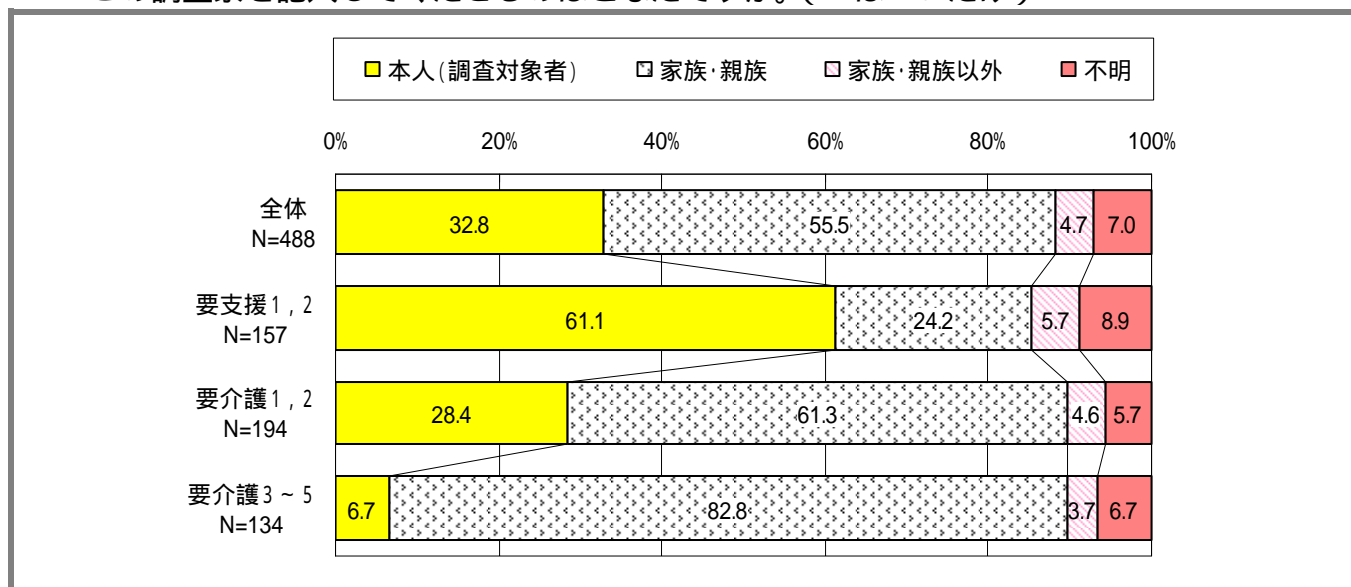


前問で在宅以外での介護を希望した人にその理由をたずねたところ、「家族はいるが、家族の負担が重いから」が68.2%と最も多く、以下、「看護などの医療処置が必要だから」が32.4%、「炊事、洗濯、掃除など、家事の負担が大きいから」が30.5%でそれに続いている。

第2章 居宅サービス利用者実態調査

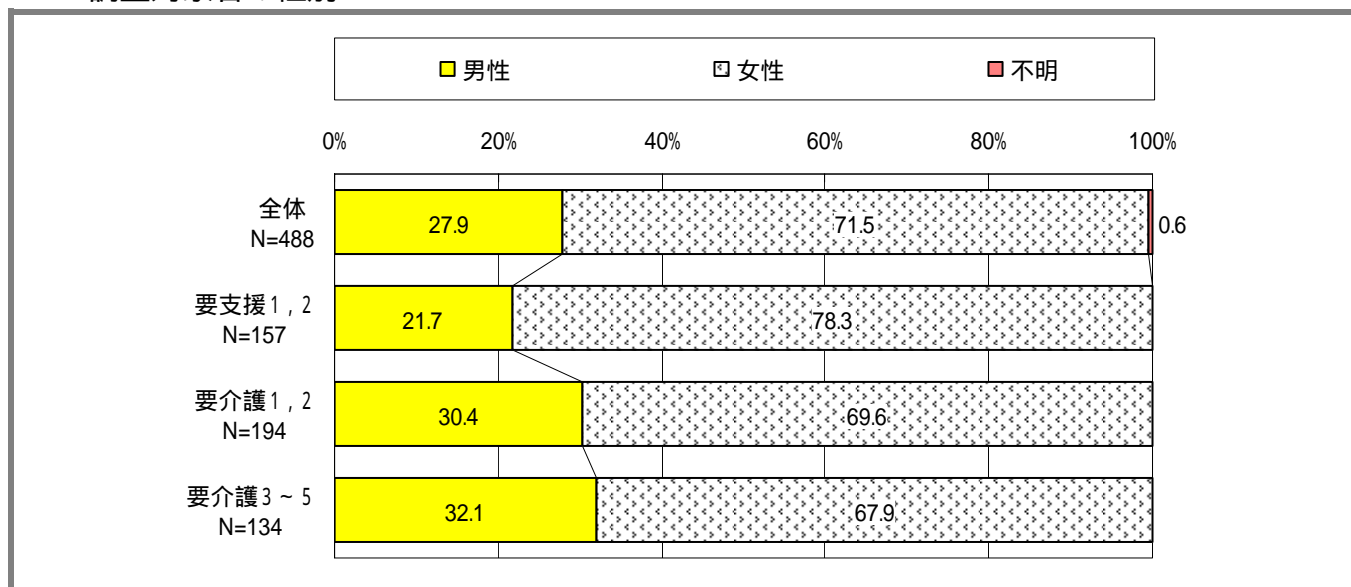
・調査対象者の基本属性等について

この調査票を記入してくださるのはどなたですか。（ は1つだけ）



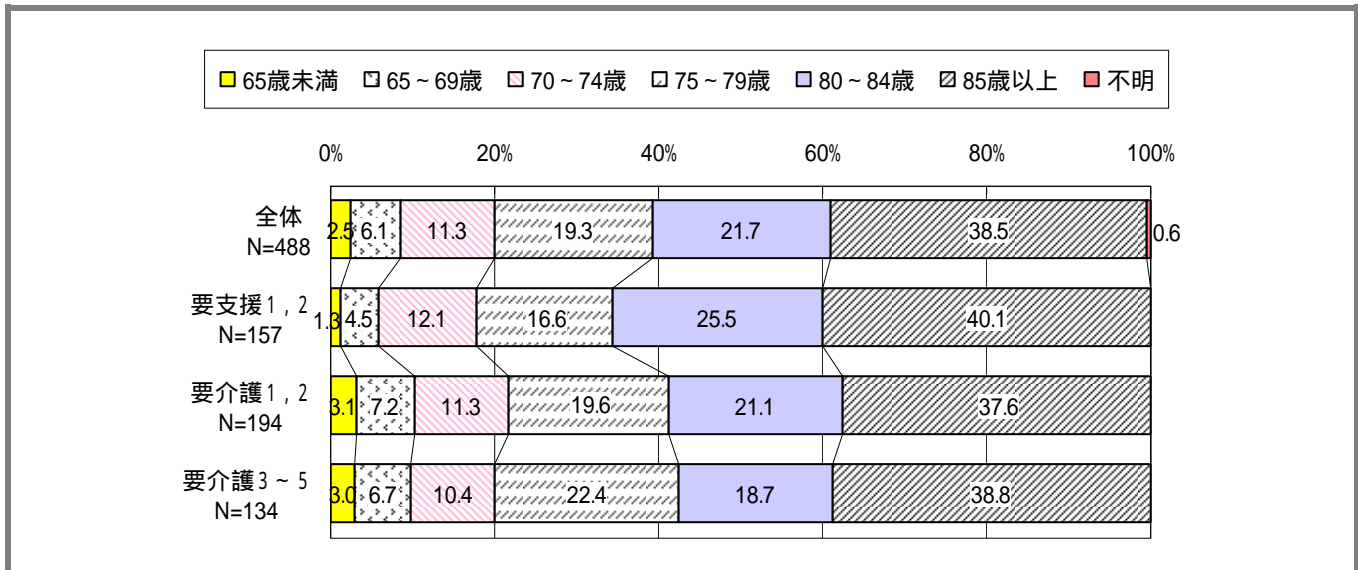
「本人」による記述は全体の32.8%で、要介護度が高くなるにつれてその割合が低くなっており、「要介護度3～5」では「本人」による記入割合はわずか6.7%であった。

調査対象者の性別



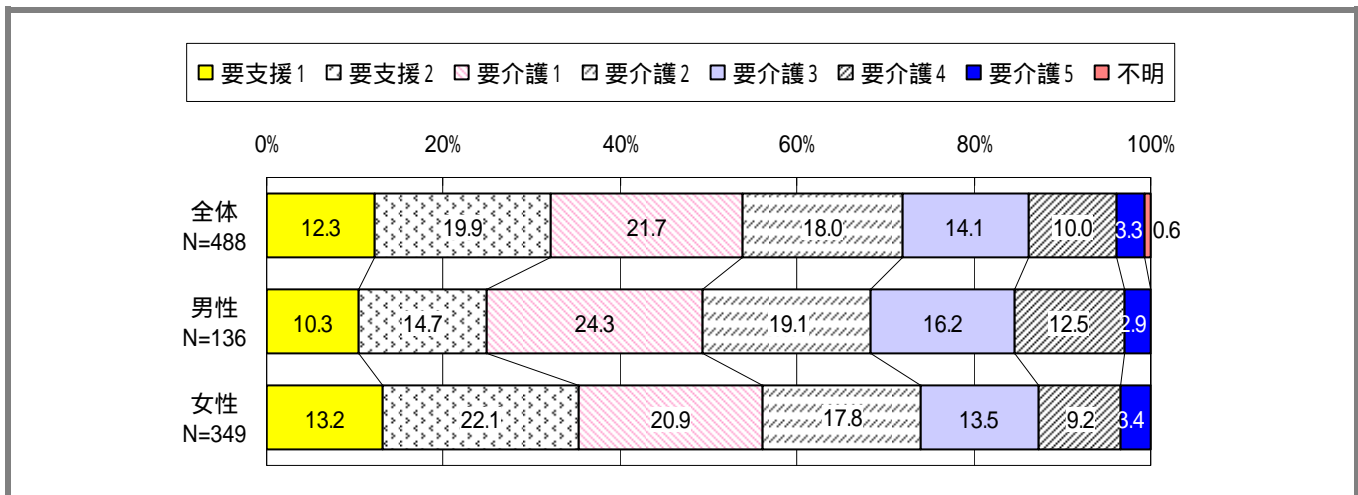
対象者の性別については、男性が27.9%、女性が71.5%となっており、ほぼ標本構成（男性：女性＝28.8%：71.2%）と同じ割合となっている。

調査対象者の年齢



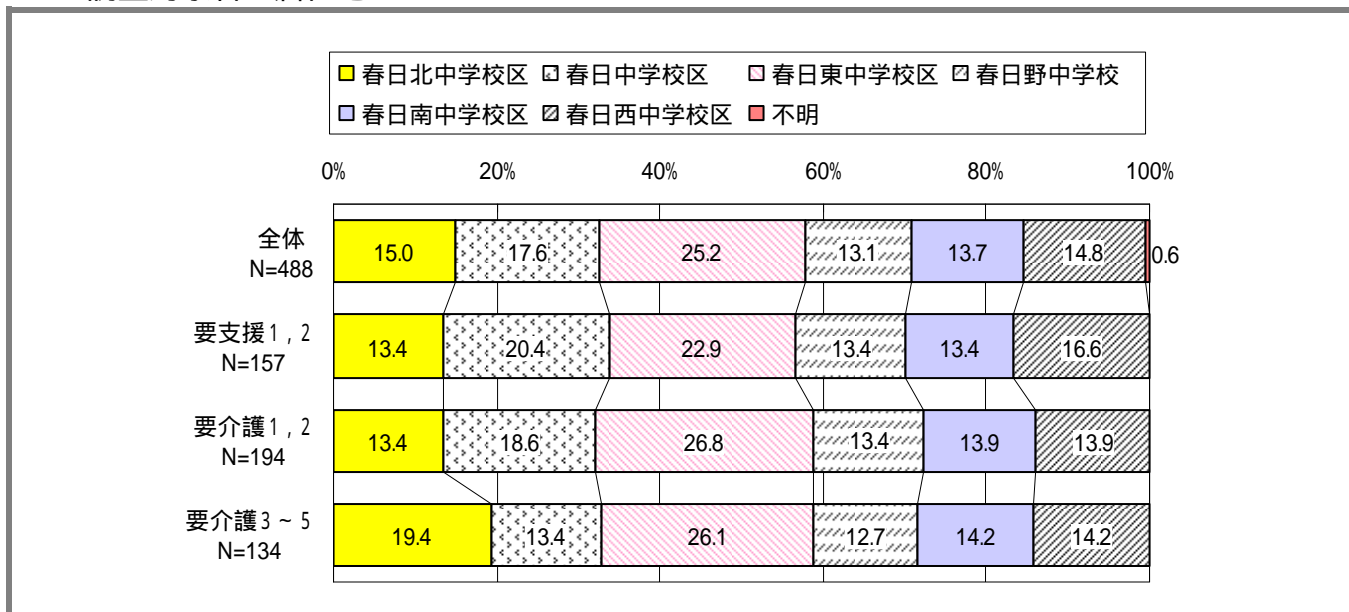
調査対象者の年齢構成は上のおりで、「85歳以上」の割合が最も高くなっている。

調査対象者の要介護度



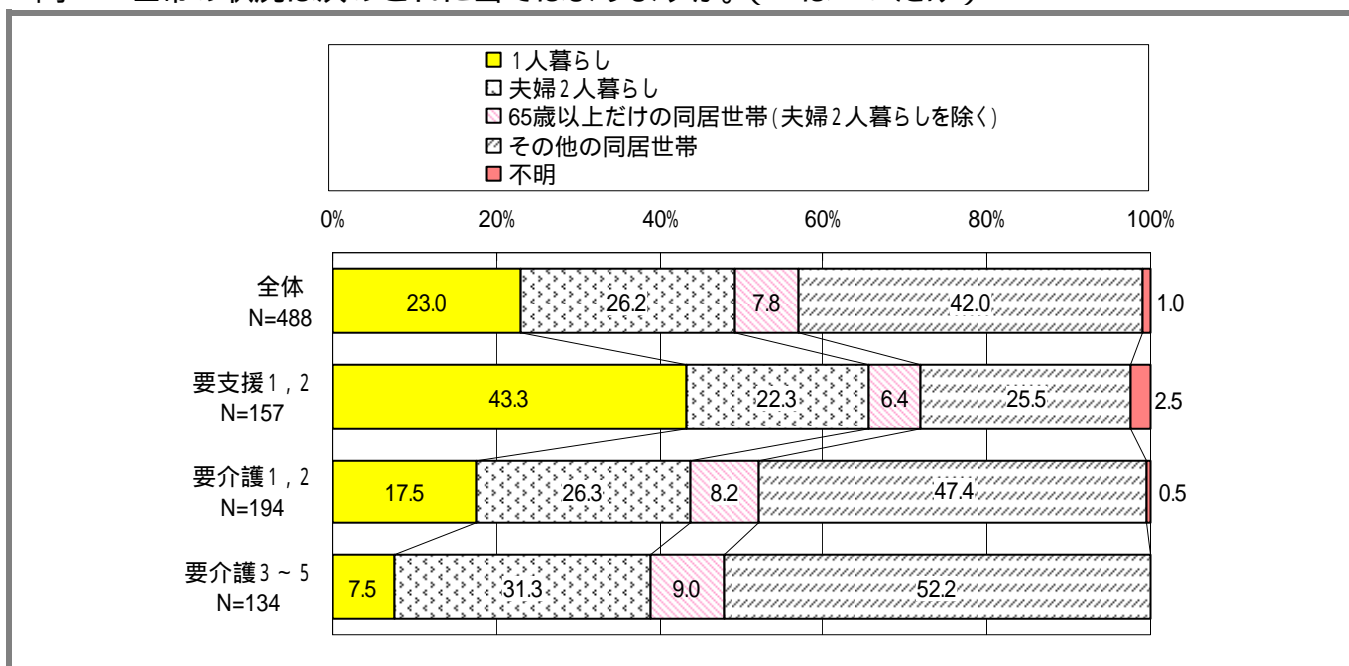
調査対象者の要介護度については、男性では「要介護1」（24.3%）、女性では「要支援2」（22.1%）の割合が最も高くなっている。

調査対象者の居住地区



調査対象者の居住地区は上のとおりで、全区分ともに「春日東中学校区」の割合が最も高くなっている。

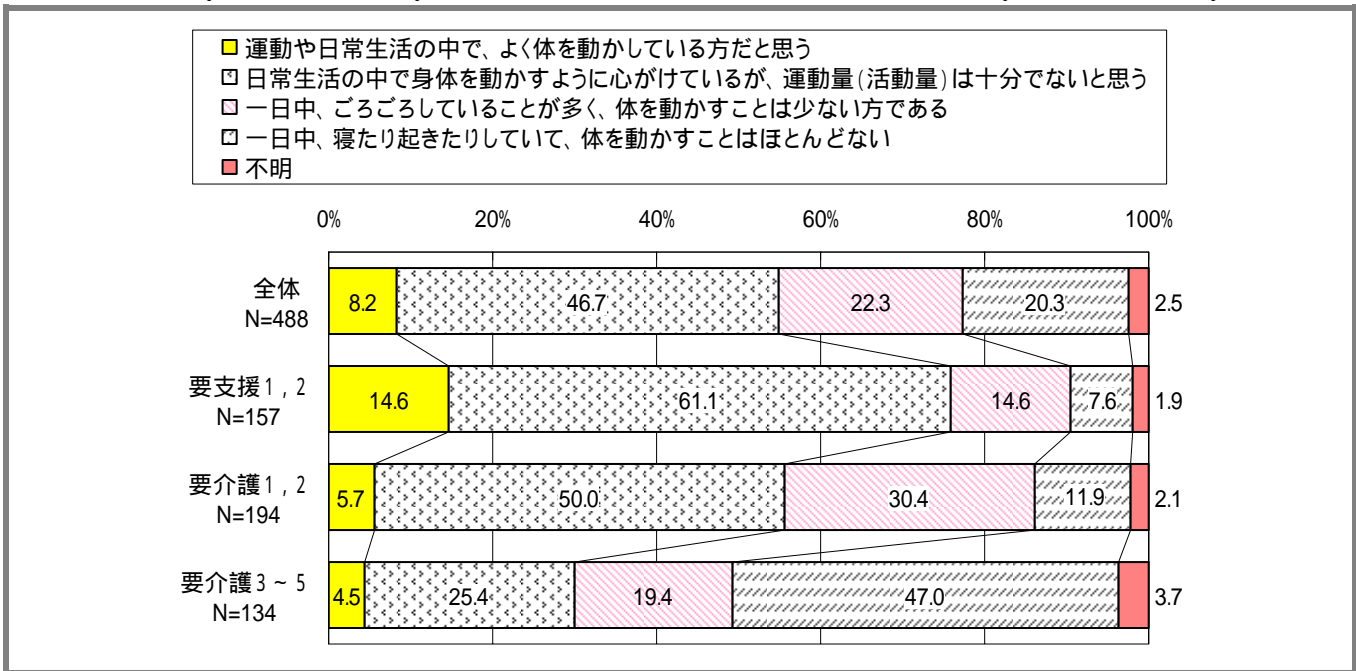
問1 世帯の状況は次のどれに当てはまりますか。(は1つだけ)



「1人暮らし」の世帯は全体の23.0%であるが、「要支援1, 2」では43.3%と特に高くなっており、要介護度が高くなるにつれて、その割合が低くなっている。

「要介護1, 2」以上では、子や孫の世代を含んだ「その他の同居世帯」の割合が高くなっている。

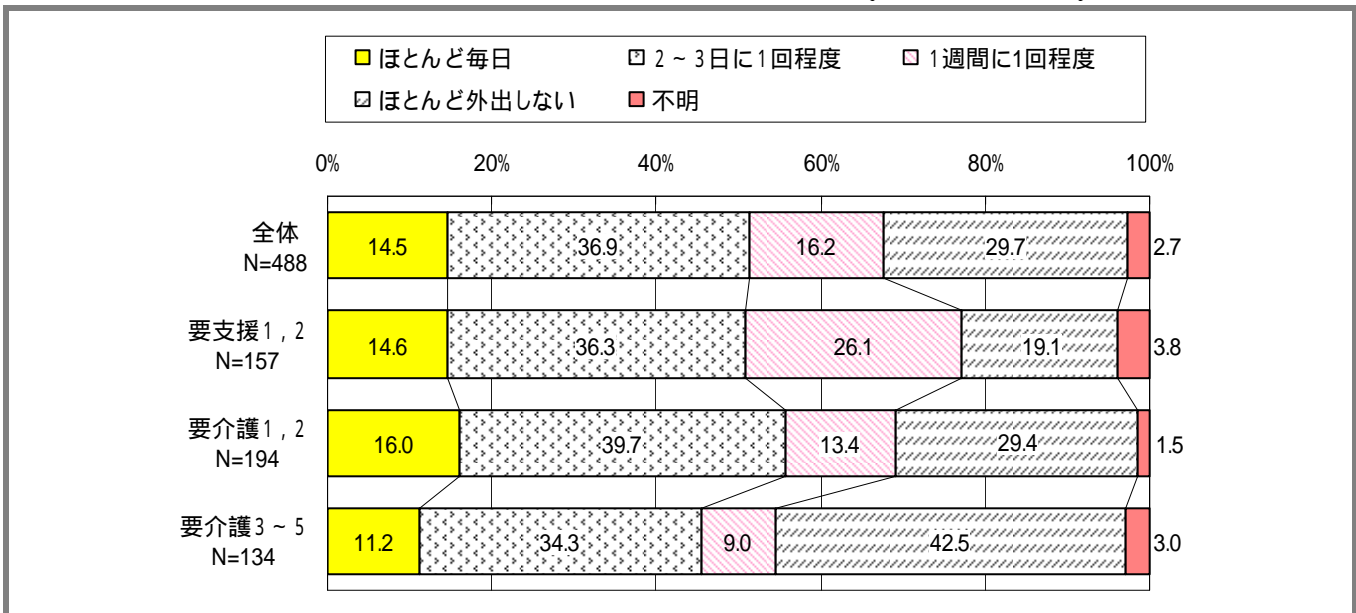
問2 運動（日常の活動量）の状況は次のどれに当てはまりますか。（ は1つだけ）



全体の46.7%の人が「日常生活の中で体を動かすように心がけているが、運動量（活動量）は十分でないと思う」と回答しており、「運動や日常生活の中で、よく身体を動かしている方だと思う」と回答した人の割合（8.2%）を大きく上回っている。

要介護度別に見た場合、「要介護3～5」では、47.0%の人が「一日中、寝たり起きたりしていて、体を動かすことはほとんどない」と回答している。

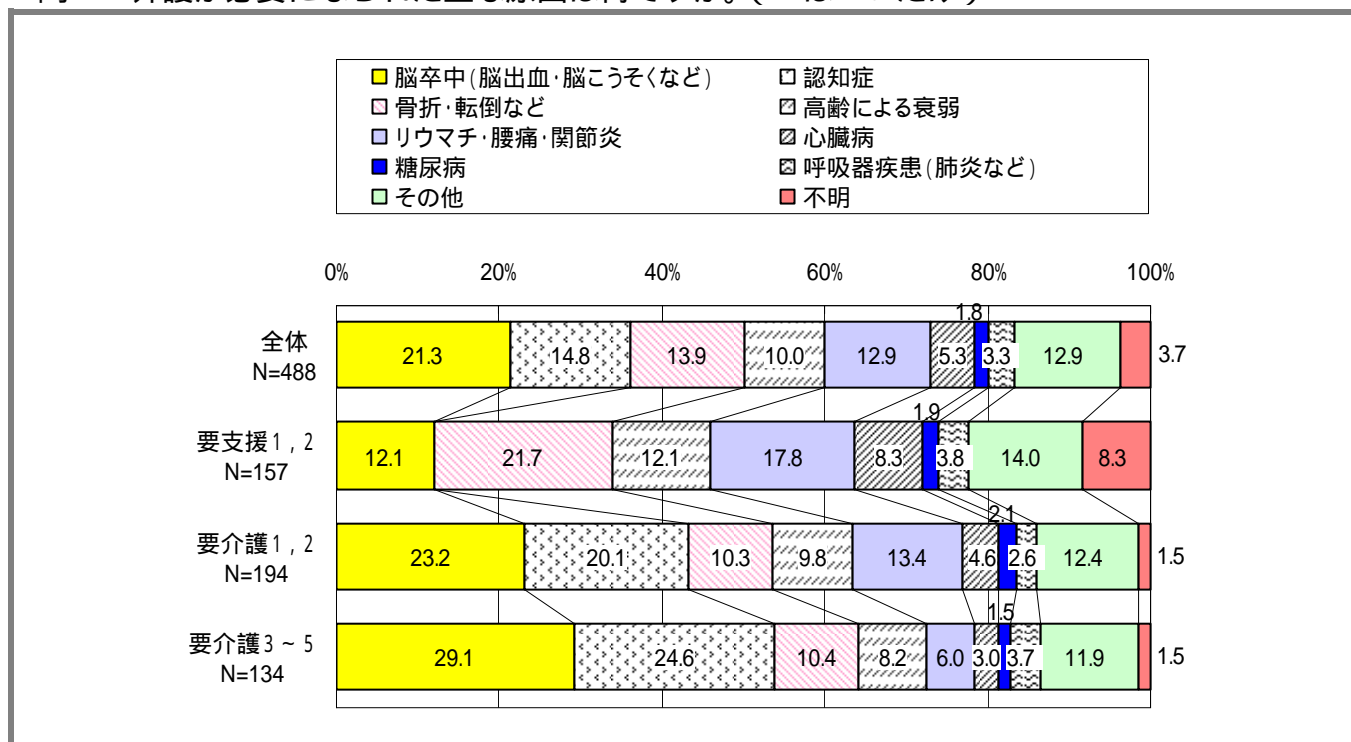
問3 30分以上の外出は1週間にどのくらいありますか。（ は1つだけ）



30分以上の外出頻度も、要介護度が高くなるにつれて低下しており、「要介護度3～5」では「ほとんど外出しない」と回答した人の割合が42.5%となっている。

閉じこもりの目安となる「週1回以下の外出」は全体の45.9%を占めている。

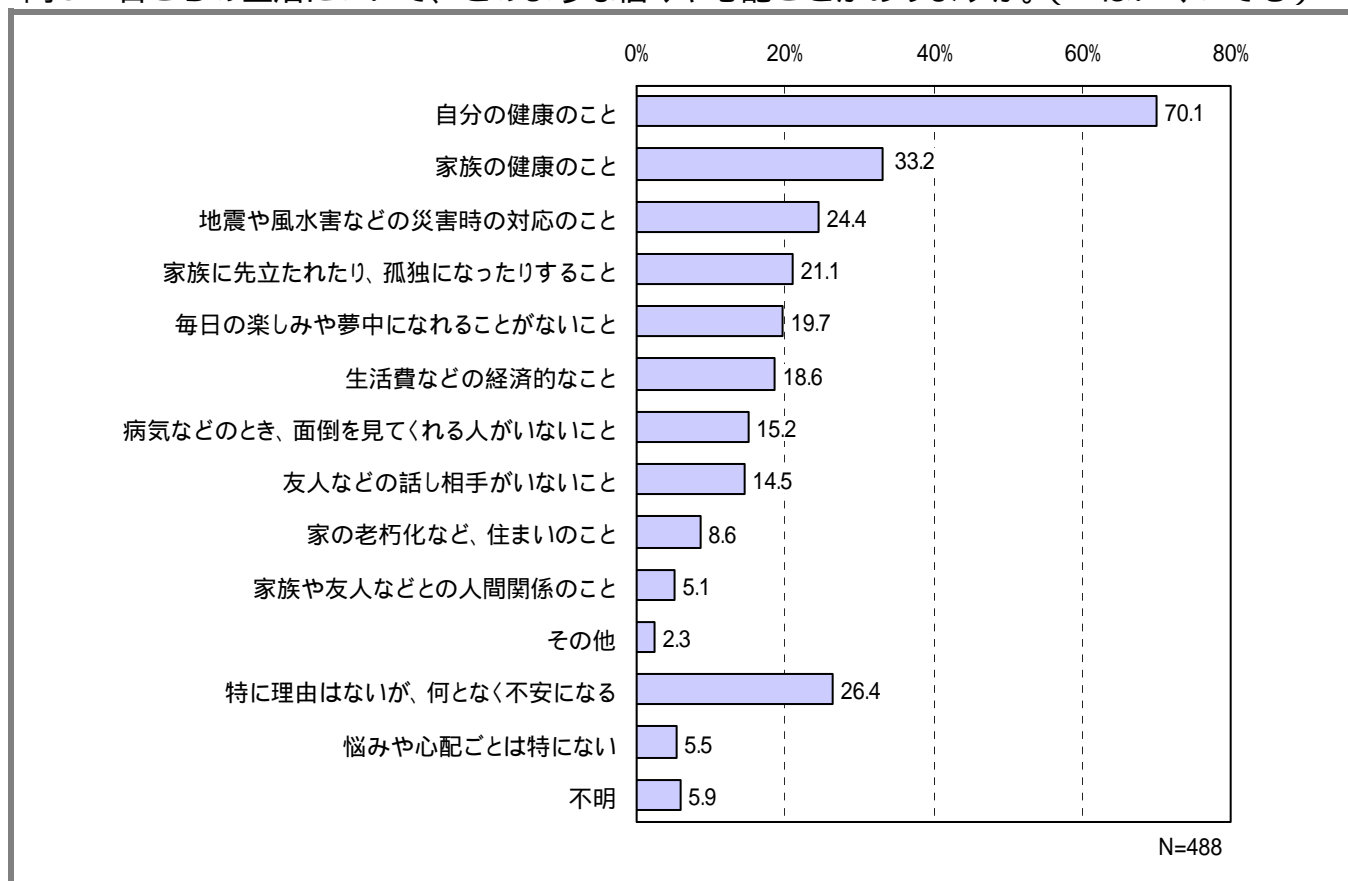
問4 介護が必要になられた主な原因は何ですか。(は1つだけ)



介護が必要になった主な原因で最も多かったのは「脳卒中(脳出血・脳こうそくなど)」で全体の21.3%を占めているが、「要支援1,2」では「骨折・転倒」(21.7%)や「リウマチ・腰痛・関節炎」(17.8%)の割合の方が高くなっている。

また、「要介護1,2」以上では、「脳卒中(脳出血・脳こうそくなど)」に次いで、「認知症」の割合が高くなっている。

問5 日ごろの生活について、どのような悩みや心配ごとがありますか。（はいいくつでも）

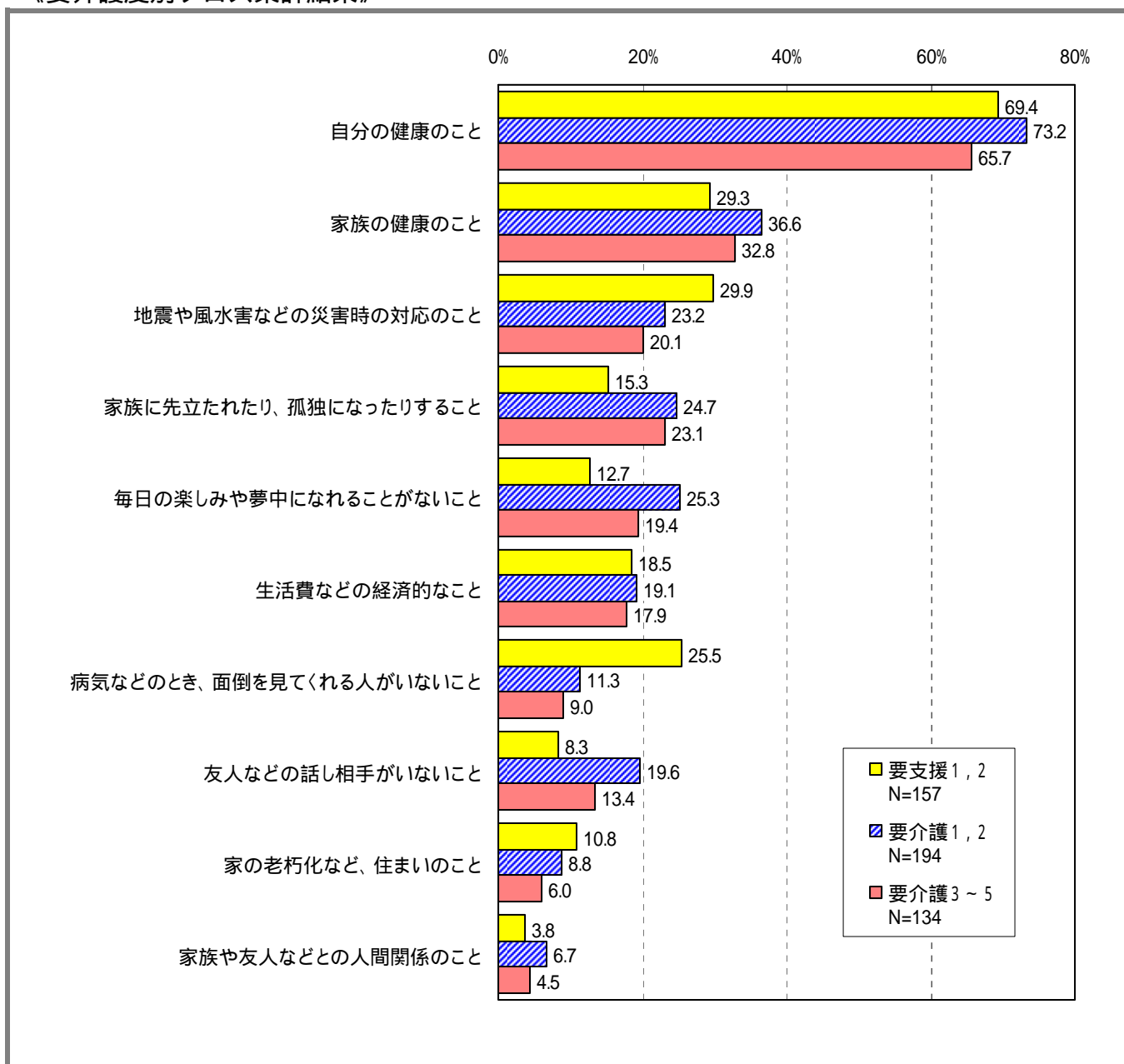


日ごろの生活について、悩みや心配ごとをたずねたところ、「自分の健康のこと」を選択した人の割合が70.1%と最も高くなっている。

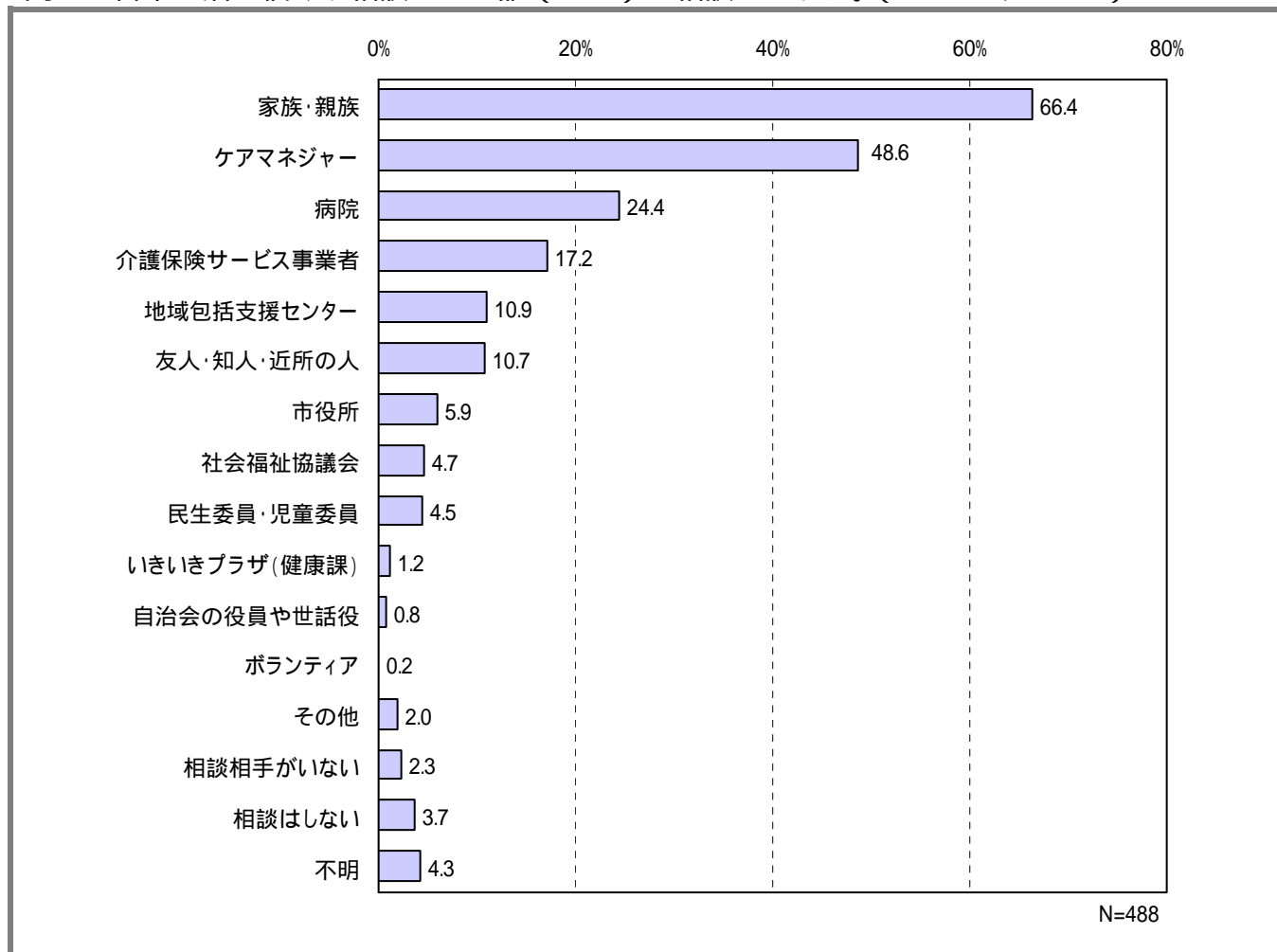
また、「自分の健康のこと」とはかなり開きがあるが、「家族の健康のこと」(33.2%)や「地震や風水害などの災害時の対応のこと」(24.4%)、「家族に先立たれたり、孤独になったりすること」(21.1%)といった回答が上位に挙がっている。

要介護度別のクロス集計結果を見ると（次ページ参照）「要支援1, 2」では、他の区分に比べ、「地震や風水害などの災害時の対応のこと」や「病気などのとき、面倒を見てくれる人がいないこと」を選択した人の割合が高くなっているが、これは「要支援1, 2」の人に「1人暮らし」の人が多く（p67参照）ことが影響していると思われる。

《要介護度別クロス集計結果》



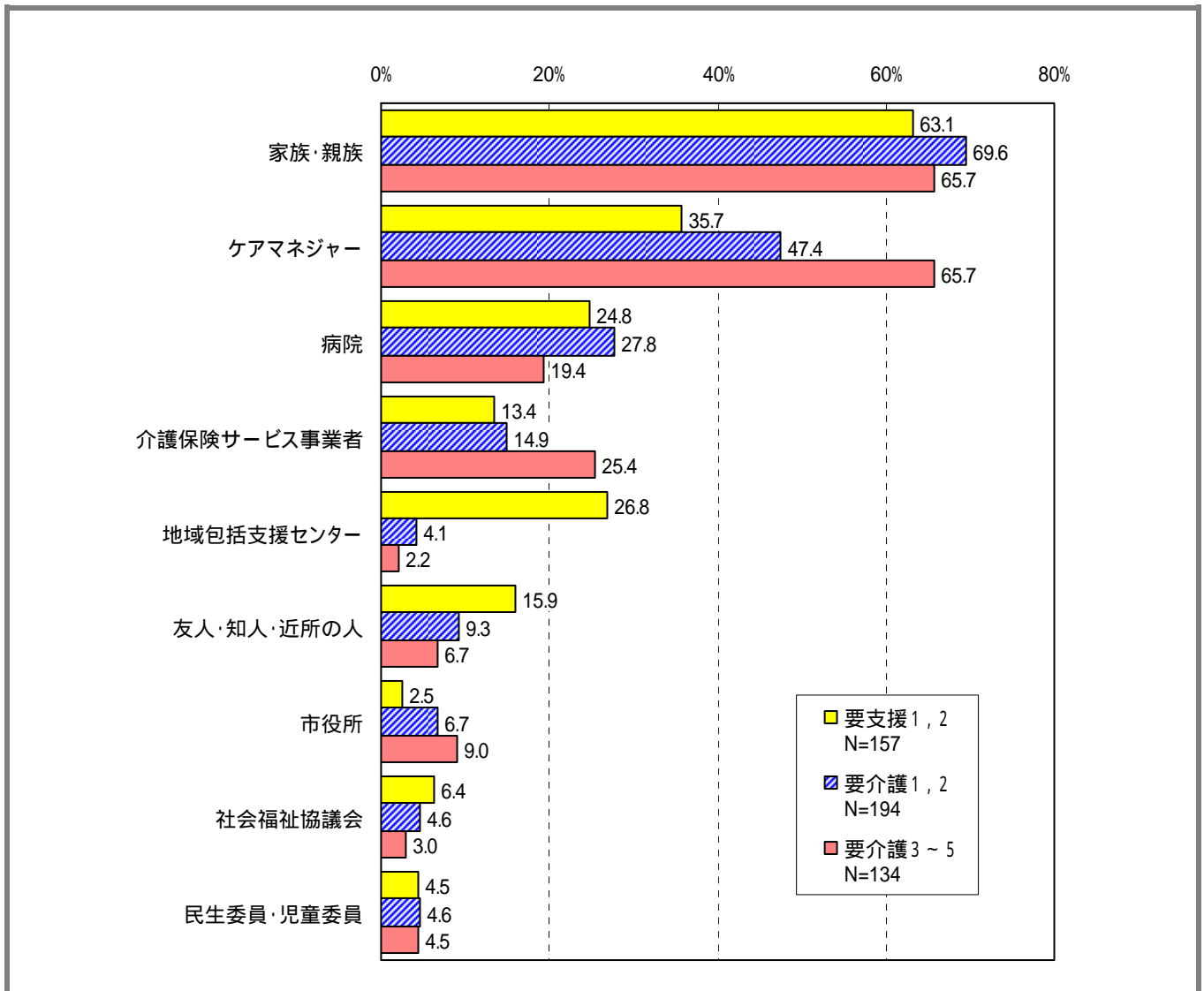
問6 日常生活の悩みや相談ごとを誰（どこ）に相談しますか。（はいいくつでも）



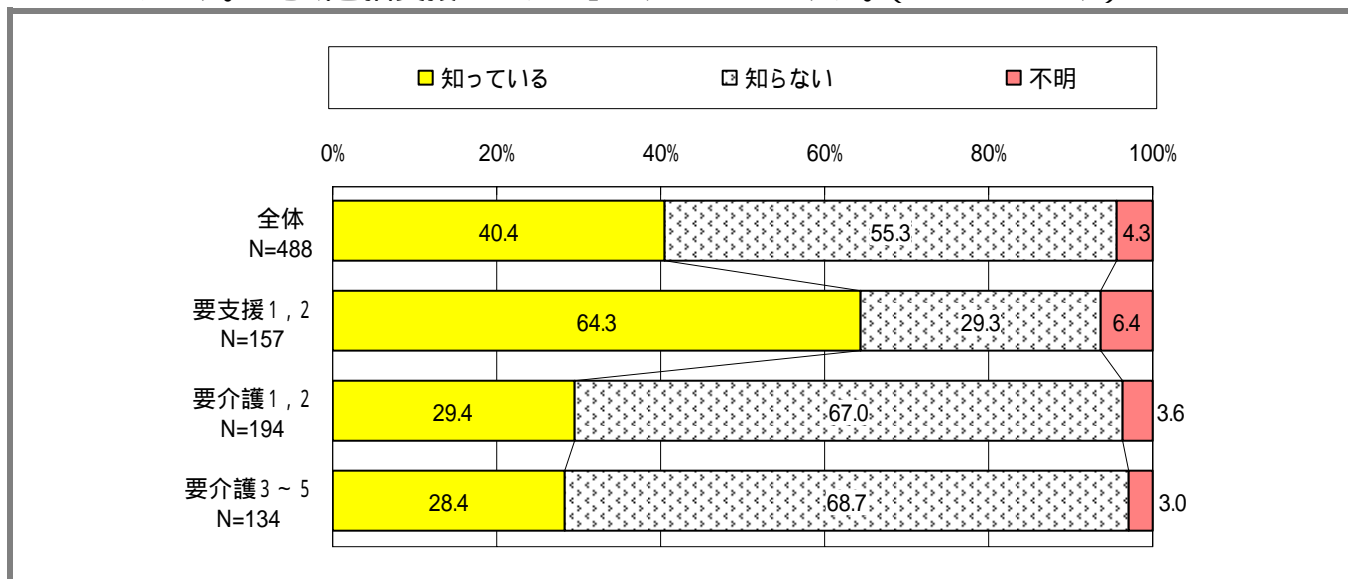
日常生活の悩みや相談ごとの相談先をたずねたところ、「家族・親族」と回答した人の割合が66.4%と圧倒的に高く、少し離れて「ケアマネジャー」(48.6%)さらに離れて「病院」(24.4%)、「介護保険サービス事業者」(17.2%)と続いている。

要介護度別のクロス集計結果（次ページ参照）を見ると、「要支援1, 2」では「地域包括支援センター」(26.8%)、「要介護3～5」では「ケアマネジャー」(65.7%)の割合が高くなっている。

《要介護度別クロス集計結果》



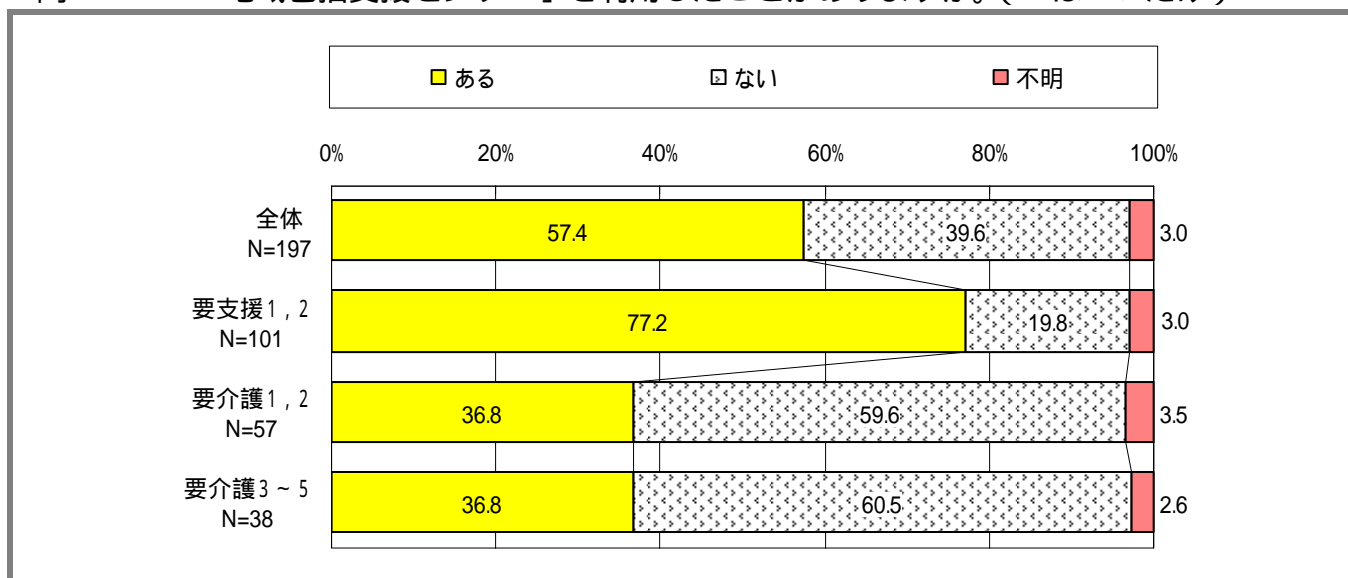
問7 健康づくりや福祉サービスの紹介、介護や医療に関する悩みや成年後見制度の利用など、生活の中で困ることに応じる窓口として、春日市には「地域包括支援センター」が2か所あります。「地域包括支援センター」を知っていますか。（は1つだけ）



地域包括支援センターを「知っている」と回答した人の割合は全体の40.4%で、「要支援1, 2」に限ってみても、29.3%の人が「知らない」と回答している。

（問7で「1 知っている」と答えた方へ）

問7-1 「地域包括支援センター」を利用したことがありますか。（は1つだけ）

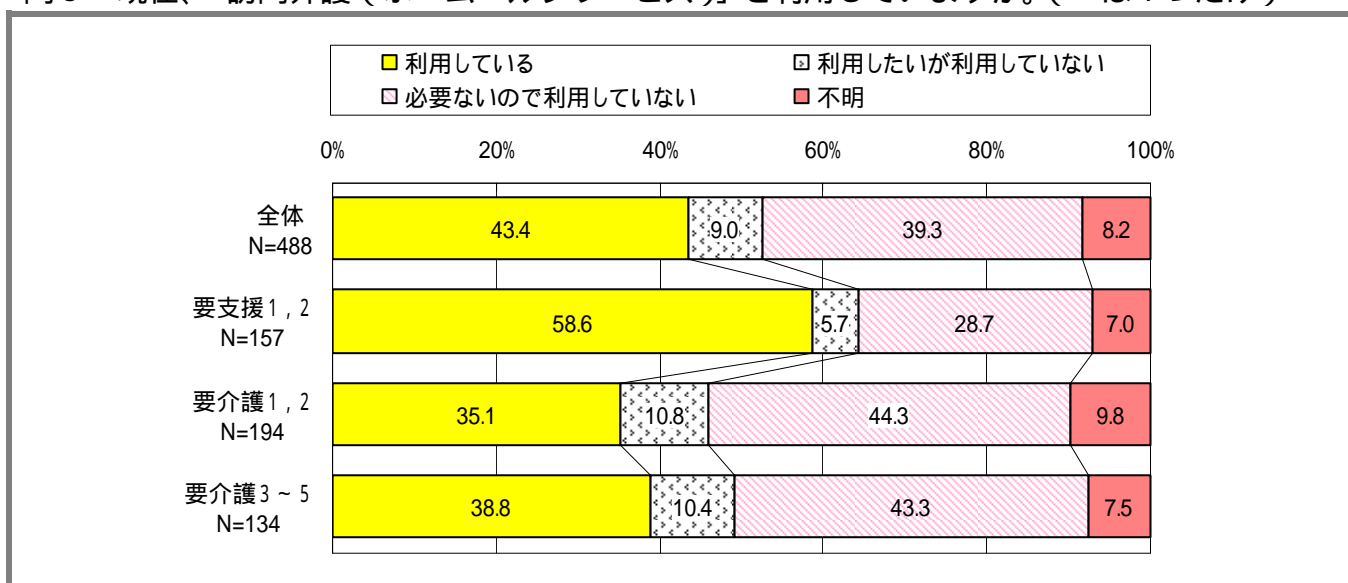


地域包括支援センターを利用したことが「ある」と回答した人の割合は、「要支援1, 2」では「知っている」と回答した人の77.2%に上り、「要支援1, 2」全体に換算すると50.0%となる。

一方、「要介護1, 2」、「要介護3~5」では「知っている」と回答した人の36.8%で、それぞれ全体に換算すると「要介護1, 2」では10.8%、「要介護3~5」では10.4%となる。

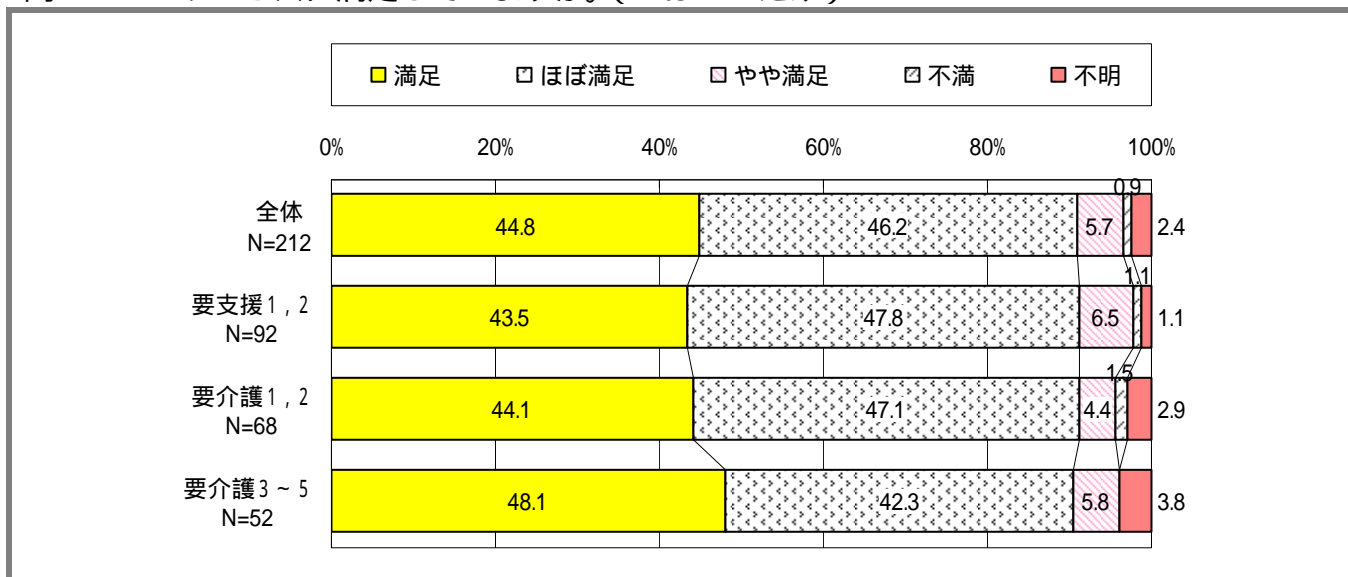
．主な介護サービスの利用状況と満足度について

問8 現在、「訪問介護（ホームヘルプサービス）」を利用していますか。（ は1つだけ）



「訪問介護（ホームヘルプサービス）」を「利用している」と回答した人は全体の43.4%で、「利用したいが利用していない」と回答した人の割合は9.0%となっている。

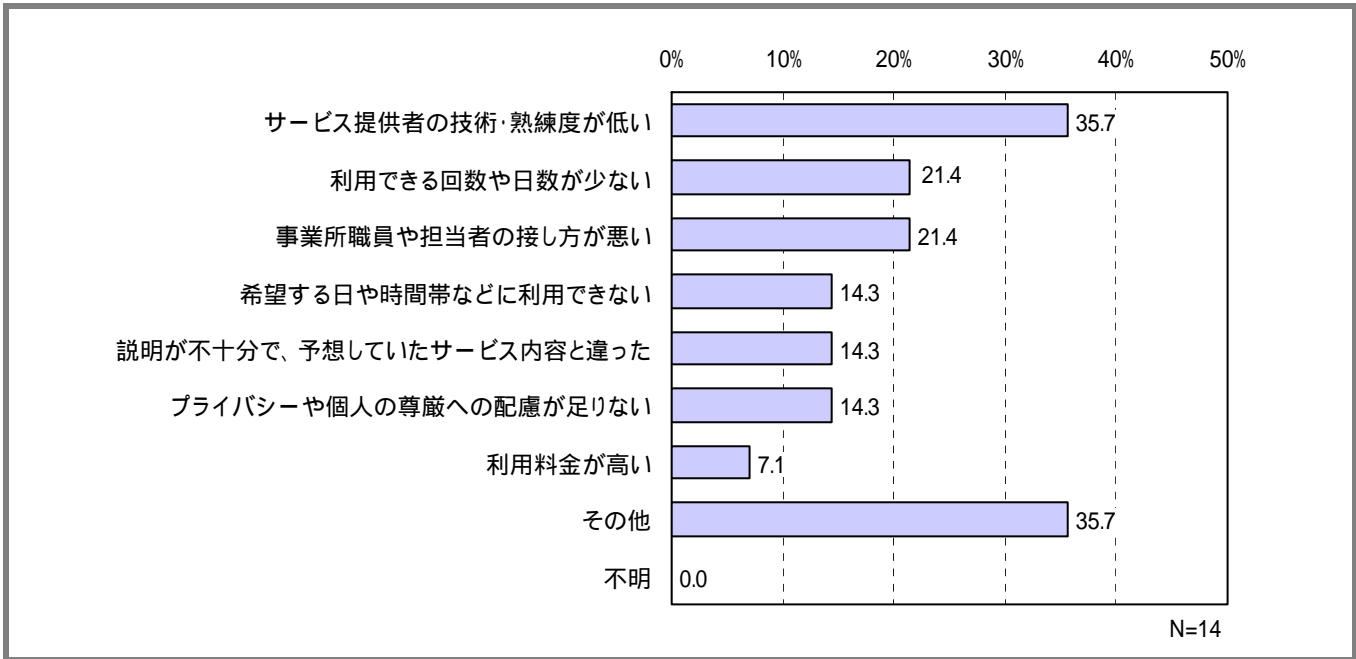
問8 - 1 サービスに満足していますか。（ は1つだけ）



サービスの満足度をたずねたところ、「満足」、「ほぼ満足」と回答した人の割合は全体の91.0%で「やや不満」、「不満」と回答した人は6.6%にとどまっている。

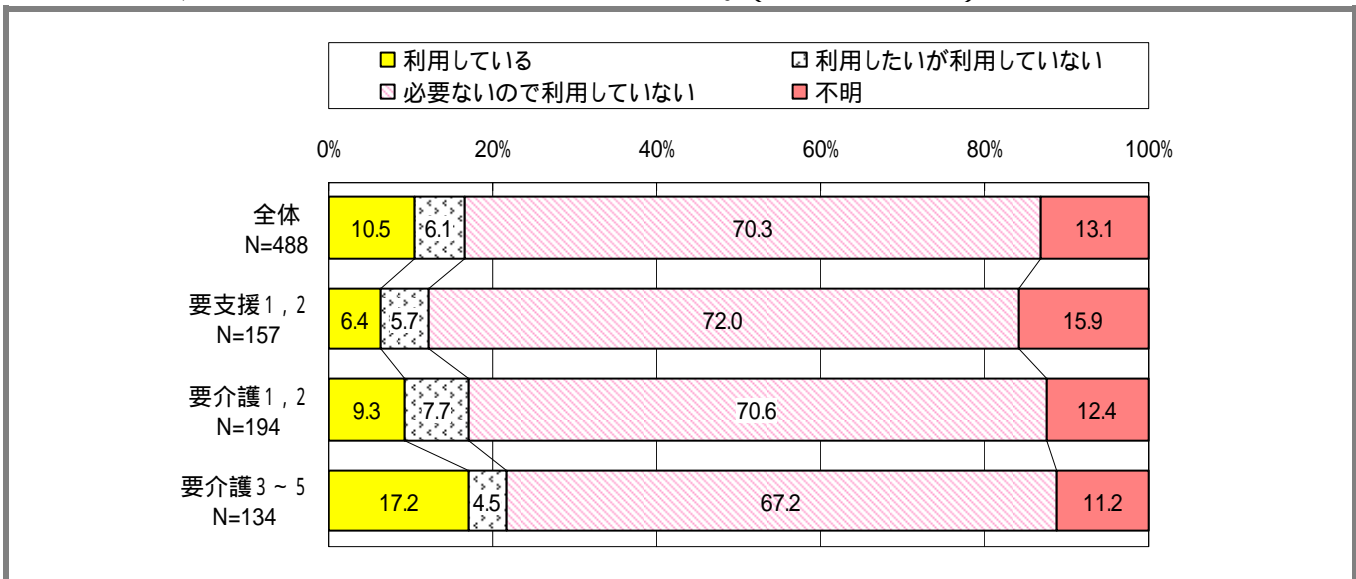
要介護度毎の満足度の差はあまり見られなかった。

問8 - 2 不満を感じる理由は何ですか。（はいくつでも）



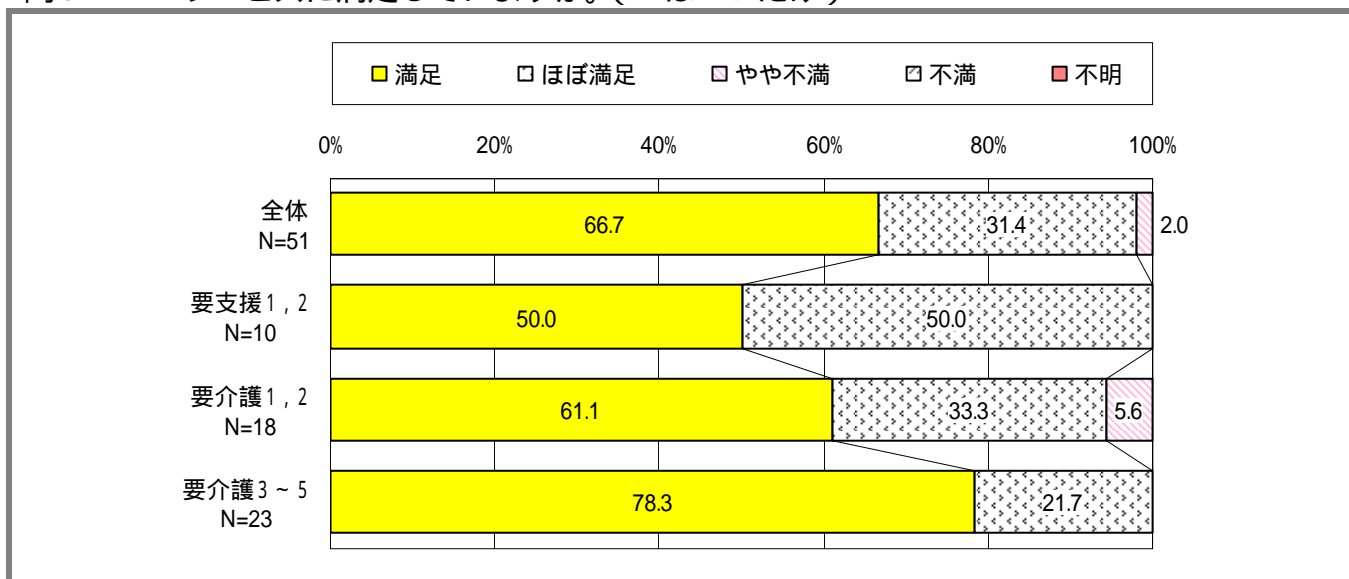
サービスに不満を感じる人に理由をたずねた結果は上のとおりで、「サービス提供者の技術・熟練度が低い」という回答が最も多くなっている（35.7%）。

問9 現在、「訪問入浴介護」を利用していますか。（は1つだけ）



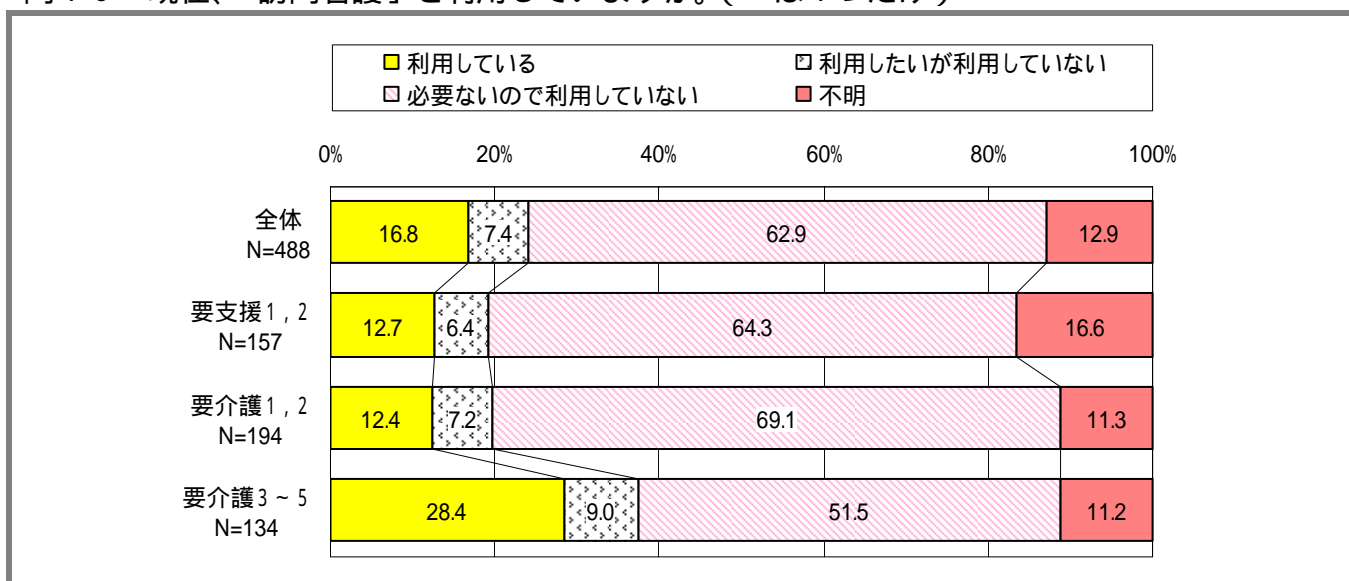
「訪問入浴介護」を「利用している」と回答した人は全体の10.5%で、「利用したいが利用していない」と回答した人の割合は6.1%となっている。

問9 - 1 サービスに満足していますか。（ は1つだけ）



サービスの満足度をたずねたところ、「やや不満」と回答した人は1人だけであった。

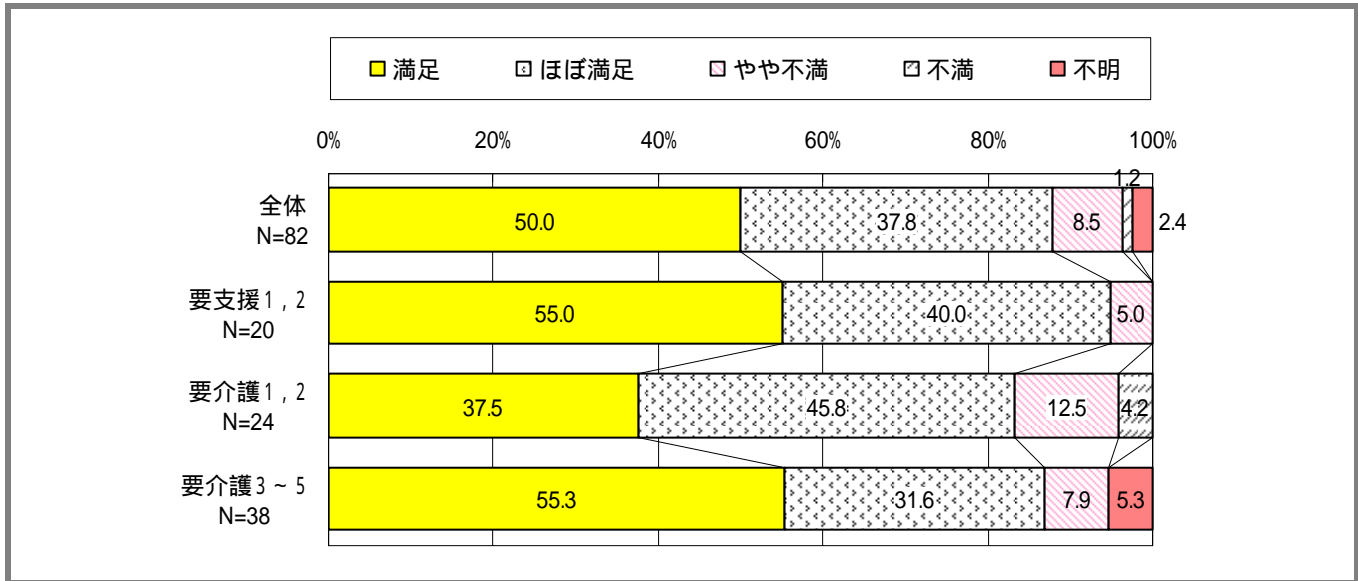
問10 現在、「訪問看護」を利用していますか。（ は1つだけ）



「訪問看護」を「利用している」と回答した人は全体の16.8%で、「利用したいが利用していない」と回答した人の割合は7.4%となっている。

要介護度別に見ると「要介護3~5」の利用割合（28.4%）が高くなっている

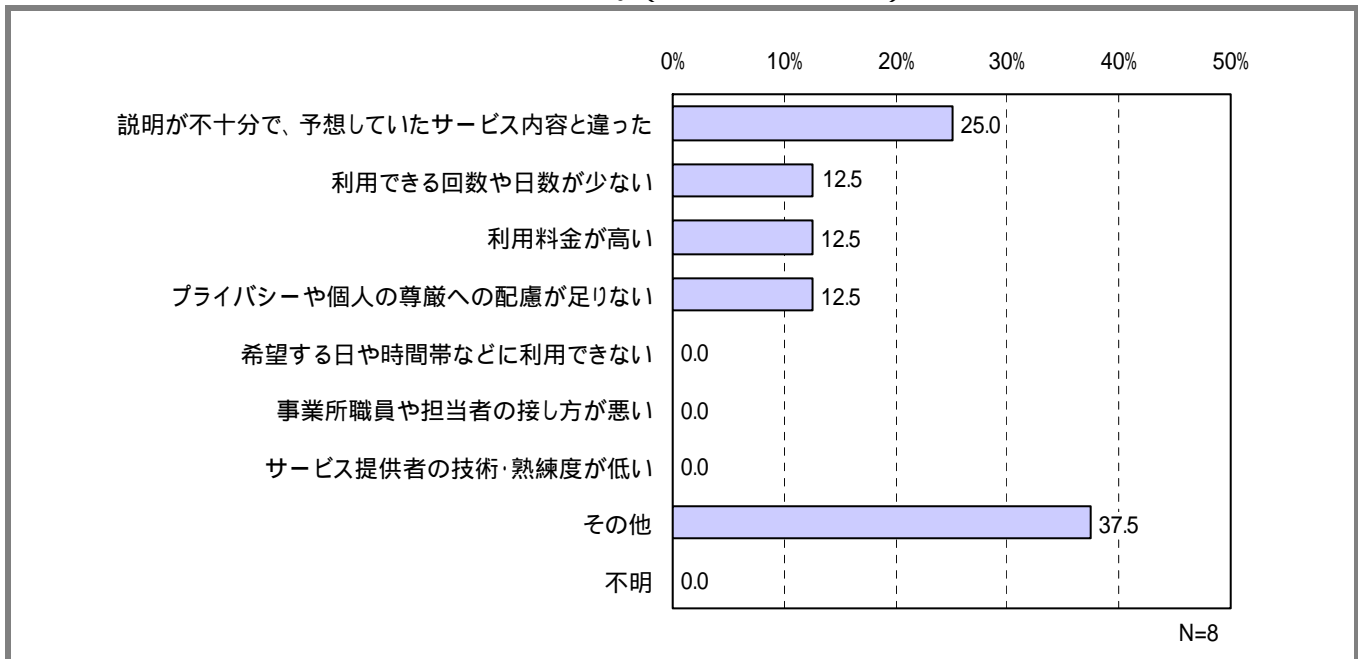
問10-1 サービスに満足していますか。（は1つだけ）



サービスの満足度をたずねたところ、「満足」、「ほぼ満足」と回答した人の割合は全体の87.8%で「やや不満」、「不満」と回答した人は9.7%にとどまっている。

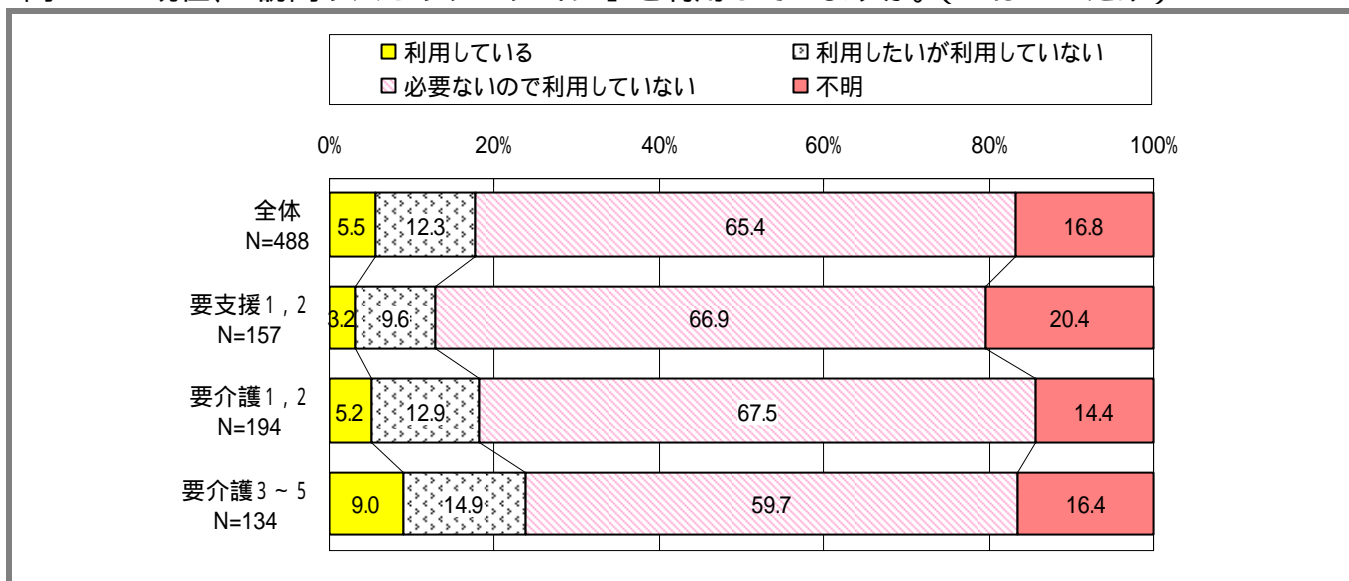
要介護度別に見ると、「要介護1,2」の満足度がやや低くなっている。

問10-2 不満を感じる理由は何ですか。（はいくつでも）



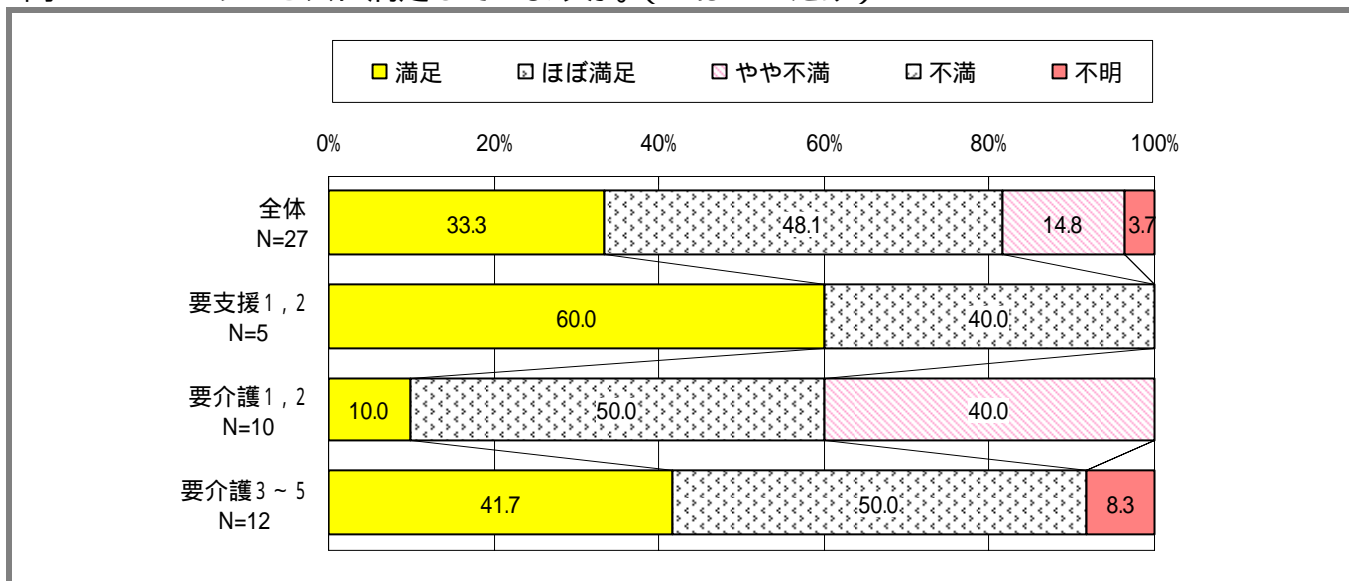
サービスに不満を感じる人に理由をたずねた結果は上のとおりで、「説明が不十分で、予想していたサービス内容と違った」という回答が最も多くなっている（25.0%）。

問11 現在、「訪問リハビリテーション」を利用していますか。（は1つだけ）



「訪問リハビリテーション」を「利用している」と回答した人は全体の5.5%で、「利用したいが利用していない」と回答した人の割合（12.3%）の方が6.8ポイント高くなっている。

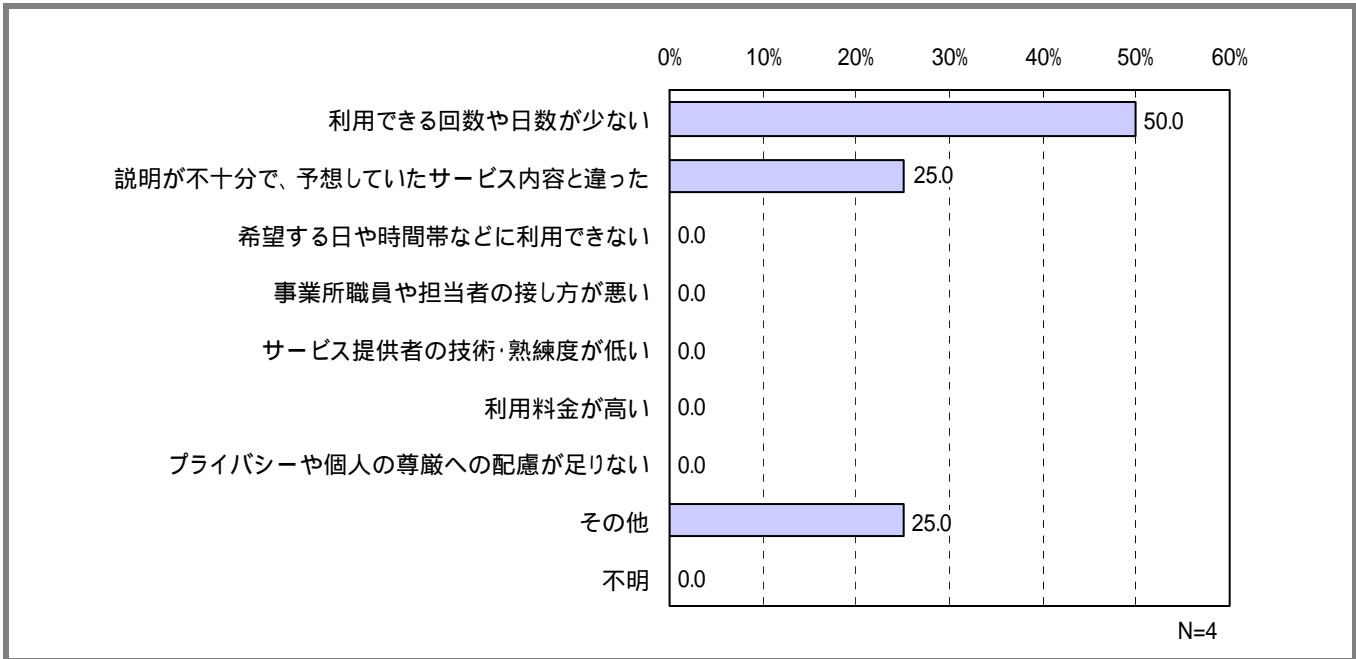
問11-1 サービスに満足していますか。（は1つだけ）



サービスの満足度をたずねたところ、「満足」、「ほぼ満足」と回答した人の割合は全体の81.4%で「やや不満」と回答した人は14.8%にとどまっている。

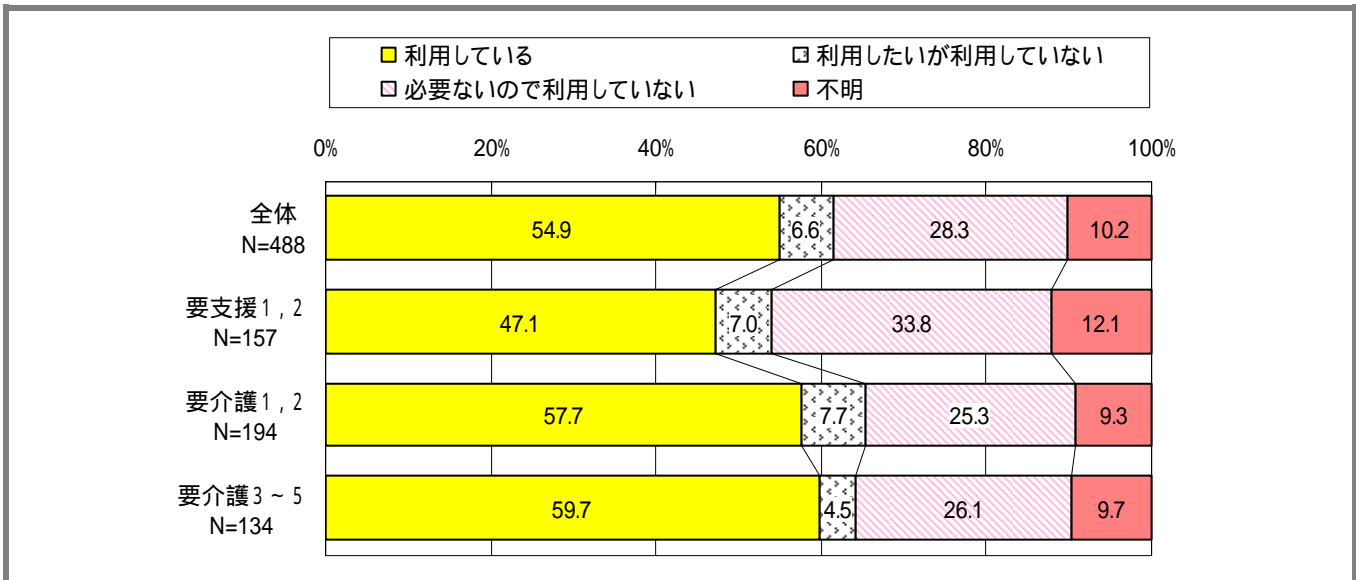
要介護度別に見ると、「要介護1,2」の満足度が低くなっている。

問1 1 - 2 不満を感じる理由は何ですか。（はいいくつでも）



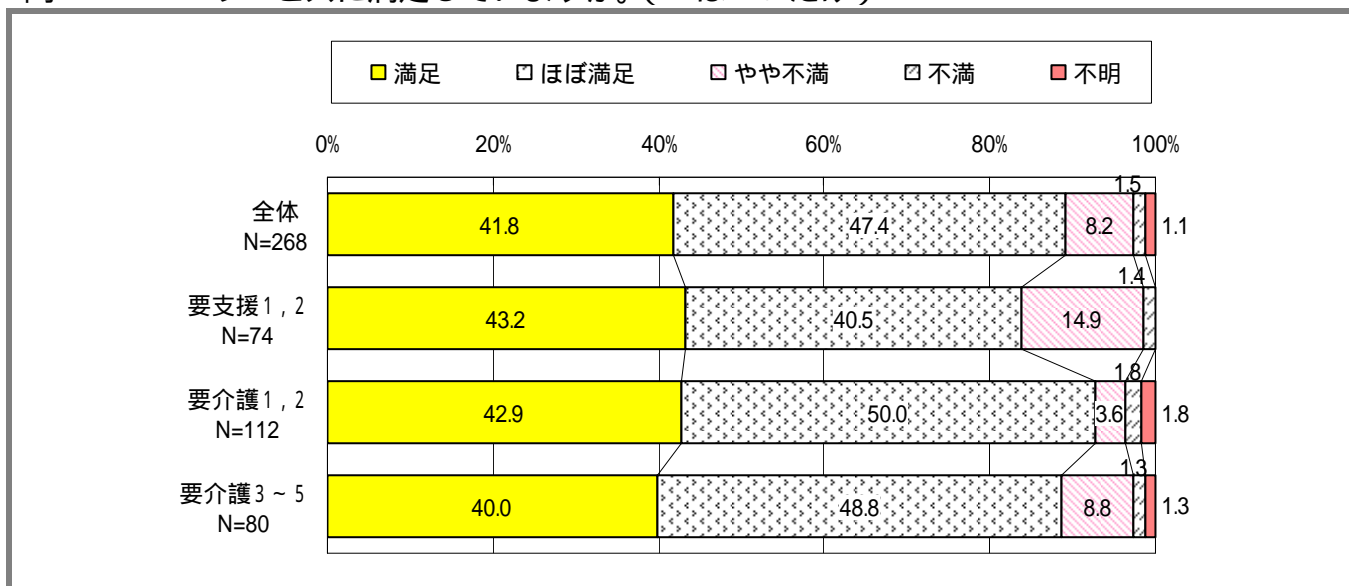
サービスに不満を感じる人に理由をたずねた結果は上のとおりで、「利用できる回数や日数が少ない」という回答が最も多くなっている（50.0%）。

問1 2 現在、「通所介護（デイサービス）」を利用していますか。（は1つだけ）



「通所介護（デイサービス）」を「利用している」と回答した人は全体の54.9%で、「利用したいが利用していない」と回答した人の割合は6.6%となっている。

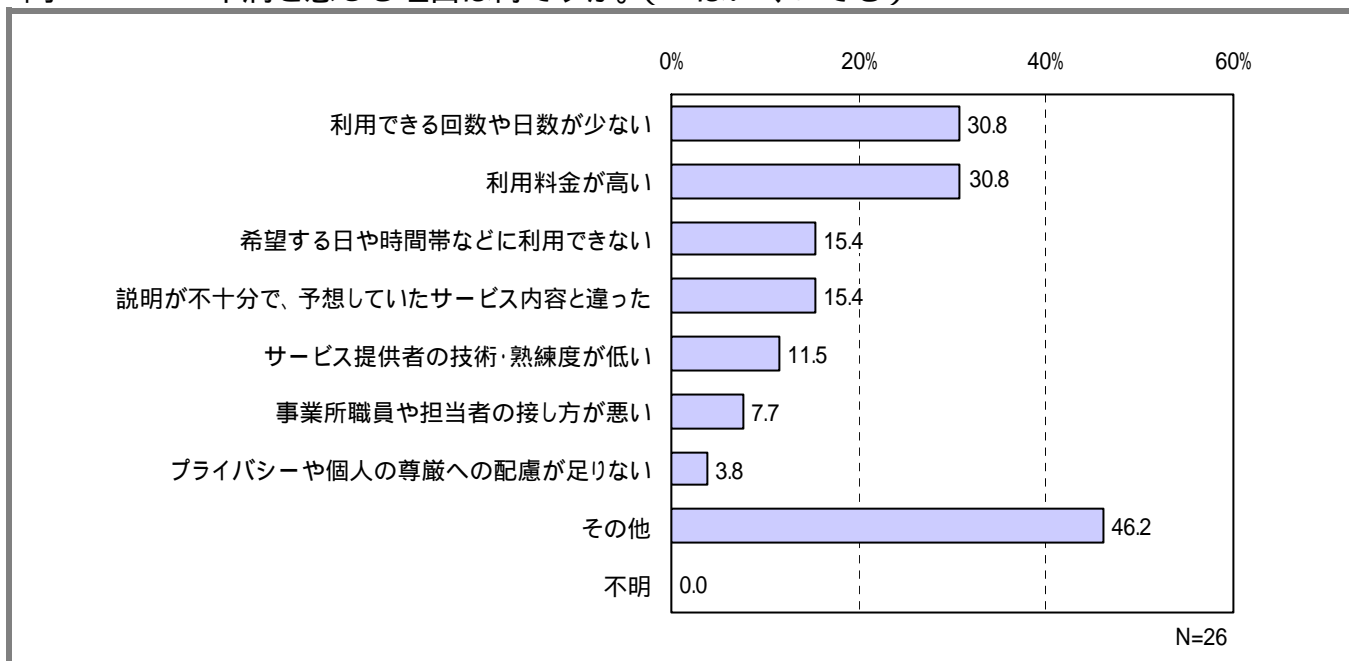
問12-1 サービスに満足していますか。（ は1つだけ）



サービスの満足度をたずねたところ、「満足」、「ほぼ満足」と回答した人の割合は全体の89.2%で「やや不満」、「不満」と回答した人は9.7%にとどまっている。

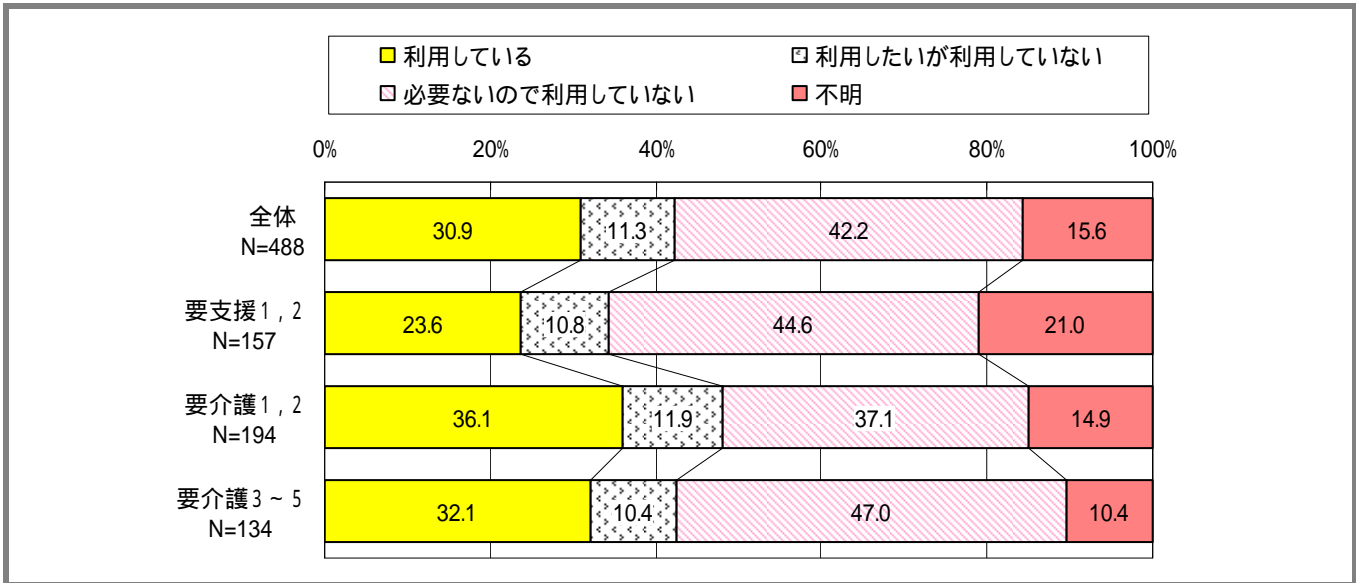
要介護度毎の満足度の差はあまり見られなかった。

問12-2 不満を感じる理由は何ですか。（ はいくつでも）



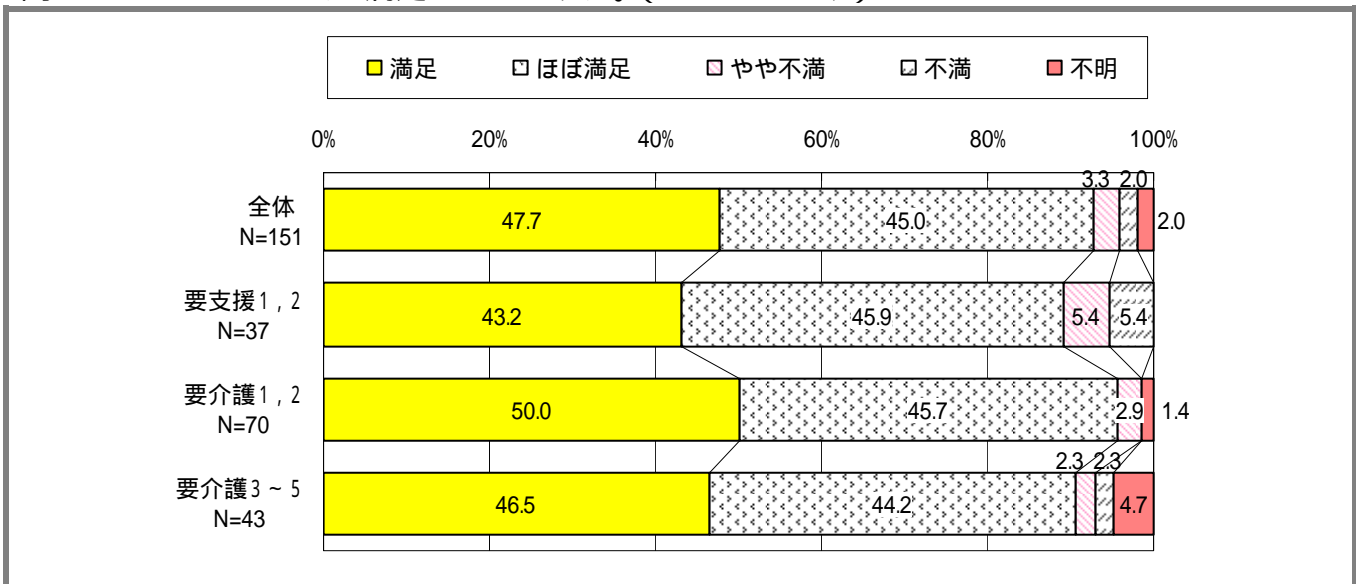
サービスに不満を感じる人に理由をたずねた結果は上のおりで、「利用できる回数や日数が少ない」と「利用料金が高い」という回答が同数で最も多くなっている（30.8%）。

問13 現在、「通所リハビリテーション（デイケア）」を利用していますか。（は1つだけ）



「通所リハビリテーション（デイケア）」を「利用している」と回答した人は全体の30.9%で、「利用したいが利用していない」と回答した人の割合は11.3%となっている。

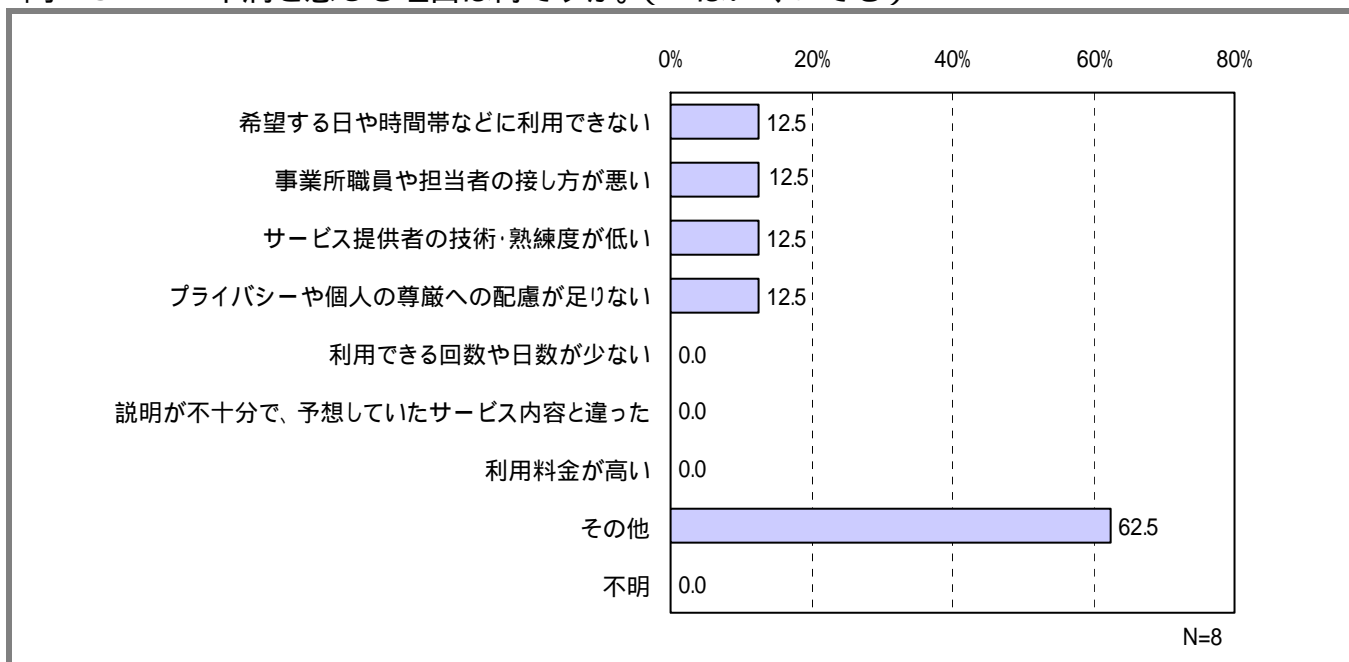
問13-1 サービスに満足していますか。（は1つだけ）



サービスの満足度をたずねたところ、「満足」、「ほぼ満足」と回答した人の割合は全体の92.7%で「やや不満」、「不満」と回答した人は5.3%にとどまっている。

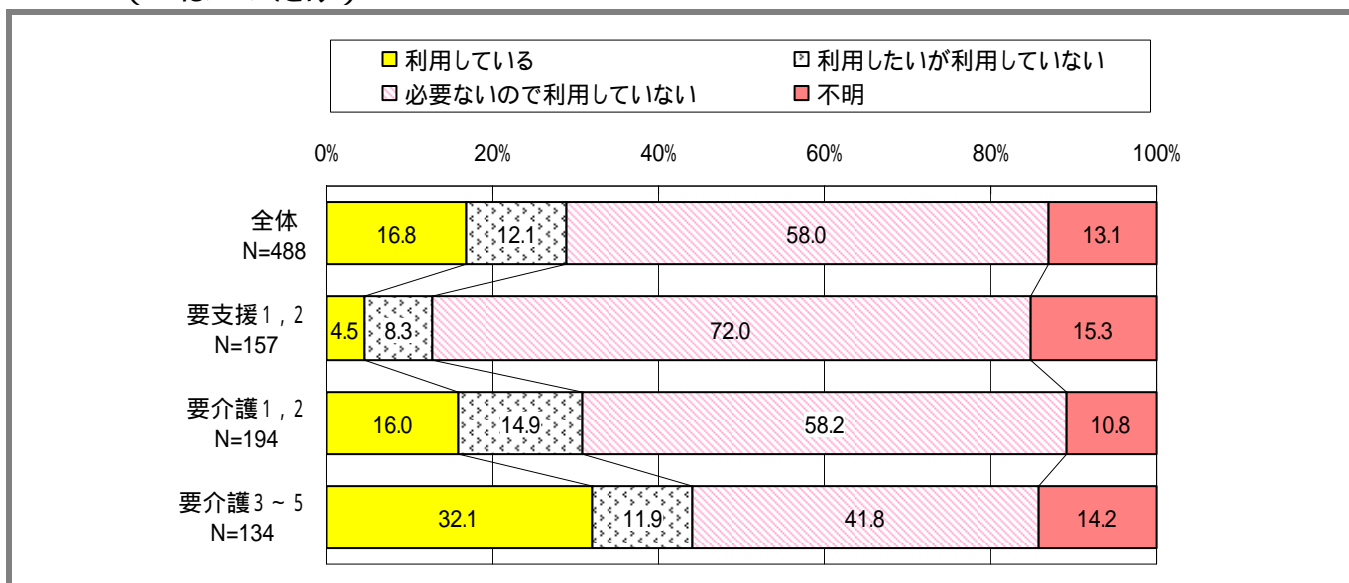
要介護度毎の満足度の差はあまり見られなかった。

問13-2 不満を感じる理由は何ですか。（はいくつでも）



サービスに不満を感じる人に理由をたずねた結果は上のとおりであった。

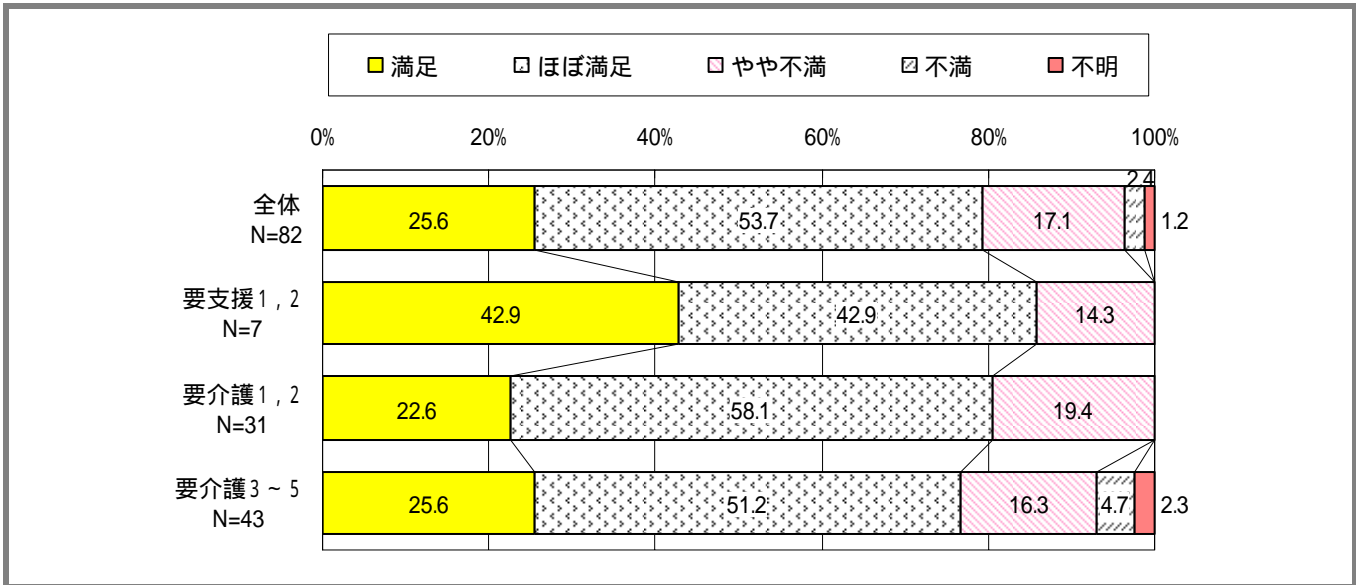
問14 現在、「短期入所生活・療養介護（ショートステイ）」を利用していますか。（は1つだけ）



「短期入所生活・療養介護（ショートステイ）」を「利用している」と回答した人は全体の16.8%で、「利用したいが利用していない」と回答した人の割合は12.1%となっている。

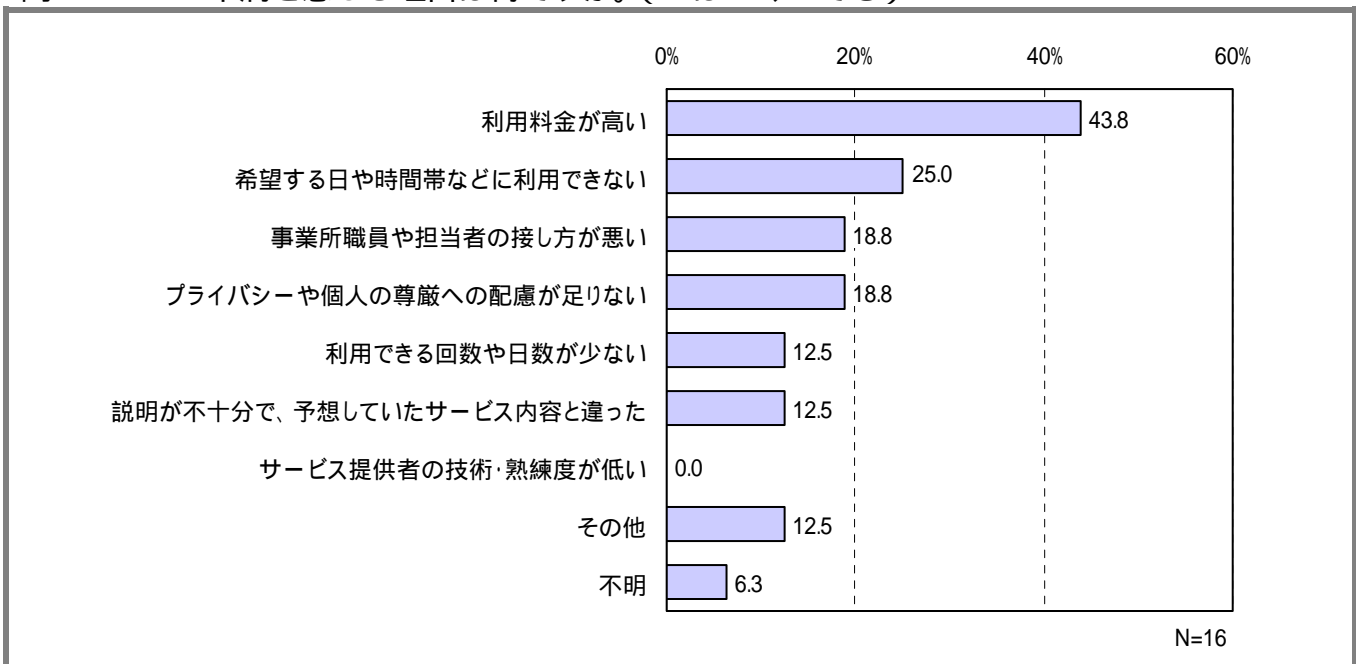
要介護度別に見ると、利用割合が高いのは「要介護3～5」で、32.1%となっている。

問14-1 サービスに満足していますか。（は1つだけ）



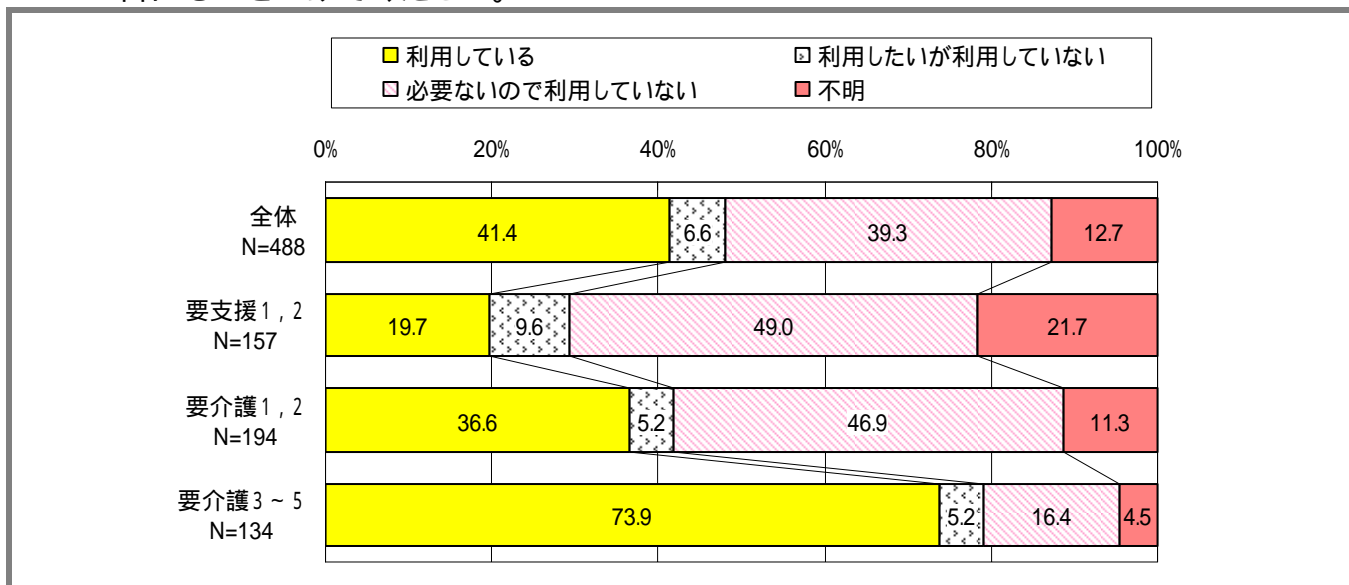
サービスの満足度をたずねたところ、「満足」、「ほぼ満足」と回答した人の割合は全体の79.3%で、他のサービスに比べると少し満足度が低く、「やや不満」、「不満」と回答した人の割合は19.5%となっている。

問14-2 不満を感じる理由は何ですか。（はいくつでも）



サービスに不満を感じる人に理由をたずねた結果は上のとおりで、「利用料金が高い」という回答が最も多くなっている（43.8%）。

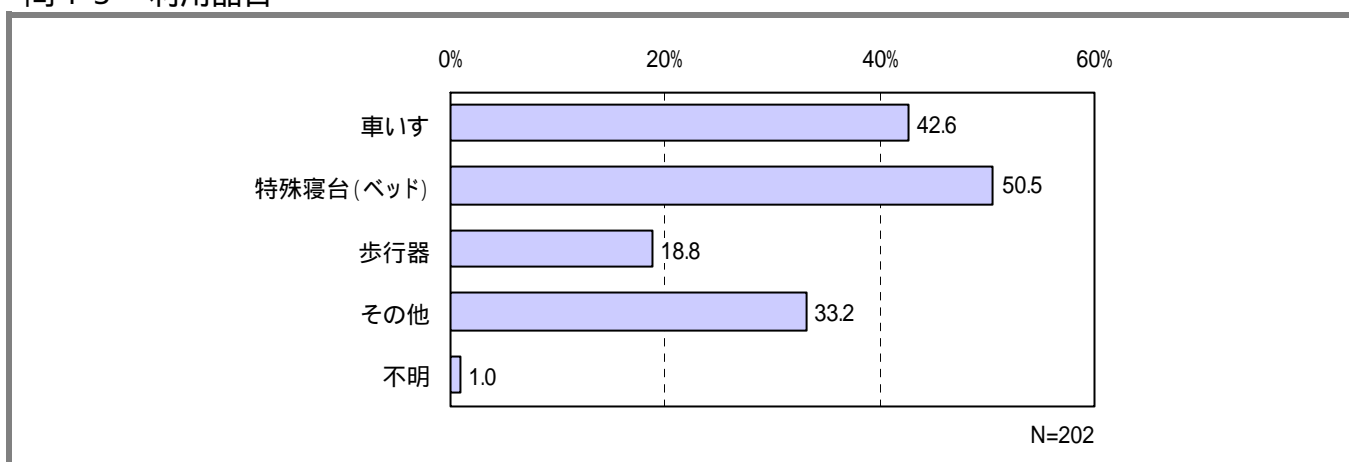
問15 現在、「福祉用具貸与(レンタル)」を利用していますか。利用している場合はその品目にもをつけてください。



「福祉用具貸与(レンタル)」を「利用している」と回答した人は全体の41.4%で、「利用したいが利用していない」と回答した人の割合は6.6%となっている。

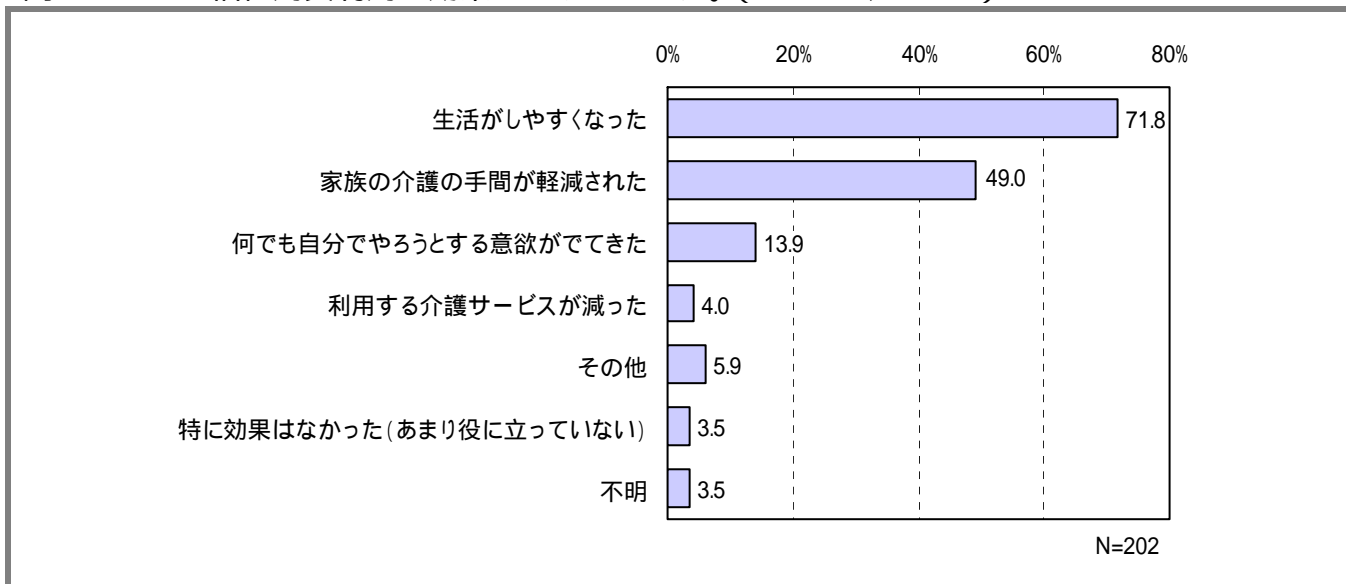
要介護が高くなるにつれて、利用割合も高くなっている。

問15 利用品目



利用品目は上のおりで、「特殊寝台(ベッド)」が50.5%、「車いす」が42.6%となっている。

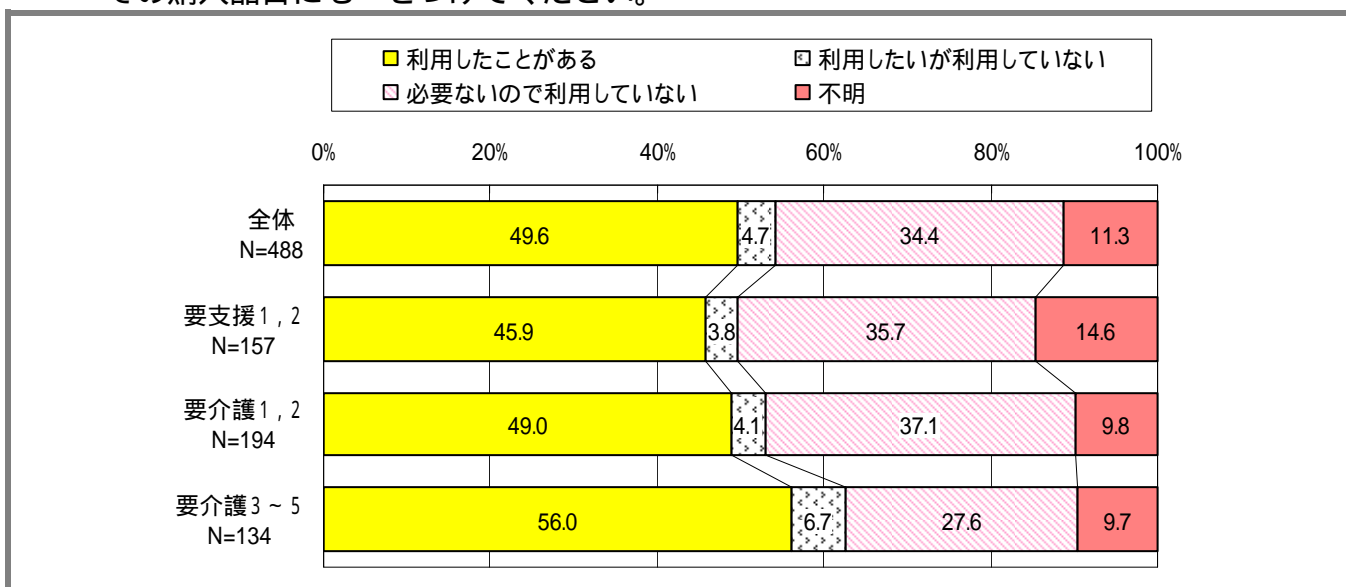
問15-1 福祉用具利用の効果はありましたか。（はいいくつでも）



福祉用具利用の効果をたずねたところ、「生活がしやすくなった」と回答した人の割合が71.8%と最も高く、「家族の介護の手間が軽減された」が49.0%で、それに続いている。

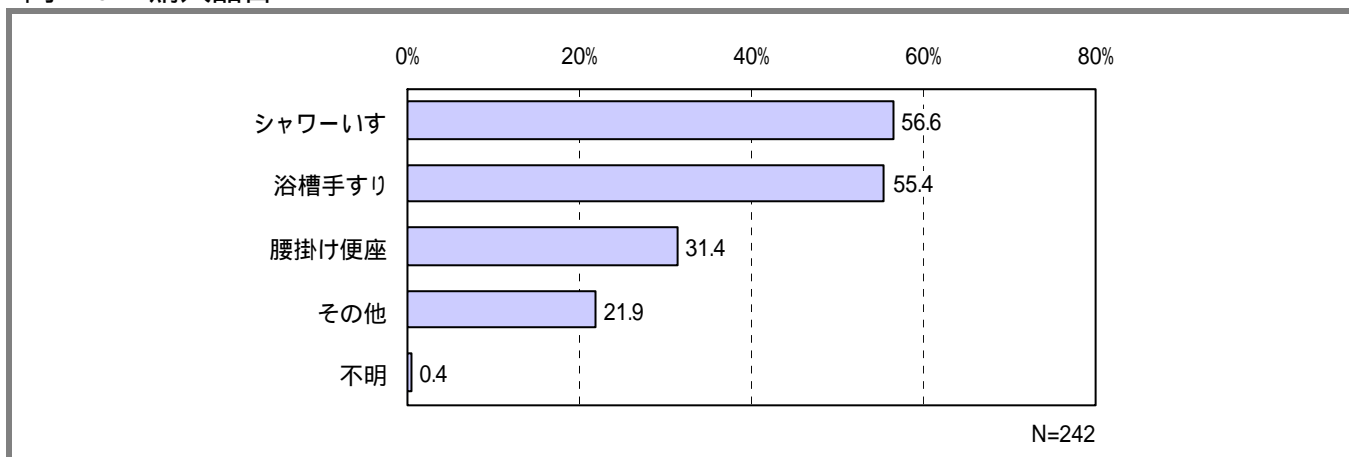
「特に効果はなかった（あまり役に立っていない）」と回答した人の割合は3.5%であった。

問16 「福祉用具購入費の支給」を利用したことがありますか。利用したことがある場合にはその購入品目にもをつけてください。



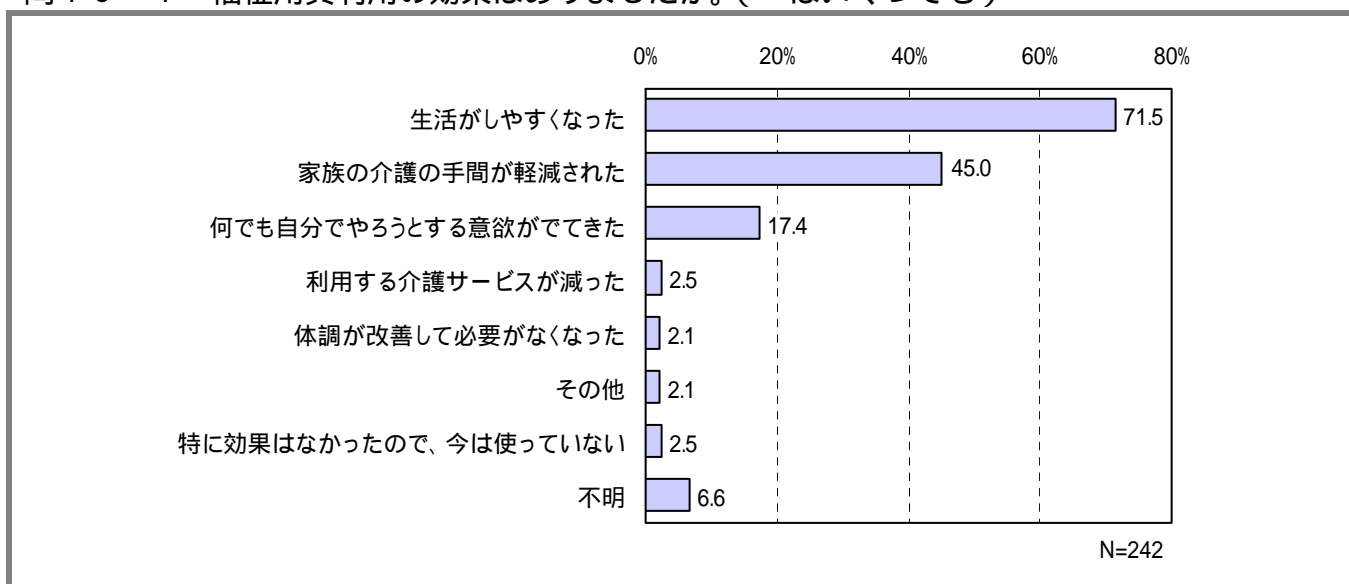
「福祉用具購入費の支給」を「利用したことがある」と回答した人は全体の49.6%で、「利用したいが利用していない」と回答した人の割合は4.7%となっている。

問16 購入品目



購入品目は上のとおりで、「シャワーいす」が56.6%、「浴槽手すり」が55.4%となっている。

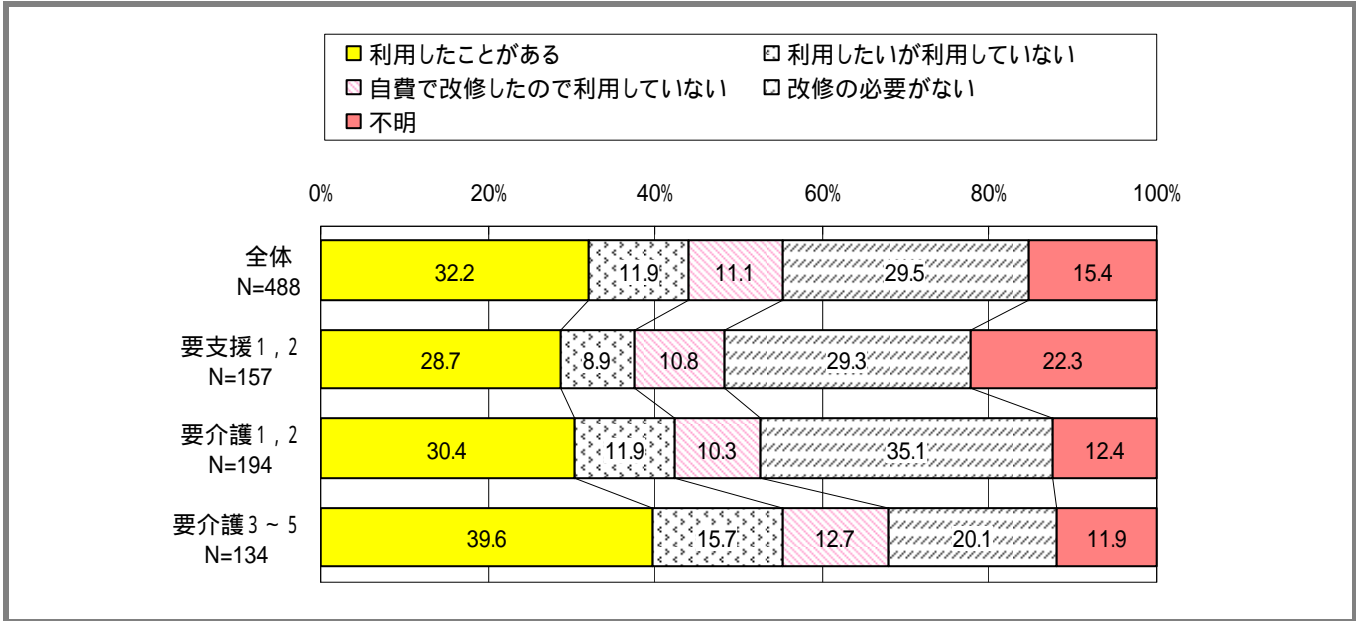
問16-1 福祉用具利用の効果はありましたか。(はいいくつでも)



福祉用具利用の効果をたずねたところ、「生活がしやすくなった」と回答した人の割合が71.5%と最も高く、「家族の介護の手間が軽減された」が45.0%で、それに続いている。

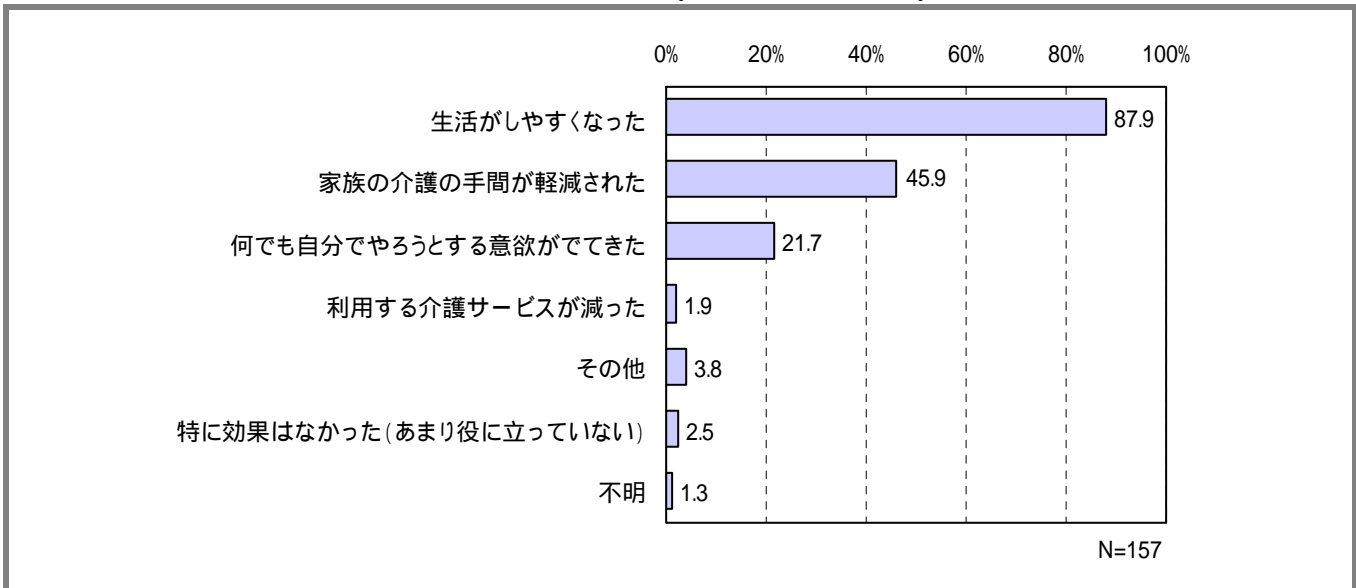
「特に効果はなかったなので、今は使っていない」と回答した人の割合は2.5%であった。

問17 これまでに住宅改修費の支給を利用したことがありますか。



住宅改修費の支給を「利用したことがある」と回答した人は全体の32.2%で、「利用したいが利用していない」と回答した人の割合は11.9%となっている。

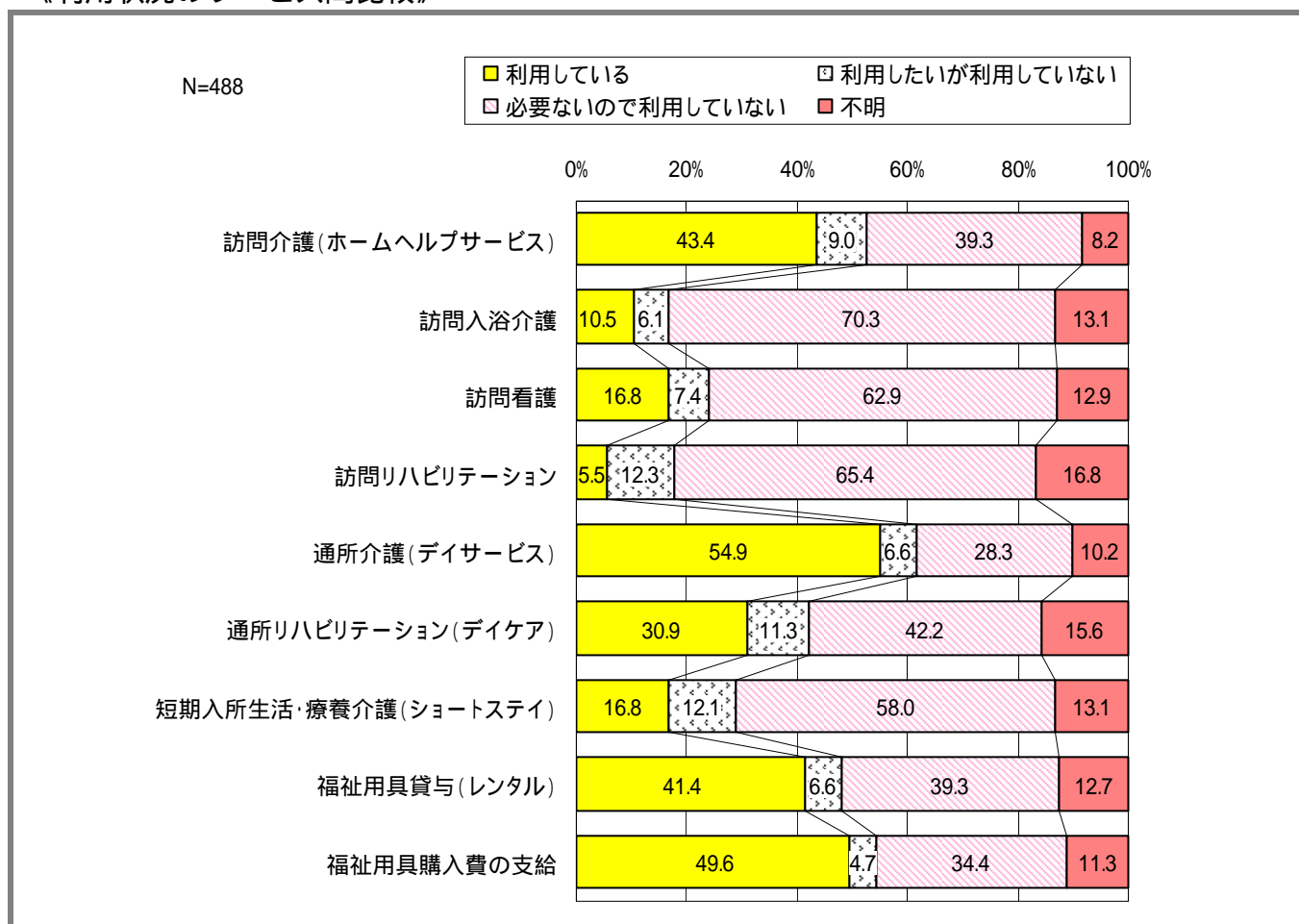
問17-1 住宅改修の効果はありましたか。(はいいくつでも)



住宅改修の効果をたずねたところ、「生活がしやすくなった」と回答した人の割合が87.9%と最も高く、「家族の介護の手間が軽減された」が45.9%で、それに続いている。

「特に効果はなかった(あまり役に立っていない)」と回答した人の割合は2.5%であった。

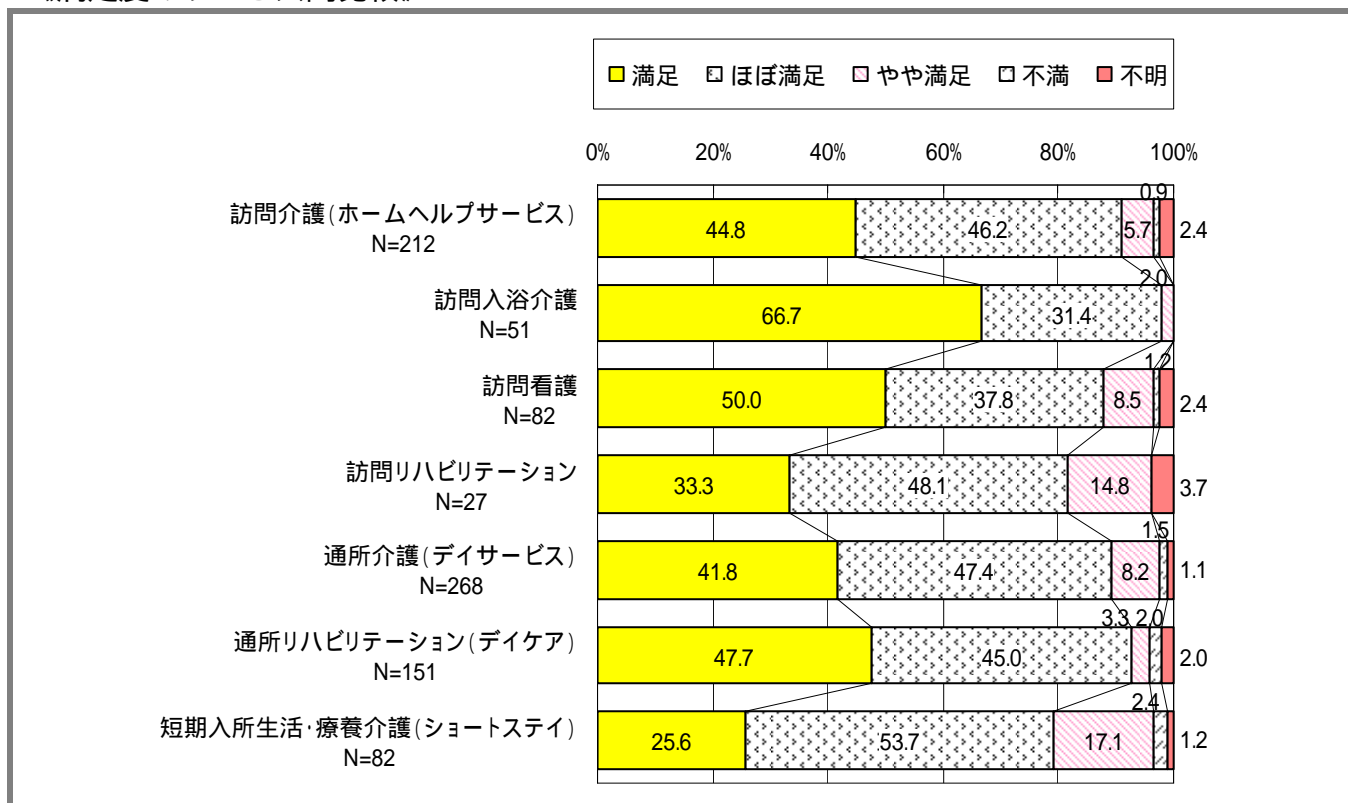
《利用状況のサービス間比較》



「利用している」という回答が最も多かったのは「通所介護(デイサービス)」(54.9%)で、以下、「福祉用具購入費の支給」(49.6%)、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」(43.4%)、「福祉用具貸与」(41.4%)と続いている。

「利用したいが利用していない」という回答が最も多かったのは「訪問リハビリテーション」(12.3%)で、その割合は「利用している」と回答した人の割合(5.5%)の2倍以上となっている。また、「短期入所生活・療養介護(ショートステイ)」についても、「利用している」16.8%に対し、「利用したいが利用していない」12.1%とかなり高い割合となっている。

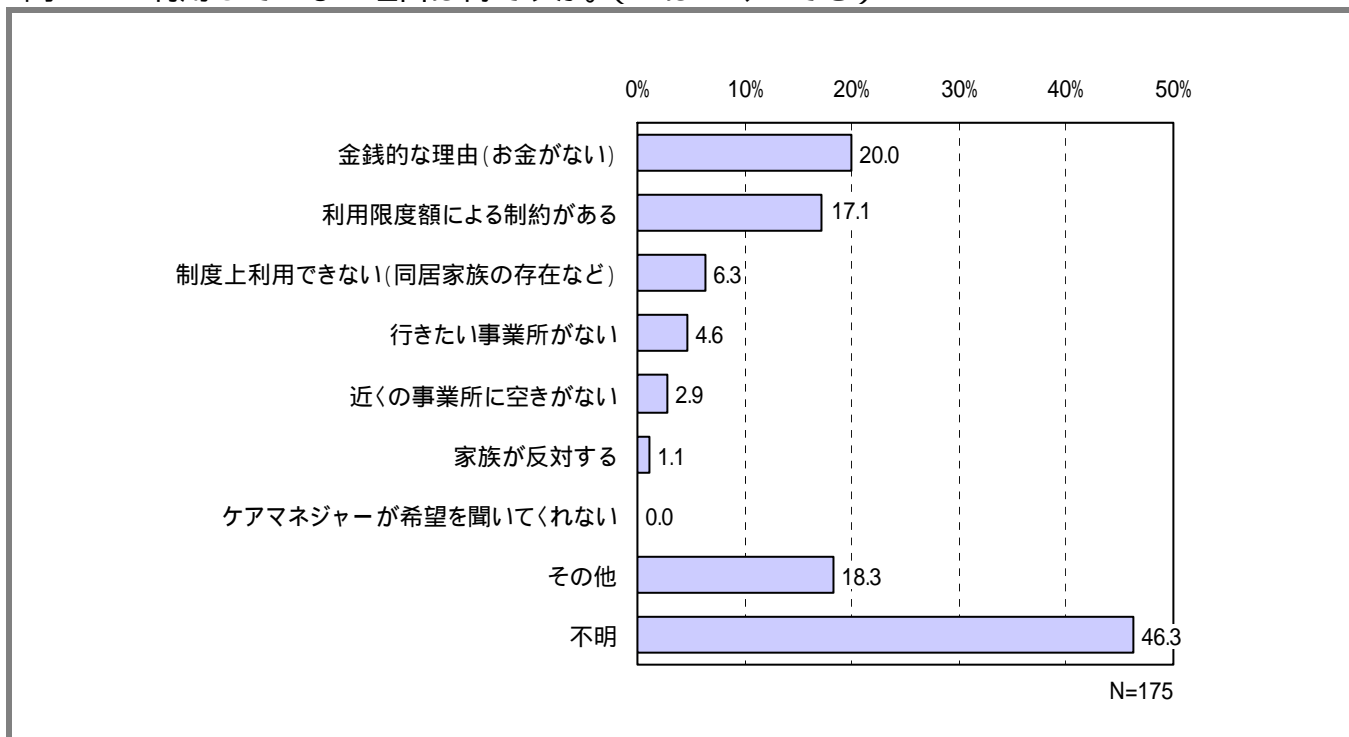
《満足度のサービス間比較》



サービス利用者の満足度が最も高かったのは「訪問入浴介護」で、「満足」または「ほぼ満足」と回答した人の割合は98.1%となっている。

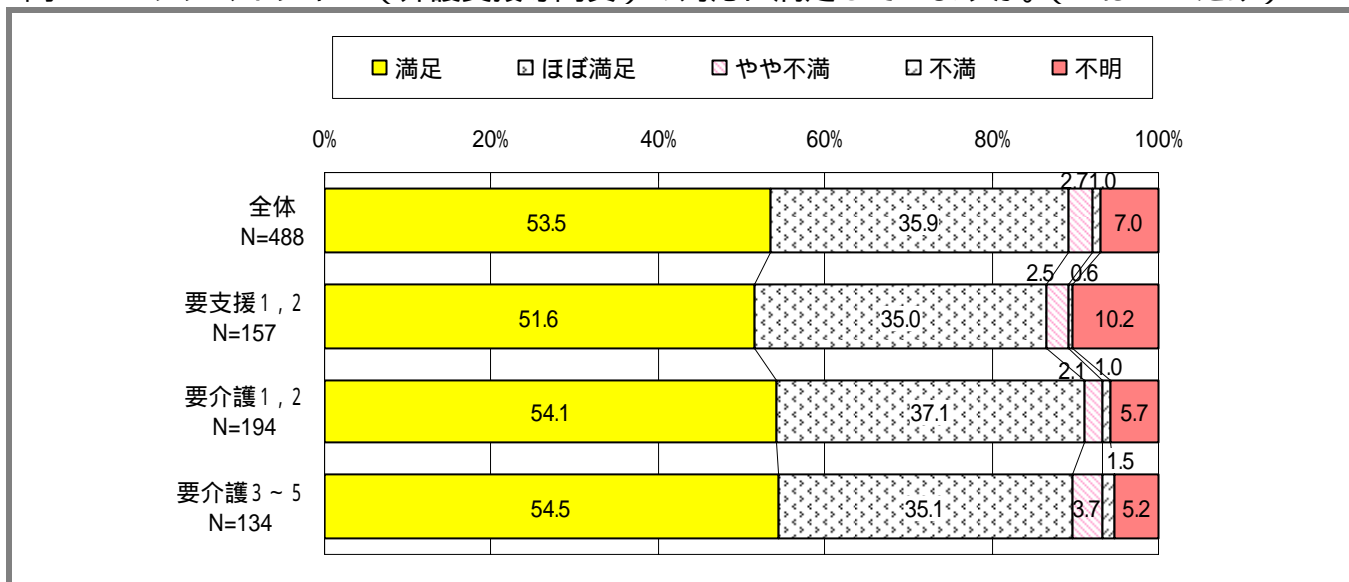
一方、満足度が最も低かったのは「短期入所・療養介護(ショートステイ)」で、「満足」または「ほぼ満足」と回答した人の割合は79.3%にとどまり、「やや不満」または「不満」と回答した人の割合が19.5%となっている。また、利用者数は少ないが、「訪問リハビリテーション」も「やや不満」と回答した人の割合が14.8%と比較的高くなっている。

（問8～17のいずれかで「2 利用したいが利用していない」と答えた方へ）
 問18 利用していない理由は何ですか。（はいくつでも）



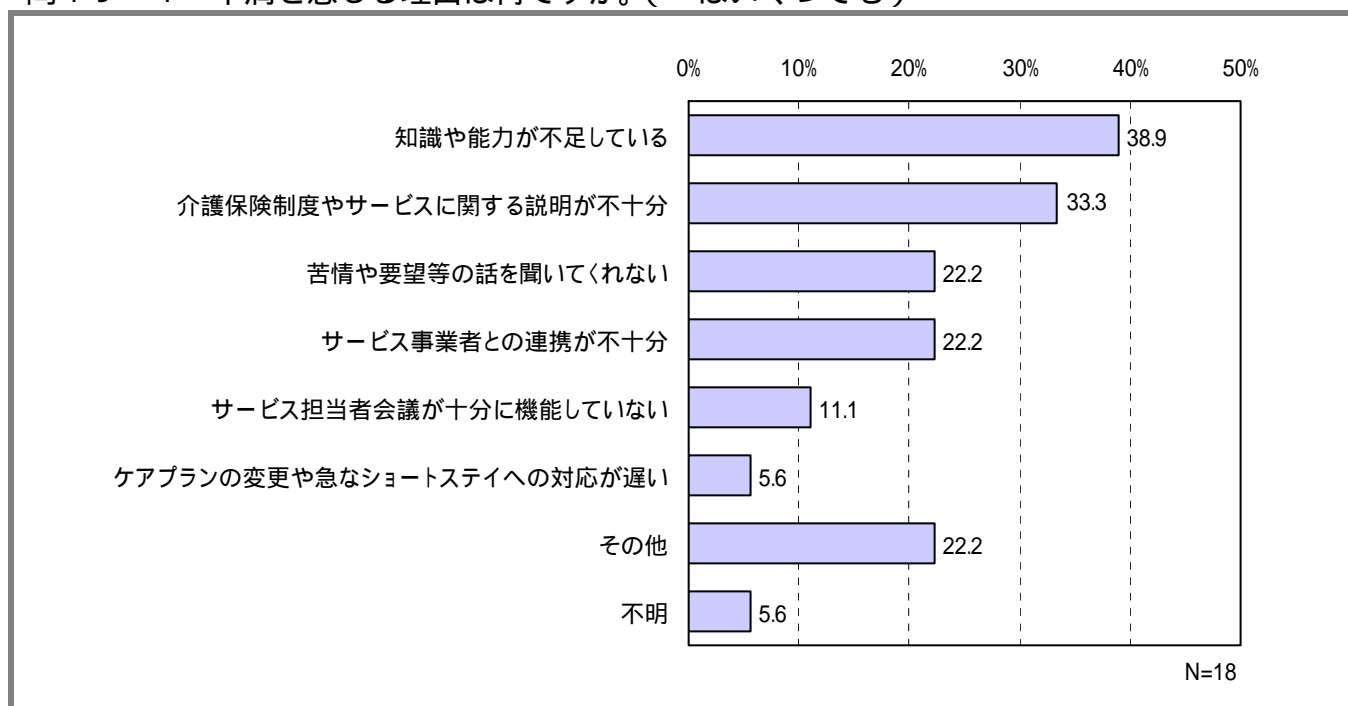
サービス利用の潜在的ニーズがあると思われる、各サービスについて「利用したいが利用していない」と回答した人に、利用していない理由をたずねたところ、「金銭的な理由(お金がない)」と回答した人が20.0%と最も多く、「利用限度額による制約がある」と回答した人が17.1%でそれに続いている。

問19 ケアマネジャー（介護支援専門員）の対応に満足していますか。（は1つだけ）



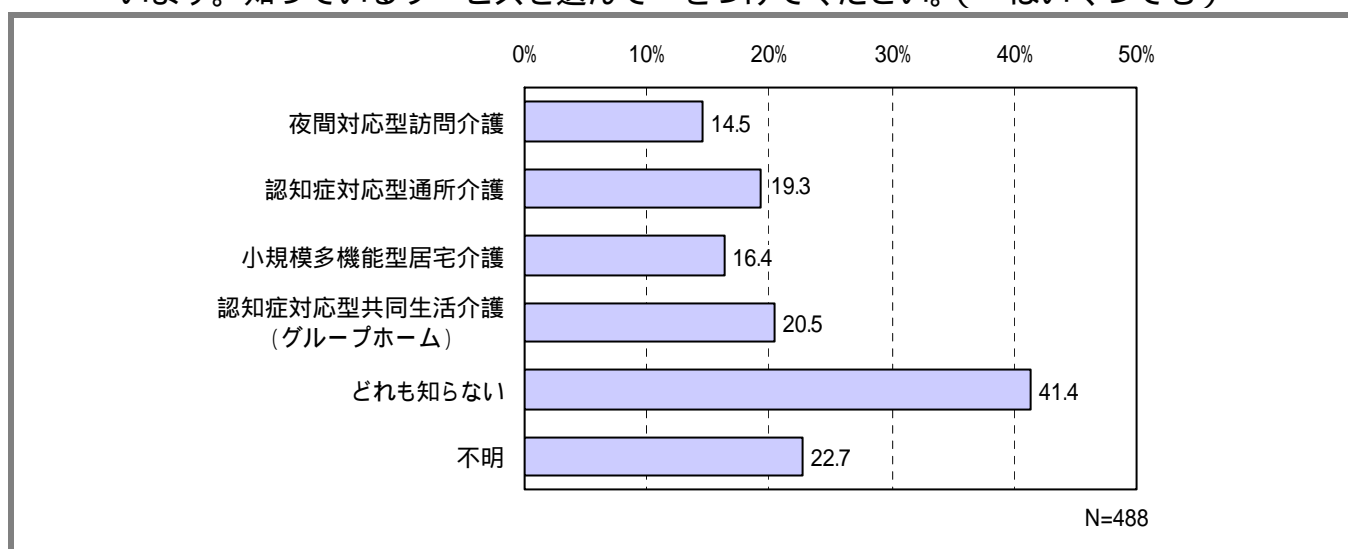
ケアマネジャー（介護支援専門員）の対応への満足度をたずねたところ、「満足」、「ほぼ満足」と回答した人の割合は全体の89.4%で、「やや不満」、「不満」と回答した人の割合は3.7%となっている。

問19-1 不満を感じる理由は何ですか。（はいくつでも）



ケアマネジャーの対応に不満を感じる人に理由をたずねた結果は上のとおりで、「知識や能力が不足している」という回答が38.9%と最も多く、以下、「介護保険制度やサービスに関する説明が不十分」(33.3%)、「苦情や要望等の話を聞いてくれない」、「サービス事業者との連携が不十分」(ともに22.2%)と続いている。

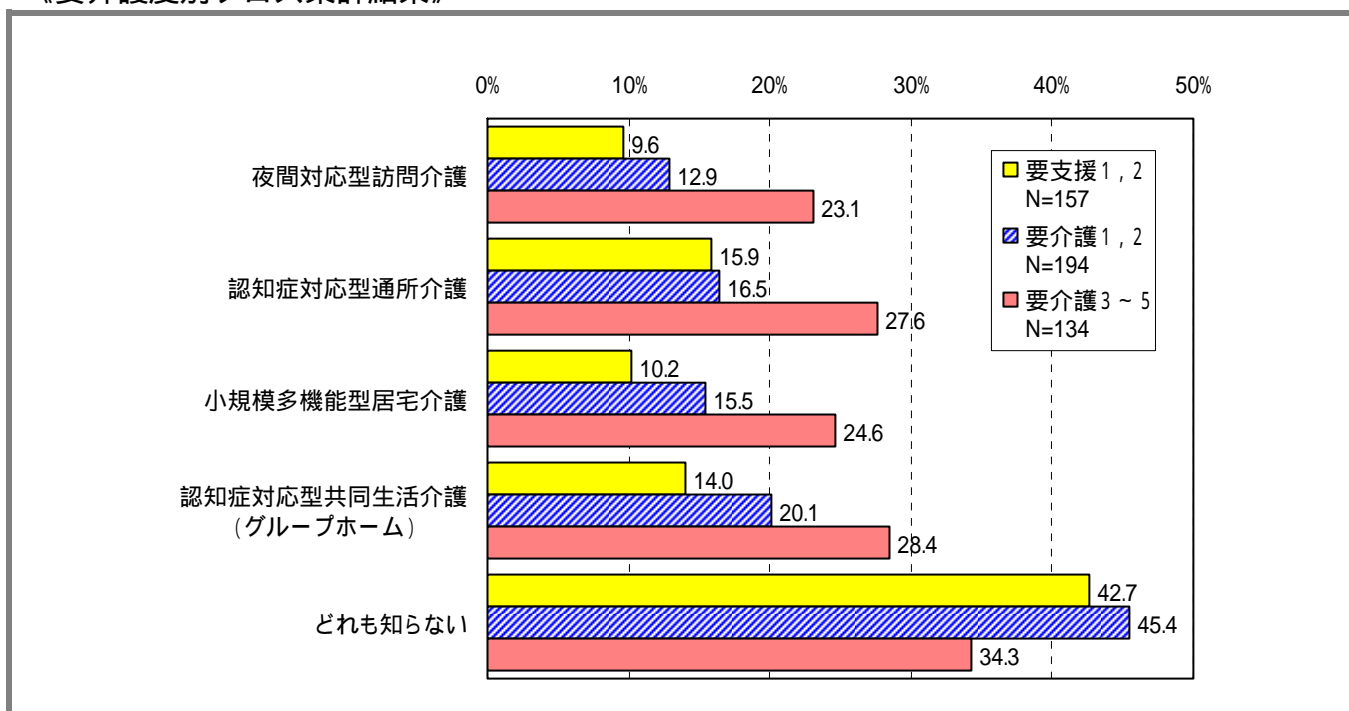
問20 平成18年度から、地域密着型サービスとして、以下の介護保険サービスが始まっています。知っているサービスを選んでをつけてください。（はいくつでも）



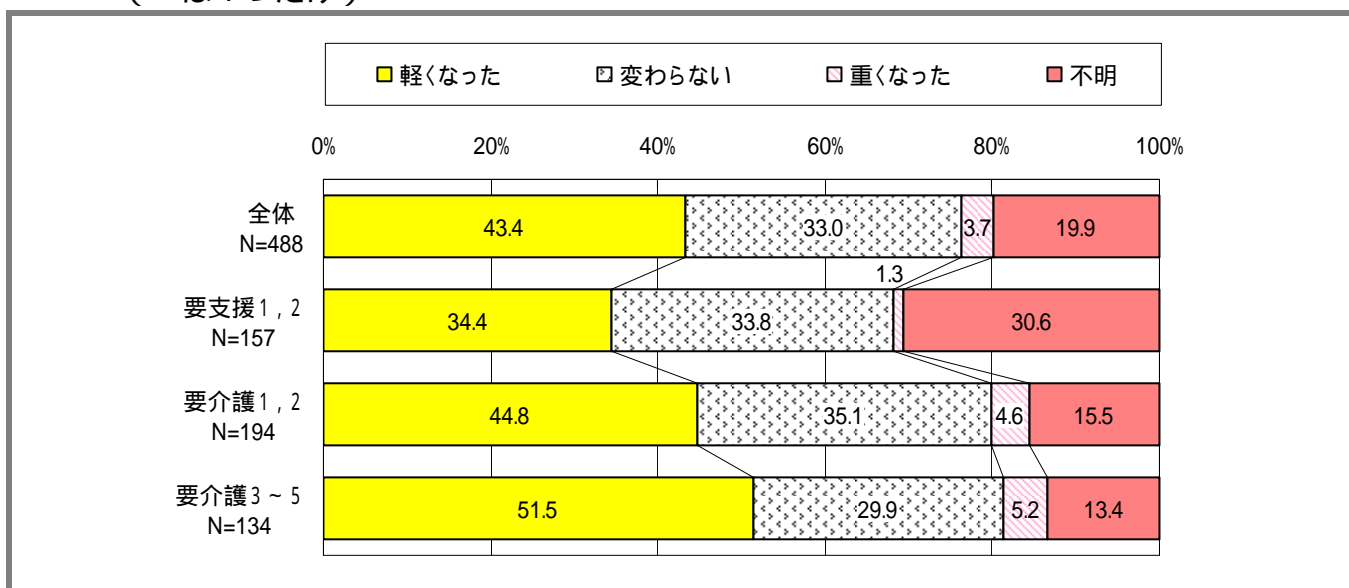
地域密着型サービスの認知度は上のとおりで、「どれも知らない」と回答した人の割合が41.4%と最も多くなっている。

要介護度別に見ると（次ページ参照）要介護度の高い方が認知度も高くなっている。

《要介護度別クロス集計結果》

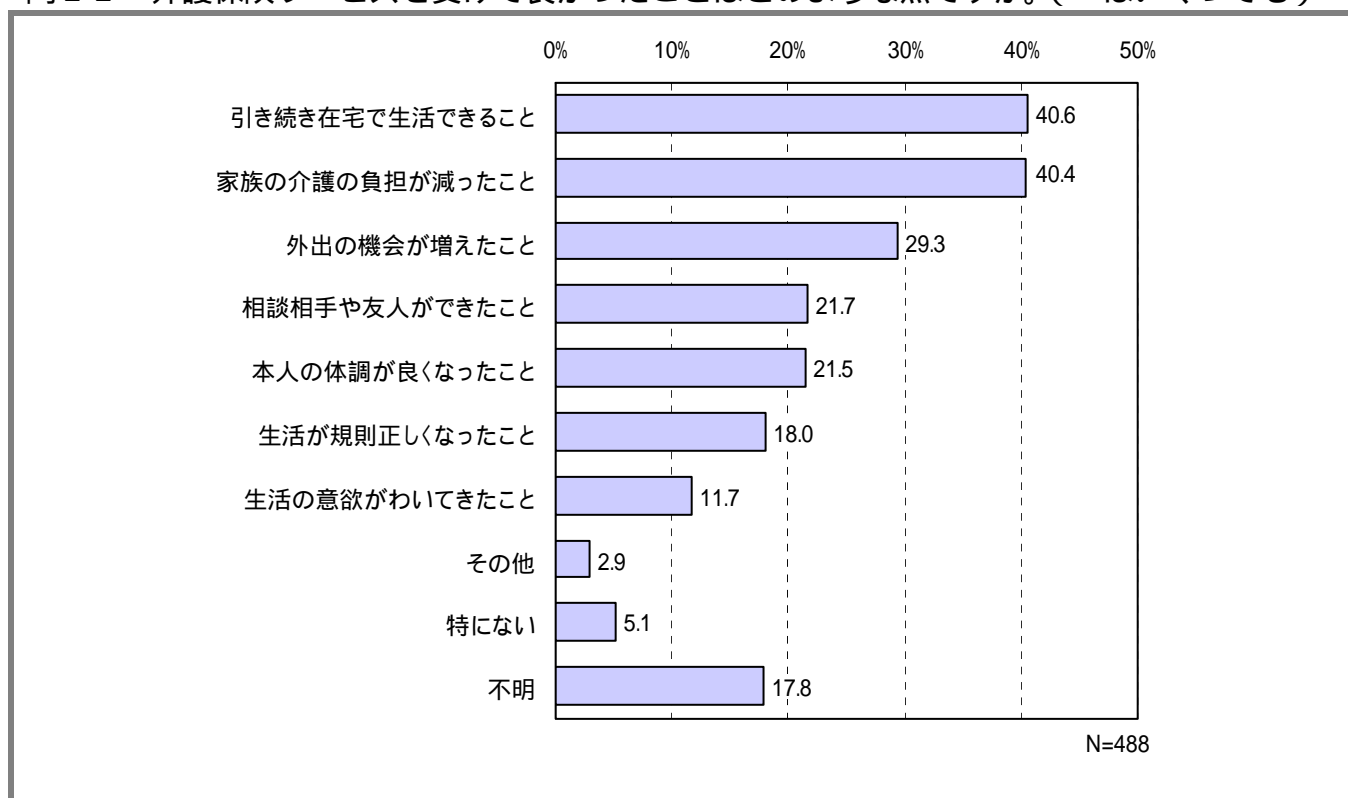


問2 1 介護保険サービスを利用するようになってから、介護状態は変わりましたか。
（ は1つだけ）



介護サービスを利用するようになってから、介護状態が「軽くなった」と回答した人の割合は全体の43.4%で、要介護度別に見ると、要介護度が重くなるにつれて「軽くなった」という回答割合が高くなっている。設問の本来の趣旨は要介護状態が改善したかどうかをたずねるものであったが、回答者の多くは「介護の負担」が軽くなったか、重くなったかをたずねたものと解釈した可能性が高いと思われる。

問22 介護保険サービスを受けて良かったことはどのような点ですか。（はいくつでも）

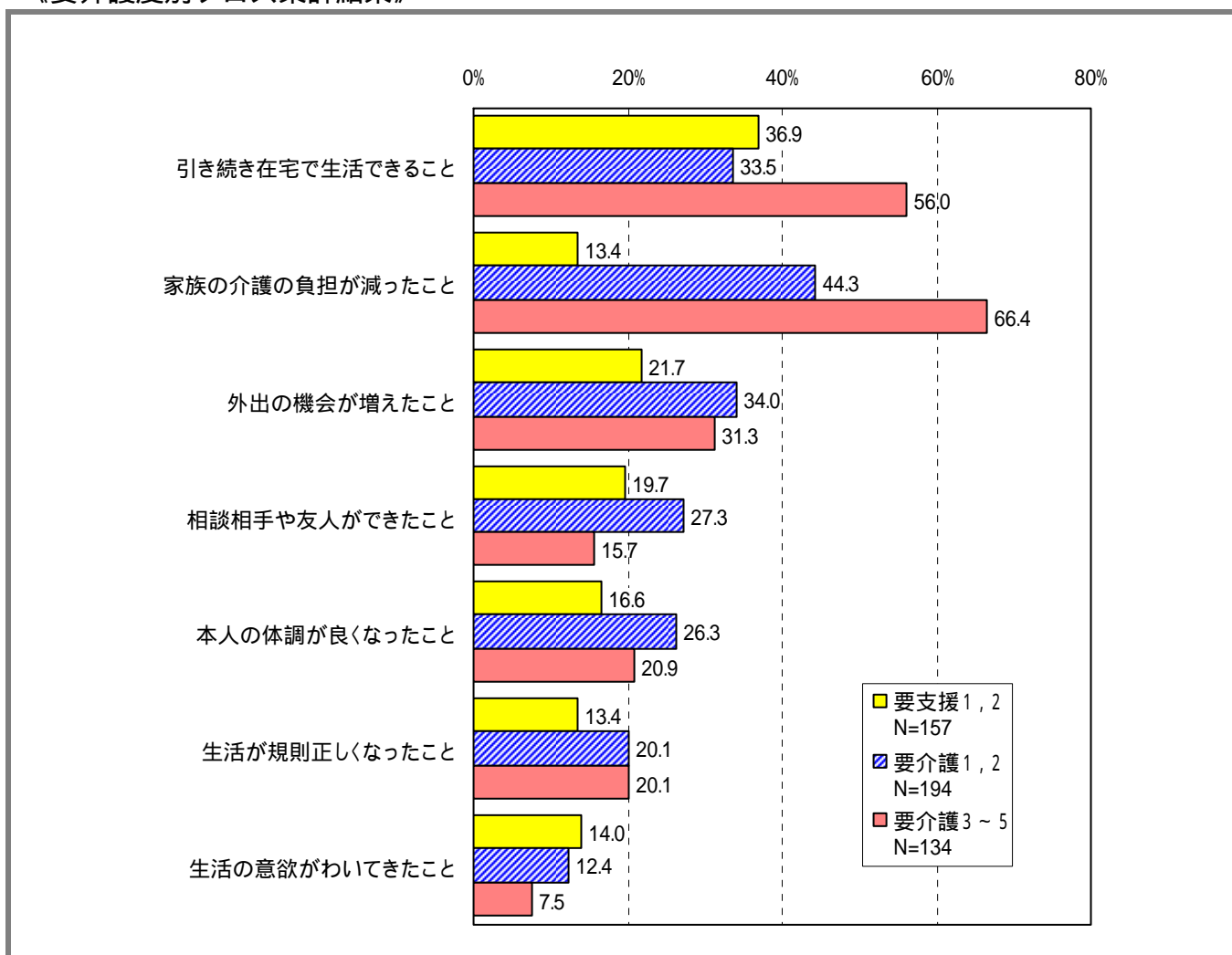


介護保険サービスを受けて良かった点をたずねたところ、「引き続き在宅で介護できること」（40.6%）と「家族の介護の負担が減ったこと」（40.4%）を挙げる回答者が多く、以下、「外出の機会が増えたこと」（29.3%）、「相談相手や友人ができたこと」（21.7%）、「本人の体調が良くなったこと」（21.5%）、「生活が規則正しくなったこと」（18.0%）と続いている。

要介護度別に見ると（次ページ参照）「要介護3～5」では、他の区分に比べ、「引き続き在宅で介護できること」と「家族の介護の負担が減ったこと」の回答割合の高さが目立っている。

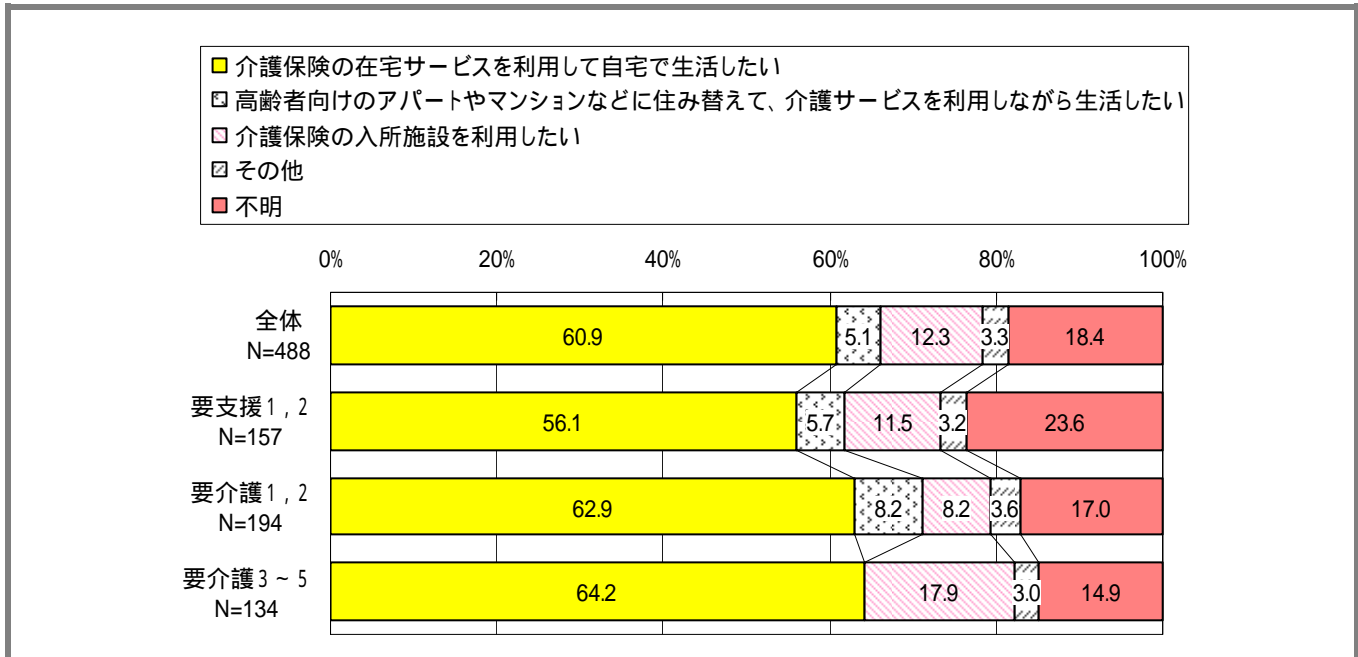
また、「本人の体調がよくなったこと」と回答した人の割合が最も高かったのは「要介護1,2」であった。

《要介護度別クロス集計結果》



．今後の介護希望について

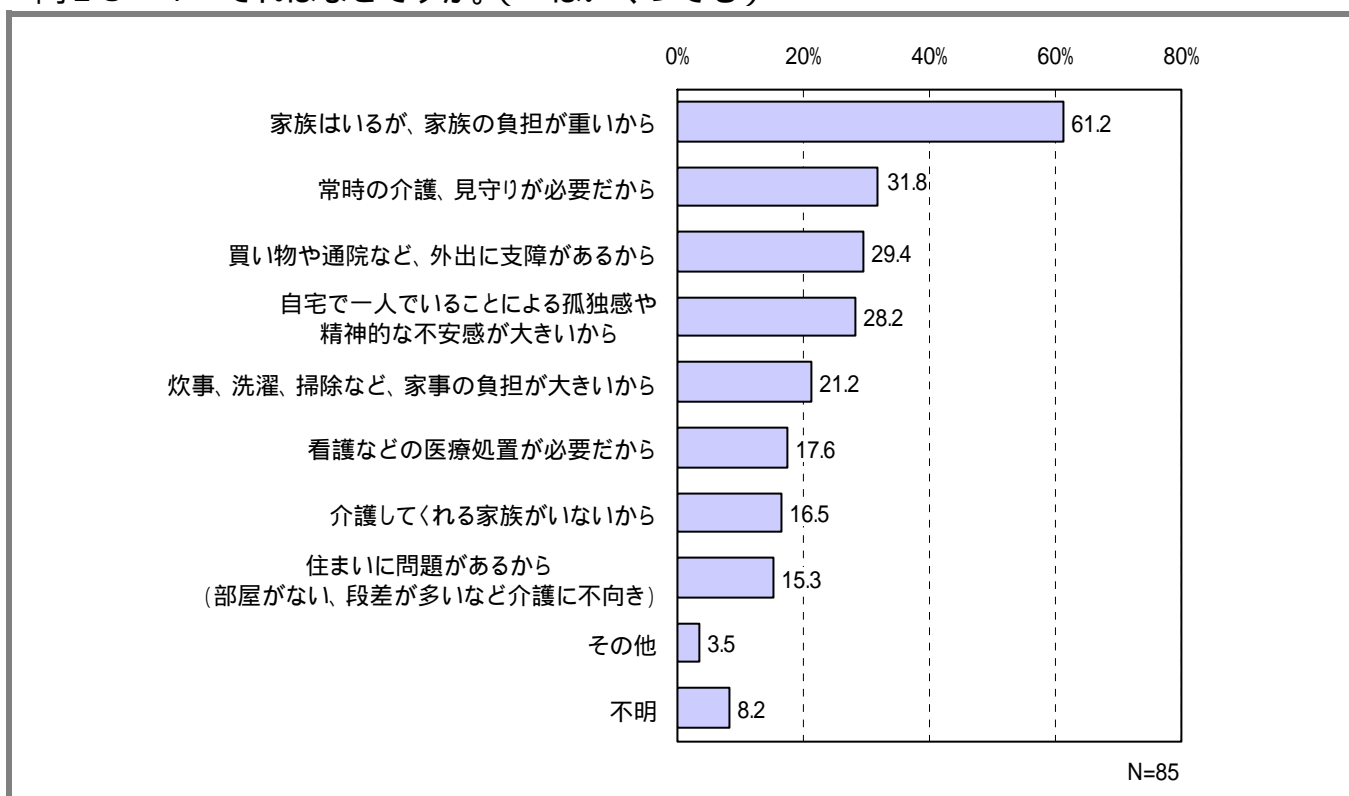
問23 今後、どのように介護してほしいと思いますか。（ は1つだけ）



今後、どのように介護してほしいと思うかたずねたところ、「介護保険の在宅サービスを利用して自宅で生活したい」と回答した人が全体の60.9%と最も多くなっている。

要介護度別に見ても、全区分で「介護保険の在宅サービスを利用して自宅で生活したい」という回答割合が最も高くなっているが、「介護保険の入所施設を利用したい」と回答した人の割合が最も高かったのは「要介護3～5」であった。

(問23で「2」または「3」を答えた方へ)
問23-1 それはなぜですか。(はいくつでも)

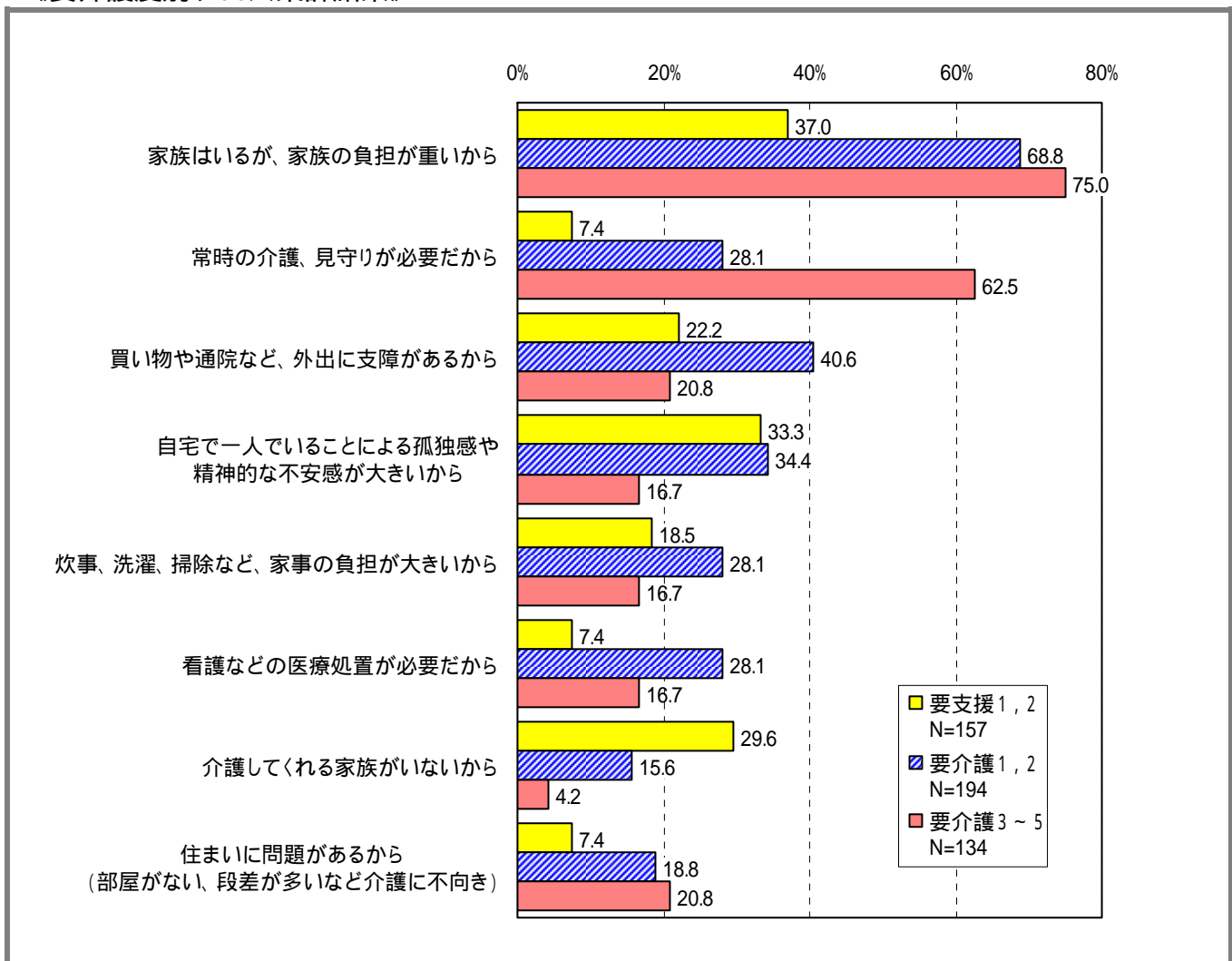


前問で在宅以外での介護を希望した人にその理由をたずねたところ、「家族はいるが、家族の負担が重いから」が61.2%と最も多く、以下、「常時の介護、見守りが必要だから」が31.8%、「買い物や通院など、外出に支障があるから」が29.4%、「自宅で一人にいることによる孤独感や精神的な不安感が大きいから」が28.2%でそれに続いている。

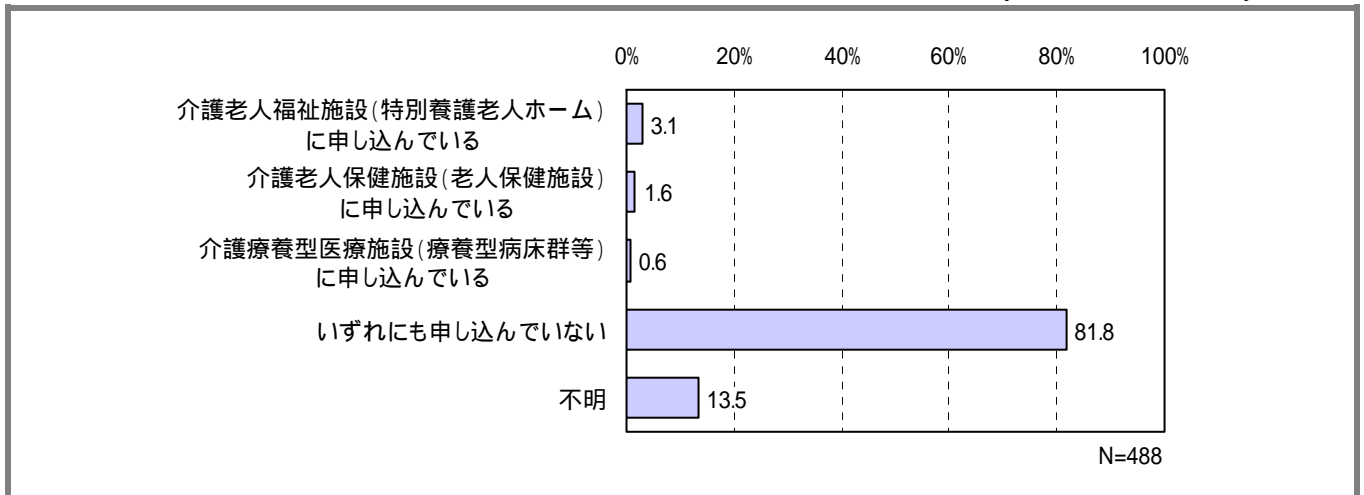
要介護度別に見ると(次ページ参照)「家族はいるが、家族の負担が重いから」という回答は全ての区分で最も高い割合となっているが、「要介護3～5」では「常時の介護、見守りが必要だから」、「要介護1,2」では「買い物や通院など、外出に支障があるから」、「要支援1,2」では「自宅で一人にいることによる孤独感や精神的な不安感が大きいから」が、それぞれ2番目に高い割合となっている。

「要支援1,2」で「自宅で一人にいることによる孤独感や精神的な不安感が大きいから」や「介護してくれる家族がないから」という回答割合が高くなっているのは、「1人暮らし」の割合が高い(p67参照)ことも影響していると思われる。

《要介護度別クロス集計結果》



問2-4 あなたは現在、介護保険施設に入所の申込をしていますか。(はいいくつでも)



介護保険施設への入所申込状況をたずねたところ、前問で在宅以外での介護を希望した人にその理由をたずねたところ、「介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)に申し込んでいる」と回答した人が3.1%、「介護老人保健施設(老人保健施設)に申し込んでいる」と回答した人が1.6%、「介護療養型医療施設(療養型病床群等)に申し込んでいる」と回答した人が0.6%となっている。

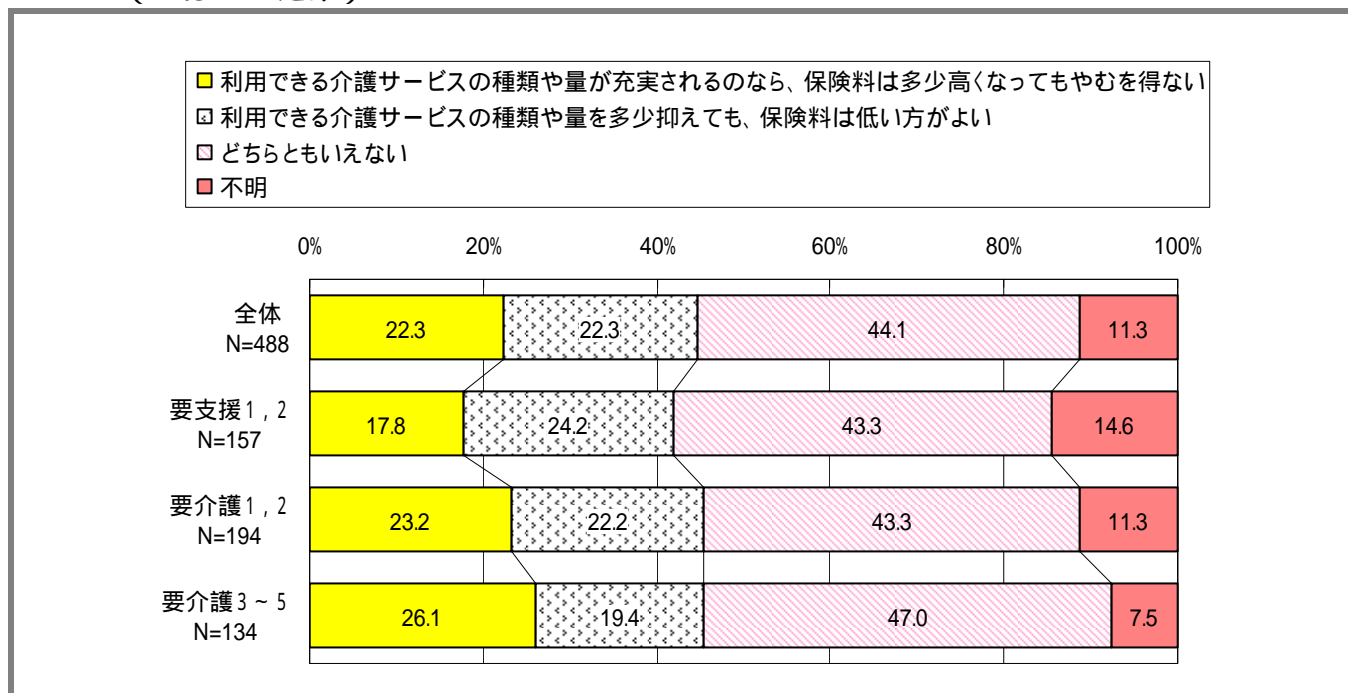
「いずれにも申し込んでいない」人は81.8%であった。

・介護保険制度について

問25 介護保険制度では、介護サービスを利用する人が増えたり、利用できる介護サービスの種類や量が充実すれば、介護保険料が高くなることとなります。

介護保険料と介護サービスのあり方について、どのようにお考えですか。

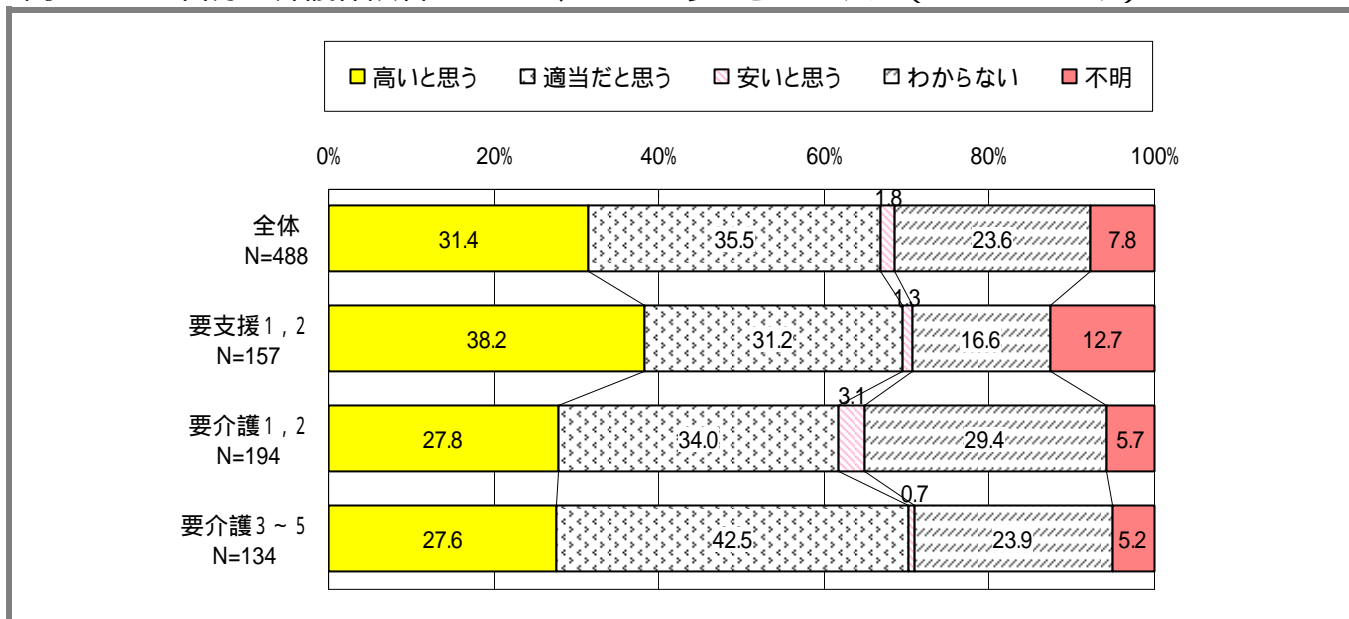
（ は1つだけ）



介護保険の給付と負担の関係について「利用できる介護サービスの種類や量が充実されるのなら、保険料は多少高くなってもらってもやむを得ない」と考えるか、「利用できる介護サービスの種類や量を多少抑えても、保険料は低い方がよい」と考えるかをたずねたところ、全体ではともに22.3%と同じ割合を示している。要介護認定を受けていない人に対する調査結果（p61 参照）に比べると、「保険料は低い方がよい」という回答割合がかなり低くなっている。

また、要介護度別に見ると、要介護度が高くなるにつれて「保険料は多少高くなってもらってもやむを得ない」という回答割合が高くなっている。

問26 ご自分の介護保険料について、どのように思いますか(は1つだけ)

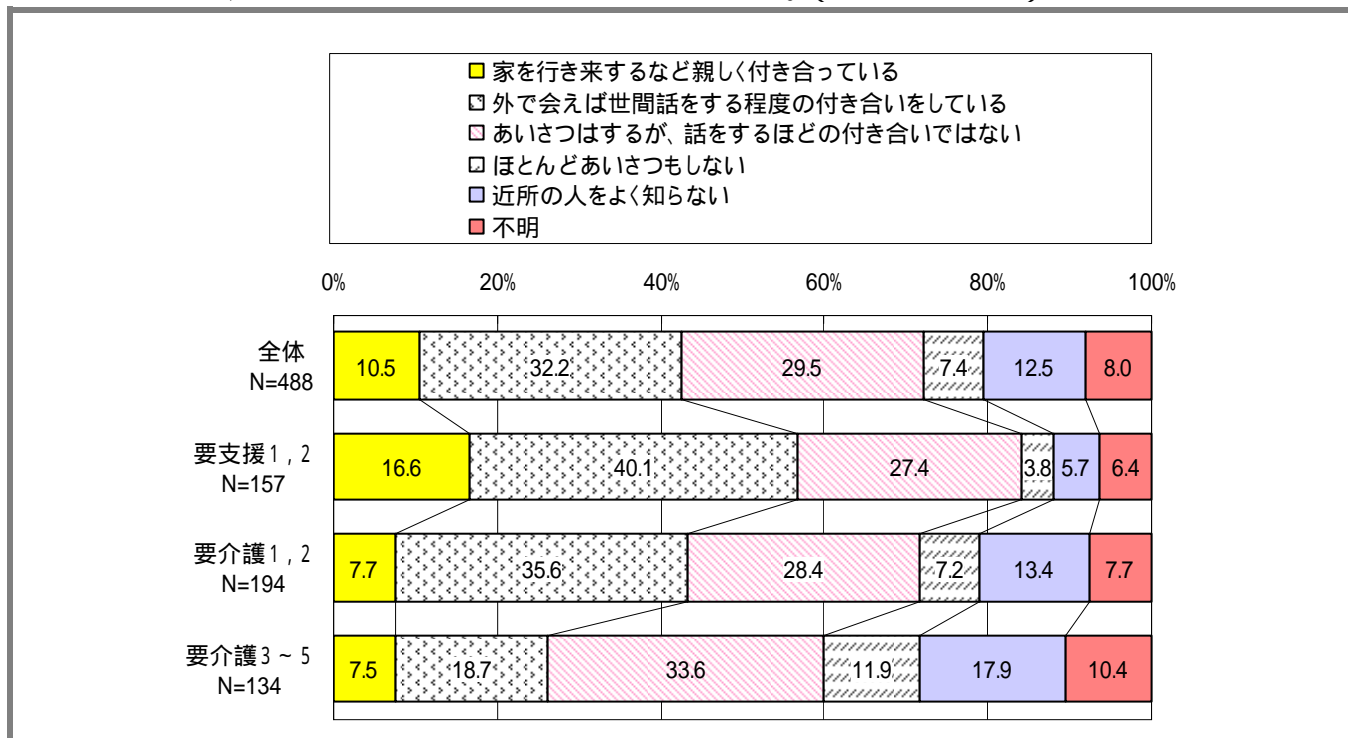


自分の介護保険料については、「適当だと思う」という回答割合が全体の35.5%と最も高く、「高いと思う」の31.4%を4.1ポイント上回っている。要介護認定を受けていない人に対する調査結果(p62参照)に比べると、「高いと思う」という回答割合がかなり低くなっている。

要介護度別に見ると、「要支援1,2」では、「高いと思う」(38.2%)が「適当だと思う」(31.2%)を7ポイント上回っているが、「要介護1,2」では「適当だと思う」(34.0%)が「高いと思う」(27.8%)を6.2ポイント上回り、「要介護3~5」では、さらにその差が14.9ポイントまで開いている。

・地域との交流について

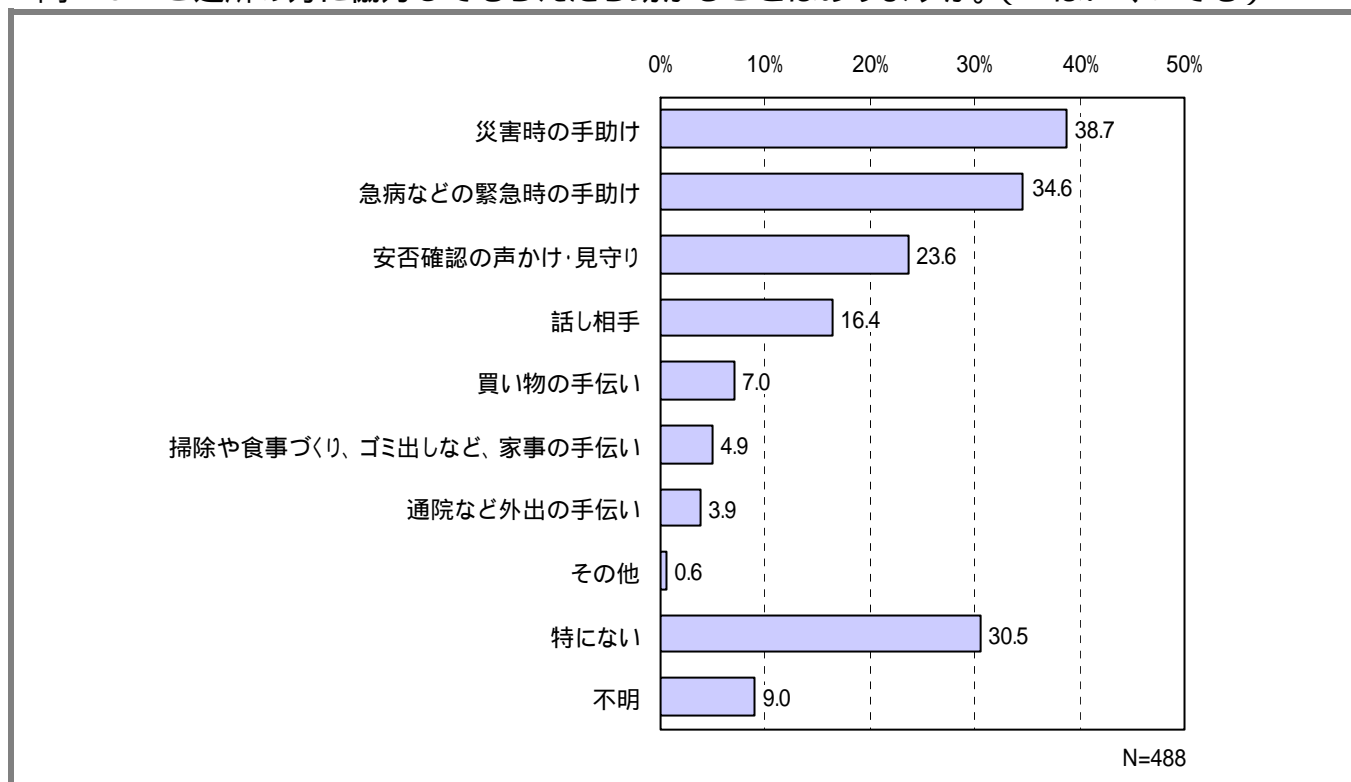
問27 現在、どの程度近所付き合いをしていますか。（ は1つだけ）



近所付き合いの程度については、「外で会えば世間話をする程度の付き合いをしている」と回答した人の割合が全体の32.2%と最も高く、「家を行き来するなど親しく付き合っている」と回答した人を合わせると、42.7%の人はある程度近所付き合いの実態があると考えられるが、要介護認定を受けていない人に対する調査結果（p36 参照）と比べると、かなりその割合が低くなっていることがわかる。

また、要介護度別に見た場合、要介護度が高くなるにつれて、近所づきあいの程度が希薄化していく様子もうかがえる。

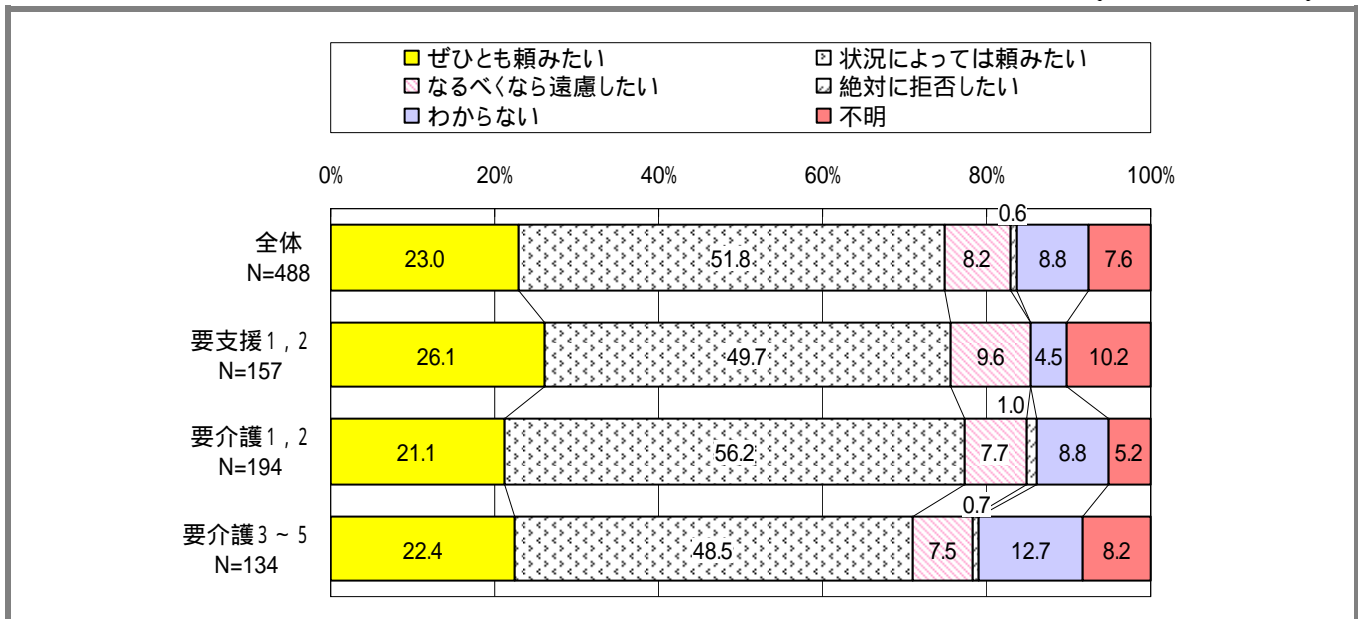
問28 ご近所の方に協力してもらえたら助かることはありますか。(はいいくつでも)



近所の方に協力してもらえたら助かるかどうかたずねたところ、「特にない」と回答した人の割合は全体の30.5%で、要介護認定を受けていない方を対象とした調査結果(p38参照)に比べると、かなり減少していることがわかる。

要介護認定を受けていない方を対象とした調査結果と同様、選択された割合の高かった項目は、「災害時の手助け」(38.7%)や「急病など緊急時の手助け」(34.6%)で、平時のものとしては、「安否確認の声かけ・見守り」(23.6%)や「話し相手」(16.4%)が上位に挙がっている。

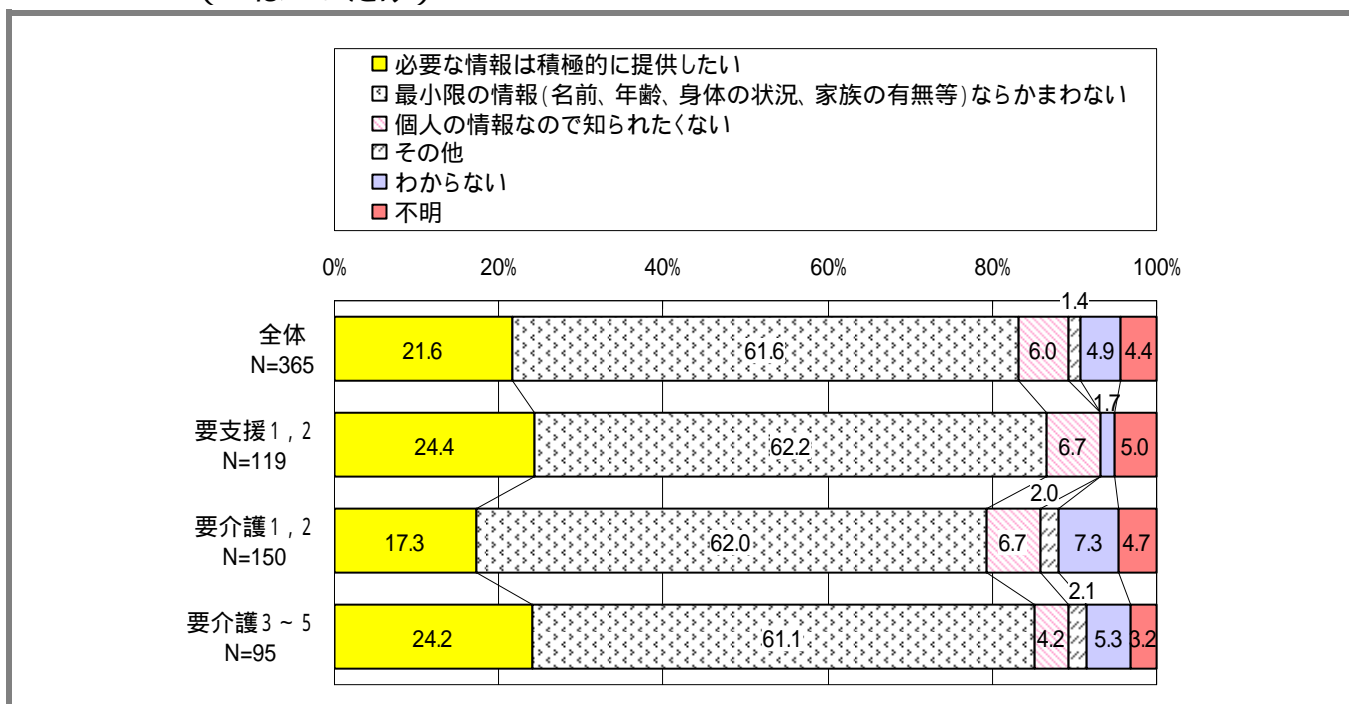
問29 急にお体の具合が悪くなったり、災害が起きたりしたときに、ご近所や自治会などによる声かけや簡単な援助をしてもらうことについてどう思いますか。（ は1つだけ）



急に体の具合が悪くなったり、災害が起きたりしたときに、近所や自治会などによる声かけや簡単な援助をしてもらうことについてどう思うか、たずねたところ、「状況によっては頼みたい」と回答した人の割合が全体の51.8%と最も高くなっているが、要介護認定を受けていない方を対象とした調査結果（p41参照）に比べると、「ぜひとも頼みたい」と回答した人の割合が7.3ポイント高くなっている。

(問29で「1」または「2」と答えた方へ)

問29-1 その場合、あなたのお名前や住所等について事前に自治会などにお知らせしておく必要がありますが、それについてはどのようにお考えですか。
(は1つだけ)



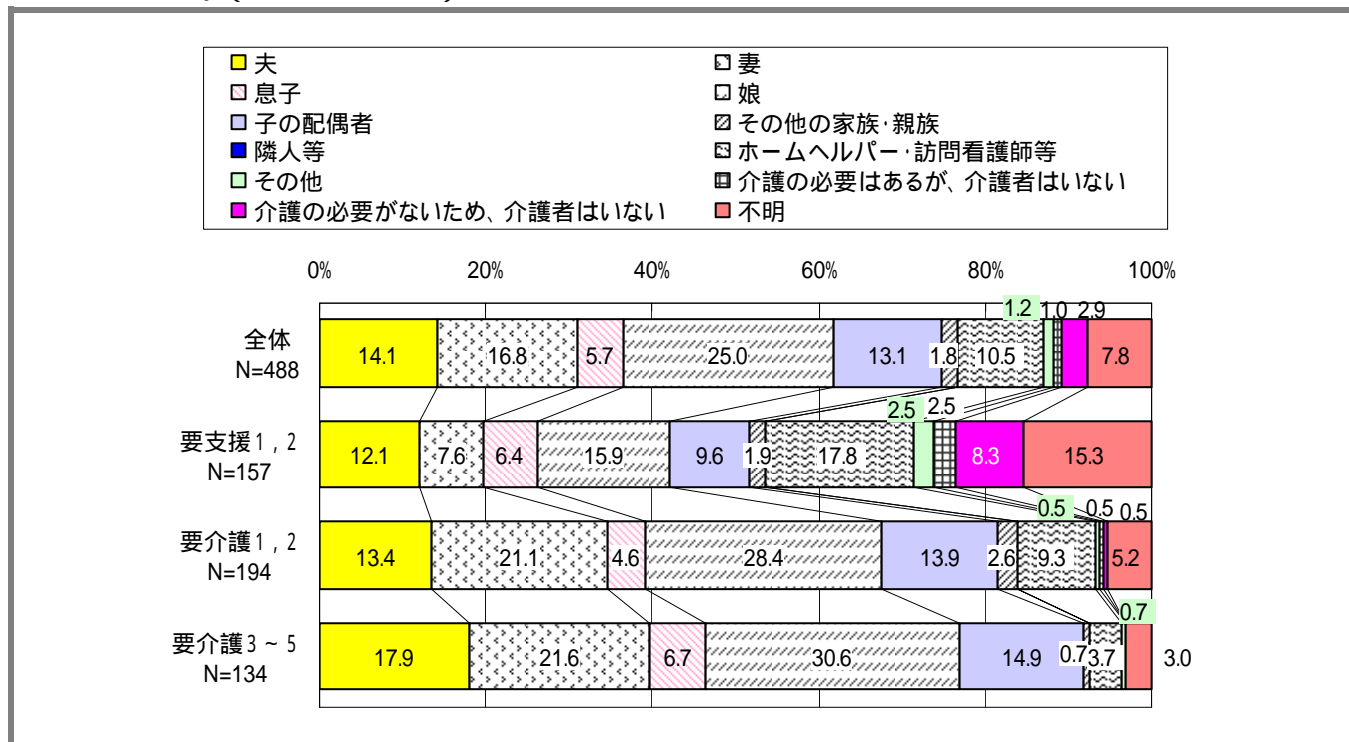
前問で「1」または「2」と回答した人に、個人の情報提供に関する考え方をたずねたところ、「最小限の情報(名前、年齢、身体の状態、家族の有無等)ならかまわない」と回答した人の割合が61.6%と最も高く、「必要情報は積極的に提供したい」と回答した人の割合(21.6%)を大きく上回っている。

また、「個人の情報なので知られたくない」と回答した人の割合は6.0%であった。

なお、この設問については、要介護認定を受けていない方を対象とした調査結果(p42 参照)と比べても目立った違いは見られなかった。

・介護者について

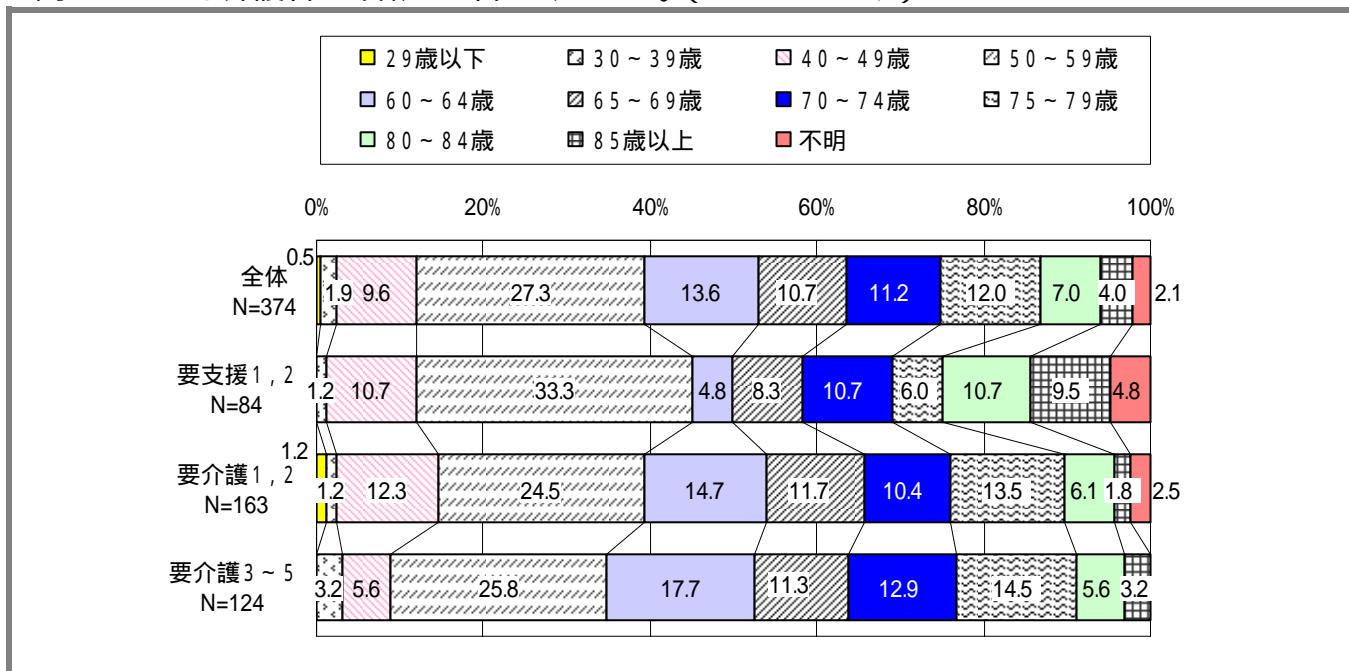
問30 日ごろ、介護しているのは主にどなたですか。対象者からみた続柄をお答えください。（は1つだけ）



主な介護者をたずねたところ、「娘」という回答割合が全体の25.0%と最も高く、以下、「妻」（16.8%）、「夫」（14.1%）、「子の配偶者」（13.1%）と続いている。

要介護度別に見た場合、「要支援1,2」で「ホームヘルパー・訪問看護師等」の割合（17.8%）が高くなっているのは、「1人暮らし」の割合が高い（p67参照）ことも影響していると思われる。

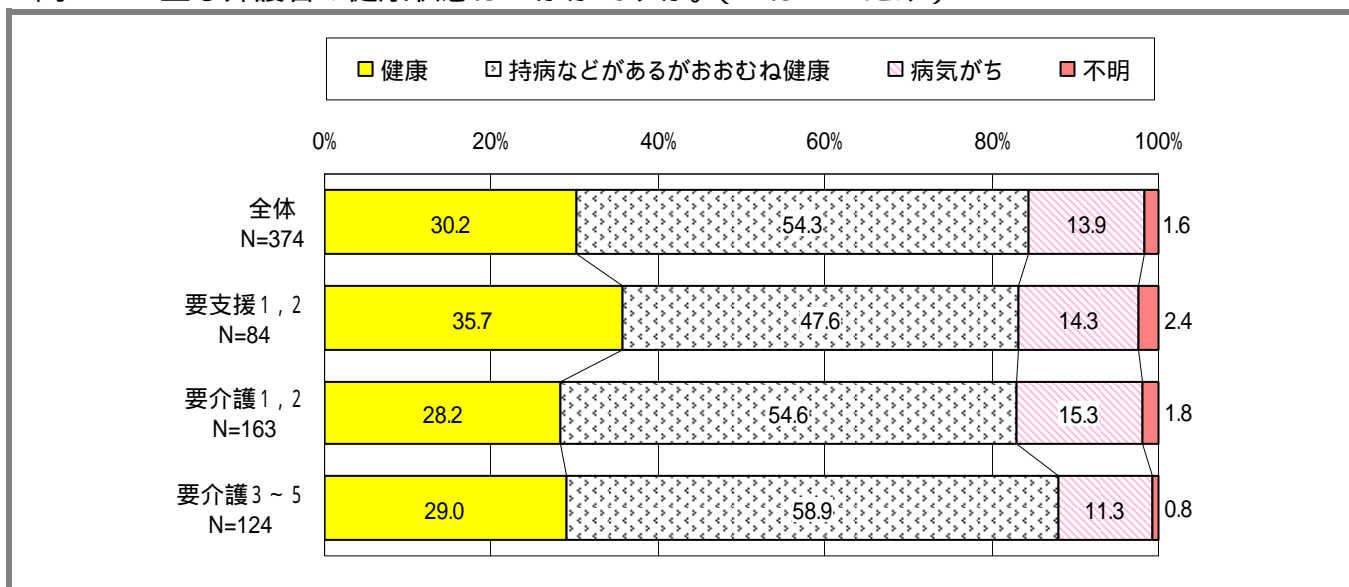
問3 1 主な介護者の年齢をお答えください。（ は1つだけ）



前問で主な介護者として家族、親族を回答した方に、その介護者の年齢をたずねたところ、全体の44.9%が65歳以上となっており、いわゆる「老老介護」の状態にあることがわかる。

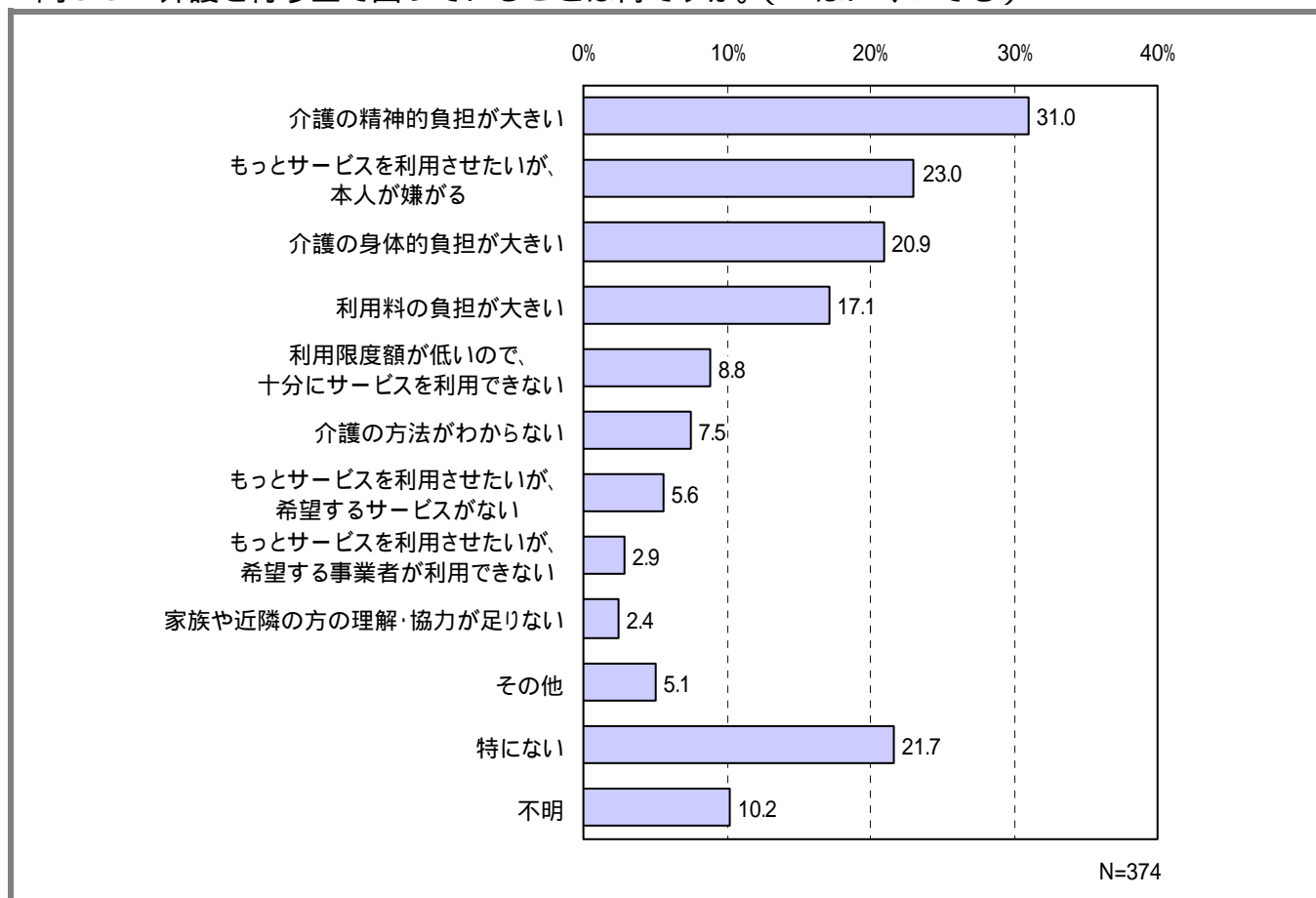
また、「要介護3～5」の方を介護する75歳以上の方が23.3%も存在しており、これらの方々には特に何らかの支援が必要と思われる。

問3 2 主な介護者の健康状態はいかがですか。（ は1つだけ）



主な介護者の健康状態をたずねたところ、「病気がち」と回答した人の割合は全体の13.9%に上り、持病もなく「健康」な状態にある人は全体の30.2%であった。

問33 介護を行う上で困っていることは何ですか。（はいいくつでも）

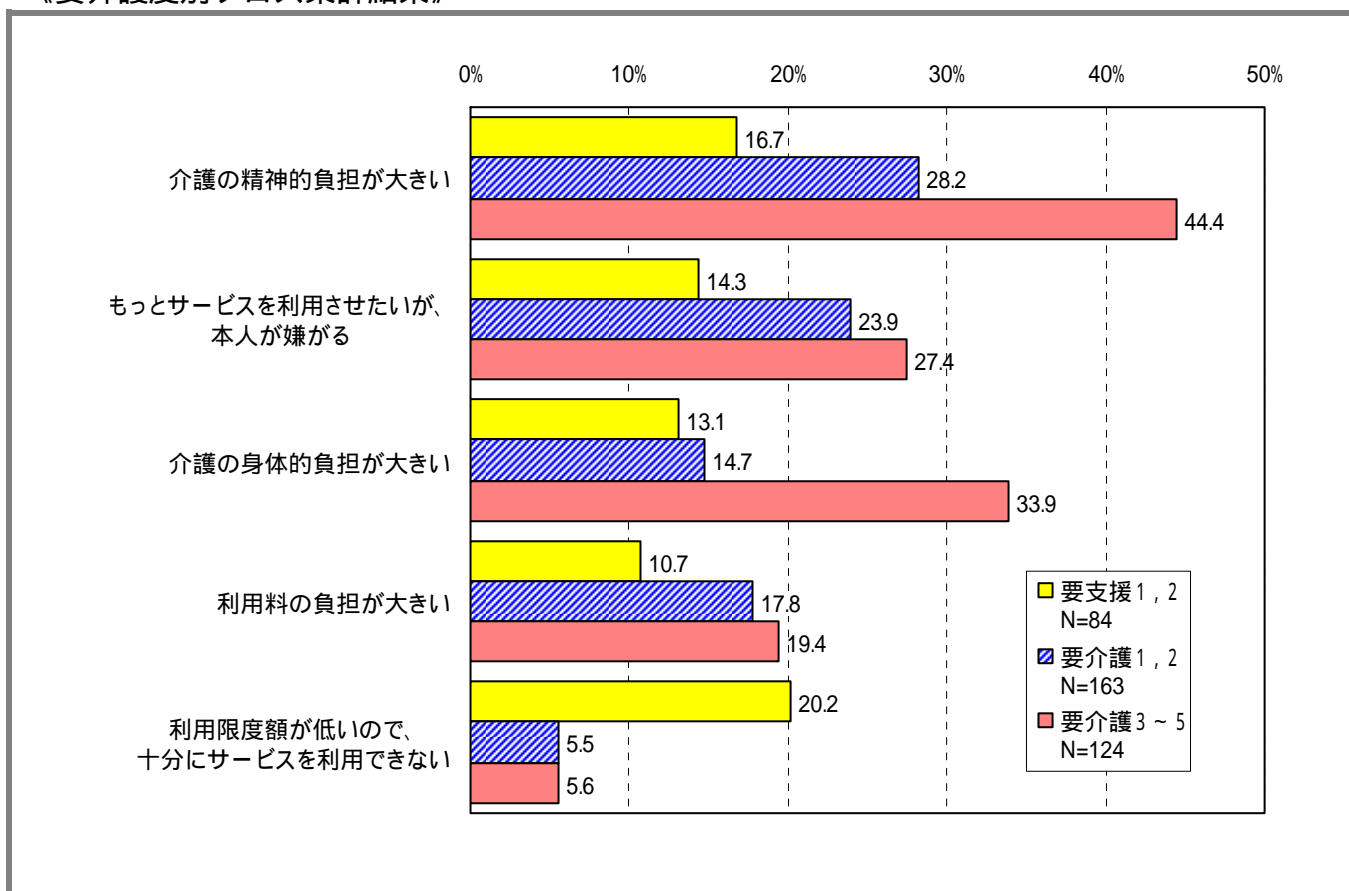


主な介護者に介護を行う上で困っていることをたずねたところ、「介護の精神的不安が大きい」という回答が 31.0%と最も多く、次いで「もっとサービスを利用させたいが、本人が嫌がる」が 23.0%、「介護の身体的負担が大きい」が 20.9%、「利用料の負担が大きい」が 17.1%と続いている。

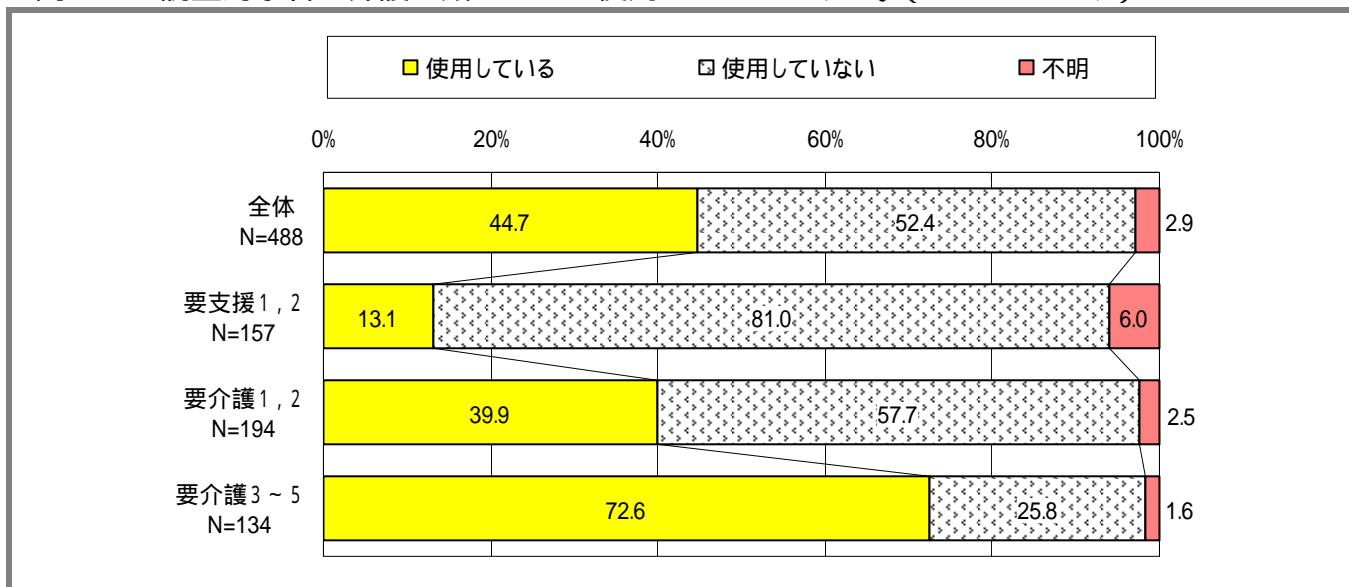
本人の要介護度別に見ると（次ページ参照）要介護度が重くなるにつれて、介護の精神的、身体的負担も重くなっていることがわかる。

また、「要支援1, 2」では、「利用限度額が低いので、十分にサービスを利用できない」という回答割合（20.2%）が最も高くなっている。

《要介護度別クロス集計結果》



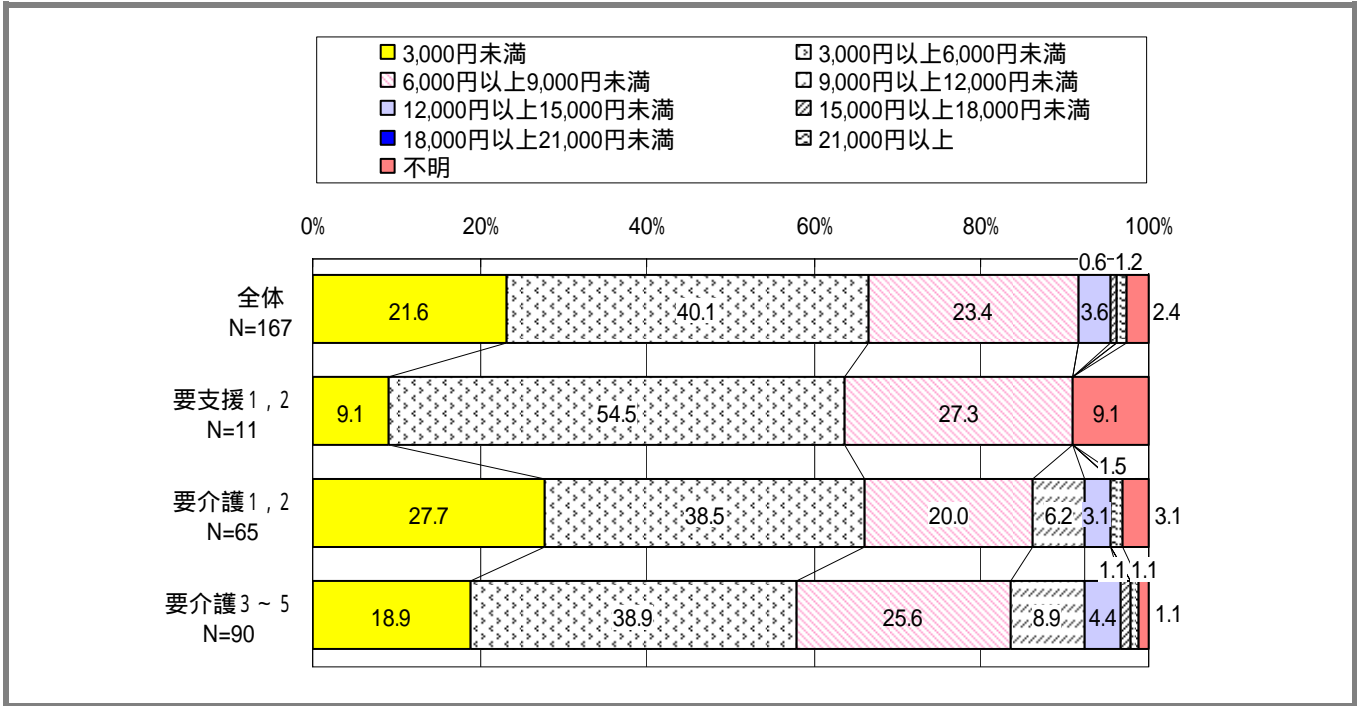
問3 4 調査対象者の介護に紙おむつを使用されていますか。（ は1つだけ）



介護に紙おむつを「使用している」と回答した人の割合は全体の44.7%で、「要介護3～5」では72.6%と、特に高い割合となっている。

（問34で「1 使用している」と答えた方へ）

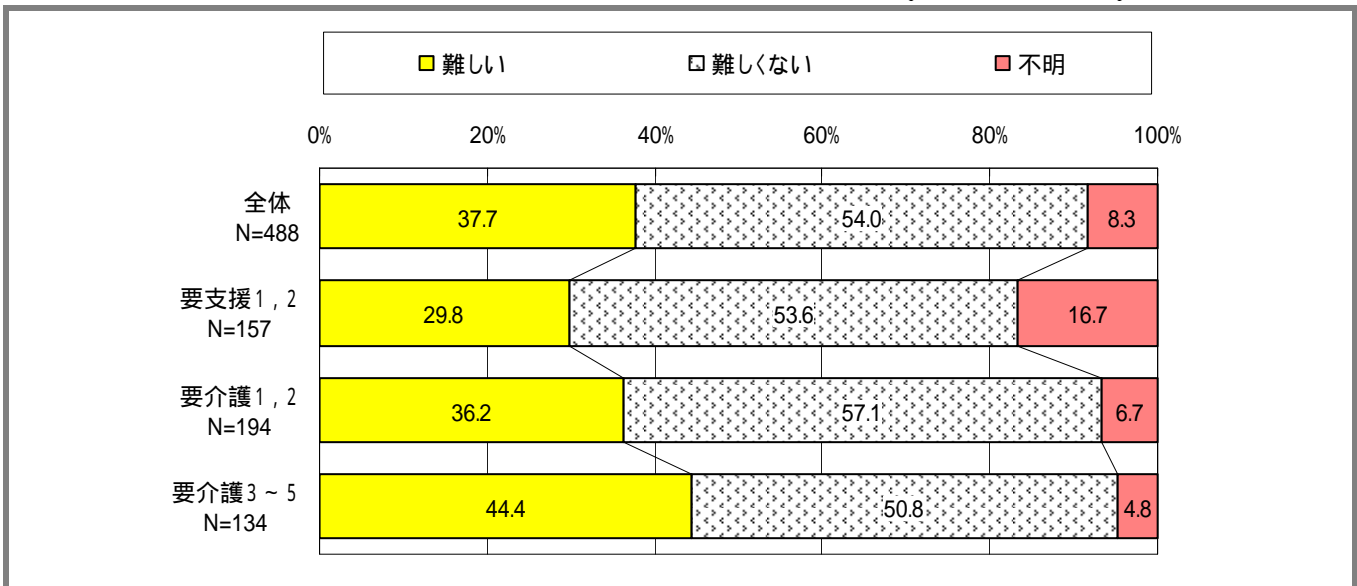
問34-1 紙おむつにかかる1か月の金額はどのくらいですか。（は1つだけ）



紙おむつにかかる1か月当たりの費用をたずねたところ、「3,000円以上6,000円未満」と回答した人が全体の40.1%と最も多く、全体の61.7%の方は月額6,000円未満で収まっているが、要介護度が高くなるにつれてその費用負担も高くなる傾向がうかがえる。

特に、「要介護3～5」では月額6,000円以上の方が全体の41.1%に上り、月額9,000円以上の方も15.5%と高い割合となっている。

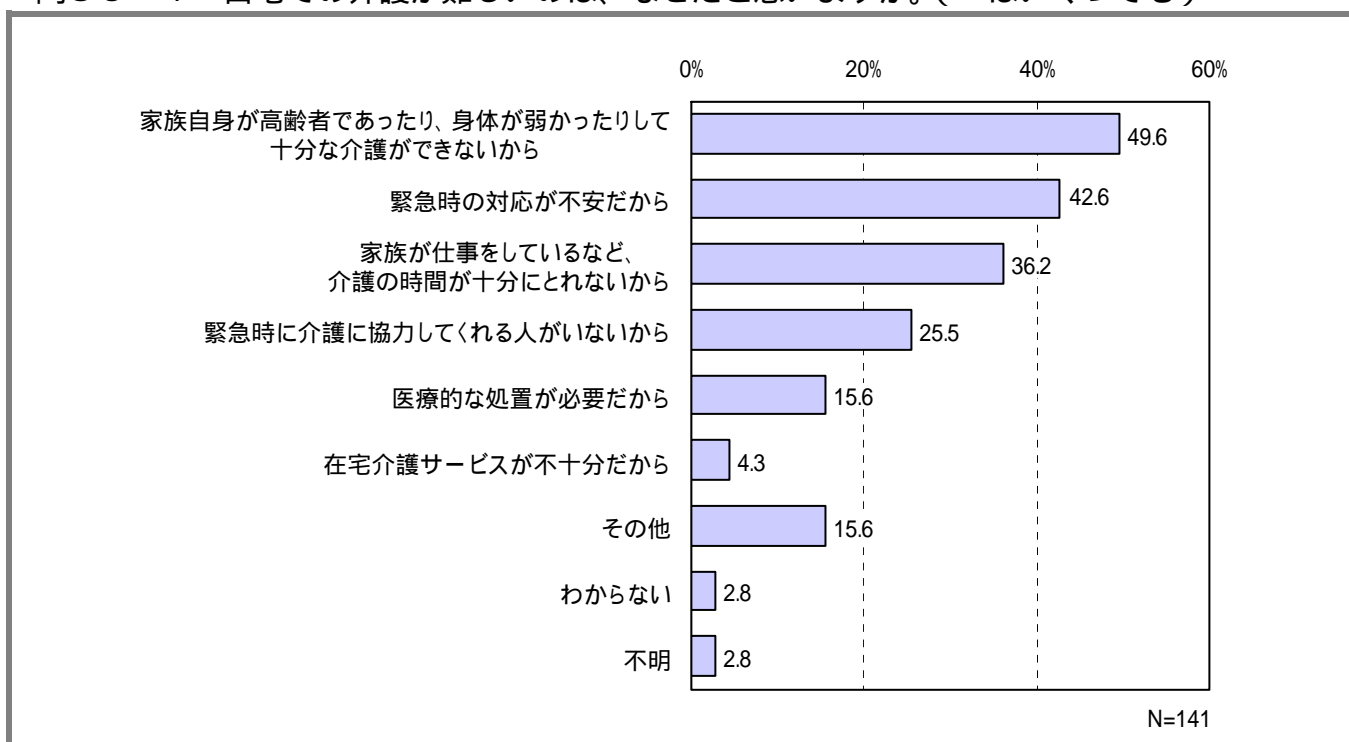
問35 あなたの場合、自宅での介護は難しいと思いますか。（は1つだけ）



自宅での介護が「難しい」と回答した人の割合は全体の37.7%であるが、要介護度が重くなるにつれてその割合が高くなっており、「要介護3～5」では44.4%が「難しい」と回答している。

(問35で「1 難しい」と答えた方へ)

問35-1 自宅での介護が難しいのは、なぜだと思いますか。(はいくつでも)



前問で自宅での介護が「難しい」と回答した人にその理由をたずねたところ、「家族自身が高齢者であったり、身体が弱かったりして十分な介護ができないから」という回答が49.6%と最も多く、次いで、「緊急時の対応が不安だから」が42.6%、「家族が仕事をしているなど、介護の時間が十分にとれないから」が36.2%、「緊急時に介護に協力してくれる人がいないから」が25.5%と続いている。

要介護度別のクロス集計結果は次ページのとおりで、「要介護1, 2」では「緊急時の対応が不安だから」という回答割合が50.8%と最も高くなっている。

《要介護度別クロス集計結果》

